

2023 年度

ゼミナール案内

問題分析ゼミナール I・II (3 年次)

問題解決ゼミナール I・II (4 年次)

School of Information and Communication



明 治 大 学

情報コミュニケーション学部

ゼミナール紹介

情報コミュニケーション学部のゼミナール教育について

21世紀の人間を取り巻く社会に関わる諸問題は、既存の知識の枠組みだけでは認識も解決も困難です。これからの時代は、問題の所在を認識し、情報を収集・分析し、問題の背景や及ぼす影響を考察し、いくつかのシナリオを想定しながら解決策を立案することが特に重要となります。

情報コミュニケーション学部では、社会科学的な知見を中心としながらも、これまでの学問分野にこだわらず、各分野からの多面的・総合的アプローチによる問題発見・問題解決型の教育を重視しています。このことから、1年次から4年次まで段階的に履修する「ゼミナール科目」を設置しました。

ゼミナール科目は、「基礎ゼミナール」（1年次）、「問題発見テーマ演習A・B」（2年次）、「問題分析ゼミナールI・II」（3年次）、「問題解決ゼミナールI・II」（4年次）があります。認識、立案、実行、評価のプロセスを繰り返しながら、具体的、個別的問題に対する解決能力を養成することや各ゼミナールを通しての少人数双方向授業による人間的触れ合いのある教育を行うことを目標とします。

問題分析ゼミナールI・IIについて

3年次に配当される問題分析ゼミナールI・IIでは、問題発見テーマ演習A・Bにおいて身につけた問題発見力を発揮して、各担当教員の主要担当科目から設定したテーマを学習する中で、現代社会における情報コミュニケーションの意義と機能を踏まえて、問題点のさらに深い理解と洞察力を養うことを目的とします。このゼミナールでは、2年次までに培われた、論文・レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方、ディベートの仕方等に加え、ケーススタディーやフィールドワークなども取り入れ、課題解決に向けて有効な問題分析力を養っていきます。

問題解決ゼミナールI・IIについて

4年次に配当される問題解決ゼミナールI・IIでは、問題発見テーマ演習A・B、問題分析ゼミナールI・IIで培われた、現代社会における情報コミュニケーションの意義と機能やその問題点の発見・分析力を基礎にして、各担当教員の主要担当科目から設定したテーマを学習する中で、より学際的・総合的な見地から、社会に対して実際に有効な形で政策提言を行い、主体的・能動的に参加するための能力を養うことを目的とします。

卒業論文・卒業制作について

4年次に配当される卒業論文・卒業制作では、4年間の学びの成果をアウトプットする機会として、卒業論文や卒業制作を完成させます。どのような成果物を作成するかについては、後述の『「卒業論文・卒業制作に求めること」(学部版)』及び『卒業論文・卒業制作の単位付与基準(ゼミナール別)』をよく確認してください。

情報コミュニケーション学部

2023 年度 問題分析ゼミナール I・II

(3 年次配当科目)

2024 年度 問題解決ゼミナール I・II

(4 年次配当科目)

○問題分析ゼミナール I・II と問題解決ゼミナール I・II は、
3・4 年生の 2 年間継続履修科目 です。

- ・ 問題分析ゼミナール I・II 入室決定までの流れ
- ・ 目次 (担当教員と研究テーマ)
- ・ シラバス (授業内容等)
- ・ 卒業論文・卒業制作単位付与基準

2023年度

問題分析ゼミナール I・II 入室試験について

※ゼミナール試験に関わる案内は、Oh-o! Meijiグループ「2023年度ゼミナール試験」へ公開
またはOh-o! Meijiからお知らせを配信しますので、必ず確認してください
Oh-o! Meijiグループ「2023年度ゼミナール試験」は、秋学期以降確認できます。

1. マイカリキュラムの提出【必須】

日 時：10月1日(土)～10月28日(金)

2. 総合ガイダンス(教員挨拶, 事務説明)〈動画配信〉※要確認※

日 時：10月13日(木) 9:00～

3. 教員個別ガイダンス〈動画配信・リアルタイム配信〉

〈動画配信〉

日 時：10月13日(木) 9:00～

〈リアルタイム配信〉

日 時：10月20日(木)～10月28日(金) 12:45～13:15

4. 受験申込み

希望のゼミナールを決め、**Oh-o!Meiji**から申込を行います(1人につき1つのゼミ)。

入室希望ゼミ申込期間：11月5日(土) 9:00～11月8日(火) 13:30

※申込期間中は変更が可能です。

5. 課題提出

Oh-o! Meijiから提出を行います。

提出期間：11月5日(土) 9:00～11月10日(木) 18:00

※課題の有無や詳細については「入室試験案内・課題内容一覧」を参照すること。

6. 各ゼミ申込者数の発表および試験実施方法の確定

日 時 11月8日(火) 16:00

7. 入室試験(一次募集)

入室試験を実施する場合は、Zoomまたは対面にて面接を実施します。

日 時：11月19日(土) 9:00～16:00

※面接時間等は、11月14日(月)16:00(予定)に発表します。

8. 入室者発表

日 時：11月22日(火) 13:00

※一度決定したゼミは変更できません。

※入室者発表と同時に、二次募集を行うゼミを公開します。入室希望者は忘れずに確認すること。

ゼミナールが決まらなかった場合(二次募集日程)

二次募集を行うゼミを確認し、**Oh-o!Meiji**から申込を行います(1人につき1つのゼミ)。

詳細は、一次募集の入室者発表と同時に公開します。

1. 入室希望ゼミ申込期間 11月25日(金) 9:00～11月28日(月) 13:30

※申込期間中は変更が可能です。

2. 申込者数発表 日 時：11月28日(月) 16:00

3. 入室試験 日 時：12月3日(土) 9:00～12:00

4. 入室者発表 日 時：12月6日(火) 13:00

2023年度 問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱ 担当予定教員一覧

教員名	テーマ	シラバス	卒業論文 卒業制作
阿部力也	刑法を解釈するうえで重要とされる論点を探求し「犯罪と法」のあり方を考えよう (刑法解釈の実践的理解という意味)!	7	—
石川幹人	マイノリティの生きにくさ問題を考える	9	—
今村哲也	知的財産に関する法的問題の研究	11	88
牛尾奈緒美	業界や企業の研究を通じて、社会的問題を解決する方法を見つけ出す	13	—
江下雅之	メディアの〈いま・ここ〉:情報環境の転換を考察する	15	88
小田光康	戦略コミュニケーションとパブリック・ジャーナリズムに関する文理融合型の実践 研究	17	88
川島高峰	ミレニアル・Z・α世代の日本国家論・日本人論	19	89
清原聖子	現代アメリカ研究—多角的な視点から現代アメリカ政治と社会について考える—	21	89
熊田聖	意見の対立している分野を取り上げ、調査し、自分の考えを明確にし、それを 他人に説明できるようになりましょう。	23	—
高馬京子	越境するファッション・スタディーズ:メディアにおいて構築/伝達されるファッション とジェンダー表象をめぐる諸問題を考える	25	89
後藤晶	行動経済学・実験経済学:人間の行動と社会制度を考える	27	89
小林秀行	災害と社会	29	90
坂本祐太	「ことば」に関する研究:身近な不思議を発見・分析・解決する	31	—
施利平	恋愛・結婚・家族の社会学	33	90
島田剛	コーヒー・チョコレートから見る国際経済とSDGsのあり方 ~グローバルの実践と しての神保町コーヒー・プロジェクト	35	—
清水晶紀	現代社会の諸課題を、行政法的視点から分析してみよう	37	90
鈴木健人	米国の覇権が揺らぎを見せる中で進んでいる国際秩序の変動を理解し、日本 の進むべき方向を考える。 また日本の強みであるソフトパワーについて考え、将来に生かす視点を探る。	39	90
鈴木雅博	学校の社会学	41	90
須田努	異文化コミュニケーション史・社会文化史の研究	43	90
関口裕昭	春学期:メルヒェン研究/秋学期:映画と文学の比較研究	45	91
竹崎一真	スポーツ・身体・ジェンダーに関する社会学/カルチュラル・スタディーズ	47	91

※ 数字 (ページ数) をクリックすると該当ページに遷移します。

2023年度 問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱ 担当予定教員一覧

教員名	テーマ	シラバス	卒業論文 卒業制作
竹中克久	組織社会学—現代社会を読み解く	49	91
塚原康博	現代社会と情報コミュニケーション—問題分析編—	51	—
ドウティモシー	第二言語習得	53	—
内藤まりこ	言語表現を読み解く技法:理論と実践	55	91
中里裕美	社会ネットワーク(つながり)の研究	57	91
南後由和	都市・建築・デザインの社会学とメディア論	59	91
根橋玲子	異文化間コミュニケーションと多文化共生	61	92
波照間永子	芸術コミュニケーション研究—社会におけるアートの役割・問題を検討する—	63	92
日置貴之	芸術作品を研究・批評する(基礎)	65	92
堀口悦子	ジェンダー・バイアスを考える	67	92
宮川渉	音楽を中心としたアート実践研究	69	92
宮田泰	紛争解決システム論	71	—
宮本真也	現代社会と社会理論	73	93
山内勇	イノベーションの経済学	75	93
山口生史	組織コミュニケーション研究:質的研究	77	—
山崎浩二	ソフトウェア開発とアルゴリズム	79	—
横田貴之	中東・イスラーム研究—現代中東とイスラームから異文化と世界を学ぶ	81	93
脇本竜太郎	社会心理学:数量的アプローチ	83	93
和田悟	アジアに目を向け情報社会と情報技術について考える	85	—

※ 数字(ページ数)をクリックすると該当ページに遷移します。

問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱ	阿部 力也	各2単位	3年次	科目ナンバー (IC) IND312J
◆研究テーマ 刑法を解釈するうえで重要とされる論点を探求し「犯罪と法」のあり方を考えよう（刑法解釈の実践的理解という意味）！				
1. 授業の概要・到達目標 講義科目である「犯罪と法」および「現代型犯罪と刑法」では、それぞれ刑法の「総論領域」（一般原理）と「各論領域」（個別問題）の基本事項を学ぶことが目的であった。この問題分析ゼミナールでは、上記科目の復習をしながら、さらに「刑法の重要論点」とされるテーマをいくつか選び、それを多角的に分析することで刑法の理解を深めていくこととしたい。とくに講義では概括的な説明にとどまることが多かった「判例・裁判例」の意義を各論点に即してあらためて確認することとしたい。したがって、前記重要論点を理論的な視点と判例という「実践的な視点」から捉えなおす（多角的の意義）ことになる。つまり、刑法の理解を抽象的な意味ではなく、事例・事案の分析をつうじて、より実践的に進めていくということである（なお、犯罪を考えたり、刑事裁判を考えたりするうえで興味深い映画ないし文学作品も取り扱ってみたいと考えている）。 以上のようなゼミナールの方法論からは、たんに刑法を勉強するというにとどまらず、「刑法」を学ぶことをつうじて「法律学の思考方法」を実感してもらう！このことが当ゼミナールの到達目標ということになる。				
2. 授業内容 <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p>＜問題分析ゼミナールⅠ＞</p> <p>第1回 イントロダクション（1）刑法の意義を確認しよう！</p> <p>第2回 イントロダクション（2）「犯罪と法」で学んだこと（概説）</p> <p>第3回 「犯罪と法」の復習（1）刑法解釈を支える重要な考え方～罪刑法定主義</p> <p>第4回 「犯罪と法」の復習（2）構成要件の意義～三段階の犯罪論をあらためて深く理解しよう！</p> <p>第5回 「犯罪と法」の復習（3）犯罪行為はどのように捉えられるか①～実行行為の意義</p> <p>第6回 「犯罪と法」の復習（4）犯罪行為はどのように捉えられるか②～正犯と共犯の意義</p> <p>第7回 「犯罪と法」の復習（5）実行行為と結果の結び付き～刑法における因果関係の意義</p> <p>第8回 重要論点を検討しよう！（1）判例において問題となった因果関係に関する事例を検討する</p> <p>第9回 重要論点を検討しよう！（2）英米法における因果関係の捉え方について考える～比較法的なもの見方とは？</p> <p>第10回 「犯罪と法」の復習（6）正当防衛はどのような場合に認められるのか～違法性阻却の意義を考える</p> <p>第11回 重要論点を検討しよう！（3）判例において問題となった正当防衛に関する事例を検討する①</p> <p>第12回 重要論点を検討しよう！（4）判例において問題となった正当防衛に関する事例を検討する②</p> <p>第13回 関心領域を広げよう！（1）～大岡昇平原作「事件」を取り上げる（原著作と映像作品から刑事裁判を考える）</p> <p>第14回 春学期のまとめ～判例の持つ意義と刑法理論の「立ち位置」を考えてみよう！</p> </div> <div style="width: 48%;"> <p>＜問題分析ゼミナールⅡ＞</p> <p>第1回 イントロダクション～春学期で学んだことと「現代型犯罪と刑法」で学んだこと（概説）</p> <p>第2回 「現代型犯罪と刑法」の復習（1）自殺関与罪の成立要件を深く理解しよう！</p> <p>第3回 「現代型犯罪と刑法」の復習（2）傷害致死罪と傷害罪と暴行罪の関係性について考える</p> <p>第4回 「現代型犯罪と刑法」の復習（3）保護責任者遺棄罪について深く理解しよう！①～不作為犯を考える</p> <p>第5回 「現代型犯罪と刑法」の復習（4）保護責任者遺棄罪について深く理解しよう！②～ひき逃げと幼児虐待を考える</p> <p>第6回 重要論点を検討しよう！（5）判例において問題となった保護責任者遺棄致死罪に関する事例を検討する</p> <p>第7回 「現代型犯罪と刑法」の復習（5）窃盗罪の成立要件を深く理解する</p> <p>第8回 「現代型犯罪と刑法」の復習（6）強盗罪の成立要件を深く理解する</p> <p>第9回 重要論点を検討しよう！（6）判例において問題となった強盗罪に関する事例を検討する①</p> <p>第10回 重要論点を検討しよう！（7）判例において問題となった強盗罪に関する事例を検討する②</p> <p>第11回 「現代型犯罪と刑法」の復習（7）詐欺罪の成立要件を深く理解する</p> <p>第12回 重要論点を検討しよう！（8）判例において問題となった詐欺罪の事例（特殊詐欺事例を含む）を検討する</p> <p>第13回 関心領域を広げよう！（2）ドイツ刑法25条と日本刑法60条（共同正犯規定）を比較する</p> <p>第14回 秋学期のまとめ～積み残したテーマを検討する。そして問題解決ゼミナールへのプレリユード</p> </div> </div>				
3. 履修上の注意 講義科目である「犯罪と法」および「現代型犯罪と刑法」を履修することが望ましい。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 とくに必要ではないが、前記の授業内で使用したレジュメ、下記の講義案をある程度は読み直しておくこと。				
5. 教科書 阿部力也『刑法総論講義案』（2019年・成文堂）、その他、必要に応じて判例・資料等は私が用意し配布する。				
6. 参考書 とくになし。もっとも、ゼミ時間内で随時、刑法あるいはその他の法律理解に役立つ文献を紹介する。				
7. 成績評価の方法 出席を含む授業への貢献度50%、レポート50%（レポートは毎回の提出ではなく前述の重要論点の検討の場合を想定）。				
8. その他 ゼミでは「犯罪から見る現代社会」、「同じ犯罪を他国との比較で考える」、「犯罪と文学・映像作品」といったことも検討することになるので、哲学、文学、社会学、政治学、外国語（比較文化）等に関心のある学生の入室を大いに歓迎する。また法律学の思考方法に触れることが重要と考えることから、公務員試験をはじめとする各種の国家試験受験に関心のある学生の入室も大歓迎である。さらに、ゼミ合宿も実施予定なので主体的で積極的なゼミ参加の意欲を持つ学生はさらに大歓迎である！				

問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱ	阿部 力也	各2単位	4年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
<p>◆研究テーマ 刑法解釈の実践的理解をさらに深化させ、「犯罪と法」のあり方に一定の結論を導こう（解釈の実践をつうじた理念の探求）！</p>						
<p>1. 授業の概要・到達目標 問題分析ゼミナールでは、講義科目である「犯罪と法」ならびに「現代型犯罪と刑法」の復習をしながら、「刑法の重要論点」とされるテーマをいくつか選び、「判例・裁判例」の意義を各論点に即してあらためて確認することにより、重要論点を「理論的な視点」と判例という「実践的な視点」から捉えなおすことが授業の概要であった。そして、以上のような方法論に依拠することにより、刑法を学ぶことを通じて「法学の思考方法」を実感してもらうことが分析ゼミの到達目標ということであった。 問題解決ゼミナールでは、さらに精選された論点を抽出し、理論と判例（実務）の現在を探ることを目標としたい。個別の論点（テーマ）をさらに深く扱うことにより、受講生の理解を深化させることが重要となる。それはまた、法学の理解度を向上させることにも帰結すると思われるので、公務員試験などの各種国家試験の受験指導も受講生の希望があれば、適宜応じることとしたい。</p>						
<p>2. 授業内容</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> <p><問題解決ゼミナールⅠ> 第1回 イン트로ダクション～問題分析ゼミナールと問題解決ゼミナールを架橋するもの 第2回 分析ゼミの復習（1）刑法解釈における判例・裁判例・学説それぞれの意義と立ち位置について考える 第3回 分析ゼミの復習（2）判例において問題となった因果関係に関する事例を検討する。 第4回 分析ゼミの復習（3）判例において問題となった正当防衛に関する事例を検討する。 第5回 分析ゼミの復習（4）判例において問題となった共同正犯に関する事例を検討する。 第6回 刑法の重要論点の解明（1）「老婆布団蒸し事件」を素材に考える。 第7回 刑法の重要論点の解明（2）「大阪南港事件」から見えてくるもの～相当因果関係説の立場から。 第8回 刑法の重要論点の解明（3）「大阪南港事件」から見えてくるもの～危険の現実化説の立場から。 第9回 刑法の重要論点の解明（4）「偽装心中事件」を素材に考える。 第10回 刑法の重要論点の解明（5）「SM殺人事件」を素材に考える 第11回 刑法の重要論点の解明（6）「指つめ事件」を素材に考える。 第12回 刑法の重要論点の解明（7）正当防衛に関する最新判例について検討する。 第13回 刑法の重要論点の解明（8）正当防衛に関する最高裁判例の系譜について検討する。 第14回 春学期の総括</p> </td> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> <p><問題解決ゼミナールⅡ> 第1回 イン트로ダクション～問題解決ゼミナールで目指されること。 第2回 刑法の重要論点の解明（9）「自動車無断引き揚げ事件」から見えてくるもの 第3回 刑法の重要論点の解明（10）いわゆる「死者の占有」について考える。 第4回 刑法の重要論点の解明（11）「カメラ置忘れ事件」について考える。 第5回 刑法の重要論点の解明（12）企業の犯罪について考える～法人の犯罪能力とは？ 第6回 刑法の重要論点の解明（13）企業内犯罪について考える～業務上横領罪が成立する場合。 第7回 刑法の重要論点の解明（14）企業内犯罪について考える～背任罪が成立する場合。 第8回 刑法の重要論点の解明（15）責任能力について考える① 第9回 刑法の重要論点の解明（16）責任能力について考える②「連続少女殺害事件」を素材に考える。 第10回 刑法の重要論点の解明（17）放火罪について考える。 第11回 刑法の重要論点の解明（18）正犯・共犯論の基礎 第12回 刑法の重要論点の解明（19）共謀共同正犯の理論的根拠づけ 第13回 刑法の重要論点の解明（20）共謀共同正犯に関する判例の系譜について検討する。 第14回 秋学期の総括</p> </td> </tr> </table>					<p><問題解決ゼミナールⅠ> 第1回 イン트로ダクション～問題分析ゼミナールと問題解決ゼミナールを架橋するもの 第2回 分析ゼミの復習（1）刑法解釈における判例・裁判例・学説それぞれの意義と立ち位置について考える 第3回 分析ゼミの復習（2）判例において問題となった因果関係に関する事例を検討する。 第4回 分析ゼミの復習（3）判例において問題となった正当防衛に関する事例を検討する。 第5回 分析ゼミの復習（4）判例において問題となった共同正犯に関する事例を検討する。 第6回 刑法の重要論点の解明（1）「老婆布団蒸し事件」を素材に考える。 第7回 刑法の重要論点の解明（2）「大阪南港事件」から見えてくるもの～相当因果関係説の立場から。 第8回 刑法の重要論点の解明（3）「大阪南港事件」から見えてくるもの～危険の現実化説の立場から。 第9回 刑法の重要論点の解明（4）「偽装心中事件」を素材に考える。 第10回 刑法の重要論点の解明（5）「SM殺人事件」を素材に考える 第11回 刑法の重要論点の解明（6）「指つめ事件」を素材に考える。 第12回 刑法の重要論点の解明（7）正当防衛に関する最新判例について検討する。 第13回 刑法の重要論点の解明（8）正当防衛に関する最高裁判例の系譜について検討する。 第14回 春学期の総括</p>	<p><問題解決ゼミナールⅡ> 第1回 イン트로ダクション～問題解決ゼミナールで目指されること。 第2回 刑法の重要論点の解明（9）「自動車無断引き揚げ事件」から見えてくるもの 第3回 刑法の重要論点の解明（10）いわゆる「死者の占有」について考える。 第4回 刑法の重要論点の解明（11）「カメラ置忘れ事件」について考える。 第5回 刑法の重要論点の解明（12）企業の犯罪について考える～法人の犯罪能力とは？ 第6回 刑法の重要論点の解明（13）企業内犯罪について考える～業務上横領罪が成立する場合。 第7回 刑法の重要論点の解明（14）企業内犯罪について考える～背任罪が成立する場合。 第8回 刑法の重要論点の解明（15）責任能力について考える① 第9回 刑法の重要論点の解明（16）責任能力について考える②「連続少女殺害事件」を素材に考える。 第10回 刑法の重要論点の解明（17）放火罪について考える。 第11回 刑法の重要論点の解明（18）正犯・共犯論の基礎 第12回 刑法の重要論点の解明（19）共謀共同正犯の理論的根拠づけ 第13回 刑法の重要論点の解明（20）共謀共同正犯に関する判例の系譜について検討する。 第14回 秋学期の総括</p>
<p><問題解決ゼミナールⅠ> 第1回 イン트로ダクション～問題分析ゼミナールと問題解決ゼミナールを架橋するもの 第2回 分析ゼミの復習（1）刑法解釈における判例・裁判例・学説それぞれの意義と立ち位置について考える 第3回 分析ゼミの復習（2）判例において問題となった因果関係に関する事例を検討する。 第4回 分析ゼミの復習（3）判例において問題となった正当防衛に関する事例を検討する。 第5回 分析ゼミの復習（4）判例において問題となった共同正犯に関する事例を検討する。 第6回 刑法の重要論点の解明（1）「老婆布団蒸し事件」を素材に考える。 第7回 刑法の重要論点の解明（2）「大阪南港事件」から見えてくるもの～相当因果関係説の立場から。 第8回 刑法の重要論点の解明（3）「大阪南港事件」から見えてくるもの～危険の現実化説の立場から。 第9回 刑法の重要論点の解明（4）「偽装心中事件」を素材に考える。 第10回 刑法の重要論点の解明（5）「SM殺人事件」を素材に考える 第11回 刑法の重要論点の解明（6）「指つめ事件」を素材に考える。 第12回 刑法の重要論点の解明（7）正当防衛に関する最新判例について検討する。 第13回 刑法の重要論点の解明（8）正当防衛に関する最高裁判例の系譜について検討する。 第14回 春学期の総括</p>	<p><問題解決ゼミナールⅡ> 第1回 イン트로ダクション～問題解決ゼミナールで目指されること。 第2回 刑法の重要論点の解明（9）「自動車無断引き揚げ事件」から見えてくるもの 第3回 刑法の重要論点の解明（10）いわゆる「死者の占有」について考える。 第4回 刑法の重要論点の解明（11）「カメラ置忘れ事件」について考える。 第5回 刑法の重要論点の解明（12）企業の犯罪について考える～法人の犯罪能力とは？ 第6回 刑法の重要論点の解明（13）企業内犯罪について考える～業務上横領罪が成立する場合。 第7回 刑法の重要論点の解明（14）企業内犯罪について考える～背任罪が成立する場合。 第8回 刑法の重要論点の解明（15）責任能力について考える① 第9回 刑法の重要論点の解明（16）責任能力について考える②「連続少女殺害事件」を素材に考える。 第10回 刑法の重要論点の解明（17）放火罪について考える。 第11回 刑法の重要論点の解明（18）正犯・共犯論の基礎 第12回 刑法の重要論点の解明（19）共謀共同正犯の理論的根拠づけ 第13回 刑法の重要論点の解明（20）共謀共同正犯に関する判例の系譜について検討する。 第14回 秋学期の総括</p>					
<p>3. 履修上の注意 「犯罪と法」および「現代型犯罪と刑法」を履修することが望ましい。</p>						
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容 とくに必要ではないが、分析ゼミで使用したレジュメ、下記の講義案をある程度は読み直しておくこと。</p>						
<p>5. 教科書 阿部力也『刑法総論講義案』（2019年・成文堂）、その他、必要に応じて判例・資料等は私が用意し配布する。</p>						
<p>6. 参考書 特になし。もともと、ゼミ時間内で随時、刑法あるいはその他の法律理解に役立つ文献を紹介する。</p>						
<p>7. 成績評価の方法 出席を含む授業への貢献度50%、レポート50%（レポートは毎回の提出ではなく前述の重要論点の検討の場合を想定）。</p>						
<p>8. その他 分析ゼミと連続することとなるので、同ゼミ案内に記載された内容について確認すること。</p>						

問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱ	石川 幹人	各2単位	3年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ マイノリティの生きにくさ問題を考える						
1. 授業の概要・到達目標 【授業概要】 誰もが、平均的な多数の人々と異なるマイノリティの側面をいくつか持っている。本ゼミナールでは、そうしたマイノリティの側面に“生きにくさ”を感じている学生に対して、個々に問題分析の方法を指導する。マイノリティの側面の具体例には、HSP、ADHD、自閉スペクトラム、サイコパス、うつ傾向などの心理的側面、外見的差異、吃音、色覚異常、アレルギーなどの身体的側面があげられるが、これらに限らず問題を抱えている学生を広く歓迎する。3年次では、学生同士で問題の相互認識を図り、先行研究をもとにしながら、問題の背景分析を深めていく。 【到達目標】 3年次では、問題の背景分析を手がかりに“生きにくさ”の構造を解明する。そして、問題への個人的な対処法をいくつか見出していく。それを通じて、学術的な研究が、個人的な問題の実用的な解決へと至る重要な手段になることを身をもって体験する。						
2. 授業内容 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 イントロダクション 第2回 マイノリティの側面の議論 (1) 第3回 マイノリティの側面の議論 (2) 第4回 マイノリティの側面の議論 (3) 第5回 マイノリティの側面の議論 (4) 第6回 関連先行研究の調査発表 (1) 第7回 関連先行研究の調査発表 (2) 第8回 関連先行研究の調査発表 (3) 第9回 関連先行研究の調査発表 (4) 第10回 調査にもとづく報告執筆 (1) 第11回 調査にもとづく報告執筆 (2) 第12回 調査にもとづく報告執筆 (3) 第13回 調査にもとづく報告執筆 (4) 第14回 夏休みの研究計画 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 研究成果発表および討論 (1) 第2回 研究成果発表および討論 (2) 第3回 研究成果発表および討論 (3) 第4回 研究成果発表および討論 (4) 第5回 心理学的観点からの分析 (1) 第6回 心理学的観点からの分析 (2) 第7回 心理学的観点からの分析 (3) 第8回 心理学的観点からの分析 (4) 第9回 心理学的観点からの分析 (5) 第10回 分析にもとづく報告執筆 (1) 第11回 分析にもとづく報告執筆 (2) 第12回 分析にもとづく報告執筆 (3) 第13回 分析にもとづく報告執筆 (4) 第14回 春休みの研究計画 </td> </tr> </table>					<問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 イントロダクション 第2回 マイノリティの側面の議論 (1) 第3回 マイノリティの側面の議論 (2) 第4回 マイノリティの側面の議論 (3) 第5回 マイノリティの側面の議論 (4) 第6回 関連先行研究の調査発表 (1) 第7回 関連先行研究の調査発表 (2) 第8回 関連先行研究の調査発表 (3) 第9回 関連先行研究の調査発表 (4) 第10回 調査にもとづく報告執筆 (1) 第11回 調査にもとづく報告執筆 (2) 第12回 調査にもとづく報告執筆 (3) 第13回 調査にもとづく報告執筆 (4) 第14回 夏休みの研究計画	<問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 研究成果発表および討論 (1) 第2回 研究成果発表および討論 (2) 第3回 研究成果発表および討論 (3) 第4回 研究成果発表および討論 (4) 第5回 心理学的観点からの分析 (1) 第6回 心理学的観点からの分析 (2) 第7回 心理学的観点からの分析 (3) 第8回 心理学的観点からの分析 (4) 第9回 心理学的観点からの分析 (5) 第10回 分析にもとづく報告執筆 (1) 第11回 分析にもとづく報告執筆 (2) 第12回 分析にもとづく報告執筆 (3) 第13回 分析にもとづく報告執筆 (4) 第14回 春休みの研究計画
<問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 イントロダクション 第2回 マイノリティの側面の議論 (1) 第3回 マイノリティの側面の議論 (2) 第4回 マイノリティの側面の議論 (3) 第5回 マイノリティの側面の議論 (4) 第6回 関連先行研究の調査発表 (1) 第7回 関連先行研究の調査発表 (2) 第8回 関連先行研究の調査発表 (3) 第9回 関連先行研究の調査発表 (4) 第10回 調査にもとづく報告執筆 (1) 第11回 調査にもとづく報告執筆 (2) 第12回 調査にもとづく報告執筆 (3) 第13回 調査にもとづく報告執筆 (4) 第14回 夏休みの研究計画	<問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 研究成果発表および討論 (1) 第2回 研究成果発表および討論 (2) 第3回 研究成果発表および討論 (3) 第4回 研究成果発表および討論 (4) 第5回 心理学的観点からの分析 (1) 第6回 心理学的観点からの分析 (2) 第7回 心理学的観点からの分析 (3) 第8回 心理学的観点からの分析 (4) 第9回 心理学的観点からの分析 (5) 第10回 分析にもとづく報告執筆 (1) 第11回 分析にもとづく報告執筆 (2) 第12回 分析にもとづく報告執筆 (3) 第13回 分析にもとづく報告執筆 (4) 第14回 春休みの研究計画					
3. 履修上の注意 本ゼミナールでは、学生が抱える「マイノリティの側面」を研究の対象にして、相互に議論したり意見交換したりするので、秘密にしておきたい「マイノリティの側面」は、研究テーマにならない。オープンにしてもよい「マイノリティの側面」であることが必要なので、この点に注意すること。						
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 研究テーマに関する資料収集、調査分析などはゼミ時間以外に取り組む必要がある。						
5. 教科書 研究テーマに応じて授業中に指定する。						
6. 参考書 平野啓一郎『私とは何か～「個人」から「分人」へ』講談社現代新書（2012） 石川幹人『だからフェイクにだまされる～進化心理学から読み解く』ちくま書房（2022）						
7. 成績評価の方法 ゼミへの参加度合いや発表内容 50%、提出されたレポート内容 50%						
8. その他 ゼミ入室にあたっては、抱えている問題の切実度、問題への取組みの準備度合い、研究への意欲などをエントリーによって判定したうえで、優先入室者を決めていく。						

問題解決ゼミナール I・II	石川 幹人	各2単位	4年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ						
マイノリティの生きやすい社会を考える						
1. 授業の概要・到達目標						
<p>【授業概要】誰しものが、平均的な多数の人々と異なるマイノリティの側面をいくつか持っている。本ゼミナールでは、そうしたマイノリティの側面に“生きにくさ”を感じている学生に対して、社会的な問題解決の考察方法を指導する。4年次では、それまで明らかになった問題背景をもとにしながら、問題が発生しない社会はどのようにあるべきかを考える。また、多様性をはぐくむ理想的な社会を形成する手段についても展望する。</p> <p>【到達目標】4年次では、問題にまつわる社会や文化の現状を再認識したうえで、“生きにくさ”問題への社会的な対処法を、とくに高度情報社会の特徴をふまえながらいくつか見出していく。それを通じて、学際的な研究が、社会福祉の向上や文明の発展へと至る重要な手段になることを身をもって体験する。結果として、学問の意義や面白さを自覚し、様々な分野の研究をみずから多角的に志す意欲をもった学生として卒業を迎える、そうしたことを目標としている。</p>						
2. 授業内容						
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜問題解決ゼミナール I＞</p> <p>第1回 研究成果発表および討論 (1)</p> <p>第2回 研究成果発表および討論 (2)</p> <p>第3回 研究成果発表および討論 (3)</p> <p>第4回 研究成果発表および討論 (4)</p> <p>第5回 社会科学的観点からの分析 (1)</p> <p>第6回 社会科学的観点からの分析 (2)</p> <p>第7回 社会科学的観点からの分析 (3)</p> <p>第8回 社会科学的観点からの分析 (4)</p> <p>第9回 社会科学的観点からの分析 (5)</p> <p>第10回 分析にもとづく報告執筆 (1)</p> <p>第11回 分析にもとづく報告執筆 (2)</p> <p>第12回 分析にもとづく報告執筆 (3)</p> <p>第13回 分析にもとづく報告執筆 (4)</p> <p>第14回 夏休みの研究計画</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜問題解決ゼミナール II＞</p> <p>第1回 研究成果発表および討論 (1)</p> <p>第2回 研究成果発表および討論 (2)</p> <p>第3回 研究成果発表および討論 (3)</p> <p>第4回 研究成果発表および討論 (4)</p> <p>第5回 情報メディアの視点からの統合化 (1)</p> <p>第6回 情報メディアの視点からの統合化 (2)</p> <p>第7回 情報メディアの視点からの統合化 (3)</p> <p>第8回 情報メディアの視点からの統合化 (4)</p> <p>第9回 情報メディアの視点からの統合化 (5)</p> <p>第10回 考察にもとづく報告執筆 (1)</p> <p>第11回 考察にもとづく報告執筆 (2)</p> <p>第12回 考察にもとづく報告執筆 (3)</p> <p>第13回 考察にもとづく報告執筆 (4)</p> <p>第14回 卒業に向けて</p> </td> </tr> </table>					<p>＜問題解決ゼミナール I＞</p> <p>第1回 研究成果発表および討論 (1)</p> <p>第2回 研究成果発表および討論 (2)</p> <p>第3回 研究成果発表および討論 (3)</p> <p>第4回 研究成果発表および討論 (4)</p> <p>第5回 社会科学的観点からの分析 (1)</p> <p>第6回 社会科学的観点からの分析 (2)</p> <p>第7回 社会科学的観点からの分析 (3)</p> <p>第8回 社会科学的観点からの分析 (4)</p> <p>第9回 社会科学的観点からの分析 (5)</p> <p>第10回 分析にもとづく報告執筆 (1)</p> <p>第11回 分析にもとづく報告執筆 (2)</p> <p>第12回 分析にもとづく報告執筆 (3)</p> <p>第13回 分析にもとづく報告執筆 (4)</p> <p>第14回 夏休みの研究計画</p>	<p>＜問題解決ゼミナール II＞</p> <p>第1回 研究成果発表および討論 (1)</p> <p>第2回 研究成果発表および討論 (2)</p> <p>第3回 研究成果発表および討論 (3)</p> <p>第4回 研究成果発表および討論 (4)</p> <p>第5回 情報メディアの視点からの統合化 (1)</p> <p>第6回 情報メディアの視点からの統合化 (2)</p> <p>第7回 情報メディアの視点からの統合化 (3)</p> <p>第8回 情報メディアの視点からの統合化 (4)</p> <p>第9回 情報メディアの視点からの統合化 (5)</p> <p>第10回 考察にもとづく報告執筆 (1)</p> <p>第11回 考察にもとづく報告執筆 (2)</p> <p>第12回 考察にもとづく報告執筆 (3)</p> <p>第13回 考察にもとづく報告執筆 (4)</p> <p>第14回 卒業に向けて</p>
<p>＜問題解決ゼミナール I＞</p> <p>第1回 研究成果発表および討論 (1)</p> <p>第2回 研究成果発表および討論 (2)</p> <p>第3回 研究成果発表および討論 (3)</p> <p>第4回 研究成果発表および討論 (4)</p> <p>第5回 社会科学的観点からの分析 (1)</p> <p>第6回 社会科学的観点からの分析 (2)</p> <p>第7回 社会科学的観点からの分析 (3)</p> <p>第8回 社会科学的観点からの分析 (4)</p> <p>第9回 社会科学的観点からの分析 (5)</p> <p>第10回 分析にもとづく報告執筆 (1)</p> <p>第11回 分析にもとづく報告執筆 (2)</p> <p>第12回 分析にもとづく報告執筆 (3)</p> <p>第13回 分析にもとづく報告執筆 (4)</p> <p>第14回 夏休みの研究計画</p>	<p>＜問題解決ゼミナール II＞</p> <p>第1回 研究成果発表および討論 (1)</p> <p>第2回 研究成果発表および討論 (2)</p> <p>第3回 研究成果発表および討論 (3)</p> <p>第4回 研究成果発表および討論 (4)</p> <p>第5回 情報メディアの視点からの統合化 (1)</p> <p>第6回 情報メディアの視点からの統合化 (2)</p> <p>第7回 情報メディアの視点からの統合化 (3)</p> <p>第8回 情報メディアの視点からの統合化 (4)</p> <p>第9回 情報メディアの視点からの統合化 (5)</p> <p>第10回 考察にもとづく報告執筆 (1)</p> <p>第11回 考察にもとづく報告執筆 (2)</p> <p>第12回 考察にもとづく報告執筆 (3)</p> <p>第13回 考察にもとづく報告執筆 (4)</p> <p>第14回 卒業に向けて</p>					
3. 履修上の注意						
卒業論文単位化の対象ゼミナールではない。						
4. 準備学習（予習・復習等）の内容						
研究テーマに関する分析や考察は、ゼミ時間以外に鋭意取り組む必要がある。						
5. 教科書						
研究テーマに応じて授業中に指定する。						
6. 参考書						
シナン・アラル（夏目大訳）『デマの影響力～なぜデマは真実より速く、広く、力強く伝わるのか？』ダイヤモンド社（2022）[原著 Hype Machine 2020]						
7. 成績評価の方法						
ゼミへの参加度合いや発表内容 50%、提出されたレポート内容 50%						
8. その他						
情報コミュニケーション学部の卒業生としてふさわしい学際的な視点を身につけて欲しい。						

問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱ	今村 哲也	各2単位	3年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ 知的財産に関する法的問題の研究						
1. 授業の概要・到達目標 知的財産とは、発明、デザイン、著作物、商標など、さまざまなものを含む。情報を財産として保護することで、社会における情報生産の最適化を図る制度であるが、情報は本来自由に利用できるものなので、過度な独占は不当なので、保護と利用とのバランスを図ることが重要となる。 (1) 授業の概要 この講義では、知的財産に関して社会に生じている諸課題を取り上げ、演習形式の授業を行う。報告者(グループ)は、自ら選んだ知的財産に関する課題について、背景事情なども調査して、報告をする。その他の受講生は、報告についてコメントを作成して提出する。学年末にレポートを提出するので、レポートの書き方等はその都度指導する。 (2) 到達目標: 知的財産法について専門的な知識を獲得するとともに、知的財産に関する問題について、調査・分析し、他人が理解できるように自分の主張を表現し、議論のなかから新たな考え方を展開できる能力を身につける。各受講生は、学年末にレポートを提出する。						
2. 授業内容 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><問題分析ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 イントロダクション 授業の進め方について</p> <p>第2回 報告・ディスカッション1</p> <p>第3回 報告・ディスカッション2</p> <p>第4回 報告・ディスカッション3</p> <p>第5回 報告・ディスカッション4</p> <p>第6回 報告・ディスカッション5</p> <p>第7回 報告・ディスカッション6</p> <p>第8回 報告・ディスカッション7</p> <p>第9回 報告・ディスカッション8</p> <p>第10回 報告・ディスカッション9</p> <p>第11回 報告・ディスカッション10</p> <p>第12回 報告・ディスカッション11</p> <p>第13回 報告・ディスカッション12</p> <p>第14回 振り返り:各自、自己の報告内容のまとめをレポートとして提出</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><問題分析ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 イントロダクション 報告の進め方について</p> <p>第2回 報告・ディスカッション1</p> <p>第3回 報告・ディスカッション2</p> <p>第4回 報告・ディスカッション3</p> <p>第5回 報告・ディスカッション4</p> <p>第6回 報告・ディスカッション5</p> <p>第7回 報告・ディスカッション6</p> <p>第8回 報告・ディスカッション7</p> <p>第9回 報告・ディスカッション8</p> <p>第10回 報告・ディスカッション9</p> <p>第11回 報告・ディスカッション10</p> <p>第12回 報告・ディスカッション11</p> <p>第13回 報告・ディスカッション12</p> <p>第14回 振り返り:各自、自己の研究内容についてのレポートを提出</p> </td> </tr> </table>					<p><問題分析ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 イントロダクション 授業の進め方について</p> <p>第2回 報告・ディスカッション1</p> <p>第3回 報告・ディスカッション2</p> <p>第4回 報告・ディスカッション3</p> <p>第5回 報告・ディスカッション4</p> <p>第6回 報告・ディスカッション5</p> <p>第7回 報告・ディスカッション6</p> <p>第8回 報告・ディスカッション7</p> <p>第9回 報告・ディスカッション8</p> <p>第10回 報告・ディスカッション9</p> <p>第11回 報告・ディスカッション10</p> <p>第12回 報告・ディスカッション11</p> <p>第13回 報告・ディスカッション12</p> <p>第14回 振り返り:各自、自己の報告内容のまとめをレポートとして提出</p>	<p><問題分析ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 イントロダクション 報告の進め方について</p> <p>第2回 報告・ディスカッション1</p> <p>第3回 報告・ディスカッション2</p> <p>第4回 報告・ディスカッション3</p> <p>第5回 報告・ディスカッション4</p> <p>第6回 報告・ディスカッション5</p> <p>第7回 報告・ディスカッション6</p> <p>第8回 報告・ディスカッション7</p> <p>第9回 報告・ディスカッション8</p> <p>第10回 報告・ディスカッション9</p> <p>第11回 報告・ディスカッション10</p> <p>第12回 報告・ディスカッション11</p> <p>第13回 報告・ディスカッション12</p> <p>第14回 振り返り:各自、自己の研究内容についてのレポートを提出</p>
<p><問題分析ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 イントロダクション 授業の進め方について</p> <p>第2回 報告・ディスカッション1</p> <p>第3回 報告・ディスカッション2</p> <p>第4回 報告・ディスカッション3</p> <p>第5回 報告・ディスカッション4</p> <p>第6回 報告・ディスカッション5</p> <p>第7回 報告・ディスカッション6</p> <p>第8回 報告・ディスカッション7</p> <p>第9回 報告・ディスカッション8</p> <p>第10回 報告・ディスカッション9</p> <p>第11回 報告・ディスカッション10</p> <p>第12回 報告・ディスカッション11</p> <p>第13回 報告・ディスカッション12</p> <p>第14回 振り返り:各自、自己の報告内容のまとめをレポートとして提出</p>	<p><問題分析ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 イントロダクション 報告の進め方について</p> <p>第2回 報告・ディスカッション1</p> <p>第3回 報告・ディスカッション2</p> <p>第4回 報告・ディスカッション3</p> <p>第5回 報告・ディスカッション4</p> <p>第6回 報告・ディスカッション5</p> <p>第7回 報告・ディスカッション6</p> <p>第8回 報告・ディスカッション7</p> <p>第9回 報告・ディスカッション8</p> <p>第10回 報告・ディスカッション9</p> <p>第11回 報告・ディスカッション10</p> <p>第12回 報告・ディスカッション11</p> <p>第13回 報告・ディスカッション12</p> <p>第14回 振り返り:各自、自己の研究内容についてのレポートを提出</p>					
3. 履修上の注意 特になし。						
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 次回の授業の報告準備と、報告に対するコメントの作成を行うこと。						
5. 教科書 特に指定しない。						
6. 参考書 特に指定しない。						
7. 成績評価の方法 授業への参加度40点、報告点(報告資料、プレゼン内容)30点、レポート・論文30点の合計100点で評価。						
8. その他 特になし。						

問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱ	今村 哲也	各2単位	4年次	科目ナンバー (IC) IND312J																														
◆研究テーマ																																		
知的財産に関する法的問題の研究																																		
1. 授業の概要・到達目標																																		
<p>(1) 授業の概要 この講義では2つのことを行う。第1は、知的財産に関して社会に生じている諸課題を取り上げ、ディスカッション形式の授業を行うことである。第2は、各受講生による、自己の研究テーマに関する卒業研究の作成である。</p> <p>(2) 到達目標：知的財産に関する問題について、自分の主張を表現し、議論のなかから新たな考え方を展開できる能力を身につける。各受講生は、卒業研究を提出する。</p>																																		
2. 授業内容																																		
<table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;"> <p><問題解決ゼミナールⅠ></p> </td> <td style="text-align: center;"> <p><問題解決ゼミナールⅡ></p> </td> </tr> <tr> <td>第1回 インTRODダクション 授業の進め方について</td> <td>第1回 インTRODダクション 報告の進め方について</td> </tr> <tr> <td>第2回 報告・ディスカッション1</td> <td>第2回 受講生の報告1</td> </tr> <tr> <td>第3回 報告・ディスカッション2</td> <td>第3回 受講生の報告2</td> </tr> <tr> <td>第4回 報告・ディスカッション3</td> <td>第4回 受講生の報告3</td> </tr> <tr> <td>第5回 報告・ディスカッション4</td> <td>第5回 受講生の報告4</td> </tr> <tr> <td>第6回 報告・ディスカッション5</td> <td>第6回 受講生の報告5</td> </tr> <tr> <td>第7回 報告・ディスカッション6</td> <td>第7回 受講生の報告6</td> </tr> <tr> <td>第8回 報告・ディスカッション7</td> <td>第8回 受講生の報告7</td> </tr> <tr> <td>第9回 報告・ディスカッション8</td> <td>第9回 受講生の報告8</td> </tr> <tr> <td>第10回 報告・ディスカッション9</td> <td>第10回 受講生の報告9</td> </tr> <tr> <td>第11回 報告・ディスカッション10</td> <td>第11回 受講生の報告10</td> </tr> <tr> <td>第12回 報告・ディスカッション11</td> <td>第12回 受講生の報告11</td> </tr> <tr> <td>第13回 報告・ディスカッション12</td> <td>第13回 受講生の報告12</td> </tr> <tr> <td>第14回 振り返り：各自、自己の報告内容のまとめをレポートとして提出</td> <td>第14回 理解度の確認 講義全体の振り返り</td> </tr> </table>					<p><問題解決ゼミナールⅠ></p>	<p><問題解決ゼミナールⅡ></p>	第1回 インTRODダクション 授業の進め方について	第1回 インTRODダクション 報告の進め方について	第2回 報告・ディスカッション1	第2回 受講生の報告1	第3回 報告・ディスカッション2	第3回 受講生の報告2	第4回 報告・ディスカッション3	第4回 受講生の報告3	第5回 報告・ディスカッション4	第5回 受講生の報告4	第6回 報告・ディスカッション5	第6回 受講生の報告5	第7回 報告・ディスカッション6	第7回 受講生の報告6	第8回 報告・ディスカッション7	第8回 受講生の報告7	第9回 報告・ディスカッション8	第9回 受講生の報告8	第10回 報告・ディスカッション9	第10回 受講生の報告9	第11回 報告・ディスカッション10	第11回 受講生の報告10	第12回 報告・ディスカッション11	第12回 受講生の報告11	第13回 報告・ディスカッション12	第13回 受講生の報告12	第14回 振り返り：各自、自己の報告内容のまとめをレポートとして提出	第14回 理解度の確認 講義全体の振り返り
<p><問題解決ゼミナールⅠ></p>	<p><問題解決ゼミナールⅡ></p>																																	
第1回 インTRODダクション 授業の進め方について	第1回 インTRODダクション 報告の進め方について																																	
第2回 報告・ディスカッション1	第2回 受講生の報告1																																	
第3回 報告・ディスカッション2	第3回 受講生の報告2																																	
第4回 報告・ディスカッション3	第4回 受講生の報告3																																	
第5回 報告・ディスカッション4	第5回 受講生の報告4																																	
第6回 報告・ディスカッション5	第6回 受講生の報告5																																	
第7回 報告・ディスカッション6	第7回 受講生の報告6																																	
第8回 報告・ディスカッション7	第8回 受講生の報告7																																	
第9回 報告・ディスカッション8	第9回 受講生の報告8																																	
第10回 報告・ディスカッション9	第10回 受講生の報告9																																	
第11回 報告・ディスカッション10	第11回 受講生の報告10																																	
第12回 報告・ディスカッション11	第12回 受講生の報告11																																	
第13回 報告・ディスカッション12	第13回 受講生の報告12																																	
第14回 振り返り：各自、自己の報告内容のまとめをレポートとして提出	第14回 理解度の確認 講義全体の振り返り																																	
3. 履修上の注意																																		
特になし。																																		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容																																		
次回の授業の報告準備と、報告に対するコメントの作成を行うこと。																																		
5. 教科書																																		
特に指定しない。																																		
6. 参考書																																		
特に指定しない。																																		
7. 成績評価の方法																																		
授業への参加度 40点、レポート・卒業研究 60点の合計 100点で評価。																																		
8. その他																																		
特になし。																																		

問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱ	牛尾 奈緒美	各2単位	3年次	科目ナンバー (IC) IND312J
◆研究テーマ 業界や企業の研究を通じて、社会的問題を解決する方法を見つけ出す				
1. 授業の概要・到達目標 日本の経済社会を構成する様々な業界、各種企業の研究を行い、現代社会が直面する人口減少、環境汚染、経済格差、情報化に伴うコミュニケーション変化、雇用問題等の諸課題に対して何らかの解決策につながるような新たなビジネスモデルを創出することを目標とする。グループ毎に自由研究を行い、成果の発表、ディスカッションを行うことで論理的思考や分析能力、プレゼンテーション能力の向上を計る。				
2. 授業内容				
<問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 各グループで研究対象を決定し、問題意識の明確化、具体的分析(1) 第2回 各グループで研究対象を決定し、問題意識の明確化、具体的分析(2) 第3回 各グループで研究対象を決定し、問題意識の明確化、具体的分析(3) 第4回 1グループ毎に成果発表とディスカッション(1) 第5回 1グループ毎に成果発表とディスカッション(2) 第6回 1グループ毎に成果発表とディスカッション(3) 第7回 1グループ毎に成果発表とディスカッション(4) 第8回 各グループで新たに研究対象を決定し、問題意識の明確化、具体的分析(1) 第9回 各グループで新たに研究対象を決定し、問題意識の明確化、具体的分析(2) 第10回 各グループで新たに研究対象を決定し、問題意識の明確化、具体的分析(3) 第11回 1グループ毎に成果発表とディスカッション(1) 第12回 1グループ毎に成果発表とディスカッション(2) 第13回 1グループ毎に成果発表とディスカッション(3) 第14回 1グループ毎に成果発表とディスカッション(4)		<問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 グループをより少人数で形成し、上記の通り研究を行う(1) 第2回 グループをより少人数で形成し、上記の通り研究を行う(2) 第3回 1グループ毎に成果発表とディスカッション(1) 第4回 1グループ毎に成果発表とディスカッション(2) 第5回 1グループ毎に成果発表とディスカッション(3) 第6回 1グループ毎に成果発表とディスカッション(4) 第7回 1グループ毎に成果発表とディスカッション(5) 第8回 1グループ毎に成果発表とディスカッション(6) 第9回 1グループ毎に成果発表とディスカッション(7) 第10回 1グループ毎に成果発表とディスカッション(8) 第11回 1グループ毎に成果発表とディスカッション(9) 第12回 1グループ毎に成果発表とディスカッション(10) 第13回 1グループ毎に成果発表とディスカッション(11) 第14回 1グループ毎に成果発表とディスカッション(12)		
3. 履修上の注意 特になし。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回自主的に研究を進め発表に備える。他者の発表に対して事前学習を行い、コメントをし、準備をする。				
5. 教科書 特に指定しない。				
6. 参考書 特に指定しない。				
7. 成績評価の方法 平常点 30%、発言 30%、発表内容 40%				
8. その他 特になし。				

問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱ	牛尾 奈緒美	各2単位	4年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
<p>◆研究テーマ 企業経営や社会問題を中心に、自分の身の回りに起きている事象の中から問題を見つけ出し、情報コミュニケーション学的視点に基づき分析、考察を行い一本の研究論文として完成させるプロセスを体得する。これをもとに自分の考えや論理を他者に的確に伝える力を養う。</p>						
<p>1. 授業の概要・到達目標 経営問題を中心に、社会的問題意識を持ち、独自の視点で具体的課題設定、分析、解決策の提示を研究論文の形式で作成する。これを基に口頭発表を行う。到達目標は、各自の問題意識に基づき研究論文を執筆し、完成後に口頭発表を行うこと。</p>						
<p>2. 授業内容</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> <p><問題解決ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 論文作成にあたっての考え方、作成上の注意に関する講義(1)</p> <p>第2回 論文作成にあたっての考え方、作成上の注意に関する講義(2)</p> <p>第3回 各人の論文テーマ、コンセプト、章立てについて順に発表。全体でQ&A、ディスカッション(1)</p> <p>第4回 各人の論文テーマ、コンセプト、章立てについて順に発表。全体でQ&A、ディスカッション(2)</p> <p>第5回 各人の論文テーマ、コンセプト、章立てについて順に発表。全体でQ&A、ディスカッション(3)</p> <p>第6回 各人の論文テーマ、コンセプト、章立てについて順に発表。全体でQ&A、ディスカッション(4)</p> <p>第7回 各人の論文テーマ、コンセプト、章立てについて順に発表。全体でQ&A、ディスカッション(5)</p> <p>第8回 各人の論文テーマ、コンセプト、章立てについて順に発表。全体でQ&A、ディスカッション(6)</p> <p>第9回 各人の論文テーマ、コンセプト、章立てについて順に発表。全体でQ&A、ディスカッション(7)</p> <p>第10回 各人の論文テーマ、コンセプト、章立てについて順に発表。全体でQ&A、ディスカッション(8)</p> <p>第11回 各人の論文テーマ、コンセプト、章立てについて順に発表。全体でQ&A、ディスカッション(9)</p> <p>第12回 各人の論文テーマ、コンセプト、章立てについて順に発表。全体でQ&A、ディスカッション(10)</p> <p>第13回 各人の論文テーマ、コンセプト、章立てについて順に発表。全体でQ&A、ディスカッション(11)</p> <p>第14回 各人の論文テーマ、コンセプト、章立てについて順に発表。全体でQ&A、ディスカッション(12)</p> </td> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> <p><問題解決ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 論文の作成の進捗に合わせ各自発表、全体ディスカッション(1)</p> <p>第2回 論文の作成の進捗に合わせ各自発表、全体ディスカッション(2)</p> <p>第3回 論文の作成の進捗に合わせ各自発表、全体ディスカッション(3)</p> <p>第4回 論文の作成の進捗に合わせ各自発表、全体ディスカッション(4)</p> <p>第5回 論文の作成の進捗に合わせ各自発表、全体ディスカッション(5)</p> <p>第6回 論文の作成の進捗に合わせ各自発表、全体ディスカッション(6)</p> <p>第7回 論文の作成の進捗に合わせ各自発表、全体ディスカッション(7)</p> <p>第8回 論文の作成の進捗に合わせ各自発表、全体ディスカッション(8)</p> <p>第9回 論文の作成の進捗に合わせ各自発表、全体ディスカッション(9)</p> <p>第10回 論文の作成の進捗に合わせ各自発表、全体ディスカッション(10)</p> <p>第11回 論文の提出と口頭発表(1)</p> <p>第12回 論文の提出と口頭発表(2)</p> <p>第13回 論文の提出と口頭発表(3)</p> <p>第14回 論文の提出と口頭発表(4)</p> </td> </tr> </table>					<p><問題解決ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 論文作成にあたっての考え方、作成上の注意に関する講義(1)</p> <p>第2回 論文作成にあたっての考え方、作成上の注意に関する講義(2)</p> <p>第3回 各人の論文テーマ、コンセプト、章立てについて順に発表。全体でQ&A、ディスカッション(1)</p> <p>第4回 各人の論文テーマ、コンセプト、章立てについて順に発表。全体でQ&A、ディスカッション(2)</p> <p>第5回 各人の論文テーマ、コンセプト、章立てについて順に発表。全体でQ&A、ディスカッション(3)</p> <p>第6回 各人の論文テーマ、コンセプト、章立てについて順に発表。全体でQ&A、ディスカッション(4)</p> <p>第7回 各人の論文テーマ、コンセプト、章立てについて順に発表。全体でQ&A、ディスカッション(5)</p> <p>第8回 各人の論文テーマ、コンセプト、章立てについて順に発表。全体でQ&A、ディスカッション(6)</p> <p>第9回 各人の論文テーマ、コンセプト、章立てについて順に発表。全体でQ&A、ディスカッション(7)</p> <p>第10回 各人の論文テーマ、コンセプト、章立てについて順に発表。全体でQ&A、ディスカッション(8)</p> <p>第11回 各人の論文テーマ、コンセプト、章立てについて順に発表。全体でQ&A、ディスカッション(9)</p> <p>第12回 各人の論文テーマ、コンセプト、章立てについて順に発表。全体でQ&A、ディスカッション(10)</p> <p>第13回 各人の論文テーマ、コンセプト、章立てについて順に発表。全体でQ&A、ディスカッション(11)</p> <p>第14回 各人の論文テーマ、コンセプト、章立てについて順に発表。全体でQ&A、ディスカッション(12)</p>	<p><問題解決ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 論文の作成の進捗に合わせ各自発表、全体ディスカッション(1)</p> <p>第2回 論文の作成の進捗に合わせ各自発表、全体ディスカッション(2)</p> <p>第3回 論文の作成の進捗に合わせ各自発表、全体ディスカッション(3)</p> <p>第4回 論文の作成の進捗に合わせ各自発表、全体ディスカッション(4)</p> <p>第5回 論文の作成の進捗に合わせ各自発表、全体ディスカッション(5)</p> <p>第6回 論文の作成の進捗に合わせ各自発表、全体ディスカッション(6)</p> <p>第7回 論文の作成の進捗に合わせ各自発表、全体ディスカッション(7)</p> <p>第8回 論文の作成の進捗に合わせ各自発表、全体ディスカッション(8)</p> <p>第9回 論文の作成の進捗に合わせ各自発表、全体ディスカッション(9)</p> <p>第10回 論文の作成の進捗に合わせ各自発表、全体ディスカッション(10)</p> <p>第11回 論文の提出と口頭発表(1)</p> <p>第12回 論文の提出と口頭発表(2)</p> <p>第13回 論文の提出と口頭発表(3)</p> <p>第14回 論文の提出と口頭発表(4)</p>
<p><問題解決ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 論文作成にあたっての考え方、作成上の注意に関する講義(1)</p> <p>第2回 論文作成にあたっての考え方、作成上の注意に関する講義(2)</p> <p>第3回 各人の論文テーマ、コンセプト、章立てについて順に発表。全体でQ&A、ディスカッション(1)</p> <p>第4回 各人の論文テーマ、コンセプト、章立てについて順に発表。全体でQ&A、ディスカッション(2)</p> <p>第5回 各人の論文テーマ、コンセプト、章立てについて順に発表。全体でQ&A、ディスカッション(3)</p> <p>第6回 各人の論文テーマ、コンセプト、章立てについて順に発表。全体でQ&A、ディスカッション(4)</p> <p>第7回 各人の論文テーマ、コンセプト、章立てについて順に発表。全体でQ&A、ディスカッション(5)</p> <p>第8回 各人の論文テーマ、コンセプト、章立てについて順に発表。全体でQ&A、ディスカッション(6)</p> <p>第9回 各人の論文テーマ、コンセプト、章立てについて順に発表。全体でQ&A、ディスカッション(7)</p> <p>第10回 各人の論文テーマ、コンセプト、章立てについて順に発表。全体でQ&A、ディスカッション(8)</p> <p>第11回 各人の論文テーマ、コンセプト、章立てについて順に発表。全体でQ&A、ディスカッション(9)</p> <p>第12回 各人の論文テーマ、コンセプト、章立てについて順に発表。全体でQ&A、ディスカッション(10)</p> <p>第13回 各人の論文テーマ、コンセプト、章立てについて順に発表。全体でQ&A、ディスカッション(11)</p> <p>第14回 各人の論文テーマ、コンセプト、章立てについて順に発表。全体でQ&A、ディスカッション(12)</p>	<p><問題解決ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 論文の作成の進捗に合わせ各自発表、全体ディスカッション(1)</p> <p>第2回 論文の作成の進捗に合わせ各自発表、全体ディスカッション(2)</p> <p>第3回 論文の作成の進捗に合わせ各自発表、全体ディスカッション(3)</p> <p>第4回 論文の作成の進捗に合わせ各自発表、全体ディスカッション(4)</p> <p>第5回 論文の作成の進捗に合わせ各自発表、全体ディスカッション(5)</p> <p>第6回 論文の作成の進捗に合わせ各自発表、全体ディスカッション(6)</p> <p>第7回 論文の作成の進捗に合わせ各自発表、全体ディスカッション(7)</p> <p>第8回 論文の作成の進捗に合わせ各自発表、全体ディスカッション(8)</p> <p>第9回 論文の作成の進捗に合わせ各自発表、全体ディスカッション(9)</p> <p>第10回 論文の作成の進捗に合わせ各自発表、全体ディスカッション(10)</p> <p>第11回 論文の提出と口頭発表(1)</p> <p>第12回 論文の提出と口頭発表(2)</p> <p>第13回 論文の提出と口頭発表(3)</p> <p>第14回 論文の提出と口頭発表(4)</p>					
<p>3. 履修上の注意 特になし。</p>						
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各自が独自の視点で問題設定し、論文を執筆する。</p>						
<p>5. 教科書 特に指定しない。</p>						
<p>6. 参考書 特に指定しない。</p>						
<p>7. 成績評価の方法 平常点 20%、論文の提出 60%、口頭発表 20%</p>						
<p>8. その他 特になし。</p>						

問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱ	江下 雅之	各2単位	3年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ メディアの〈いま・ここ〉：情報環境の転換を考察する						
1. 授業の概要・到達目標 現在の情報環境の中心に位置するのはインターネットおよびモバイルであり、メディアに関する社会的な関心事や問題点も、多くがこれらに関連している。しかし、今日的な問題を根本から理解するには、時間軸に沿った変遷を踏まえたうえで〈いま・ここ〉を認識せねばならない。ゆえに、当ゼミでは旧来のメディア（雑誌・放送・映像音楽媒体、手紙・電話等）の歴史的な推移を十分に研究し、そのうえでモバイルを中心としたメディアの現在形および将来動向を考察するものである。また、我々の日常生活は情報環境の転換を促すものであるから、メディアに関する理解においてはライフスタイルやサブカルチャーの視点も重要だ。メディアに付随する問題はきわめて幅広い。 ゼミ活動では、春学期は基本文献を精読して基礎理論の修得を図る。秋学期は今日的なメディア問題に関する具体的な課題を設定したうえでのリサーチ演習を積み重ねる。この演習を通じ、メディアに関連した問題を分析するための基本的な型（リサーチの段取りの策定、分析に用いる定番的な資料と分析手法、徴候となる現象の発見方法、考察の視点）を理解することを第一の到達目標とする。そして数多くのリサーチに取り組むことで、リサーチ実務に習熟することを第二の到達目標とする。 リサーチ演習はすべてグループワークで行う。その際、Zoom、Google ドキュメント、slack、miro など、オンラインによるグループワークを進めるためのツールに使い慣れることも併せて目標とする。なお、2023年度のゼミにおいては情報環境のなかでも「雑誌」「映画」「テレビドラマ」に注目し、それに沿った輪読本およびリサーチ演習課題を設定する予定である。						
2. 授業内容 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 輪読本1の発表とディスカッション〈1〉 第2回 輪読本1の発表とディスカッション〈2〉 第3回 輪読本1の発表とディスカッション〈3〉 第4回 輪読本1の発表とディスカッション〈4〉 第5回 輪読本2の発表とディスカッション〈1〉 第6回 輪読本2の発表とディスカッション〈2〉 第7回 輪読本2の発表とディスカッション〈3〉 第8回 輪読本2の発表とディスカッション〈4〉 第9回 輪読本3の発表とディスカッション〈1〉 第10回 輪読本3の発表とディスカッション〈2〉 第11回 輪読本3の発表とディスカッション〈3〉 第12回 輪読本3の発表とディスカッション〈4〉 第13回 リサーチのワークショップ〈1〉 第14回 リサーチのワークショップ〈2〉 ※輪読本の発表はグループ単位で行う。ただし、グループの全員がレジュメを作成し、発表当日に提出しなければならない。レジュメは添削後、各自に返却する。 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 リサーチ演習の課題〈1〉の概要説明 第2回 リサーチ演習〈1〉ワークショップ〈1〉 第3回 リサーチ演習〈1〉ワークショップ〈2〉 第4回 リサーチ演習〈1〉ワークショップ〈3〉 第5回 リサーチ演習〈1〉の報告と議論 第6回 リサーチ演習の課題〈2〉の概要説明 第7回 リサーチ演習〈2〉ワークショップ〈1〉 第8回 リサーチ演習〈2〉ワークショップ〈2〉 第9回 リサーチ演習〈2〉ワークショップ〈3〉 第10回 リサーチ演習〈2〉の報告と議論 第11回 卒業研究のテーマ発表 第12回 卒業研究テーマのディスカッション〈1〉 第13回 卒業研究テーマのディスカッション〈2〉 第14回 卒業研究の経過報告 ※リサーチ演習の一部はインカレ形式のワークショップに代替する可能性がある。 </td> </tr> </table>					<問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 輪読本1の発表とディスカッション〈1〉 第2回 輪読本1の発表とディスカッション〈2〉 第3回 輪読本1の発表とディスカッション〈3〉 第4回 輪読本1の発表とディスカッション〈4〉 第5回 輪読本2の発表とディスカッション〈1〉 第6回 輪読本2の発表とディスカッション〈2〉 第7回 輪読本2の発表とディスカッション〈3〉 第8回 輪読本2の発表とディスカッション〈4〉 第9回 輪読本3の発表とディスカッション〈1〉 第10回 輪読本3の発表とディスカッション〈2〉 第11回 輪読本3の発表とディスカッション〈3〉 第12回 輪読本3の発表とディスカッション〈4〉 第13回 リサーチのワークショップ〈1〉 第14回 リサーチのワークショップ〈2〉 ※輪読本の発表はグループ単位で行う。ただし、グループの全員がレジュメを作成し、発表当日に提出しなければならない。レジュメは添削後、各自に返却する。	<問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 リサーチ演習の課題〈1〉の概要説明 第2回 リサーチ演習〈1〉ワークショップ〈1〉 第3回 リサーチ演習〈1〉ワークショップ〈2〉 第4回 リサーチ演習〈1〉ワークショップ〈3〉 第5回 リサーチ演習〈1〉の報告と議論 第6回 リサーチ演習の課題〈2〉の概要説明 第7回 リサーチ演習〈2〉ワークショップ〈1〉 第8回 リサーチ演習〈2〉ワークショップ〈2〉 第9回 リサーチ演習〈2〉ワークショップ〈3〉 第10回 リサーチ演習〈2〉の報告と議論 第11回 卒業研究のテーマ発表 第12回 卒業研究テーマのディスカッション〈1〉 第13回 卒業研究テーマのディスカッション〈2〉 第14回 卒業研究の経過報告 ※リサーチ演習の一部はインカレ形式のワークショップに代替する可能性がある。
<問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 輪読本1の発表とディスカッション〈1〉 第2回 輪読本1の発表とディスカッション〈2〉 第3回 輪読本1の発表とディスカッション〈3〉 第4回 輪読本1の発表とディスカッション〈4〉 第5回 輪読本2の発表とディスカッション〈1〉 第6回 輪読本2の発表とディスカッション〈2〉 第7回 輪読本2の発表とディスカッション〈3〉 第8回 輪読本2の発表とディスカッション〈4〉 第9回 輪読本3の発表とディスカッション〈1〉 第10回 輪読本3の発表とディスカッション〈2〉 第11回 輪読本3の発表とディスカッション〈3〉 第12回 輪読本3の発表とディスカッション〈4〉 第13回 リサーチのワークショップ〈1〉 第14回 リサーチのワークショップ〈2〉 ※輪読本の発表はグループ単位で行う。ただし、グループの全員がレジュメを作成し、発表当日に提出しなければならない。レジュメは添削後、各自に返却する。	<問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 リサーチ演習の課題〈1〉の概要説明 第2回 リサーチ演習〈1〉ワークショップ〈1〉 第3回 リサーチ演習〈1〉ワークショップ〈2〉 第4回 リサーチ演習〈1〉ワークショップ〈3〉 第5回 リサーチ演習〈1〉の報告と議論 第6回 リサーチ演習の課題〈2〉の概要説明 第7回 リサーチ演習〈2〉ワークショップ〈1〉 第8回 リサーチ演習〈2〉ワークショップ〈2〉 第9回 リサーチ演習〈2〉ワークショップ〈3〉 第10回 リサーチ演習〈2〉の報告と議論 第11回 卒業研究のテーマ発表 第12回 卒業研究テーマのディスカッション〈1〉 第13回 卒業研究テーマのディスカッション〈2〉 第14回 卒業研究の経過報告 ※リサーチ演習の一部はインカレ形式のワークショップに代替する可能性がある。					
3. 履修上の注意 8月末に他大学と合同の「メディア研究インカレ原村」が実施可能となった場合、参加を必須とする。						
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各人毎回かならず発表が当たるので、そのための準備は事前にすべて終わらせておくことを求める。						
5. 教科書 使用しない						
6. 参考書 輪読のための課題本を12冊使用する。詳細はゼミメンバーの内定後に連絡する。						
7. 成績評価の方法 各自が実施するプレゼンテーションの内容が80%、個人およびグループ単位で作成する研究成果が20%の比率で評価する。						
8. その他 広告やメディア、ITに関わる仕事に関心のある学生を歓迎する。ゼミの活動の詳細は公式サイトで公開している議事録を参照 (http://www.eshita-labo.org/sic_new/seminar/)。						

問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱ	江下 雅之	各2単位	4年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ メディアの〈いま・ここ〉：情報環境の転換を考察する						
1. 授業の概要・到達目標 問題分析ゼミナールで経験したリサーチ演習およびワークショップをもとに、より大きなテーマに対するリサーチに取り組む。前年度に学んだ基礎理論およびリサーチ実務能力を実践的に活用し、身近な現象からの〈徴候〉の発見、先行研究の批判的読解、仮説の設定、検証に必要な論理構成の検討、検証に必要な情報の収集・整理・分析などに取り組み、ひとまとまりの研究調査報告書を執筆することを目指す。その活動を通じ、実務で要求されるリサーチ・スキルを修得することを到達目標とする。 なお、ゼミナール活動の成果として、卒業制作の実施を必須とはしないが強く推奨する。成果物は個人単位の研究調査報告書とし、12月末までの提出を求める。						
2. 授業内容						
<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>＜問題解決ゼミナールⅠ＞</p> <p>第1回 復習のためのリサーチ演習〈1〉</p> <p>第2回 復習のためのリサーチ演習〈2〉</p> <p>第3回 官公庁資料を用いたリサーチ演習〈1〉</p> <p>第4回 官公庁資料を用いたリサーチ演習〈2〉</p> <p>第5回 官公庁資料を用いたリサーチ演習〈3〉</p> <p>第6回 雑誌記事を用いたリサーチ演習〈1〉</p> <p>第7回 雑誌記事を用いたリサーチ演習〈2〉</p> <p>第8回 雑誌記事を用いたリサーチ演習〈3〉</p> <p>第9回 映像コンテンツを用いたリサーチ演習〈1〉</p> <p>第10回 映像コンテンツを用いたリサーチ演習〈2〉</p> <p>第11回 映像コンテンツを用いたリサーチ演習〈3〉</p> <p>第12回 リサーチ課題の検討</p> <p>第13回 リサーチの段取りの策定</p> <p>第14回 予想される結論の検討</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>＜問題解決ゼミナールⅡ＞</p> <p>第1回 プレリサーチ結果の発表</p> <p>第2回 現状分析に関するディスカッション〈1〉</p> <p>第3回 現状分析に関するディスカッション〈2〉</p> <p>第4回 現状分析に関するディスカッション〈3〉</p> <p>第5回 問題提起に関するディスカッション〈1〉</p> <p>第6回 問題提起に関するディスカッション〈2〉</p> <p>第7回 問題提起に関するディスカッション〈3〉</p> <p>第8回 これまでの総括（中間報告）</p> <p>第9回 仮説と検証に関するディスカッション〈1〉</p> <p>第10回 仮説と検証に関するディスカッション〈2〉</p> <p>第11回 暫定的な結果に関するまとめ</p> <p>第12回 リサーチ結果の検証〈1〉</p> <p>第13回 リサーチ結果の検証〈2〉</p> <p>第14回 卒業研究の最終報告</p> </td> </tr> </table>					<p>＜問題解決ゼミナールⅠ＞</p> <p>第1回 復習のためのリサーチ演習〈1〉</p> <p>第2回 復習のためのリサーチ演習〈2〉</p> <p>第3回 官公庁資料を用いたリサーチ演習〈1〉</p> <p>第4回 官公庁資料を用いたリサーチ演習〈2〉</p> <p>第5回 官公庁資料を用いたリサーチ演習〈3〉</p> <p>第6回 雑誌記事を用いたリサーチ演習〈1〉</p> <p>第7回 雑誌記事を用いたリサーチ演習〈2〉</p> <p>第8回 雑誌記事を用いたリサーチ演習〈3〉</p> <p>第9回 映像コンテンツを用いたリサーチ演習〈1〉</p> <p>第10回 映像コンテンツを用いたリサーチ演習〈2〉</p> <p>第11回 映像コンテンツを用いたリサーチ演習〈3〉</p> <p>第12回 リサーチ課題の検討</p> <p>第13回 リサーチの段取りの策定</p> <p>第14回 予想される結論の検討</p>	<p>＜問題解決ゼミナールⅡ＞</p> <p>第1回 プレリサーチ結果の発表</p> <p>第2回 現状分析に関するディスカッション〈1〉</p> <p>第3回 現状分析に関するディスカッション〈2〉</p> <p>第4回 現状分析に関するディスカッション〈3〉</p> <p>第5回 問題提起に関するディスカッション〈1〉</p> <p>第6回 問題提起に関するディスカッション〈2〉</p> <p>第7回 問題提起に関するディスカッション〈3〉</p> <p>第8回 これまでの総括（中間報告）</p> <p>第9回 仮説と検証に関するディスカッション〈1〉</p> <p>第10回 仮説と検証に関するディスカッション〈2〉</p> <p>第11回 暫定的な結果に関するまとめ</p> <p>第12回 リサーチ結果の検証〈1〉</p> <p>第13回 リサーチ結果の検証〈2〉</p> <p>第14回 卒業研究の最終報告</p>
<p>＜問題解決ゼミナールⅠ＞</p> <p>第1回 復習のためのリサーチ演習〈1〉</p> <p>第2回 復習のためのリサーチ演習〈2〉</p> <p>第3回 官公庁資料を用いたリサーチ演習〈1〉</p> <p>第4回 官公庁資料を用いたリサーチ演習〈2〉</p> <p>第5回 官公庁資料を用いたリサーチ演習〈3〉</p> <p>第6回 雑誌記事を用いたリサーチ演習〈1〉</p> <p>第7回 雑誌記事を用いたリサーチ演習〈2〉</p> <p>第8回 雑誌記事を用いたリサーチ演習〈3〉</p> <p>第9回 映像コンテンツを用いたリサーチ演習〈1〉</p> <p>第10回 映像コンテンツを用いたリサーチ演習〈2〉</p> <p>第11回 映像コンテンツを用いたリサーチ演習〈3〉</p> <p>第12回 リサーチ課題の検討</p> <p>第13回 リサーチの段取りの策定</p> <p>第14回 予想される結論の検討</p>	<p>＜問題解決ゼミナールⅡ＞</p> <p>第1回 プレリサーチ結果の発表</p> <p>第2回 現状分析に関するディスカッション〈1〉</p> <p>第3回 現状分析に関するディスカッション〈2〉</p> <p>第4回 現状分析に関するディスカッション〈3〉</p> <p>第5回 問題提起に関するディスカッション〈1〉</p> <p>第6回 問題提起に関するディスカッション〈2〉</p> <p>第7回 問題提起に関するディスカッション〈3〉</p> <p>第8回 これまでの総括（中間報告）</p> <p>第9回 仮説と検証に関するディスカッション〈1〉</p> <p>第10回 仮説と検証に関するディスカッション〈2〉</p> <p>第11回 暫定的な結果に関するまとめ</p> <p>第12回 リサーチ結果の検証〈1〉</p> <p>第13回 リサーチ結果の検証〈2〉</p> <p>第14回 卒業研究の最終報告</p>					
3. 履修上の注意 発表が中心となるので、関係各位との連絡を密に取ること。						
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 発表用の資料は事前に作成して提出することを求める。						
5. 教科書 特に使用しない。						
6. 参考書 戸田山和久『新版 論文の教室』（NHK ブックス）						
7. 成績評価の方法 報告書で100%評価する。						
8. その他 リサーチは段取りを綿密に組むことが重要なので、教員と相談の上、無理のないスケジュールを立てること。						

問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱ	小田 光康	各2単位	3年次	科目ナンバー (IC) IND312J
◆研究テーマ 戦略コミュニケーションとパブリック・ジャーナリズムに関する文理融合型の実践研究				
1. 授業の概要・到達目標 このゼミはタイ北部山岳少数民族とカメルーンの貧困農民が有機肥料・無農薬で栽培するコーヒーに関するデジタル・マーケティング戦略とパブリック・ジャーナリズム実践の研究を主に実施しています。そこで、長野県白馬村と東京都世田谷区、神奈川県逗子市と協働して実施します。春学期は米国大学のオンライン授業を活用してSNSマーケティング戦略やパブリック・ジャーナリズムの基礎的な課題に取り組み、夏休みには白馬村の村営施設でコーヒー焙煎を含めたワークショップを実施し、冬冬休みあるいは春休みにはタイ・チェンマイ市と山岳少数民族のオムコイ村を訪れて、フィールドワーク研修を実施します。これらの結果を学術論文、ルポルタージュ、ドキュメンタリーにまとめることを到達目標にします。これら以外でも、経営学、社会情報学、教育学、社会疫学の各分野での研究指導もしています。丹沢山地及び房総半島でのヤマビルの生態調査とDNA解析、東南アジアでの狂犬病予防のメディア教材開発、北アルプス山城の山小屋の環境問題、白馬村でのヒツジ牧場経営分析などの調査研究があります。				
2. 授業内容				
<問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 イントロダクション 第2回 マーケティング・ジャーナリズム基礎① 第3回 マーケティング・ジャーナリズム基礎② 第4回 マーケティング・ジャーナリズム基礎③ 第5回 マーケティング・ジャーナリズム基礎④ 第6回 マーケティング・ジャーナリズム基礎⑤ 第7回 社会学・統計学実習 社会調査入門① 第8回 社会学・統計学実習 社会調査入門② 第9回 社会学・統計学実習 社会調査入門③ 第10回 社会学・統計学実習 データ解析① 第11回 社会学・統計学実習 データ解析② 第12回 社会学・統計学実習 データ解析③ 第13回 社会学・統計学実習 データ解析④ 第14回 まとめ		<問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 イントロダクション 第2回 マーケティング・ジャーナリズム実践① 第3回 マーケティング・ジャーナリズム実践② 第4回 マーケティング・ジャーナリズム実践③ 第5回 マーケティング・ジャーナリズム実践④ 第6回 中間研究発表(Ⅰ) 第7回 中間研究発表(ⅠⅠ) 第8回 マーケティング・ジャーナリズム実践⑤ 第9回 マーケティング・ジャーナリズム実践⑥ 第10回 マーケティング・ジャーナリズム実践⑦ 第11回 マーケティング・ジャーナリズム実践⑧ 第12回 研究発表(Ⅰ) 第13回 研究発表(ⅠⅠ) 第14回 まとめ		
3. 履修上の注意 入室はエントリーシートの内容と面接で決めます。国際的な文理融合型の学際研究に真剣に取り組みたい学生の入室を希望します。				
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 フィールドワークを主に実施するので体力と行動力、対話力を身につける準備をしておくこと。				
5. 教科書 アンソニー・ギデンズ編『社会学 第5版』、原拓也編『社会統計学入門』				
6. 参考書 適宜配布します。				
7. 成績評価の方法 成績は論文内容で評価します。				
8. その他 当ゼミは学外フィールドワークが多いので、社会マナーの無い学生はお断りします。国際ジャーナリストや外資系コンサルタント、海外留学・就職やスタートアップ起業を目指す学生に対しては適宜、アドバイスします。				

問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱ	小田 光康	各2単位	4年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ 戦略コミュニケーションとパブリック・ジャーナリズムに関する文理融合型の実践研究						
1. 授業の概要・到達目標 4年次は3年次に習得したフィールドワーク法や文献研究法、統計解析法を活用し、1年間を通じて自ら定めたテーマの卒業論文あるいは卒業制作をまとめることを目的にします。休暇期間中に海外調査を実施する場合があります。できれば、国際共同研究先の大学や国際学会での発表を目指します。						
2. 授業内容						
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><問題解決ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 インTRODクシヨN</p> <p>第2回 卒業論文指導①</p> <p>第3回 卒業論文指導②</p> <p>第4回 卒業論文指導③</p> <p>第5回 卒業論文指導④</p> <p>第6回 卒業論文指導⑤</p> <p>第7回 卒業論文中間発表(1)</p> <p>第8回 卒業論文指導⑥</p> <p>第9回 卒業論文指導⑦</p> <p>第10回 卒業論文指導⑧</p> <p>第11回 卒業論文指導⑨</p> <p>第12回 卒業論文指導⑩</p> <p>第13回 卒業論文指導⑪</p> <p>第14回 卒業論文中間発表(2)</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><問題解決ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 卒業論文指導①</p> <p>第2回 卒業論文指導②</p> <p>第3回 卒業論文指導③</p> <p>第4回 卒業論文指導④</p> <p>第5回 卒業論文指導⑤</p> <p>第6回 卒業論文指導⑥</p> <p>第7回 卒業論文中間発表(3)</p> <p>第8回 卒業論文指導⑦</p> <p>第9回 卒業論文指導⑧</p> <p>第10回 卒業論文指導⑨</p> <p>第11回 卒業論文指導⑩</p> <p>第12回 卒業論文発表⑪</p> <p>第13回 卒業論文発表⑫</p> <p>第14回 まとめ</p> </td> </tr> </table>					<p><問題解決ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 インTRODクシヨN</p> <p>第2回 卒業論文指導①</p> <p>第3回 卒業論文指導②</p> <p>第4回 卒業論文指導③</p> <p>第5回 卒業論文指導④</p> <p>第6回 卒業論文指導⑤</p> <p>第7回 卒業論文中間発表(1)</p> <p>第8回 卒業論文指導⑥</p> <p>第9回 卒業論文指導⑦</p> <p>第10回 卒業論文指導⑧</p> <p>第11回 卒業論文指導⑨</p> <p>第12回 卒業論文指導⑩</p> <p>第13回 卒業論文指導⑪</p> <p>第14回 卒業論文中間発表(2)</p>	<p><問題解決ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 卒業論文指導①</p> <p>第2回 卒業論文指導②</p> <p>第3回 卒業論文指導③</p> <p>第4回 卒業論文指導④</p> <p>第5回 卒業論文指導⑤</p> <p>第6回 卒業論文指導⑥</p> <p>第7回 卒業論文中間発表(3)</p> <p>第8回 卒業論文指導⑦</p> <p>第9回 卒業論文指導⑧</p> <p>第10回 卒業論文指導⑨</p> <p>第11回 卒業論文指導⑩</p> <p>第12回 卒業論文発表⑪</p> <p>第13回 卒業論文発表⑫</p> <p>第14回 まとめ</p>
<p><問題解決ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 インTRODクシヨN</p> <p>第2回 卒業論文指導①</p> <p>第3回 卒業論文指導②</p> <p>第4回 卒業論文指導③</p> <p>第5回 卒業論文指導④</p> <p>第6回 卒業論文指導⑤</p> <p>第7回 卒業論文中間発表(1)</p> <p>第8回 卒業論文指導⑥</p> <p>第9回 卒業論文指導⑦</p> <p>第10回 卒業論文指導⑧</p> <p>第11回 卒業論文指導⑨</p> <p>第12回 卒業論文指導⑩</p> <p>第13回 卒業論文指導⑪</p> <p>第14回 卒業論文中間発表(2)</p>	<p><問題解決ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 卒業論文指導①</p> <p>第2回 卒業論文指導②</p> <p>第3回 卒業論文指導③</p> <p>第4回 卒業論文指導④</p> <p>第5回 卒業論文指導⑤</p> <p>第6回 卒業論文指導⑥</p> <p>第7回 卒業論文中間発表(3)</p> <p>第8回 卒業論文指導⑦</p> <p>第9回 卒業論文指導⑧</p> <p>第10回 卒業論文指導⑨</p> <p>第11回 卒業論文指導⑩</p> <p>第12回 卒業論文発表⑪</p> <p>第13回 卒業論文発表⑫</p> <p>第14回 まとめ</p>					
3. 履修上の注意 就職活動時の出欠は事前に連絡すること。						
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 各自の卒業論文・卒業制作に関する情報の収集を欠かさないこと。						
5. 教科書 アンソニー・ギデンズ編『社会学 第5版』、原拓也編『社会統計学入門』						
6. 参考書 適宜配布します。						
7. 成績評価の方法 成績は卒業論文・卒業制作の内容で評価します。						
8. その他 国際ジャーナリストや外資系コンサルタント、海外留学・就職やスタートアップ起業を目指す学生に対しては適宜、アドバイスします。						

問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱ	川島 高峰	各 2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ ミレニアル・Z・α世代の日本国家論・日本人論						
1. 授業の概要・到達目標 我がゼミナールではミレニアル・Z・α世代にふさわしい日本国家論・日本人論を構想し、新しい日本はどうあるべきか、新しき日本人とは何かについての表現を創るゼミナールです。将来、政治家を目指す学生を歓迎します。 一体、この日本の将来はどうなるのでしょうか？ 人口減少社会と少子超高齢化、震災・気候変動等の自然災害の激甚化・多発化、東京一極集中と地方消滅、生涯非婚者と単身世帯の増大等々、日本の前途は多難です。日本は課題先進国と呼ばれたり、衰退途上国と言われたりしています。平成の30年間に進んだグローバル化により日本人も激変し、2021年末の時点で在留外国人は276万人、海外在留日本人は134.5万人と内外雑居人口は400万人時代の日本となりました。資源・エネルギー小国の日本にとって国際協調と世界貿易は繁栄の要でした。他方、パンデミックによる国際人流の停滞は過渡なグローバリズムの見直しの契機となりロシアによるウクライナ侵略と中国の超大国化は世界の安全保障と国際協調の環境を激変させました。 護るべき日本・守るべき世界、新しい世界と日本、新しき日本人とは何かについて、皆と共に考え、実践をしてみませんか？ 様々な諸課題を次の3点に集約しました。「東京一極集中とミレニアル・Z・α代的な地方文化の創成」、「地球規模課題と日本」、「資源・エネルギーと安全保障問題」です。 こうした学びを「地方交流」・「国際交流」を通して楽しくやる！、を実践してきました。新潟県南魚沼市当局と協議し、総務省ふるさとワーキングホリデーの制度を活用したプログラムを2022年夏季から開始しました。また学部協定を締結して続けてきた富山県立山町とのプログラムは、コロナ禍で派遣停止となってきましたが、これまでの7年間の交流学习を総括し、新たに国家の地方政策はどうあるべきかについて考えるプロジェクトに転換中です。君らもこれを手伝ってください。 「資源・エネルギーと安全保障問題」はゼミとしては初年度の取組となりますが、保守と革新の政治文化を対比して学習しつつ、新世代ならではの双方を超えた視点の涵養に取り組みます。 「地球規模課題と日本」ではベトナムの大学生（担当教員はベトナム国家大学客員教員、並びに同大学・学部設立構想委員）との交流学习を通じて国連の持続可能な開発目標(SDGs)を指標に、課題先進国日本が世界にできることを国際開発に関わる日本企業(石坂産業他)での連携や研修を通じて考えます。 「創る」のですからその表現は論文といったテキスト・メディアに限定しません。事業的な活動、映像、写真、絵画、音楽、舞踊、芸術など優れたデザインは、しばしば、人の内面を解放します。さあ、何によって表現してみようか？、から始めてみましょう。ゼミナールとはあなたの人生、日本の未来をデザインする場です。 達成目標はこれらの学習を踏まえた上で成果物を作成することです。 希望する者はこれを4年時の卒業制作もしくは卒業論文にします(学習の進展による主題変更は可)。						
2. 授業内容 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 重要主題解説1と学生意見交換 第2回 重要主題解説2と学生意見交換 第3回 重要主題解説3と学生意見交換 第4回 重要主題解説4と学生意見交換 第5回 重要主題解説5と学生意見交換 第6回 重要主題解説6と学生意見交換 第7回 重要主題解説7と学生意見交換 第8回 関連主題解説1と学生研究主題指導 第9回 関連主題解説2と学生研究主題指導 第10回 関連主題解説3と学生研究主題指導 第11回 関連主題解説4と学生研究主題指導 第12回 関連主題解説5と学生研究主題指導 第13回 夏季休暇、研究計画指導1 第14回 夏季休暇、研究計画指導2 重要主題とは教員が現代の理解に重要と考えた主題 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 夏季休暇の報告 第2回 重要主題解説1と学生報告1 第3回 重要主題解説2と学生意見交換 第4回 重要主題解説3と学生報告2 第5回 学生報告3と学生意見交換 第6回 重要主題解説4と学生報告3 第7回 学生報告4と学生意見交換 第8回 関連主題解説1と学生研究主題指導 第9回 関連主題解説2と学生研究主題指導 第10回 関連主題解説3と学生研究主題指導 第11回 関連主題解説4と学生研究主題指導 第12回 最終成果物報告1 第13回 最終成果物報告2 第14回 最終成果物報告3 関連主題とは学生の研究に関連する重要な主題 </td> </tr> </table>					<問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 重要主題解説1と学生意見交換 第2回 重要主題解説2と学生意見交換 第3回 重要主題解説3と学生意見交換 第4回 重要主題解説4と学生意見交換 第5回 重要主題解説5と学生意見交換 第6回 重要主題解説6と学生意見交換 第7回 重要主題解説7と学生意見交換 第8回 関連主題解説1と学生研究主題指導 第9回 関連主題解説2と学生研究主題指導 第10回 関連主題解説3と学生研究主題指導 第11回 関連主題解説4と学生研究主題指導 第12回 関連主題解説5と学生研究主題指導 第13回 夏季休暇、研究計画指導1 第14回 夏季休暇、研究計画指導2 重要主題とは教員が現代の理解に重要と考えた主題	<問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 夏季休暇の報告 第2回 重要主題解説1と学生報告1 第3回 重要主題解説2と学生意見交換 第4回 重要主題解説3と学生報告2 第5回 学生報告3と学生意見交換 第6回 重要主題解説4と学生報告3 第7回 学生報告4と学生意見交換 第8回 関連主題解説1と学生研究主題指導 第9回 関連主題解説2と学生研究主題指導 第10回 関連主題解説3と学生研究主題指導 第11回 関連主題解説4と学生研究主題指導 第12回 最終成果物報告1 第13回 最終成果物報告2 第14回 最終成果物報告3 関連主題とは学生の研究に関連する重要な主題
<問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 重要主題解説1と学生意見交換 第2回 重要主題解説2と学生意見交換 第3回 重要主題解説3と学生意見交換 第4回 重要主題解説4と学生意見交換 第5回 重要主題解説5と学生意見交換 第6回 重要主題解説6と学生意見交換 第7回 重要主題解説7と学生意見交換 第8回 関連主題解説1と学生研究主題指導 第9回 関連主題解説2と学生研究主題指導 第10回 関連主題解説3と学生研究主題指導 第11回 関連主題解説4と学生研究主題指導 第12回 関連主題解説5と学生研究主題指導 第13回 夏季休暇、研究計画指導1 第14回 夏季休暇、研究計画指導2 重要主題とは教員が現代の理解に重要と考えた主題	<問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 夏季休暇の報告 第2回 重要主題解説1と学生報告1 第3回 重要主題解説2と学生意見交換 第4回 重要主題解説3と学生報告2 第5回 学生報告3と学生意見交換 第6回 重要主題解説4と学生報告3 第7回 学生報告4と学生意見交換 第8回 関連主題解説1と学生研究主題指導 第9回 関連主題解説2と学生研究主題指導 第10回 関連主題解説3と学生研究主題指導 第11回 関連主題解説4と学生研究主題指導 第12回 最終成果物報告1 第13回 最終成果物報告2 第14回 最終成果物報告3 関連主題とは学生の研究に関連する重要な主題					
3. 履修上の注意 担当教員の春学期開講の「現代政治学Ⅰ」〔平成の政治史30年〕、「政治とメディア」〔捏造・歪曲報道と世論操作〕の履修を義務とします。なお、□で記したのが講義の大主題です。2023年のシラバスを確認してください。						
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 2年次のゼミ履修が確定した段階で事前学習を開始します。						
5. 教科書 その都度、指定する。						
6. 参考書 その都度、ゼミで提示。						
7. 成績評価の方法 ゼミでの積極性・責任感・協調性等50%、成果物50%で評価。						
8. その他 組織での管理・コミュニケーションができること、SNS等で連絡がよくできること、外部団体・公機関との交渉・連絡を行うことがあるので社会人としての基礎力・常識(指導します)が求められます。						

問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱ	川島 高峰	各2単位	4年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ 日本国家論・日本人論と在日外国人及びアジア研究						
1. 授業の概要・到達目標 日本は近代都市文明として国際的にも世界的にも最先端・最先進の空間を形成している。その最先端性ゆえに負の問題においても世界で最も矛盾を抱えた社会である。世界第二位の経済大国にまで駆け上がった日本は、今後、その地位を下げていると予想されている。もはや日本に高度成長時代の再来はない。 我が国を覆うのは、少子高齢化と地方消滅・東京一極集中、地方と中央の格差拡大、文化の多様化と世代間・同世代間における文化の格差や文化の隔絶、国民文化や国民概念の稀薄化とそれへの反動による極端で低劣な自民族中心主義の台頭、止むことなき経済格差の拡大、国際化や多文化共生の進行に伴う異民族・異文化排撃、高学歴化に伴う学歴格差やエリートの墮落、超高齢化社会によるシルバー・デモクラシーと若年世代のマイノリティー化や負担増、貧困女子・貧困老人・子供の貧困 etc. 2020年、世界はパンデミックに直面し、New Normal などライフスタイルという根底から政治社会文化や国際社会の在り方を再考することを迫られている。 このような問いは、従来の冷戦時代のような「大理論や大思想によりかかりたいという甘え」は通用せず、「凡夫にありがちな学問の神聖化や学問という名の慢心・傲慢」も通用しない。このゼミでは知に甘えず、驕らず、さりとてペシミズムに屈することなく、楽しく！「現代日本の思想と行動」を問い続け、希望者は単位認定としての卒業制作（論文等）を完成させることが目標である。						
2. 授業内容 <table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p><問題解決ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 前年度活動の報告・説明</p> <p>第2回 前年度活動の下級生への引継ぎ</p> <p>第3回 エントリーシート の書き方</p> <p>第4回 日本の進路と未来</p> <p>第5回 卒業制作指針と作業行程の提示</p> <p>第6回 学生の卒業制作指針の説明と指導1</p> <p>第7回 学生の卒業制作指針の説明と指導2</p> <p>第8回 学生の卒業制作指針の説明と指導3</p> <p>第9回 学生の卒業制作指針の説明と指導4</p> <p>第10回 学生の作業工程の説明と指導1</p> <p>第11回 学生の作業工程の説明と指導2</p> <p>第12回 学生の作業工程の説明と指導3</p> <p>第13回 学生の作業工程の説明と指導4</p> <p>第14回 夏期の進捗計画報告</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p><問題解決ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 夏期活動の報告1</p> <p>第2回 夏期活動の報告2</p> <p>第3回 卒業制作経過報告と指導1</p> <p>第4回 卒業制作経過報告と指導2</p> <p>第5回 卒業制作経過報告と指導3</p> <p>第6回 卒業制作最終案作成1</p> <p>第7回 卒業制作最終案作成2</p> <p>第8回 卒業制作最終案作成3</p> <p>第9回 卒業制作最終案作成4</p> <p>第10回 進路活動報告会1</p> <p>第11回 進路活動報告会2</p> <p>第12回 卒業制作報告会1</p> <p>第13回 卒業制作報告会2</p> <p>第14回 総括</p> </td> </tr> </table>					<p><問題解決ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 前年度活動の報告・説明</p> <p>第2回 前年度活動の下級生への引継ぎ</p> <p>第3回 エントリーシート の書き方</p> <p>第4回 日本の進路と未来</p> <p>第5回 卒業制作指針と作業行程の提示</p> <p>第6回 学生の卒業制作指針の説明と指導1</p> <p>第7回 学生の卒業制作指針の説明と指導2</p> <p>第8回 学生の卒業制作指針の説明と指導3</p> <p>第9回 学生の卒業制作指針の説明と指導4</p> <p>第10回 学生の作業工程の説明と指導1</p> <p>第11回 学生の作業工程の説明と指導2</p> <p>第12回 学生の作業工程の説明と指導3</p> <p>第13回 学生の作業工程の説明と指導4</p> <p>第14回 夏期の進捗計画報告</p>	<p><問題解決ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 夏期活動の報告1</p> <p>第2回 夏期活動の報告2</p> <p>第3回 卒業制作経過報告と指導1</p> <p>第4回 卒業制作経過報告と指導2</p> <p>第5回 卒業制作経過報告と指導3</p> <p>第6回 卒業制作最終案作成1</p> <p>第7回 卒業制作最終案作成2</p> <p>第8回 卒業制作最終案作成3</p> <p>第9回 卒業制作最終案作成4</p> <p>第10回 進路活動報告会1</p> <p>第11回 進路活動報告会2</p> <p>第12回 卒業制作報告会1</p> <p>第13回 卒業制作報告会2</p> <p>第14回 総括</p>
<p><問題解決ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 前年度活動の報告・説明</p> <p>第2回 前年度活動の下級生への引継ぎ</p> <p>第3回 エントリーシート の書き方</p> <p>第4回 日本の進路と未来</p> <p>第5回 卒業制作指針と作業行程の提示</p> <p>第6回 学生の卒業制作指針の説明と指導1</p> <p>第7回 学生の卒業制作指針の説明と指導2</p> <p>第8回 学生の卒業制作指針の説明と指導3</p> <p>第9回 学生の卒業制作指針の説明と指導4</p> <p>第10回 学生の作業工程の説明と指導1</p> <p>第11回 学生の作業工程の説明と指導2</p> <p>第12回 学生の作業工程の説明と指導3</p> <p>第13回 学生の作業工程の説明と指導4</p> <p>第14回 夏期の進捗計画報告</p>	<p><問題解決ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 夏期活動の報告1</p> <p>第2回 夏期活動の報告2</p> <p>第3回 卒業制作経過報告と指導1</p> <p>第4回 卒業制作経過報告と指導2</p> <p>第5回 卒業制作経過報告と指導3</p> <p>第6回 卒業制作最終案作成1</p> <p>第7回 卒業制作最終案作成2</p> <p>第8回 卒業制作最終案作成3</p> <p>第9回 卒業制作最終案作成4</p> <p>第10回 進路活動報告会1</p> <p>第11回 進路活動報告会2</p> <p>第12回 卒業制作報告会1</p> <p>第13回 卒業制作報告会2</p> <p>第14回 総括</p>					
3. 履修上の注意 担当教員の秋学期開講「現代政治学Ⅱ」〔ミレニアム時代の政治課題 その国際・政治経済・社会学〕の履修を義務とします。なお、[] で記したのが講義の大主題ですが、いずれの講座も講義内容を大改訂しました。2023年のシラバスを確認してください。						
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 4年次の指導は進路指導が3割、卒業制作の指導が7割です。						
5. 教科書 その都度、指定する。						
6. 参考書 その都度、ゼミで提示。						
7. 成績評価の方法 卒業制作は2022年1月10日が締め切りで、未提出者はB以下の評価になります。内容の質は高い方が良いですが、未提出になるくらいならとにかく作成を間に合わせましょう。						
8. その他 組織での管理・コミュニケーションができること、SNS等で連絡がよくできること、外部団体・公機関との交渉・連絡を行うことがあるので社会人としての基礎力・常識（指導します）が求められます。						

問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱ	清原 聖子	各2単位	3年次	科目ナンバー (IC) IND312J
◆研究テーマ 現代アメリカ研究—多角的な視点から現代アメリカ政治と社会について考える—				
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 アメリカはこれまで多くの移民を惹きつけてきた。皆さんの中にも、映画や音楽、スポーツなど大衆文化を通じて、アメリカ社会や文化に親しみを感じている人も多いだろう。軍事大国、経済大国であるだけでなく、アメリカにはソフトパワーがあると言われるが、ソフトパワーとは何だろうか？文化的な魅力、共感を得られる政治的価値観がソフトパワーの源泉であり、それがアメリカの覇権の維持につながっている。そこで、3年次には、アメリカ政治、社会に対する基本的な知識を習得した上で、履修者の関心のある視点から幅広くアメリカ政治・社会の特徴や魅力について探究してもらいたい。 【到達目標】 3年次はグループワークを重視して、共同作業やディスカッションを行う過程で、理解力と思考力を養うことが目標である。				
2. 授業内容 <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p>＜問題分析ゼミナールⅠ＞</p> <p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 文献講読（アメリカ研究を行う上での基本的な文献を輪読する）(1)</p> <p>第3回 文献講読（アメリカ研究を行う上での基本的な文献を輪読する）(2)、映像を通じたディスカッション (1)</p> <p>第4回 文献講読（アメリカ研究を行う上での基本的な文献を輪読する）(3)、映像を通じたディスカッション (2)</p> <p>第5回 文献講読（アメリカ研究を行う上での基本的な文献を輪読する）(4)、映像を通じたディスカッション (3)</p> <p>第6回 文献講読（アメリカ研究を行う上での基本的な文献を輪読する）(5)、映像を通じたディスカッション (4)</p> <p>第7回 文献講読（アメリカ研究を行う上での基本的な文献を輪読する）(6)</p> <p>第8回 文献講読（アメリカ研究を行う上での基本的な文献を輪読する）(7)、ロールプレイングのグループ分け</p> <p>第9回 文献講読（アメリカ研究を行う上での基本的な文献を輪読する）(8)、ロールプレイングの準備</p> <p>第10回 ロールプレイング実施 (1)</p> <p>第11回 ロールプレイング総括 (1)</p> <p>第12回 ロールプレイング実施 (2)</p> <p>第13回 ロールプレイング総括 (2)</p> <p>第14回 まとめ</p> </div> <div style="width: 48%;"> <p>＜問題分析ゼミナールⅡ＞</p> <p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 文献講読（アメリカ研究を行う上での基本的な文献を輪読する）(1)</p> <p>第3回 文献講読（アメリカ研究を行う上での基本的な文献を輪読する）(2)、グループ分け</p> <p>第4回 文献講読（アメリカ研究を行う上での基本的な文献を輪読する）(3)、グループワーク (1)</p> <p>第5回 文献講読（アメリカ研究を行う上での基本的な文献を輪読する）(4)、グループワーク (2)</p> <p>第6回 文献講読（アメリカ研究を行う上での基本的な文献を輪読する）(5)、グループワーク (3)</p> <p>第7回 文献講読（アメリカ研究を行う上での基本的な文献を輪読する）(6)、グループワーク (4)</p> <p>第8回 文献講読（アメリカ研究を行う上での基本的な文献を輪読する）(7)、グループワーク (5)</p> <p>第9回 グループワーク発表準備</p> <p>第10回 グループワークの成果発表</p> <p>第11回 ゲストスピーカー</p> <p>第12回 グループごとのリサーチペーパーの作成 (1)</p> <p>第13回 グループごとのリサーチペーパーの作成 (2)</p> <p>第14回 まとめ</p> </div> </div>				
3. 履修上の注意 各自ノートPC又はタブレット端末を教室に持参すること。履修者の人数によるが、グループワークを重視しているため、グループワークに積極的に参加する姿勢が求められる。欠席する場合は必ず当日の朝までに担当教員に連絡すること。無断欠席が続く場合には、単位を付与しない。ゼミの担当教員がコーディネーターを務める「情報コミュニケーション学」(春学期)、およびゼミの担当教員による講義科目「現代アメリカ政治論」(秋学期)の履修を必修とする。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 文献講読では発表に当たっていない回も、必ず各回の指定文献を読み、内容を理解して授業に臨むこと。				
5. 教科書 清原聖子編者『教養としてのアメリカ研究』（大学教育出版、2021年）				
6. 参考書 矢口祐人編著『東大塾 現代アメリカ講義：トランプのアメリカを読む』（東京大学出版会、2020年）、渡辺靖『沈まぬアメリカー拡散するソフト・パワーとその真価』（新潮社、2015年）。その他授業時間内に紹介する。				
7. 成績評価の方法 (春学期) 書評レポート (40%)、(秋学期) リサーチペーパー (共著論文) (40%)、 (春学期・秋学期共通) ゼミへの出席、報告・発表、共同作業への参加など平常点 (60%)				
8. その他 「ガクの情コミ」バーチャル研究交流祭に参加してグループワークの成果を発表している。履修者の希望があれば、2023年度も参加する。また、Zoomを活用したゲストスピーカーや先輩との交流の機会も予定している。				

問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱ	清原 聖子	各2単位	4年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ 現代アメリカ研究—多角的な視点から現代アメリカ政治と社会について考える—						
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 現代アメリカ政治の特徴は「分極化」や政治の「分断」という言葉で説明されることが多い。3年次で多角的な視点からアメリカ政治・社会の特徴や魅力を学んだことを発展させ、4年次には、アメリカ政治の「分断」の諸相に焦点を当て、政治の分極化という切り口から、現代アメリカ政治・社会の諸課題について深く掘り下げて分析する。 【到達目標】 現代アメリカ政治を中心として、現代アメリカ研究に関する研究課題を各自が設定して、プレゼンテーションやリサーチペーパー（単著論文）の執筆を通して、2年間のゼミの研究成果を他者に論理的に説明できる力を身につけることを目標とする。						
2. 授業内容 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題解決ゼミナールⅠ> 第1回 イントロダクション 第2回 文献講読（アメリカ政治研究に必要な文献の輪読） (1) 第3回 文献講読（アメリカ政治研究に必要な文献の輪読） (2) 第4回 文献講読（アメリカ政治研究に必要な文献の輪読） (3) 第5回 文献講読（アメリカ政治研究に必要な文献の輪読） (4) 第6回 研究テーマの構想発表・研究方法について 第7回 文献講読（アメリカ政治研究に必要な文献の輪読） (5) 第8回 文献講読（アメリカ政治研究に必要な文献の輪読） (6) 第9回 文献講読（アメリカ政治研究に必要な文献の輪読） (7) 第10回 文献講読（アメリカ政治研究に必要な文献の輪読） (8) 第11回 文献講読（アメリカ政治研究に必要な文献の輪読） (9) 第12回 各自の研究計画の進捗発表（1） 第13回 各自の研究計画の進捗発表（2） 第14回 まとめ </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題解決ゼミナールⅡ> 第1回 イントロダクション 第2回 各自の研究の進捗発表（1） 第3回 各自の研究の進捗発表（2） 第4回 文献講読（各自の研究テーマについて、必要な文献を紹介する）（1） 第5回 文献講読（各自の研究テーマについて、必要な文献を紹介する）（2） 第6回 各自の研究の進捗発表（3） 第7回 各自の研究の進捗発表（4） 第8回 文献講読（各自の研究テーマについて、必要な文献を紹介する）（5） 第9回 各自の研究の進捗発表（4） 第10回 各自の研究の進捗発表（5） 第11回 ゲストスピーカー 第12回 各自の研究の最終発表（1） 第13回 各自の研究の最終発表（2） 第14回 まとめ </td> </tr> </table>					<問題解決ゼミナールⅠ> 第1回 イントロダクション 第2回 文献講読（アメリカ政治研究に必要な文献の輪読） (1) 第3回 文献講読（アメリカ政治研究に必要な文献の輪読） (2) 第4回 文献講読（アメリカ政治研究に必要な文献の輪読） (3) 第5回 文献講読（アメリカ政治研究に必要な文献の輪読） (4) 第6回 研究テーマの構想発表・研究方法について 第7回 文献講読（アメリカ政治研究に必要な文献の輪読） (5) 第8回 文献講読（アメリカ政治研究に必要な文献の輪読） (6) 第9回 文献講読（アメリカ政治研究に必要な文献の輪読） (7) 第10回 文献講読（アメリカ政治研究に必要な文献の輪読） (8) 第11回 文献講読（アメリカ政治研究に必要な文献の輪読） (9) 第12回 各自の研究計画の進捗発表（1） 第13回 各自の研究計画の進捗発表（2） 第14回 まとめ	<問題解決ゼミナールⅡ> 第1回 イントロダクション 第2回 各自の研究の進捗発表（1） 第3回 各自の研究の進捗発表（2） 第4回 文献講読（各自の研究テーマについて、必要な文献を紹介する）（1） 第5回 文献講読（各自の研究テーマについて、必要な文献を紹介する）（2） 第6回 各自の研究の進捗発表（3） 第7回 各自の研究の進捗発表（4） 第8回 文献講読（各自の研究テーマについて、必要な文献を紹介する）（5） 第9回 各自の研究の進捗発表（4） 第10回 各自の研究の進捗発表（5） 第11回 ゲストスピーカー 第12回 各自の研究の最終発表（1） 第13回 各自の研究の最終発表（2） 第14回 まとめ
<問題解決ゼミナールⅠ> 第1回 イントロダクション 第2回 文献講読（アメリカ政治研究に必要な文献の輪読） (1) 第3回 文献講読（アメリカ政治研究に必要な文献の輪読） (2) 第4回 文献講読（アメリカ政治研究に必要な文献の輪読） (3) 第5回 文献講読（アメリカ政治研究に必要な文献の輪読） (4) 第6回 研究テーマの構想発表・研究方法について 第7回 文献講読（アメリカ政治研究に必要な文献の輪読） (5) 第8回 文献講読（アメリカ政治研究に必要な文献の輪読） (6) 第9回 文献講読（アメリカ政治研究に必要な文献の輪読） (7) 第10回 文献講読（アメリカ政治研究に必要な文献の輪読） (8) 第11回 文献講読（アメリカ政治研究に必要な文献の輪読） (9) 第12回 各自の研究計画の進捗発表（1） 第13回 各自の研究計画の進捗発表（2） 第14回 まとめ	<問題解決ゼミナールⅡ> 第1回 イントロダクション 第2回 各自の研究の進捗発表（1） 第3回 各自の研究の進捗発表（2） 第4回 文献講読（各自の研究テーマについて、必要な文献を紹介する）（1） 第5回 文献講読（各自の研究テーマについて、必要な文献を紹介する）（2） 第6回 各自の研究の進捗発表（3） 第7回 各自の研究の進捗発表（4） 第8回 文献講読（各自の研究テーマについて、必要な文献を紹介する）（5） 第9回 各自の研究の進捗発表（4） 第10回 各自の研究の進捗発表（5） 第11回 ゲストスピーカー 第12回 各自の研究の最終発表（1） 第13回 各自の研究の最終発表（2） 第14回 まとめ					
3. 履修上の注意 各自ノートPC又はタブレット端末を教室に持参すること。欠席する場合は必ず当日の朝までに担当教員に連絡すること。無断欠席が続く場合には単位を付与しない。リサーチペーパー（単著論文）のテーマは、3年次、4年次のゼミでの研究を踏まえて、現代アメリカ研究の範囲であれば良い。なお、卒業論文単位付与のための論文は、リサーチペーパーの基準とは異なる。						
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 最終的な論文の完成に向けて、各自で進める文献・資料収集や資料整理、執筆といった作業が不可欠である。発表に当たっている日には、発表用資料を準備し、それを発表日の前日までに担当教員にメールで提出すること。						
5. 教科書 久保文明・中山俊宏・山岸敬和・梅川健編者『アメリカ政治の地殻変動』（東京大学出版会、2021年）						
6. 参考書 清原聖子編者『教養としてのアメリカ研究』（大学教育出版、2021年）、久保文明・21世紀政策研究所編著『50州が動かすアメリカ政治』（勁草書房、2021年）など授業時間内に紹介する。						
7. 成績評価の方法 （春学期）書評レポート（40%）・研究計画書（20%）、／（秋学期）リサーチペーパー（単著論文）（60%） （春学期・秋学期共通）ゼミへの出席、報告・発表への参加など平常点（40%）						
8. その他 本ゼミナールでは事前に示した基準に則って卒業論文を執筆し提出した場合には、卒業論文としての単位を付与するので、希望者は別途、当ゼミナールの卒業論文単位付与基準を必ず読むこと。						

問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱ	熊田 聖	各2単位	3年次	科目ナンバー (IC) IND312J
◆研究テーマ 意見の対立している分野を取り上げ、調査し、自分の考えを明確にし、それを他人に説明できるようになりましょう。				
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 エンターテイメントを意識した小学生レベルの理科の実験や絵本などを題材として表現の仕方を自分で考え発表します。発表では聞き手が理解してくれる、あるいは賛成してくれるように心がけてください。その週の担当者が自分の考えてきた発表をします。その後、各自で関心のある問題を選択し、ディベートを行います。すなわち1回1回のゼミは皆さんが作りあげていく、比較的自由度の高いゼミです。また、与えられたテーマに関してレポートも提出してください。その後の授業でレポートのテーマに関する映像をお見せする場合があります。 【到達目標】 自分の意見を、自分流に主張することとは別に、相手が理解できる形で提示する工夫をすることができるようになること。				
2. 授業内容 <問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 SHOWスケジュール決定、名札作成 第2回 SHOW(学生が各自で決定するため、毎回異なる)、思索トレーニングテーマ発表(学生が各自で決定するため、毎回異なる)、ディベートテーマ決定 第3回 SHOW、思索トレーニングレポート提出、思索トレーニングテーマ発表、ディベート準備(1) 第4回 SHOW、思索トレーニングレポート提出、思索トレーニングテーマ発表、ディベート準備(2) 第5回 ディベート(3) 第6回 質疑応答形式SHOW発表、ディベートのテーマに関するレポート提出、思索トレーニングテーマ発表 第7回 質疑応答形式SHOW発表、思索トレーニングレポート提出、思索トレーニングテーマ発表(1) 第8回 質疑応答形式SHOW発表、思索トレーニングレポート提出、思索トレーニングテーマ発表(2) 第9回 SHOW、思索トレーニングレポート提出、思索トレーニングテーマ発表(1) 第10回 SHOW、思索トレーニングレポート提出、思索トレーニングテーマ発表(2) 第11回 SHOW、思索トレーニングレポート提出、思索トレーニングテーマ発表(3) 第12回 商品開発ゲーム(1) 第13回 商品開発ゲーム(2) 第14回 自由発表 <問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 発表スケジュール決定、名札作成 第2回 SHOW・思索トレーニングテーマ発表・ディベートテーマ決定 第3回 SHOW、思索トレーニングレポート提出、思索トレーニングテーマ発表、ディベート準備(1) 第4回 SHOW、思索トレーニングレポート提出、思索トレーニングテーマ発表、ディベート準備(2) 第5回 ディベート(3) 第6回 質疑応答形式SHOW発表、ディベートのテーマに関するレポート提出、思索トレーニングテーマ発表 第7回 質疑応答形式SHOW発表、思索トレーニングレポート提出、思索トレーニングテーマ発表(1) 第8回 質疑応答形式SHOW発表、思索トレーニングレポート提出、思索トレーニングテーマ発表(2) 第9回 SHOW、思索トレーニングレポート提出、思索トレーニングテーマ発表(1) 第10回 SHOW、思索トレーニングレポート提出、思索トレーニングテーマ発表(2) 第11回 SHOW、思索トレーニングレポート提出、思索トレーニングテーマ発表(3) 第12回 社会起業家を演じる(1) 第13回 社会起業家を演じる(2) 第14回 社会起業家を演じる(3)				
3. 履修上の注意 このゼミは、現代社会の問題に対して関心を持ち、調査、分析に関心があり、またグループでの活動、他者との人間関係を築ける学生に適しています。また、調査は各自で行ってもらうので自由度は高いですが、詳細に分析し、工夫して発表する必要がありますので、熱意のある学生が望ましい。 使用する教科書の実践編がゼミであり、理論編が意思決定論(前期と後期)となります。そのため、4年生では意思決定論を前期・後期共に履修してください。				
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 あえて理想的なShowを紹介することはせず、Showの準備については具体的な指示を出しません。聞き手にはどのような工夫が必要とされるのかを、自分で判断して準備して欲しいと考えるためです。Showの当日は、自分が有意義だと感じた準備だが、聞き手はあまりそれを必要と感じなかったものは何か、あるいは反対に、自分は必要と感じなかったが、聞き手はそれを重要だと感じていたものは何かという二点に注目しましょう。このような一連のプロセス、具体的には、初めてのShowを準備する際の試行錯誤、失敗から自分は何を学ぶのかを復習の際に選択し、次回のShowの準備のために新たな試行錯誤を経験する、という流れの全てを学びの機会と捉えてください。				
5. 教科書 『意思決定論理 思考するということ—会計ルールの逆転と共感』熊田聖(泉文堂)				
6. 参考書 授業内で紹介します。				
7. 成績評価の方法 調査、分析内容の緻密さ 30% 発表の工夫 30% レポートの論理展開 40%				
8. その他 特になし。				

問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱ	熊田 聖	各2単位	4年次	科目ナンバー (IC) IND312J						
<p>◆研究テーマ</p> <p>自分が今までに得た知識・これから得る知識、その貴重な知識を人が理解してもらえるように表現できるようになる。</p> <p>このゼミは「表現力」を伸ばすゼミです。</p>										
<p>1. 授業の概要・到達目標</p> <p>【授業の概要】</p> <p>発表では聞き手が理解してくれる、あるいは賛成してくれるように心がけてください。また、与えられたテーマに関してレポートも提出してください。その後の授業でレポートのテーマに関する映像をお見せする場合があります。</p> <p>発表、レポートともに、「他人が理解できるためには、どのような工夫が必要か」という視点を常に念頭に置いてください。論文作成はゴールではありません。他者の視点を考慮し、作成した論文は、カラーの小冊子の形に書き直します。</p> <p>【到達目標】</p> <p>自分の意見を、自分流に主張することとは別に、相手が理解できる形で提示する工夫をすることができるようになること。</p>										
<p>2. 授業内容</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> <p><問題解決ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 仕掛け学ディスカッション(1)</p> <p>第2回 映像作成(1) 1回目テーマ決定・思索テーマに基づくディスカッション(1)</p> <p>第3回 仕掛け学ディスカッション(2)</p> <p>第4回 映像作成(2) 1回目発表・検討</p> <p>第5回 仕掛け学ディスカッション(3)</p> <p>第6回 映像作成(3) 2回目テーマ決定・思索テーマに基づくディスカッション(2)</p> <p>第7回 映像作成(4) 2回目発表・検討</p> <p>第8回 仕掛け学ディスカッション(4)</p> <p>第9回 映像作成(5) 2回目改良版発表・検討・思索テーマに基づくディスカッション(3)</p> <p>第10回 映像作成(6) 2回目改良版発表・検討・思索テーマに基づくディスカッション(4)</p> <p>第11回 「想像カシアター」授業形式による発表・検討(1)</p> <p>第12回 「想像カシアター」授業形式による発表・検討(2)</p> <p>第13回 「想像カシアター」授業形式による発表・検討(3)</p> <p>第14回 自由発表</p> </td> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> <p><問題解決ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 論文のアウトライン作成(1)・思索テーマに基づくディスカッション(1)</p> <p>第2回 論文のアウトライン作成(2)・思索テーマに基づくディスカッション(2)</p> <p>第3回 論文のアウトライン作成(3)・思索テーマに基づくディスカッション(3)</p> <p>第4回 論文作成・発表(1)</p> <p>第5回 論文作成・発表(2)</p> <p>第6回 論文作成・発表(3)</p> <p>第7回 論文に基づく図解作成(1)・社会起業家を演じる(1)</p> <p>第8回 論文に基づく図解作成(2)・社会起業家を演じる(2)</p> <p>第9回 論文に基づく図解作成(3)・社会起業家を演じる(3)</p> <p>第10回 論文に基づく図解作成(4)・社会起業家を演じる(4)</p> <p>第11回 論文に基づく図解作成・発表(1)</p> <p>第12回 論文に基づく図解作成・発表(2)</p> <p>第13回 論文に基づく図解作成・発表(3)</p> <p>第14回 自由発表</p> </td> </tr> </table>					<p><問題解決ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 仕掛け学ディスカッション(1)</p> <p>第2回 映像作成(1) 1回目テーマ決定・思索テーマに基づくディスカッション(1)</p> <p>第3回 仕掛け学ディスカッション(2)</p> <p>第4回 映像作成(2) 1回目発表・検討</p> <p>第5回 仕掛け学ディスカッション(3)</p> <p>第6回 映像作成(3) 2回目テーマ決定・思索テーマに基づくディスカッション(2)</p> <p>第7回 映像作成(4) 2回目発表・検討</p> <p>第8回 仕掛け学ディスカッション(4)</p> <p>第9回 映像作成(5) 2回目改良版発表・検討・思索テーマに基づくディスカッション(3)</p> <p>第10回 映像作成(6) 2回目改良版発表・検討・思索テーマに基づくディスカッション(4)</p> <p>第11回 「想像カシアター」授業形式による発表・検討(1)</p> <p>第12回 「想像カシアター」授業形式による発表・検討(2)</p> <p>第13回 「想像カシアター」授業形式による発表・検討(3)</p> <p>第14回 自由発表</p>	<p><問題解決ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 論文のアウトライン作成(1)・思索テーマに基づくディスカッション(1)</p> <p>第2回 論文のアウトライン作成(2)・思索テーマに基づくディスカッション(2)</p> <p>第3回 論文のアウトライン作成(3)・思索テーマに基づくディスカッション(3)</p> <p>第4回 論文作成・発表(1)</p> <p>第5回 論文作成・発表(2)</p> <p>第6回 論文作成・発表(3)</p> <p>第7回 論文に基づく図解作成(1)・社会起業家を演じる(1)</p> <p>第8回 論文に基づく図解作成(2)・社会起業家を演じる(2)</p> <p>第9回 論文に基づく図解作成(3)・社会起業家を演じる(3)</p> <p>第10回 論文に基づく図解作成(4)・社会起業家を演じる(4)</p> <p>第11回 論文に基づく図解作成・発表(1)</p> <p>第12回 論文に基づく図解作成・発表(2)</p> <p>第13回 論文に基づく図解作成・発表(3)</p> <p>第14回 自由発表</p>				
<p><問題解決ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 仕掛け学ディスカッション(1)</p> <p>第2回 映像作成(1) 1回目テーマ決定・思索テーマに基づくディスカッション(1)</p> <p>第3回 仕掛け学ディスカッション(2)</p> <p>第4回 映像作成(2) 1回目発表・検討</p> <p>第5回 仕掛け学ディスカッション(3)</p> <p>第6回 映像作成(3) 2回目テーマ決定・思索テーマに基づくディスカッション(2)</p> <p>第7回 映像作成(4) 2回目発表・検討</p> <p>第8回 仕掛け学ディスカッション(4)</p> <p>第9回 映像作成(5) 2回目改良版発表・検討・思索テーマに基づくディスカッション(3)</p> <p>第10回 映像作成(6) 2回目改良版発表・検討・思索テーマに基づくディスカッション(4)</p> <p>第11回 「想像カシアター」授業形式による発表・検討(1)</p> <p>第12回 「想像カシアター」授業形式による発表・検討(2)</p> <p>第13回 「想像カシアター」授業形式による発表・検討(3)</p> <p>第14回 自由発表</p>	<p><問題解決ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 論文のアウトライン作成(1)・思索テーマに基づくディスカッション(1)</p> <p>第2回 論文のアウトライン作成(2)・思索テーマに基づくディスカッション(2)</p> <p>第3回 論文のアウトライン作成(3)・思索テーマに基づくディスカッション(3)</p> <p>第4回 論文作成・発表(1)</p> <p>第5回 論文作成・発表(2)</p> <p>第6回 論文作成・発表(3)</p> <p>第7回 論文に基づく図解作成(1)・社会起業家を演じる(1)</p> <p>第8回 論文に基づく図解作成(2)・社会起業家を演じる(2)</p> <p>第9回 論文に基づく図解作成(3)・社会起業家を演じる(3)</p> <p>第10回 論文に基づく図解作成(4)・社会起業家を演じる(4)</p> <p>第11回 論文に基づく図解作成・発表(1)</p> <p>第12回 論文に基づく図解作成・発表(2)</p> <p>第13回 論文に基づく図解作成・発表(3)</p> <p>第14回 自由発表</p>									
<p>3. 履修上の注意</p> <p>このゼミは、現代社会の問題に対して関心を持ち、調査、分析に関心があり、またグループでの活動、他者との人間関係を築ける学生に適しています。また、調査は各自で行ってもらうので自由度は高いですが、詳細に分析し、工夫して発表する必要があるため、熱意のある学生が望ましい。</p> <p>使用する教科書の実践編がゼミであり、理論編が意思決定論（前期と後期）となります。そのため、4年生では意思決定論を前期・後期共に履修してください。</p>										
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容</p> <p>あえて理想的な Show を紹介することはせず、Show の準備については具体的な指示を出しません。聞き手にはどのような工夫が必要とされるのかを、自分で判断して準備して欲しいと考えるためです。Show の当日は、自分が有意義だと感じた準備だが、聞き手はあまりそれを必要と感じなかったものは何か、あるいは反対に、自分は必要と感じなかったが、聞き手はそれを重要だと感じていたものは何かという二点に注目しましょう。このような一連のプロセス、具体的には、初めての Show を準備する際の試行錯誤、失敗から自分は何を学ぶのかを復習の際に選択し、次の Show の準備のために新たな試行錯誤を経験する、という流れの全てを学びの機会と捉えてください。</p>										
<p>5. 教科書</p> <p>『意思決定論理 思考するということ一会計ルールの逆転と共感』熊田聖（泉文堂）</p>										
<p>6. 参考書</p> <p>授業内で紹介します。</p>										
<p>7. 成績評価の方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>調査、分析内容の緻密さ</td> <td style="text-align: right;">30%</td> </tr> <tr> <td>発表の工夫</td> <td style="text-align: right;">30%</td> </tr> <tr> <td>レポートの論理展開</td> <td style="text-align: right;">40%</td> </tr> </table>					調査、分析内容の緻密さ	30%	発表の工夫	30%	レポートの論理展開	40%
調査、分析内容の緻密さ	30%									
発表の工夫	30%									
レポートの論理展開	40%									
<p>8. その他</p> <p>特になし。</p>										

問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱ	高馬 京子	各2単位	3年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
<p>◆研究テーマ 越境するファッション・スタディーズ：メディアにおいて構築/伝達されるファッションとジェンダー表象をめぐる諸問題を考える</p>						
<p>1. 授業の概要・到達目標 本ゼミナールでは、トランスボーダーに形成、伝達、再編され続ける表象文化としての現代ファッションとそれらを装置としてメディアで形成される規範としてのジェンダー表象について考察する。「流行現象」「マス/デジタルメディア」「オウンド・メディア、アード・メディア、ペイド・メディア」「言説」「表象」「超域（トランスボーダー）」「アイデンティティ」「規範としてのジェンダー像」を主要キーワードに、ファッション、ジェンダーに関する事例調査、事例研究、関連方法論に関する先行研究の批判的講読を通して、 ① [メディアの変遷とファッションの形成・伝達方法の変化] ② [現代の複雑なメディア環境におけるファッション形成と伝達の仕組み] ③ [ファッションとアイデンティティの関係] ④ [海外ファッションの異文化表象] に関する具体的な研究計画（現状、問、仮説、分析）をたて、研究を実践する。3年次はJJ掲載を目指す学生グループ調査・研究を中心に、卒論を目指す学生は単独で、現代ファッション、ジェンダーとメディアの関係を多角的に分析し口頭発表、論文をまとめることを目標とする。</p>						
<p>2. 授業内容</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜問題分析ゼミナールⅠ＞</p> <p>第1回 インTRODakション、グループ分け、年間計画の紹介</p> <p>第2回 関連先行研究の発表 (1)</p> <p>第3回 関連先行研究の発表 (2)</p> <p>第4回 関連先行研究の発表 (3)</p> <p>第5回 関連先行研究の発表 (4)</p> <p>第6回 関連先行研究の発表、研究計画案の立案 (1)</p> <p>第7回 関連先行研究の発表、研究計画案の立案 (2)</p> <p>第8回 関連先行研究の発表、研究計画案の立案 (3)</p> <p>第9回 関連先行研究の発表、研究計画案の立案 (4)</p> <p>第10回 春学期（研究計画案中間報告）発表準備 (1)</p> <p>第11回 春学期（研究計画案中間報告）発表準備 (2)</p> <p>第12回 春学期（研究計画案中間報告）発表準備 (3)</p> <p>第13回 春学期（研究計画案中間報告）発表</p> <p>第14回 フィールドワーク</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜問題分析ゼミナールⅡ＞</p> <p>第1回 （夏休みの準備の後）研究計画発表、調整</p> <p>第2回 研究計画に基づく調査、分析 (1)</p> <p>第3回 研究計画に基づく調査、分析 (2)</p> <p>第4回 研究計画に基づく調査、分析 (3)</p> <p>第5回 研究計画に基づく調査、分析 (4)</p> <p>第6回 研究計画に基づく調査、分析 (5)</p> <p>第7回 中間発表</p> <p>第8回 研究計画に基づく調査、分析 (6)</p> <p>第9回 研究計画に基づく調査、分析 (7)</p> <p>第10回 研究計画に基づく調査、分析 (8)</p> <p>第11回 口頭発表準備、論文執筆 (1)</p> <p>第12回 口頭発表準備、論文執筆 (2)</p> <p>第13回 口頭発表準備、論文執筆 (3)</p> <p>第14回 口頭発表、論文提出</p> </td> </tr> </table>					<p>＜問題分析ゼミナールⅠ＞</p> <p>第1回 インTRODakション、グループ分け、年間計画の紹介</p> <p>第2回 関連先行研究の発表 (1)</p> <p>第3回 関連先行研究の発表 (2)</p> <p>第4回 関連先行研究の発表 (3)</p> <p>第5回 関連先行研究の発表 (4)</p> <p>第6回 関連先行研究の発表、研究計画案の立案 (1)</p> <p>第7回 関連先行研究の発表、研究計画案の立案 (2)</p> <p>第8回 関連先行研究の発表、研究計画案の立案 (3)</p> <p>第9回 関連先行研究の発表、研究計画案の立案 (4)</p> <p>第10回 春学期（研究計画案中間報告）発表準備 (1)</p> <p>第11回 春学期（研究計画案中間報告）発表準備 (2)</p> <p>第12回 春学期（研究計画案中間報告）発表準備 (3)</p> <p>第13回 春学期（研究計画案中間報告）発表</p> <p>第14回 フィールドワーク</p>	<p>＜問題分析ゼミナールⅡ＞</p> <p>第1回 （夏休みの準備の後）研究計画発表、調整</p> <p>第2回 研究計画に基づく調査、分析 (1)</p> <p>第3回 研究計画に基づく調査、分析 (2)</p> <p>第4回 研究計画に基づく調査、分析 (3)</p> <p>第5回 研究計画に基づく調査、分析 (4)</p> <p>第6回 研究計画に基づく調査、分析 (5)</p> <p>第7回 中間発表</p> <p>第8回 研究計画に基づく調査、分析 (6)</p> <p>第9回 研究計画に基づく調査、分析 (7)</p> <p>第10回 研究計画に基づく調査、分析 (8)</p> <p>第11回 口頭発表準備、論文執筆 (1)</p> <p>第12回 口頭発表準備、論文執筆 (2)</p> <p>第13回 口頭発表準備、論文執筆 (3)</p> <p>第14回 口頭発表、論文提出</p>
<p>＜問題分析ゼミナールⅠ＞</p> <p>第1回 インTRODakション、グループ分け、年間計画の紹介</p> <p>第2回 関連先行研究の発表 (1)</p> <p>第3回 関連先行研究の発表 (2)</p> <p>第4回 関連先行研究の発表 (3)</p> <p>第5回 関連先行研究の発表 (4)</p> <p>第6回 関連先行研究の発表、研究計画案の立案 (1)</p> <p>第7回 関連先行研究の発表、研究計画案の立案 (2)</p> <p>第8回 関連先行研究の発表、研究計画案の立案 (3)</p> <p>第9回 関連先行研究の発表、研究計画案の立案 (4)</p> <p>第10回 春学期（研究計画案中間報告）発表準備 (1)</p> <p>第11回 春学期（研究計画案中間報告）発表準備 (2)</p> <p>第12回 春学期（研究計画案中間報告）発表準備 (3)</p> <p>第13回 春学期（研究計画案中間報告）発表</p> <p>第14回 フィールドワーク</p>	<p>＜問題分析ゼミナールⅡ＞</p> <p>第1回 （夏休みの準備の後）研究計画発表、調整</p> <p>第2回 研究計画に基づく調査、分析 (1)</p> <p>第3回 研究計画に基づく調査、分析 (2)</p> <p>第4回 研究計画に基づく調査、分析 (3)</p> <p>第5回 研究計画に基づく調査、分析 (4)</p> <p>第6回 研究計画に基づく調査、分析 (5)</p> <p>第7回 中間発表</p> <p>第8回 研究計画に基づく調査、分析 (6)</p> <p>第9回 研究計画に基づく調査、分析 (7)</p> <p>第10回 研究計画に基づく調査、分析 (8)</p> <p>第11回 口頭発表準備、論文執筆 (1)</p> <p>第12回 口頭発表準備、論文執筆 (2)</p> <p>第13回 口頭発表準備、論文執筆 (3)</p> <p>第14回 口頭発表、論文提出</p>					
<p>3. 履修上の注意 本ゼミでは、メディアにおける現代ファッション及びジェンダーに関して研究し、発表、論文を執筆することを単位取得の前提とする。</p>						
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容 研究課題に関する資料の調査、調査、また先行研究の批判的分析などゼミ時間以外にも研究を進めること。</p>						
<p>5. 教科書 授業中に指定する。</p>						
<p>6. 参考書 『越境するファッションスタディーズ』高木陽子・高馬京子編ナカニシヤ出版 2021、叢書セミオトポス第14巻『転生するモード：デジタルメディア時代のファッション』新曜社（日本記号学会編） 2019年『越境する文化・コンテンツ・想像力』松本健太郎・高馬京子共編、ナカニシヤ出版 2018</p>						
<p>7. 成績評価の方法 平常点（ゼミへの参加）50%、口頭発表 25%、レポート提出 25%</p>						
<p>8. その他 特に英語、できればその他の外国語の文献、メディア記事が読めることが望ましい。状況によってフィールドワークを兼ねた合宿に行く予定。</p>						

問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱ	高馬 京子	各2単位	4年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
<p>◆研究テーマ 越境するファッション・スタディーズ：メディアにおいて構築/伝達されるファッション・ジェンダー表象をめぐる諸問題を考える</p>						
<p>1. 授業の概要・到達目標 本ゼミナールでは、トランスボーダーに形成、伝達、再編され続ける表象文化としての現代ファッションとそれらを装置としてメディアで形成される規範としてのジェンダー表象について考察する。「流行現象」「マス/デジタルメディア」「オウンド・メディア、アード・メディア、ペイド・メディア」「言説」「表象」「超域（トランスボーダー）」「デジタル/アイデンティティ」「規範としてのジェンダー像」を主要キーワードに、ファッション、ジェンダーに関する事例調査、事例研究、関連方法論に関する先行研究の批判的講読を通して、 ① [メディアの変遷とファッションの形成・伝達方法の変化] ② [現代の複雑なメディア環境におけるファッション形成と伝達の仕組み] ③ [ファッションとアイデンティティの関係] ④ [海外ファッションの異文化表象] に関する具体的な研究計画（現状、問、仮説、分析）をたて、研究を実践する。3年次はJJ掲載を目指す学生グループ調査・研究を中心に、現代ファッション、ジェンダーとメディアの関係を多角的に分析し口頭発表、論文をまとめ学生論文集『情コミジャーナル』に投稿し、単独で卒論を準備してきた学生は卒論を完成させることを目標とする。</p>						
<p>2. 授業内容</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜問題解決ゼミナールⅠ＞</p> <p>第1回 イントロダクション、グループ分け、年間計画の紹介</p> <p>第2回 関連先行研究の発表 (1)</p> <p>第3回 関連先行研究の発表 (2)</p> <p>第4回 関連先行研究の発表 (3)</p> <p>第5回 関連先行研究の発表 (4)</p> <p>第6回 関連先行研究の発表、研究計画案の立案 (1)</p> <p>第7回 関連先行研究の発表、研究計画案の立案 (2)</p> <p>第8回 関連先行研究の発表、研究計画案の立案 (3)</p> <p>第9回 関連先行研究の発表、研究計画案の立案 (4)</p> <p>第10回 春学期（研究計画案中間報告）発表準備 (1)</p> <p>第11回 春学期（研究計画案中間報告）発表準備 (2)</p> <p>第12回 春学期（研究計画案中間報告）発表準備 (3)</p> <p>第13回 春学期（研究計画案中間報告）発表</p> <p>第14回 フィールドワーク</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜問題解決ゼミナールⅡ＞</p> <p>第1回 （夏休みの準備の後）研究計画発表、調整</p> <p>第2回 研究計画に基づく調査、分析 (1)</p> <p>第3回 研究計画に基づく調査、分析 (2)</p> <p>第4回 研究計画に基づく調査、分析 (3)</p> <p>第5回 研究計画に基づく調査、分析 (4)</p> <p>第6回 研究計画に基づく調査、分析 (5)</p> <p>第7回 中間発表</p> <p>第8回 研究計画に基づく調査、分析 (6)</p> <p>第9回 研究計画に基づく調査、分析 (7)</p> <p>第10回 研究計画に基づく調査、分析 (8)</p> <p>第11回 口頭発表準備、論文執筆 (1)</p> <p>第12回 口頭発表準備、論文執筆 (2)</p> <p>第13回 口頭発表準備、論文執筆 (3)</p> <p>第14回 口頭発表、論文提出</p> </td> </tr> </table>					<p>＜問題解決ゼミナールⅠ＞</p> <p>第1回 イントロダクション、グループ分け、年間計画の紹介</p> <p>第2回 関連先行研究の発表 (1)</p> <p>第3回 関連先行研究の発表 (2)</p> <p>第4回 関連先行研究の発表 (3)</p> <p>第5回 関連先行研究の発表 (4)</p> <p>第6回 関連先行研究の発表、研究計画案の立案 (1)</p> <p>第7回 関連先行研究の発表、研究計画案の立案 (2)</p> <p>第8回 関連先行研究の発表、研究計画案の立案 (3)</p> <p>第9回 関連先行研究の発表、研究計画案の立案 (4)</p> <p>第10回 春学期（研究計画案中間報告）発表準備 (1)</p> <p>第11回 春学期（研究計画案中間報告）発表準備 (2)</p> <p>第12回 春学期（研究計画案中間報告）発表準備 (3)</p> <p>第13回 春学期（研究計画案中間報告）発表</p> <p>第14回 フィールドワーク</p>	<p>＜問題解決ゼミナールⅡ＞</p> <p>第1回 （夏休みの準備の後）研究計画発表、調整</p> <p>第2回 研究計画に基づく調査、分析 (1)</p> <p>第3回 研究計画に基づく調査、分析 (2)</p> <p>第4回 研究計画に基づく調査、分析 (3)</p> <p>第5回 研究計画に基づく調査、分析 (4)</p> <p>第6回 研究計画に基づく調査、分析 (5)</p> <p>第7回 中間発表</p> <p>第8回 研究計画に基づく調査、分析 (6)</p> <p>第9回 研究計画に基づく調査、分析 (7)</p> <p>第10回 研究計画に基づく調査、分析 (8)</p> <p>第11回 口頭発表準備、論文執筆 (1)</p> <p>第12回 口頭発表準備、論文執筆 (2)</p> <p>第13回 口頭発表準備、論文執筆 (3)</p> <p>第14回 口頭発表、論文提出</p>
<p>＜問題解決ゼミナールⅠ＞</p> <p>第1回 イントロダクション、グループ分け、年間計画の紹介</p> <p>第2回 関連先行研究の発表 (1)</p> <p>第3回 関連先行研究の発表 (2)</p> <p>第4回 関連先行研究の発表 (3)</p> <p>第5回 関連先行研究の発表 (4)</p> <p>第6回 関連先行研究の発表、研究計画案の立案 (1)</p> <p>第7回 関連先行研究の発表、研究計画案の立案 (2)</p> <p>第8回 関連先行研究の発表、研究計画案の立案 (3)</p> <p>第9回 関連先行研究の発表、研究計画案の立案 (4)</p> <p>第10回 春学期（研究計画案中間報告）発表準備 (1)</p> <p>第11回 春学期（研究計画案中間報告）発表準備 (2)</p> <p>第12回 春学期（研究計画案中間報告）発表準備 (3)</p> <p>第13回 春学期（研究計画案中間報告）発表</p> <p>第14回 フィールドワーク</p>	<p>＜問題解決ゼミナールⅡ＞</p> <p>第1回 （夏休みの準備の後）研究計画発表、調整</p> <p>第2回 研究計画に基づく調査、分析 (1)</p> <p>第3回 研究計画に基づく調査、分析 (2)</p> <p>第4回 研究計画に基づく調査、分析 (3)</p> <p>第5回 研究計画に基づく調査、分析 (4)</p> <p>第6回 研究計画に基づく調査、分析 (5)</p> <p>第7回 中間発表</p> <p>第8回 研究計画に基づく調査、分析 (6)</p> <p>第9回 研究計画に基づく調査、分析 (7)</p> <p>第10回 研究計画に基づく調査、分析 (8)</p> <p>第11回 口頭発表準備、論文執筆 (1)</p> <p>第12回 口頭発表準備、論文執筆 (2)</p> <p>第13回 口頭発表準備、論文執筆 (3)</p> <p>第14回 口頭発表、論文提出</p>					
<p>3. 履修上の注意 メディアにおける現代ファッション及びジェンダー表象に関して研究し、発表、論文を執筆、完成させることを単位取得の前提とする。</p>						
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容 研究課題に関する資料の調査、調査、また先行研究の批判的分析などゼミ時間以外にも研究を進めること。</p>						
<p>5. 教科書 授業中に指定する。</p>						
<p>6. 参考書 『越境するファッションスタディーズ』高木陽子・高馬京子編ナカニシヤ出版 (2021) 『ファッションと哲学』アニエス・ロカモラ&アネケ・スメリク編（蘆田裕史監訳）フィルム・アート社 (2018) 『Rethinking Fashion Globalization』ed. S. CHEANG, E. DEGREEF and TKAGI Y., Bloomsbury:2021 『Fashion and Cultural Studies』S. Kaiser and D. Green, Bloomsbury:2022</p>						
<p>7. 成績評価の方法 平常点（ゼミへの参加）50%、口頭発表 25%、レポート提出 25%</p>						
<p>8. その他 特に英語、できればその他の外国語の文献、メディア記事が読めることが望ましい。状況によってフィールドワークを兼ねた合宿に行く予定。</p>						

問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱ	後藤 晶	各2単位	3年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ						
行動経済学・実験経済学：人間の行動と社会制度を考える						
1. 授業の概要・到達目標						
【授業の概要】						
人間は必ずしも経済的に合理的な行動を行うとは限らない。従来の経済学は極端な経済的合理性に基づいた行動を仮定してきた。しかし、そのような合理性への反証として観察・実験による研究が積み重なりつつある。行動経済学はこれらの実証研究から現実の人間行動を元に新たな理論構築を試みる学問であり、社会問題へのアプローチを試みるものである。その中でも、「実験」が有力な手法の1つであることは間違いない。						
本研究室では、行動経済学や実験経済学の観点から、科学技術・情報社会の将来を見据えながら人間行動・社会問題を分析し、新たな時代の社会のあり方について検討する。さらに、これらの知見を踏まえた政策提言までを視野に入れた研究を目指す。ただし、必ずしもこのような研究である必要はなく、個人の興味・関心に応じた研究テーマを設定して構わない。定性的・理論研究よりは実証研究を志向しているが、理論研究でも構わない。実証研究を行う場合には必要に応じて統計的手法についてもフォローする。これからの時代には適切にデータと向き合う能力が必要不可欠であると考えており、ゼミ活動の中で涵養していきたい。						
本研究室に関連するキーワードの例は以下の通りである。もちろん、以下に記載がないテーマも大歓迎である。						
経済・政策・消費・行動・実験・調査・制度・フレーミング効果・ヒューリスティック・プロスペクト理論・モラル・感情・協力・利他・信頼・平等・公平・進化・ビッグデータ・機械学習・人工知能・ゲーム理論・メカニズムデザイン・ゲーム実験・幸福・ナッジ・仕掛け・モチベーション・ゲーミフィケーション・実験社会科学・計算社会科学・社会神経科学・フィールド実験・ランダム化比較試験・R・Python・クラウドソーシング etc...						
問題分析ゼミナールⅠでは主に知識の定着を目的として、複数の教科書の輪読を行い、問題分析ゼミナールⅡでは春学期に獲得した知識をもとに、実際に「調査」や、「実験」などのプロジェクトを中心として展開し、各自の主眼的な問題意識に基づいた社会現象の解明、社会問題の解決を試みる。また、ゼミ以外にも様々な分野の学習の機会を多く提供したい。						
【到達目標】						
1. 行動経済学・実験経済学に関する実践的な基礎知識を習得する						
2. 自身の研究テーマについて、口頭・文章等で他者にわかりやすく説明できる						
3. グループワークを通じて、円滑にコミュニケーションできるようになる						
2. 授業内容						
<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p><問題分析ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 春学期 イン트로ダクション</p> <p>第2回 文献発表(1)</p> <p>第3回 文献発表(2)</p> <p>第4回 文献発表(3)</p> <p>第5回 文献発表(4)</p> <p>第6回 文献発表(5)</p> <p>第7回 文献発表(6)</p> <p>第8回 文献発表(7)</p> <p>第9回 文献発表(8)</p> <p>第10回 グループワーク(1)</p> <p>第11回 グループワーク(2)</p> <p>第12回 グループワーク(3)</p> <p>第13回 グループワーク(4)</p> <p>第14回 春学期 総括</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p><問題分析ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 秋学期 イン트로ダクション</p> <p>第2回 実験・調査計画手法の紹介(1)</p> <p>第3回 実験・調査計画手法の紹介(2)</p> <p>第4回 中間発表(1)</p> <p>第5回 中間発表(2)</p> <p>第6回 中間発表(3)</p> <p>第7回 中間発表(4)</p> <p>第8回 中間発表(5)</p> <p>第9回 中間発表(6)</p> <p>第10回 中間発表(7)</p> <p>第11回 中間発表(8)</p> <p>第12回 中間発表(9)</p> <p>第13回 中間発表(10)</p> <p>第14回 年間 総括</p> </td> </tr> </table>					<p><問題分析ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 春学期 イン트로ダクション</p> <p>第2回 文献発表(1)</p> <p>第3回 文献発表(2)</p> <p>第4回 文献発表(3)</p> <p>第5回 文献発表(4)</p> <p>第6回 文献発表(5)</p> <p>第7回 文献発表(6)</p> <p>第8回 文献発表(7)</p> <p>第9回 文献発表(8)</p> <p>第10回 グループワーク(1)</p> <p>第11回 グループワーク(2)</p> <p>第12回 グループワーク(3)</p> <p>第13回 グループワーク(4)</p> <p>第14回 春学期 総括</p>	<p><問題分析ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 秋学期 イン트로ダクション</p> <p>第2回 実験・調査計画手法の紹介(1)</p> <p>第3回 実験・調査計画手法の紹介(2)</p> <p>第4回 中間発表(1)</p> <p>第5回 中間発表(2)</p> <p>第6回 中間発表(3)</p> <p>第7回 中間発表(4)</p> <p>第8回 中間発表(5)</p> <p>第9回 中間発表(6)</p> <p>第10回 中間発表(7)</p> <p>第11回 中間発表(8)</p> <p>第12回 中間発表(9)</p> <p>第13回 中間発表(10)</p> <p>第14回 年間 総括</p>
<p><問題分析ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 春学期 イン트로ダクション</p> <p>第2回 文献発表(1)</p> <p>第3回 文献発表(2)</p> <p>第4回 文献発表(3)</p> <p>第5回 文献発表(4)</p> <p>第6回 文献発表(5)</p> <p>第7回 文献発表(6)</p> <p>第8回 文献発表(7)</p> <p>第9回 文献発表(8)</p> <p>第10回 グループワーク(1)</p> <p>第11回 グループワーク(2)</p> <p>第12回 グループワーク(3)</p> <p>第13回 グループワーク(4)</p> <p>第14回 春学期 総括</p>	<p><問題分析ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 秋学期 イン트로ダクション</p> <p>第2回 実験・調査計画手法の紹介(1)</p> <p>第3回 実験・調査計画手法の紹介(2)</p> <p>第4回 中間発表(1)</p> <p>第5回 中間発表(2)</p> <p>第6回 中間発表(3)</p> <p>第7回 中間発表(4)</p> <p>第8回 中間発表(5)</p> <p>第9回 中間発表(6)</p> <p>第10回 中間発表(7)</p> <p>第11回 中間発表(8)</p> <p>第12回 中間発表(9)</p> <p>第13回 中間発表(10)</p> <p>第14回 年間 総括</p>					
3. 履修上の注意						
<ul style="list-style-type: none"> 履修者との相談により、様々なアクティビティ(合宿、他大学との合同ゼミ etc.)等を視野に入れている。学びの機会には積極的に参加して欲しい。 入ゼミまでに『クリエイティブ・コミュニケーション(行動経済学)』を履修済みであることが望ましいが、必要条件ではない。 『不確実性下の人間行動』『情報と経済行動』ならびに『データ解析論Ⅰ/Ⅱ』を3年次に履修することが望ましい。 						
4. 準備学習(予習・復習等)の内容						
<ul style="list-style-type: none"> 発表担当者は、発表準備を欠かさないこと。文献発表時には発表担当者ではなくとも該当部分の予習をしてくること。 						
5. 教科書						
<ul style="list-style-type: none"> 『行動経済学入門』、筒井義郎、佐々木俊一郎、山根承子、グレッグ・マルデワ(東洋経済新報社) 						
6. 参考書						
<ul style="list-style-type: none"> 『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』、伊藤公一朗(光文社) 『「原因と結果」の経済学——データから真実を見抜く思考法』、中室牧子、津川友介(ダイヤモンド社) 『モラルの起源——実験社会科学からの問い』、亀田達也(岩波新書) その他、ゼミ内で紹介する。						
7. 成績評価の方法						
平常点(発表・ディスカッションへの参画状況):50%、アウトプット(グループ発表・論文等):50%						
8. その他						
<ul style="list-style-type: none"> 各自の自発的な取り組みと、少しでも社会を良く、少しでも社会をより良く、楽しくしようとするマインドを期待する。 経済学・情報科学・心理学・脳科学・社会学・人類学・プログラミングなど、様々な学びが行動経済学に繋がる。幅広い興味・関心を抱いて、自身の知力の「総力戦」に挑むつもりで欲しい。 実証研究(実験研究や調査研究)のためには、統計学・社会調査法などの授業を履修しておくとも良いかもしれない。しかし、必要条件ではないし、ゼミの中でも十分にフォローする。 						

問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱ	後藤 晶	各2単位	4年次	科目ナンバー (IC) IND312J
◆研究テーマ 行動経済学・実験経済学：人間の行動と社会制度を考える				
1. 授業の概要・到達目標				
【授業の概要】 人間は必ずしも経済的に合理的な行動を行うとは限らない。従来の経済学は極端な経済的合理性に基づいた行動を仮定してきた。しかし、そのような合理性への反証として観察・実験による研究が積み重なりつつある。行動経済学はこれらの実証研究から現実の人間行動を元に新たな理論構築を試みる学問であり、社会問題へのアプローチを試みるものである。その中でも、「実験」が有力な手法の1つであることは間違いない。 本研究室では、行動経済学や実験経済学の観点から、科学技術・情報社会の将来を見据えながら人間行動・社会問題を分析し、新たな時代の社会のあり方について検討する。さらに、これらの知見を踏まえた政策提言までを視野に入れた研究を目指す。ただし、必ずしもこのような研究である必要はなく、個人の興味・関心に応じた研究テーマを設定して構わない。定性的・理論研究よりは実証研究を志向しているが、理論研究でも構わない。実証研究を行う場合には必要に応じて統計的手法についてもフォローする。これからの時代には適切にデータと向き合う能力が必要不可欠であると考えており、ゼミ活動の中で涵養していきたい。 本研究室に関連するキーワードの例は以下の通りである。もちろん、以下に記載がないテーマも大歓迎である。 経済・政策・消費・行動・実験・調査・制度・フレーミング効果・ヒューリスティック・プロスペクト理論・モラル・感情・協力・利他・信頼・平等・公平・進化・ビッグデータ・機械学習・人工知能・ゲーム理論・メカニズムデザイン・ゲーム実験・幸福・ナッジ・仕掛け・モチベーション・ゲーミフィケーション・実験社会科学・計算社会科学・社会神経科学・フィールド実験・ランダム化比較試験・R・Python・クラウドソーシング etc... 問題解決ゼミナールⅠ/Ⅱのいずれにおいても各個人での研究と各学生からの研究に対するフィードバックを中心として進める。履修者は自身の問題意識に基づいて研究計画を立案し、遂行していくことになる。また、履修する学生にはしっかりとした発表準備と同時に、自身の研究について考えるつもりで真剣に他者へのフィードバックを望む。				
【到達目標】 1. 行動経済学・実験経済学に関する実践的な応用知識を習得する 2. 他者の発表について、行動経済学・実験経済学の観点から適切なフィードバックをすることができる 3. 行動経済学会等、諸学会・研究会へのアウトプットを行う 特に行動経済学会学生論文コンテストへの挑戦をはじめとして、積極的に外部での発表を期待する。				
2. 授業内容				
<問題解決ゼミナールⅠ>		<問題解決ゼミナールⅡ>		
第1回 春学期 インTRODクシヨ		第1回 秋学期 インTRODクシヨ		
第2回 個人研究計画発表(1)		第2回 中間発表(11)		
第3回 個人研究計画発表(2)		第3回 中間発表(12)		
第4回 中間発表(1)		第4回 中間発表(13)		
第5回 中間発表(2)		第5回 中間発表(14)		
第6回 中間発表(3)		第6回 中間発表(15)		
第7回 中間発表(4)		第7回 中間発表(16)		
第8回 中間発表(5)		第8回 中間発表(17)		
第9回 中間発表(6)		第9回 中間発表(18)		
第10回 中間発表(7)		第10回 最終発表(1)		
第11回 中間発表(8)		第11回 最終発表(2)		
第12回 中間発表(9)		第12回 最終発表(3)		
第13回 中間発表(10)		第13回 最終発表(4)		
第14回 春学期 総括		第14回 年間 総括		
3. 履修上の注意				
<ul style="list-style-type: none"> ・単位取得には、卒業論文やそれに代替する論文、ないしは外部への研究成果の発表を求める。 ・履修者との相談により、長期休暇中のアクティビティ(合宿、他大学との合同ゼミ etc.)等を視野に入れている。学びの機会には積極的に参加して欲しい。 ・3年次に『不確実性下の人間行動』『情報と経済行動』ならびに『データ解析論Ⅰ/Ⅱ』を履修していることが望ましい。 				
4. 準備学習(予習・復習等)の内容				
<ul style="list-style-type: none"> ・発表担当者は、発表準備を欠かさないこと。また、研究は日々の積み重ねが重要である。発表の担当がない時であっても、各自で研究を積み重ねること。 				
5. 教科書				
<ul style="list-style-type: none"> ・『行動経済学の現在と未来』、依田高典、岡田克彦[編著](日本評論社) 				
6. 参考書				
<ul style="list-style-type: none"> ・『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』、伊藤公一朗(光文社) ・『「原因と結果」の経済学——データから真実を見抜く思考法』、中室牧子、津川友介(ダイヤモンド社) ・『モラルの起源——実験社会科学からの問い』、亀田達也(岩波新書) その他、ゼミ内で紹介する。 				
7. 成績評価の方法				
平常点(発表・ディスカッションへの参画状況など):50%、アウトプット(卒業論文、もしくはそれに代替する論文等):50%				
8. その他				
<ul style="list-style-type: none"> ・各自の自発的な取り組みと、少しでも社会を良く、少しでも社会をより良く、楽しくしようとするマインドを期待する。 ・経済学・情報科学・心理学・脳科学・社会学・人類学・プログラミングなど、様々な学びが行動経済学に繋がる。幅広い興味・関心を抱いて、自身の知力の「総力戦」に挑むつもりでいて欲しい。 ・実証研究(実験研究や調査研究)のためには、統計学・社会調査法などの授業を履修しておくとも良いかもしれない。しかし、必要条件ではないし、ゼミの中でも十分にフォローする。 				

問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱ	小林 秀行	各2単位	3年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ 災害と社会						
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要 地震、津波、噴火、暴風、竜巻、豪雨、洪水、豪雪、地滑り、さらには早魃や蝗害、感染症にいたるまで、われわれの社会は自然の脅威と向き合い続けてきました。災害を学ぶというとき、多くの場合はこのような自然現象がもたらす被害やその発生メカニズムに目を向けることになると思いますが、災害はそれらの自然現象に襲われた社会のあり方にも大きな影響を受けるといことはあまり意識されません。しかし、改めて考えてみれば、災害に関連して言われる、(事前の)防災、避難、救助・救命、避難生活、復旧、復興、といった活動は人々や社会によって行われるものです。ですから当然、社会のあり方が変われば、このような活動もまた変わり、それによって災害の姿というのも影響を受けることになります。本ゼミナールでは、このような「災害」と呼ばれる現象を中心としながら、われわれの社会はどのような特徴をもっているのかということを中心にしていこうとすることを目的とします。災害に関連するものであれば(もしくは、関連させられるのであれば)、テーマについては受講生の皆さんが自由に設定して構いません。 到達目標 学習の到達目標は、「問いを自ら立てられるようになること」「資料に基づいた論理的思考および記述ができるようになること」「自身の考えを他者に明確に伝えられる資料作成および説明ができるようになること」「集団での議論を調整しながら課題への理解を深めていく会議運営ができるようになること」の4点とします。						
2. 授業内容 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 イントロダクション 第2回 課題動画に関する議論① 第3回 課題動画に関する議論② 第4回 課題動画に関する議論③ 第5回 課題動画に関する議論④ 第6回 課題動画に関する議論⑤ 第7回 課題動画に関する議論⑥ 第8回 課題動画に関する議論⑦ 第9回 課題動画に関する議論⑧ 第10回 課題動画に関する議論⑨ 第11回 課題動画に関する議論⑩ 第12回 課題動画に関する議論⑪ 第13回 課題動画に関する議論⑫ 第14回 春学期のまとめ </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 研究課題の検討① 第2回 研究課題の検討② 第3回 卒業論文の中間報告① 第4回 卒業論文の中間報告② 第5回 卒業論文の中間報告③ 第6回 卒業論文の中間報告④ 第7回 卒業論文の中間報告⑤ 第8回 卒業論文の中間報告⑥ 第9回 卒業論文の中間報告⑦ 第10回 卒業論文の中間報告⑧ 第11回 卒業論文の中間報告⑨ 第12回 卒業論文の中間報告⑩ 第13回 卒業論文の中間報告⑪ 第14回 学年末合同報告会 </td> </tr> </table>					<問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 イントロダクション 第2回 課題動画に関する議論① 第3回 課題動画に関する議論② 第4回 課題動画に関する議論③ 第5回 課題動画に関する議論④ 第6回 課題動画に関する議論⑤ 第7回 課題動画に関する議論⑥ 第8回 課題動画に関する議論⑦ 第9回 課題動画に関する議論⑧ 第10回 課題動画に関する議論⑨ 第11回 課題動画に関する議論⑩ 第12回 課題動画に関する議論⑪ 第13回 課題動画に関する議論⑫ 第14回 春学期のまとめ	<問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 研究課題の検討① 第2回 研究課題の検討② 第3回 卒業論文の中間報告① 第4回 卒業論文の中間報告② 第5回 卒業論文の中間報告③ 第6回 卒業論文の中間報告④ 第7回 卒業論文の中間報告⑤ 第8回 卒業論文の中間報告⑥ 第9回 卒業論文の中間報告⑦ 第10回 卒業論文の中間報告⑧ 第11回 卒業論文の中間報告⑨ 第12回 卒業論文の中間報告⑩ 第13回 卒業論文の中間報告⑪ 第14回 学年末合同報告会
<問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 イントロダクション 第2回 課題動画に関する議論① 第3回 課題動画に関する議論② 第4回 課題動画に関する議論③ 第5回 課題動画に関する議論④ 第6回 課題動画に関する議論⑤ 第7回 課題動画に関する議論⑥ 第8回 課題動画に関する議論⑦ 第9回 課題動画に関する議論⑧ 第10回 課題動画に関する議論⑨ 第11回 課題動画に関する議論⑩ 第12回 課題動画に関する議論⑪ 第13回 課題動画に関する議論⑫ 第14回 春学期のまとめ	<問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 研究課題の検討① 第2回 研究課題の検討② 第3回 卒業論文の中間報告① 第4回 卒業論文の中間報告② 第5回 卒業論文の中間報告③ 第6回 卒業論文の中間報告④ 第7回 卒業論文の中間報告⑤ 第8回 卒業論文の中間報告⑥ 第9回 卒業論文の中間報告⑦ 第10回 卒業論文の中間報告⑧ 第11回 卒業論文の中間報告⑨ 第12回 卒業論文の中間報告⑩ 第13回 卒業論文の中間報告⑪ 第14回 学年末合同報告会					
3. 履修上の注意 入室者は、3年次「リスク社会論」「情報コミュニケーション学(コーディネーター:小林)」を受講してください。研究テーマは学生各自の関心にそって決定します。ゼミナール形式の講義であるため、学生の自発的な参加・学習を前提としています。態度不良・遅刻・欠席・課題の未提出等には厳格に対応するので注意すること。課題文献以外の文献購読、夏合宿やフィールドワークを課すことがありますので、休日や課外の時間を多少、割いていただく必要があります。また、当ゼミナールは一定程度の読書量を求めますので、本を読むのがあまり得意ではないという方にはお勧めできません。						
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 【予習】 学期内に複数回の報告が課されるため、講義外の時間も活用しながら、計画的に準備を進めておくこと。春学期については課題動画を視聴していることを前提として議論を行うので、あらかじめ視聴したうえで、十分に内容を把握し、自らの主張を整理をしたうえで講義にのぞむこと。 【復習】 各週で行われた議論を振り返り、自身の発見・疑問・着眼点を整理したうえで、有益な発見があれば、積極的な導入を図ること。						
5. 教科書 特になし。教員作成の講義動画を用いる。						
6. 参考書 『シリーズ災害と社会1 災害社会学入門』大矢根淳・浦野正樹・田中淳・吉井博明編、弘文堂						
7. 成績評価の方法 ゼミナールへの出席および貢献(70%)、学期末課題の提出(30%)						
8. その他 私が恩師から教わった言葉に「学びとは、楽しくなければ意味がない、辛くなければ価値がない」という言葉があります。社会の課題と向き合い、自分なりの解決策を考えだしていくという、辛くも楽しい災害についての学びを、皆さんと深めていければと思います。						

問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱ	小林 秀行	各2単位	4年次	科目ナンバー (IC) IND312J																														
◆研究テーマ 災害と社会																																		
1. 授業の概要・到達目標																																		
授業の概要 地震、津波、噴火、暴風、竜巻、豪雨、洪水、豪雪、地滑り、さらには早魃や蝗害、感染症にいたるまで、われわれの社会は自然の脅威と向き合い続けてきました。災害を学ぶというとき、多くの場合はこのような自然現象がもたらす被害やその発生メカニズムに目を向けることになると思いますが、災害はそれらの自然現象に襲われた社会のあり方にも大きな影響を受けるといことはあまり意識されません。しかし、改めて考えてみれば、災害に関連して言われる、(事前の)防災、避難、救助・救命、避難生活、復旧、復興、といった活動は人々や社会によって行われるものです。ですから当然、社会のあり方が変われば、このような活動もまた変わり、それによって災害の姿というのも影響を受けることになります。本ゼミナールでは、このような「災害」と呼ばれる現象を中心としながら、われわれの社会はどのような特徴をもっているのかということを中心にしていこうとすることを目的とします。災害に関連するものであれば(もしくは、関連させられるのであれば)、テーマについては受講生の皆さんが自由に設定して構いません。																																		
到達目標 学習の到達目標は、「問いを自ら立てられるようになること」「資料に基づいた論理的思考および記述ができるようになること」「自身の考えを他者に明確に伝えられる資料作成および説明ができるようになること」「集団での議論を調整しながら課題への理解を深めていく会議運営ができるようになること」の4点とします。																																		
2. 授業内容																																		
<table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;">＜問題解決ゼミナールⅠ＞</td> <td style="text-align: center;">＜問題解決ゼミナールⅡ＞</td> </tr> <tr> <td>第1回 研究計画書の検討①</td> <td>第1回 中間報告＜第4回目＞①</td> </tr> <tr> <td>第2回 研究計画書の検討②</td> <td>第2回 中間報告＜第4回目＞②</td> </tr> <tr> <td>第3回 中間報告＜第1回目＞①</td> <td>第3回 中間報告＜第4回目＞③</td> </tr> <tr> <td>第4回 中間報告＜第1回目＞②</td> <td>第4回 中間報告＜第4回目＞④</td> </tr> <tr> <td>第5回 中間報告＜第1回目＞③</td> <td>第5回 中間報告＜第5回目＞①</td> </tr> <tr> <td>第6回 中間報告＜第1回目＞④</td> <td>第6回 中間報告＜第5回目＞②</td> </tr> <tr> <td>第7回 中間報告＜第2回目＞①</td> <td>第7回 中間報告＜第5回目＞③</td> </tr> <tr> <td>第8回 中間報告＜第2回目＞②</td> <td>第8回 中間報告＜第5回目＞④</td> </tr> <tr> <td>第9回 中間報告＜第2回目＞③</td> <td>第9回 中間報告＜第6回目＞①</td> </tr> <tr> <td>第10回 中間報告＜第2回目＞④</td> <td>第10回 中間報告＜第6回目＞②</td> </tr> <tr> <td>第11回 中間報告＜第3回目＞①</td> <td>第11回 中間報告＜第6回目＞③</td> </tr> <tr> <td>第12回 中間報告＜第3回目＞②</td> <td>第12回 中間報告＜第6回目＞④</td> </tr> <tr> <td>第13回 中間報告＜第3回目＞③</td> <td>第13回 まとめ</td> </tr> <tr> <td>第14回 中間報告＜第3回目＞④</td> <td>第14回 学年末合同報告会</td> </tr> </table>					＜問題解決ゼミナールⅠ＞	＜問題解決ゼミナールⅡ＞	第1回 研究計画書の検討①	第1回 中間報告＜第4回目＞①	第2回 研究計画書の検討②	第2回 中間報告＜第4回目＞②	第3回 中間報告＜第1回目＞①	第3回 中間報告＜第4回目＞③	第4回 中間報告＜第1回目＞②	第4回 中間報告＜第4回目＞④	第5回 中間報告＜第1回目＞③	第5回 中間報告＜第5回目＞①	第6回 中間報告＜第1回目＞④	第6回 中間報告＜第5回目＞②	第7回 中間報告＜第2回目＞①	第7回 中間報告＜第5回目＞③	第8回 中間報告＜第2回目＞②	第8回 中間報告＜第5回目＞④	第9回 中間報告＜第2回目＞③	第9回 中間報告＜第6回目＞①	第10回 中間報告＜第2回目＞④	第10回 中間報告＜第6回目＞②	第11回 中間報告＜第3回目＞①	第11回 中間報告＜第6回目＞③	第12回 中間報告＜第3回目＞②	第12回 中間報告＜第6回目＞④	第13回 中間報告＜第3回目＞③	第13回 まとめ	第14回 中間報告＜第3回目＞④	第14回 学年末合同報告会
＜問題解決ゼミナールⅠ＞	＜問題解決ゼミナールⅡ＞																																	
第1回 研究計画書の検討①	第1回 中間報告＜第4回目＞①																																	
第2回 研究計画書の検討②	第2回 中間報告＜第4回目＞②																																	
第3回 中間報告＜第1回目＞①	第3回 中間報告＜第4回目＞③																																	
第4回 中間報告＜第1回目＞②	第4回 中間報告＜第4回目＞④																																	
第5回 中間報告＜第1回目＞③	第5回 中間報告＜第5回目＞①																																	
第6回 中間報告＜第1回目＞④	第6回 中間報告＜第5回目＞②																																	
第7回 中間報告＜第2回目＞①	第7回 中間報告＜第5回目＞③																																	
第8回 中間報告＜第2回目＞②	第8回 中間報告＜第5回目＞④																																	
第9回 中間報告＜第2回目＞③	第9回 中間報告＜第6回目＞①																																	
第10回 中間報告＜第2回目＞④	第10回 中間報告＜第6回目＞②																																	
第11回 中間報告＜第3回目＞①	第11回 中間報告＜第6回目＞③																																	
第12回 中間報告＜第3回目＞②	第12回 中間報告＜第6回目＞④																																	
第13回 中間報告＜第3回目＞③	第13回 まとめ																																	
第14回 中間報告＜第3回目＞④	第14回 学年末合同報告会																																	
3. 履修上の注意 4年生の皆さんは、卒業後の進路選択を含め様々なことに時間を必要とするものと思います。本ゼミナールでは、卒業論文執筆について自らスケジュールを立て、活動を着実に進めて頂くという前提のもとで、1年間のなかでどのような時間配分を行うかについて柔軟に対応しますので、何かある場合は速やかに担当教員へ相談をしてください。																																		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 【予習】就職活動などで作業を中断せざるを得ない可能性も含めて、1年間のスケジュールを具体的な形で立て、定期的に自身の作業の進み具合と照らし合わせながら作業を進めること。 【復習】各週の中間発表で行われた議論を振り返り、自身の発見・疑問・着眼点を整理したうえで、自身の研究に有益な発見があれば、積極的な導入を図ること。																																		
5. 教科書 特になし。																																		
6. 参考書 『シリーズ災害と社会1 災害社会学入門』大矢根淳・浦野正樹・田中淳・吉井博明編、弘文堂																																		
7. 成績評価の方法 ゼミナールへの出席および貢献(30%)、学期末課題(春学期)／卒業論文(秋学期)の提出(70%)																																		
8. その他 私が恩師から教わった言葉に「学びとは、楽しくなければ意味がない、辛くなければ価値がない」という言葉があります。社会の課題と向き合い、自分なりの解決策を考えだしていくという、辛くも楽しい災害についての学びを、皆さんと深めていければと思います。																																		

問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱ	坂本 祐太	各2単位	3年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ 「ことば」に関する研究：身近な不思議を発見・分析・解決する						
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本ゼミナールでは、我々にとって身近な存在である「ことば」を扱います。我々は日頃意識することなく「ことば」を上手く使いこなして他者とコミュニケーションを円滑にこなしていますが、その背景には様々な不思議が潜んでいます。春学期の問題分析ゼミナールⅠでは、「ことば」の音声的な側面に焦点を当てて活動を行います。『(ポケモンの)「カピゴン」って、もし「カピコン」だったら軽くて弱そう...』『「すすく (sukusuku)」と「くすすく (kusukusu)」は同じ母音と子音から成り立っているけど意味が違う』『(くだけた文脈で)「すごい (sugoi)」は「すげー (sugee)」、「寒い (samui)」は「さみー (samii)」になるけど、「すぎー (sugii)」「さめー (samee)」にはならない』など、我々からしたら当たり前のように感じる事例ばかりですが、これらはどれも日頃我々が意識することのない「ことば」の規則に則っています。春学期は、このような具体的な事例を広く考察する中で、普段我々が何気なく使っている「ことば」に様々な不思議が存在することを認識することを目標とします。 秋学期の問題分析ゼミナールⅡでは、「ことば」と社会及び「ことば」と認知の繋がりに焦点を当てて活動を行います。前者の枠組みでは、「ことば」とジェンダー・方言・文化・世代・上下関係などの繋がりを理解した上で、例えば「どうして『ドラえもん』の中でジャイアンは「おれ」、しずかちゃんは「あたし」、のび太とスネ夫は「ぼく」という呼称を使うのか」など具体的な事例を考える中で、我々の生きる社会の中で「ことば」がどのような役割を持つのかについて理解を深めることを目標とします。後者の枠組みでは、「異なる言語の話者は、世界を異なる仕方で見ているのか」という疑問に対し、言語学・発達心理学・認知心理学・脳科学の観点からどのような議論がなされているのかを概観します。具体的には「色の名前が2つしかないパプアニューギニアのダニ語の話者と日本語の話者では色に関して認識が異なるのか」「ヒトの子どもの認識は、ことばを学習することでどのように変わるのか」などの疑問について考察する中で、「ことば」が我々の認知にどのような影響を持つのかについて理解を深めることを目標とします。 【到達目標】 『1. 「ことば」の様々な側面(特に音声・社会・認知との繋がりに)について理解を深め、それらの枠組みの中で研究を行う手法を身につける』『2. 専門的な内容を、自分の言葉で他者に分かりやすく伝える力を身につける』						
2. 授業内容 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 イントロダクション 第2回 「ことば」の音声分野の概観(1) 第3回 「ことば」の音声分野の概観(2) 第4回 教科書1の発表とディスカッション(1) 第5回 教科書1の発表とディスカッション(2) 第6回 教科書1の発表とディスカッション(3) 第7回 教科書1の発表とディスカッション(4) 第8回 教科書1の発表とディスカッション(5) 第9回 教科書2の発表とディスカッション(6) 第10回 教科書2の発表とディスカッション(1) 第11回 教科書2の発表とディスカッション(2) 第12回 教科書2の発表とディスカッション(3) 第13回 教科書2の発表とディスカッション(4) 第14回 問題分析ゼミナールⅠの振り返り </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 イントロダクション 第2回 「ことば」と社会・認知の繋がりの概観(1) 第3回 「ことば」と社会・認知の繋がりの概観(2) 第4回 教科書1の発表とディスカッション(1) 第5回 教科書1の発表とディスカッション(2) 第6回 教科書1の発表とディスカッション(3) 第7回 教科書1の発表とディスカッション(4) 第8回 教科書1の発表とディスカッション(5) 第9回 教科書2の発表とディスカッション(6) 第10回 教科書2の発表とディスカッション(7) 第11回 教科書2の発表とディスカッション(8) 第12回 教科書2の発表とディスカッション(9) 第13回 教科書2の発表とディスカッション(10) 第14回 問題分析ゼミナールⅡの振り返り </td> </tr> </table>					<問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 イントロダクション 第2回 「ことば」の音声分野の概観(1) 第3回 「ことば」の音声分野の概観(2) 第4回 教科書1の発表とディスカッション(1) 第5回 教科書1の発表とディスカッション(2) 第6回 教科書1の発表とディスカッション(3) 第7回 教科書1の発表とディスカッション(4) 第8回 教科書1の発表とディスカッション(5) 第9回 教科書2の発表とディスカッション(6) 第10回 教科書2の発表とディスカッション(1) 第11回 教科書2の発表とディスカッション(2) 第12回 教科書2の発表とディスカッション(3) 第13回 教科書2の発表とディスカッション(4) 第14回 問題分析ゼミナールⅠの振り返り	<問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 イントロダクション 第2回 「ことば」と社会・認知の繋がりの概観(1) 第3回 「ことば」と社会・認知の繋がりの概観(2) 第4回 教科書1の発表とディスカッション(1) 第5回 教科書1の発表とディスカッション(2) 第6回 教科書1の発表とディスカッション(3) 第7回 教科書1の発表とディスカッション(4) 第8回 教科書1の発表とディスカッション(5) 第9回 教科書2の発表とディスカッション(6) 第10回 教科書2の発表とディスカッション(7) 第11回 教科書2の発表とディスカッション(8) 第12回 教科書2の発表とディスカッション(9) 第13回 教科書2の発表とディスカッション(10) 第14回 問題分析ゼミナールⅡの振り返り
<問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 イントロダクション 第2回 「ことば」の音声分野の概観(1) 第3回 「ことば」の音声分野の概観(2) 第4回 教科書1の発表とディスカッション(1) 第5回 教科書1の発表とディスカッション(2) 第6回 教科書1の発表とディスカッション(3) 第7回 教科書1の発表とディスカッション(4) 第8回 教科書1の発表とディスカッション(5) 第9回 教科書2の発表とディスカッション(6) 第10回 教科書2の発表とディスカッション(1) 第11回 教科書2の発表とディスカッション(2) 第12回 教科書2の発表とディスカッション(3) 第13回 教科書2の発表とディスカッション(4) 第14回 問題分析ゼミナールⅠの振り返り	<問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 イントロダクション 第2回 「ことば」と社会・認知の繋がりの概観(1) 第3回 「ことば」と社会・認知の繋がりの概観(2) 第4回 教科書1の発表とディスカッション(1) 第5回 教科書1の発表とディスカッション(2) 第6回 教科書1の発表とディスカッション(3) 第7回 教科書1の発表とディスカッション(4) 第8回 教科書1の発表とディスカッション(5) 第9回 教科書2の発表とディスカッション(6) 第10回 教科書2の発表とディスカッション(7) 第11回 教科書2の発表とディスカッション(8) 第12回 教科書2の発表とディスカッション(9) 第13回 教科書2の発表とディスカッション(10) 第14回 問題分析ゼミナールⅡの振り返り					
3. 履修上の注意 ゼミナール活動のために、3年次に「自然言語の生成モデル」「言語使用とディスコース」(共に駿河台科目)を履修していただきます。 ディスカッションやグループワークを多く取り入れるので、積極的な姿勢を持って参加してください。また、発表の担当になった場合は、責任を持って準備を行ってください。						
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 <予習>教科書の精読・発表の準備 <復習>ゼミ内で学んだこと及び疑問に思ったことの整理						
5. 教科書 【春1】『オノマトペの謎ーピカチュウからモフモフまで』窪園晴夫・編(岩波書店) 【春2】『ネーミングの言語学ーハリー・ポッターからドラゴンボールまで』窪園晴夫(開拓社) 【秋1】『日本語は「空気」が決めるー社会言語学入門』石黒圭(光文社新書) 【秋2】『ことばと思考』今井むつみ(岩波新書)						
6. 参考書 【春】『音とことばの不思議な世界ーメイド声から英語の達人まで』川原繁人(岩波書店) 【春】『「あ」は「い」より大きい?ー音象徴で学ぶ音声学入門』川原繁人(ひつじ書房) 【秋】『新敬語「マジヤバイっす」ー社会言語学の観点から』中村桃子(白澤社) 【秋】『ことばの発達の謎を解く』今井むつみ(ちくまフリー新書)						
7. 成績評価の方法 【春】【秋】発表50%、ゼミナール活動への貢献度50%						
8. その他 「ことば」は様々な学問と繋がります。2年間のゼミナール活動を通して、「ことば」についてだけでなく、学問一般に対して幅広い視野を持ちながらゼミナール活動を行っていただくことを期待しています。 (他大学との合同)ゼミ合宿、ゲストスピーカーによる講義なども予定しています。						

問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱ	坂本 祐太	各2単位	4年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ 「ことば」に関する研究：身近な不思議を発見・分析・解決する						
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本ゼミナールでは、我々にとって身近な存在である「ことば」を扱います。我々は日頃意識することなく「ことば」を上手く使いこなして他者とコミュニケーションを円滑にこなしていますが、その背景には様々な不思議が潜んでいます。春学期の問題解決ゼミナールⅠでは、「ことば」の使用に焦点を当てます。受講生の皆さんの興味関心に合わせて教科書を選定する予定ですが、大まかな枠組みとして①談話分析、②批判的談話分析、③語用論の3つに焦点を当てます。①では、ライトノベルやケータイ小説などの日本のポピュラーカルチャーを通して日本語に特徴的な文体などを理解し、我々の生きる日本文化を読み解くことを目標とし、②では、社説・報道記事・雑誌・政治家の発言などの「ことば」から、いわゆる「ゆるキャラ」「萌えキャラ」と呼ばれるものに至るまで、その背後に潜んだイデオロギー・ポリティクスを読み解くことを目標とします。③では、『「今日飲みに行かない？—明日1限で朝早いんだよ。」のようなあいまいな会話がなぜ成り立つのか（協調の原理）』『本音と建前がなぜ存在するのか？タメ口はどのような機能を持つのか？（ポライトネス理論）』などについて理解を深め、我々の「ことば」を介した日常のコミュニケーションがどのような土台に基づいているのかについて理解を深めることを目標とします。また、春学期及び夏休みを通して、各自が卒業研究で扱う「ことば」に関する研究テーマを設定した上で、予備的な調査を行っていただく予定です。 秋学期の問題解決ゼミナールⅡでは、自分が設定したテーマに関して研究を進め、卒業研究としてゼミ内レポートを執筆する作業を行います。ゼミナールの時間は卒業研究の進捗状況を各自報告する場とし、教員及び他のゼミ生からのフィードバックを通して研究を深めてもらいます。また、ゼミナールの時間以外でも適宜教員との個別面談を行い、卒業研究のサポートを行います。 【到達目標】 『1. 「ことば」の様々な側面（特に語用論）及び談話分析について理解を深め、それらの枠組みの中で研究を行う手法を身につける』『2. 専門的な知識を活かして、他者に適切なフィードバックを行う力を身につける』『3. 自ら「ことば」の不思議を発見し、それを分析・解決した上で、ゼミ内レポートの形で卒業研究としてまとめる』						
2. 授業内容 <問題解決ゼミナールⅠ> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 第1回 イントロダクション（教科書の選定など） 第2回 教科書の発表とディスカッション（1） 第3回 教科書の発表とディスカッション（2） 第4回 教科書の発表とディスカッション（3） 第5回 教科書の発表とディスカッション（4） 第6回 教科書の発表とディスカッション（5） 第7回 教科書の発表とディスカッション（6） 第8回 教科書の発表とディスカッション（7） 第9回 教科書の発表とディスカッション（8） 第10回 教科書の発表とディスカッション（9） 第11回 教科書の発表とディスカッション（10） 第12回 教科書の発表とディスカッション（11） 第13回 教科書の発表とディスカッション（12） 第14回 問題解決ゼミナールⅠの振り返り </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題解決ゼミナールⅡ> 第1回 卒業研究の進捗報告（1） 第2回 卒業研究の進捗報告（2） 第3回 卒業研究の進捗報告（3） 第4回 卒業研究の進捗報告（4） 第5回 卒業研究の進捗報告（5） 第6回 卒業研究の進捗報告（6） 第7回 卒業研究の進捗報告（7） 第8回 卒業研究の進捗報告（8） 第9回 卒業研究の進捗報告（9） 第10回 卒業研究の進捗報告（10） 第11回 卒業研究の発表（1） 第12回 卒業研究の発表（2） 第13回 卒業研究の発表（3） 第14回 ゼミナール活動の総括 </td> </tr> </table>					第1回 イントロダクション（教科書の選定など） 第2回 教科書の発表とディスカッション（1） 第3回 教科書の発表とディスカッション（2） 第4回 教科書の発表とディスカッション（3） 第5回 教科書の発表とディスカッション（4） 第6回 教科書の発表とディスカッション（5） 第7回 教科書の発表とディスカッション（6） 第8回 教科書の発表とディスカッション（7） 第9回 教科書の発表とディスカッション（8） 第10回 教科書の発表とディスカッション（9） 第11回 教科書の発表とディスカッション（10） 第12回 教科書の発表とディスカッション（11） 第13回 教科書の発表とディスカッション（12） 第14回 問題解決ゼミナールⅠの振り返り	<問題解決ゼミナールⅡ> 第1回 卒業研究の進捗報告（1） 第2回 卒業研究の進捗報告（2） 第3回 卒業研究の進捗報告（3） 第4回 卒業研究の進捗報告（4） 第5回 卒業研究の進捗報告（5） 第6回 卒業研究の進捗報告（6） 第7回 卒業研究の進捗報告（7） 第8回 卒業研究の進捗報告（8） 第9回 卒業研究の進捗報告（9） 第10回 卒業研究の進捗報告（10） 第11回 卒業研究の発表（1） 第12回 卒業研究の発表（2） 第13回 卒業研究の発表（3） 第14回 ゼミナール活動の総括
第1回 イントロダクション（教科書の選定など） 第2回 教科書の発表とディスカッション（1） 第3回 教科書の発表とディスカッション（2） 第4回 教科書の発表とディスカッション（3） 第5回 教科書の発表とディスカッション（4） 第6回 教科書の発表とディスカッション（5） 第7回 教科書の発表とディスカッション（6） 第8回 教科書の発表とディスカッション（7） 第9回 教科書の発表とディスカッション（8） 第10回 教科書の発表とディスカッション（9） 第11回 教科書の発表とディスカッション（10） 第12回 教科書の発表とディスカッション（11） 第13回 教科書の発表とディスカッション（12） 第14回 問題解決ゼミナールⅠの振り返り	<問題解決ゼミナールⅡ> 第1回 卒業研究の進捗報告（1） 第2回 卒業研究の進捗報告（2） 第3回 卒業研究の進捗報告（3） 第4回 卒業研究の進捗報告（4） 第5回 卒業研究の進捗報告（5） 第6回 卒業研究の進捗報告（6） 第7回 卒業研究の進捗報告（7） 第8回 卒業研究の進捗報告（8） 第9回 卒業研究の進捗報告（9） 第10回 卒業研究の進捗報告（10） 第11回 卒業研究の発表（1） 第12回 卒業研究の発表（2） 第13回 卒業研究の発表（3） 第14回 ゼミナール活動の総括					
3. 履修上の注意 ディスカッションやグループワークを多く取り入れるので、積極的な姿勢を持って参加してください。また、発表の担当になった場合は、責任を持って準備を行ってください。						
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 <予習>教科書の精読・発表の準備 <復習>ゼミ内で学んだこと及び疑問に思ったことの整理						
5. 教科書 春学期の問題解決ゼミナールⅠでは、初回のゼミで受講生の興味関心を伺いながら、例えば以下の参考書に記載したものから2冊程度を教科書として選定します。受講人数や受講生の興味関心によって、同時並行で2冊以上使用する可能性もあります。						
6. 参考書 『ライトノベル表現論—会話・創造・遊びのディスコースの考察』泉子・K・メイナード（明治書院） 『ケータイ小説語考—私語りの会話体文章を探る』泉子・K・メイナード（明治書院） 『恋するふたりの「感情ことば」—ドラマ表現の分析と日本語論』泉子・K・メイナード（くろしお出版） 『ディスコース分析の実践—メディアが作る「現実」を明らかにする』石上文正編（くろしお出版） 『ウソと欺瞞のレトリック—ポスト・トゥルース時代の語用論』山本英一（関西大学出版部） 『対人関係の言語学—ポライトネスからの眺め』福田一雄（開拓社）						
7. 成績評価の方法 【春】発表 50%、ゼミナール活動への貢献度 50% 【秋】発表 20%、ゼミナール活動への貢献度 30%、卒業研究 50%						
8. その他 （他大学との合同）ゼミ合宿、ゲストスピーカーによる講義なども予定しています。 参考までに、過去のゼミ生の卒業研究の内容は、例えば以下の通りです。 『LINEにおける「聞き手」への配慮から生じる「話し手」の言語行動の切り替えに関する研究』 『「濁点・拍の数」と「パズドラのキャラクターのステータス（HP・攻撃・回復）」の相関関係に関する研究』 『疑問詞に関する文法的研究：「何」と「what」の比較を通して』						

問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱ	施 利 平	各 2 単 位	3 年 次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ 恋愛・結婚・家族の社会学						
1. 授業の概要・到達目標						
授業の概要 未婚・晩婚化、少子化などのキーワードが巷を騒がせており、一見して人々は結婚し、子どもをもつこと、つまり家族を形成することを拒んでいるようにもみえる。しかし、人々ははたして結婚すること、子どもをもつことに対して否定的になったのだろうか。全国調査によると、9割前後の人がいずれ結婚したいと考えており、また人々が一貫して子どもを2～3人希望している。とりわけ人々の結婚願望や子どもをもつ欲求が低下しているわけでもない。しかし、それではなぜ人々は結婚を望んでいても結婚まで至らないのか。なぜ希望通りの数の子どもを持ってない、持たないのだろうか。また、そもそも私たちはなぜ結婚し、家族を形成するのか。さらに、戦後日本の家族・親族がどのように変わってきたのだろうか。 到達目標 このゼミでは、恋愛・結婚・家族という身近なテーマを取り上げ、私たちがこれまで疑わずに信じてきた社会通念である「核家族化」や「双系化」は本当に起きたのか。家族の愛情はごく自然で当たり前のものであるのかなどを批判的に検討するつもりである。ゼミでは共通のテキストと一緒に講読しながら、それに基づき自由に議論をし、これまでの既成観念の確認や修正を行ない、家族と社会のあり方および変遷を正確かつ深く理解することを目指す。個人の生活に深く関わる家庭や社会の現実と歴史を理解したうえで、私たちのこれからのライフスタイルや生き方をみなさんと一緒に考えていきたい。						
2. 授業内容						
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 演習全体像の説明 第2回 文献講読(1) 第3回 文献講読(2) 第4回 文献講読(3) 第5回 文献講読(4) 第6回 文献講読(5) 第7回 文献講読(6) 第8回 文献内容のレビュー(1) 第9回 文献講読(7) 第10回 文献講読(8) 第11回 文献講読(9) 第12回 文献講読(10) 第13回 文献講読(11) 第14回 文献内容のレビュー(2)と夏季課題 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 課題の発表(1) 第2回 課題の発表(2) 第3回 文献講読(1) 第4回 文献講読(2) 第5回 文献講読(3) 第6回 文献講読(4) 第7回 文献講読(5) 第8回 文献内容のレビュー(1) 第9回 文献講読(6) 第10回 文献講読(7) 第11回 文献講読(8) 第12回 文献講読(9) 第13回 文献講読(10) 第14回 文献内容のレビュー(2)と卒論テーマの決定 </td> </tr> </table>					<問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 演習全体像の説明 第2回 文献講読(1) 第3回 文献講読(2) 第4回 文献講読(3) 第5回 文献講読(4) 第6回 文献講読(5) 第7回 文献講読(6) 第8回 文献内容のレビュー(1) 第9回 文献講読(7) 第10回 文献講読(8) 第11回 文献講読(9) 第12回 文献講読(10) 第13回 文献講読(11) 第14回 文献内容のレビュー(2)と夏季課題	<問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 課題の発表(1) 第2回 課題の発表(2) 第3回 文献講読(1) 第4回 文献講読(2) 第5回 文献講読(3) 第6回 文献講読(4) 第7回 文献講読(5) 第8回 文献内容のレビュー(1) 第9回 文献講読(6) 第10回 文献講読(7) 第11回 文献講読(8) 第12回 文献講読(9) 第13回 文献講読(10) 第14回 文献内容のレビュー(2)と卒論テーマの決定
<問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 演習全体像の説明 第2回 文献講読(1) 第3回 文献講読(2) 第4回 文献講読(3) 第5回 文献講読(4) 第6回 文献講読(5) 第7回 文献講読(6) 第8回 文献内容のレビュー(1) 第9回 文献講読(7) 第10回 文献講読(8) 第11回 文献講読(9) 第12回 文献講読(10) 第13回 文献講読(11) 第14回 文献内容のレビュー(2)と夏季課題	<問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 課題の発表(1) 第2回 課題の発表(2) 第3回 文献講読(1) 第4回 文献講読(2) 第5回 文献講読(3) 第6回 文献講読(4) 第7回 文献講読(5) 第8回 文献内容のレビュー(1) 第9回 文献講読(6) 第10回 文献講読(7) 第11回 文献講読(8) 第12回 文献講読(9) 第13回 文献講読(10) 第14回 文献内容のレビュー(2)と卒論テーマの決定					
3. 履修上の注意						
特になし						
4. 準備学習(予習・復習等)の内容						
文献講読の担当者はレジメを用意し、説明できるように準備することと、その他の学生は事前に授業内容を熟読し、授業内容について質問できるように、予習しておくことが必要である。						
5. 教科書						
『21世紀家族へ』落合恵美子、有斐閣選書 『戦後日本の親族関係—核家族化と双系化の検証』施利平、勁草書房 『現代家族変動論』森岡清美、ミネルヴァ書房						
6. 参考書						
随時に紹介する						
7. 成績評価の方法						
授業参加 30%、授業態度(発表や議論への参加) 30%、研究成果(夏季課題) 40%						
8. その他						
特になし						

問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱ	施 利 平	各 2 単 位	4 年 次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ 恋愛・結婚・家族を社会学する						
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要 受講生がそれぞれの問題意識を明確化し、社会的なアプローチで調査研究を行い、卒業論文にまとめることを目的とする。 到達目標 春学期はテーマの設定、研究理論枠の検討、研究方法と研究プランの検討を行う作業をする。秋学期は各自で研究テーマに沿い、研究を進め、個別的に指導するスタイルを取る予定である。						
2. 授業内容 <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題解決ゼミナールⅠ> 第1回 演習全体像の説明 第2回 研究テーマの検討(1) 第3回 研究テーマの検討(2) 第4回 理論枠組みの検討(1) 第5回 理論枠組みの検討(2) 第6回 理論枠組みの検討(3) 第7回 理論枠組みの検討(4) 第8回 研究方法の検討(1) 第9回 研究方法の検討(2) 第10回 研究方法の検討(3) 第11回 研究プランの検討(1) 第12回 研究プランの検討(2) 第13回 新たな研究設計の構築 第14回 まとめと総括 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題解決ゼミナールⅡ> 第1回 進捗状況の発表と指導(1) 第2回 進捗状況の発表と指導(2) 第3回 進捗状況の発表と指導(3) 第4回 進捗状況の発表と指導(4) 第5回 進捗状況の発表と指導(5) 第6回 進捗状況の発表と指導(6) 第7回 進捗状況の発表と指導(7) 第8回 進捗状況の発表と指導(8) 第9回 進捗状況の発表と指導(9) 第10回 進捗状況の発表と指導(10) 第11回 進捗状況の発表と指導(11) 第12回 進捗状況の発表と指導(12) 第13回 論文発表会(1) 第14回 論文発表会(2) </td> </tr> </table>					<問題解決ゼミナールⅠ> 第1回 演習全体像の説明 第2回 研究テーマの検討(1) 第3回 研究テーマの検討(2) 第4回 理論枠組みの検討(1) 第5回 理論枠組みの検討(2) 第6回 理論枠組みの検討(3) 第7回 理論枠組みの検討(4) 第8回 研究方法の検討(1) 第9回 研究方法の検討(2) 第10回 研究方法の検討(3) 第11回 研究プランの検討(1) 第12回 研究プランの検討(2) 第13回 新たな研究設計の構築 第14回 まとめと総括	<問題解決ゼミナールⅡ> 第1回 進捗状況の発表と指導(1) 第2回 進捗状況の発表と指導(2) 第3回 進捗状況の発表と指導(3) 第4回 進捗状況の発表と指導(4) 第5回 進捗状況の発表と指導(5) 第6回 進捗状況の発表と指導(6) 第7回 進捗状況の発表と指導(7) 第8回 進捗状況の発表と指導(8) 第9回 進捗状況の発表と指導(9) 第10回 進捗状況の発表と指導(10) 第11回 進捗状況の発表と指導(11) 第12回 進捗状況の発表と指導(12) 第13回 論文発表会(1) 第14回 論文発表会(2)
<問題解決ゼミナールⅠ> 第1回 演習全体像の説明 第2回 研究テーマの検討(1) 第3回 研究テーマの検討(2) 第4回 理論枠組みの検討(1) 第5回 理論枠組みの検討(2) 第6回 理論枠組みの検討(3) 第7回 理論枠組みの検討(4) 第8回 研究方法の検討(1) 第9回 研究方法の検討(2) 第10回 研究方法の検討(3) 第11回 研究プランの検討(1) 第12回 研究プランの検討(2) 第13回 新たな研究設計の構築 第14回 まとめと総括	<問題解決ゼミナールⅡ> 第1回 進捗状況の発表と指導(1) 第2回 進捗状況の発表と指導(2) 第3回 進捗状況の発表と指導(3) 第4回 進捗状況の発表と指導(4) 第5回 進捗状況の発表と指導(5) 第6回 進捗状況の発表と指導(6) 第7回 進捗状況の発表と指導(7) 第8回 進捗状況の発表と指導(8) 第9回 進捗状況の発表と指導(9) 第10回 進捗状況の発表と指導(10) 第11回 進捗状況の発表と指導(11) 第12回 進捗状況の発表と指導(12) 第13回 論文発表会(1) 第14回 論文発表会(2)					
3. 履修上の注意 特になし						
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 年間スケジュールに従い、春学期と秋学期の予定をこなせることが必要である。						
5. 教科書 随時に紹介する						
6. 参考書 随時に紹介する						
7. 成績評価の方法 授業参加 30%、授業態度(発表や議論への参加) 30%、研究成果(卒業論文) 40%						
8. その他 特になし						

問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱ	島田 剛	各2単位	3年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
<p>◆研究テーマ コーヒー・チョコレートから見る国際経済とSDGsのあり方 ～グローバルの実践としての神保町コーヒー・プロジェクト</p>						
<p>1. 授業の概要・到達目標 (概要) 島田ゼミは2020年から「神保町コーヒー・プロジェクト」を実施してきた（現在は4年生がコーヒーを、3年生がチョコレートをテーマにしており、来年どのような商品をテーマにするかは全員で話し合って決める）。この研究プロジェクトは神保町のまちづくりに取り組むとともに、途上国のコーヒーやチョコレートの生産者の生活を改善することを目的としている。神保町を対象にしているのはこの地域がアマゾンや電子書籍の台頭といった経済のデジタル化によって大きな影響を受ける可能性のある地域だからである。神保町は古書街として有名であるだけでなく、古くからある喫茶店と新しいタイプのカフェのどちらも地域にあり、多様なコーヒーの楽しみ方を提供できる場所でもある。こうしたことからゼミ生はコーヒーと書店の相乗効果を考慮しながら、新たな街づくりに取り組み提案を作成する。同時により途上国のコーヒー生産者に寄り添ったコーヒー取引のあり方について調査し、こちらについても提案を作成する。こうした取り組みによりグローバルな視点を持ちつつ、同時にローカルな課題に取り組む問題意識を養うことを目的としている。 (到達目標) ゼミ生はコーヒーやチョコレートという財を通じて、国際経済と都市のあり方について理解を深め、実際に政策提案する力を身につける。</p>						
<p>2. 授業内容</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜問題分析ゼミナールⅠ＞</p> <p>第1回 イントロダクション：神保町コーヒープロジェクトとは何か？</p> <p>第2回 デジタル経済化と都市 — 神保町のあり方</p> <p>第3回 コーヒーと世界経済</p> <p>第4回 フェアな貿易とは何か？そもそもフェアとはなんだろうか？</p> <p>第5回 各班ごとの活動計画作成（街づくり班、コーヒー班、フェアトレード班）</p> <p>第6回 各班の目標とスケジュール案の発表</p> <p>第7回 街づくり班 研究発表</p> <p>第8回 コーヒー班 研究発表</p> <p>第9回 フェアトレード班 研究発表</p> <p>第10回 神保町フィールド調査①</p> <p>第11回 インタビュー調査①</p> <p>第12回 各班による提案書方向性準備</p> <p>第13回 各班による提案書方向性発表・討議</p> <p>第14回 春学期のまとめと夏合宿打ち合わせ</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜問題分析ゼミナールⅡ＞</p> <p>第1回 各班の秋活動計画打ち合わせ、発表</p> <p>第2回 街づくり班 研究発表</p> <p>第3回 千代田区役所訪問、インタビュー実施</p> <p>第4回 コーヒー班 研究発表</p> <p>第5回 インタビュー調査②</p> <p>第6回 フェアトレード班 研究発表</p> <p>第7回 インタビュー調査③</p> <p>第8回 神保町フィールド調査②</p> <p>第9回 各班による提案書準備</p> <p>第10回 各班による提案書発表・討議</p> <p>第11回 追加調査の実施</p> <p>第12回 神保町関係者との対話</p> <p>第13回 各班による提案書改訂作業</p> <p>第14回 提案書発表</p> </td> </tr> </table>					<p>＜問題分析ゼミナールⅠ＞</p> <p>第1回 イントロダクション：神保町コーヒープロジェクトとは何か？</p> <p>第2回 デジタル経済化と都市 — 神保町のあり方</p> <p>第3回 コーヒーと世界経済</p> <p>第4回 フェアな貿易とは何か？そもそもフェアとはなんだろうか？</p> <p>第5回 各班ごとの活動計画作成（街づくり班、コーヒー班、フェアトレード班）</p> <p>第6回 各班の目標とスケジュール案の発表</p> <p>第7回 街づくり班 研究発表</p> <p>第8回 コーヒー班 研究発表</p> <p>第9回 フェアトレード班 研究発表</p> <p>第10回 神保町フィールド調査①</p> <p>第11回 インタビュー調査①</p> <p>第12回 各班による提案書方向性準備</p> <p>第13回 各班による提案書方向性発表・討議</p> <p>第14回 春学期のまとめと夏合宿打ち合わせ</p>	<p>＜問題分析ゼミナールⅡ＞</p> <p>第1回 各班の秋活動計画打ち合わせ、発表</p> <p>第2回 街づくり班 研究発表</p> <p>第3回 千代田区役所訪問、インタビュー実施</p> <p>第4回 コーヒー班 研究発表</p> <p>第5回 インタビュー調査②</p> <p>第6回 フェアトレード班 研究発表</p> <p>第7回 インタビュー調査③</p> <p>第8回 神保町フィールド調査②</p> <p>第9回 各班による提案書準備</p> <p>第10回 各班による提案書発表・討議</p> <p>第11回 追加調査の実施</p> <p>第12回 神保町関係者との対話</p> <p>第13回 各班による提案書改訂作業</p> <p>第14回 提案書発表</p>
<p>＜問題分析ゼミナールⅠ＞</p> <p>第1回 イントロダクション：神保町コーヒープロジェクトとは何か？</p> <p>第2回 デジタル経済化と都市 — 神保町のあり方</p> <p>第3回 コーヒーと世界経済</p> <p>第4回 フェアな貿易とは何か？そもそもフェアとはなんだろうか？</p> <p>第5回 各班ごとの活動計画作成（街づくり班、コーヒー班、フェアトレード班）</p> <p>第6回 各班の目標とスケジュール案の発表</p> <p>第7回 街づくり班 研究発表</p> <p>第8回 コーヒー班 研究発表</p> <p>第9回 フェアトレード班 研究発表</p> <p>第10回 神保町フィールド調査①</p> <p>第11回 インタビュー調査①</p> <p>第12回 各班による提案書方向性準備</p> <p>第13回 各班による提案書方向性発表・討議</p> <p>第14回 春学期のまとめと夏合宿打ち合わせ</p>	<p>＜問題分析ゼミナールⅡ＞</p> <p>第1回 各班の秋活動計画打ち合わせ、発表</p> <p>第2回 街づくり班 研究発表</p> <p>第3回 千代田区役所訪問、インタビュー実施</p> <p>第4回 コーヒー班 研究発表</p> <p>第5回 インタビュー調査②</p> <p>第6回 フェアトレード班 研究発表</p> <p>第7回 インタビュー調査③</p> <p>第8回 神保町フィールド調査②</p> <p>第9回 各班による提案書準備</p> <p>第10回 各班による提案書発表・討議</p> <p>第11回 追加調査の実施</p> <p>第12回 神保町関係者との対話</p> <p>第13回 各班による提案書改訂作業</p> <p>第14回 提案書発表</p>					
<p>3. 履修上の注意 「国際経済論」の授業を併せて履修することがのぞましい。ゼミは人数に応じて3年・4年合同で実施するか別に実施するかを決定します。</p>						
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容 「ミクロ経済学」「マクロ経済学」を履修していることが望ましい。</p>						
<p>5. 教科書 ゼミの中で指示します。</p>						
<p>6. 参考書 ゼミの中で指示します。</p>						
<p>7. 成績評価の方法 いかに主体的にゼミ活動したか（貢献度、70%）と他のゼミ生との協調度(30%)を評価します。</p>						
<p>8. その他 このゼミは学生の意欲と主体性を何より重視します。 英文の論文も読むため、ある一定の語学力があることが望ましい。 このゼミナールは2年間を通して行います。4年時に他のゼミに移ることはできません。 ゼミ合宿を実施します。</p>						

問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱ	島田 剛	各2単位	4年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ コーヒー・チョコレートから見る国際経済とSDGsのあり方 ～グローバルの実践としての神保町コーヒー・プロジェクト						
1. 授業の概要・到達目標 (概要) 島田ゼミは2020年から「神保町コーヒー・プロジェクト」を実施してきた(現在は4年生がコーヒーを、3年生がチョコレートをテーマにしており、来年どのような商品をテーマにするかは全員で話し合って決める)。この研究プロジェクトは神保町のまちづくりに取り組むとともに、途上国のコーヒーやチョコレートの生産者の生活を改善することを目的としている。神保町を対象にしているのはこの地域がアマゾンや電子書籍の台頭といった経済のデジタル化によって大きな影響を受ける可能性のある地域だからである。神保町は古書街として有名であるだけでなく、古くからある喫茶店と新しいタイプのカフェのどちらも地域にあり、多様なコーヒーの楽しみ方を提供できる場所でもある。こうしたことからゼミ生はコーヒーと書店の相乗効果を考慮しながら、新たな街づくりに取り組み提案を作成する。同時により途上国のコーヒー生産者に寄り添ったコーヒー取引のあり方について調査し、こちらについても提案を作成する。こうした取り組みによりグローバルな視点を持ちつつ、同時にローカルな課題に取り組む問題意識を養うことを目的としている。 (到達目標) ゼミ生はコーヒーやチョコレートという財を通じて、国際経済と都市のあり方について理解を深め、実際に政策提案する力を身につける。						
2. 授業内容 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題解決ゼミナールⅠ> 第1回 イントロダクション：神保町コーヒープロジェクトとは何か？ 第2回 デジタル経済化と都市 ― 神保町のあり方 第3回 コーヒーと世界経済 第4回 フェアな貿易とは何か？そもそもフェアとはなんだろうか？ 第5回 各班ごとの活動計画作成(街づくり班、コーヒー班、フェアトレード班) 第6回 各班の目標とスケジュール案の発表 第7回 街づくり班 研究発表 第8回 コーヒー班 研究発表 第9回 フェアトレード班 研究発表 第10回 神保町フィールド調査① 第11回 インタビュー調査① 第12回 各班による提案書方向性準備 第13回 各班による提案書方向性発表・討議 第14回 春学期のまとめと夏合宿打ち合わせ </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題解決ゼミナールⅡ> 第1回 各班の秋活動計画打ち合わせ、発表 第2回 街づくり班 研究発表 第3回 千代田区役所訪問、インタビュー実施 第4回 コーヒー班 研究発表 第5回 インタビュー調査② 第6回 フェアトレード班 研究発表 第7回 インタビュー調査③ 第8回 神保町フィールド調査② 第9回 各班による提案書準備 第10回 各班による提案書発表・討議 第11回 追加調査の実施 第12回 神保町関係者との対話 第13回 各班による提案書改訂作業 第14回 提案書発表 </td> </tr> </table>					<問題解決ゼミナールⅠ> 第1回 イントロダクション：神保町コーヒープロジェクトとは何か？ 第2回 デジタル経済化と都市 ― 神保町のあり方 第3回 コーヒーと世界経済 第4回 フェアな貿易とは何か？そもそもフェアとはなんだろうか？ 第5回 各班ごとの活動計画作成(街づくり班、コーヒー班、フェアトレード班) 第6回 各班の目標とスケジュール案の発表 第7回 街づくり班 研究発表 第8回 コーヒー班 研究発表 第9回 フェアトレード班 研究発表 第10回 神保町フィールド調査① 第11回 インタビュー調査① 第12回 各班による提案書方向性準備 第13回 各班による提案書方向性発表・討議 第14回 春学期のまとめと夏合宿打ち合わせ	<問題解決ゼミナールⅡ> 第1回 各班の秋活動計画打ち合わせ、発表 第2回 街づくり班 研究発表 第3回 千代田区役所訪問、インタビュー実施 第4回 コーヒー班 研究発表 第5回 インタビュー調査② 第6回 フェアトレード班 研究発表 第7回 インタビュー調査③ 第8回 神保町フィールド調査② 第9回 各班による提案書準備 第10回 各班による提案書発表・討議 第11回 追加調査の実施 第12回 神保町関係者との対話 第13回 各班による提案書改訂作業 第14回 提案書発表
<問題解決ゼミナールⅠ> 第1回 イントロダクション：神保町コーヒープロジェクトとは何か？ 第2回 デジタル経済化と都市 ― 神保町のあり方 第3回 コーヒーと世界経済 第4回 フェアな貿易とは何か？そもそもフェアとはなんだろうか？ 第5回 各班ごとの活動計画作成(街づくり班、コーヒー班、フェアトレード班) 第6回 各班の目標とスケジュール案の発表 第7回 街づくり班 研究発表 第8回 コーヒー班 研究発表 第9回 フェアトレード班 研究発表 第10回 神保町フィールド調査① 第11回 インタビュー調査① 第12回 各班による提案書方向性準備 第13回 各班による提案書方向性発表・討議 第14回 春学期のまとめと夏合宿打ち合わせ	<問題解決ゼミナールⅡ> 第1回 各班の秋活動計画打ち合わせ、発表 第2回 街づくり班 研究発表 第3回 千代田区役所訪問、インタビュー実施 第4回 コーヒー班 研究発表 第5回 インタビュー調査② 第6回 フェアトレード班 研究発表 第7回 インタビュー調査③ 第8回 神保町フィールド調査② 第9回 各班による提案書準備 第10回 各班による提案書発表・討議 第11回 追加調査の実施 第12回 神保町関係者との対話 第13回 各班による提案書改訂作業 第14回 提案書発表					
3. 履修上の注意 ゼミは人数に応じて3年・4年合同で実施するか別に実施するかを決定します。						
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 「ミクロ経済学」「マクロ経済学」を履修していることが望ましい。						
5. 教科書 ゼミの中で指示します。						
6. 参考書 ゼミの中で指示します。						
7. 成績評価の方法 いかに主体的にゼミ活動したか(貢献度、70%)と他のゼミ生との協調度(30%)を評価します。						
8. その他 このゼミは学生の意欲と主体性を何より重視します。 英文の論文も読むため、ある一定の語学力があることが望ましい。 このゼミナールは2年間を通して行います。4年時に他のゼミに移ることはできません。 ゼミ合宿を実施します。						

問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱ	清水 晶紀	各2単位	3年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ 現代社会の諸課題を、行政法的視点から分析してみよう						
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 行政法とは、行政の組織や活動を規律する法的ルールの総称であり、行政法学とは、それらのルールに共通する理論を探求する学問です。現代社会において行政が重要な役割を果たしていることに鑑みれば、行政法学の思考方法は、現代社会の諸課題を分析する重要な物差しになります。 そこで、本ゼミナールでは、まず、ゼミ生の関心に応じて選定した裁判例を素材に行政法の主要論点を検討し、行政法の基礎知識や行政法学の思考方法を把握します（Ⅰ）。その上で、現代社会の諸課題の中から本ゼミナールの研究テーマを選定し、行政法的視点から分析することにはしたいと考えています（Ⅱ）。 （参考までに、2022年度の研究テーマは、「災害情報の効果的な共有に向けた『タイムライン』のあり方」になりました。） 【到達目標】 ①行政法の基礎知識が最終的に身につけていること ②行政法的な視点で演習中の議論を行えるようになること ③卒業論文のテーマ設定を独力で行えるようになること						
2. 授業内容 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 イントロダクション 自己紹介・前期の進め方 第2回 報告の作法 第3回 裁判例を用いた論点分析①〈地方自治〉 第4回 裁判例を用いた論点分析①〈地方自治〉 第5回 裁判例を用いた論点分析②〈行政裁量〉 第6回 裁判例を用いた論点分析②〈行政裁量〉 第7回 裁判例を用いた論点分析③〈行政手続〉 第8回 裁判例を用いた論点分析③〈行政手続〉 第9回 裁判例を用いた論点分析④〈情報管理〉 第10回 裁判例を用いた論点分析④〈情報管理〉 第11回 裁判例に関する現場視察 第12回 合同ゼミ合宿準備① 第13回 合同ゼミ合宿準備② 第14回 合同ゼミ合宿準備③ ※各回の割り振りはあくまで一例であり、詳細はゼミ生との相談で最終決定します。 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 前期の振り返り・後期の進め方 第2回 テーマの選定 第3回 資料分析と課題抽出① 第4回 資料分析と課題抽出② 第5回 資料分析と課題抽出③ 第6回 ゲスト講義① 第7回 課題分析中間報告① 第8回 課題分析中間報告② 第9回 課題分析中間報告③ 第10回 ゲスト講義② 第11回 フィールドワーク準備① 第12回 フィールドワーク準備② 第13回 フィールドワーク 第14回 フィールドワークの振り返りと年間まとめ ※各回の割り振りはあくまで一例であり、詳細はゼミ生との相談で最終決定します。 </td> </tr> </table>					<問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 イントロダクション 自己紹介・前期の進め方 第2回 報告の作法 第3回 裁判例を用いた論点分析①〈地方自治〉 第4回 裁判例を用いた論点分析①〈地方自治〉 第5回 裁判例を用いた論点分析②〈行政裁量〉 第6回 裁判例を用いた論点分析②〈行政裁量〉 第7回 裁判例を用いた論点分析③〈行政手続〉 第8回 裁判例を用いた論点分析③〈行政手続〉 第9回 裁判例を用いた論点分析④〈情報管理〉 第10回 裁判例を用いた論点分析④〈情報管理〉 第11回 裁判例に関する現場視察 第12回 合同ゼミ合宿準備① 第13回 合同ゼミ合宿準備② 第14回 合同ゼミ合宿準備③ ※各回の割り振りはあくまで一例であり、詳細はゼミ生との相談で最終決定します。	<問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 前期の振り返り・後期の進め方 第2回 テーマの選定 第3回 資料分析と課題抽出① 第4回 資料分析と課題抽出② 第5回 資料分析と課題抽出③ 第6回 ゲスト講義① 第7回 課題分析中間報告① 第8回 課題分析中間報告② 第9回 課題分析中間報告③ 第10回 ゲスト講義② 第11回 フィールドワーク準備① 第12回 フィールドワーク準備② 第13回 フィールドワーク 第14回 フィールドワークの振り返りと年間まとめ ※各回の割り振りはあくまで一例であり、詳細はゼミ生との相談で最終決定します。
<問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 イントロダクション 自己紹介・前期の進め方 第2回 報告の作法 第3回 裁判例を用いた論点分析①〈地方自治〉 第4回 裁判例を用いた論点分析①〈地方自治〉 第5回 裁判例を用いた論点分析②〈行政裁量〉 第6回 裁判例を用いた論点分析②〈行政裁量〉 第7回 裁判例を用いた論点分析③〈行政手続〉 第8回 裁判例を用いた論点分析③〈行政手続〉 第9回 裁判例を用いた論点分析④〈情報管理〉 第10回 裁判例を用いた論点分析④〈情報管理〉 第11回 裁判例に関する現場視察 第12回 合同ゼミ合宿準備① 第13回 合同ゼミ合宿準備② 第14回 合同ゼミ合宿準備③ ※各回の割り振りはあくまで一例であり、詳細はゼミ生との相談で最終決定します。	<問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 前期の振り返り・後期の進め方 第2回 テーマの選定 第3回 資料分析と課題抽出① 第4回 資料分析と課題抽出② 第5回 資料分析と課題抽出③ 第6回 ゲスト講義① 第7回 課題分析中間報告① 第8回 課題分析中間報告② 第9回 課題分析中間報告③ 第10回 ゲスト講義② 第11回 フィールドワーク準備① 第12回 フィールドワーク準備② 第13回 フィールドワーク 第14回 フィールドワークの振り返りと年間まとめ ※各回の割り振りはあくまで一例であり、詳細はゼミ生との相談で最終決定します。					
3. 履修上の注意 <ul style="list-style-type: none"> ・1学年先輩の問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱにも参加していただきます(本ゼミナールと連続する時間帯で開講予定)。 ・次年度は、1学年後輩の問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱに、アドバイザーとして参加していただきます。 ・担当教員としては、「現代行政と法A・B」を履修することを強く望みます。 ・何回かのゼミでは、ゲストスピーカーを招いて講演してもらったり、フィールドワークを実施したりする予定です。また、他大学・他ゼミと合同で、合宿やレクリエーション等の各種行事を実施する可能性があります。 ・上記のフィールドワーク等は、正規の演習時間外に行う可能性があります。また、その際には、一定の費用がかかることがあります。 						
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 当たり前のことですが、報告・議論等の準備は、ゼミの時間外に行うことになります。 なお、担当教員としては、ゲストスピーカーとの懇親会をはじめ、各種イベント（花見・芋煮・OBOG会等）への参加も、広い意味で「学習」の一環であると考えています。						
5. 教科書 特に指定しません。						
6. 参考書 各回の内容に応じて、その都度指示します。						
7. 成績評価の方法 演習は学生の皆さんが主体のクラスであるため、出席は当然の前提です。就職活動等で、やむをえず欠席する場合には、事前に担当教員まで連絡をするようにしてください。 その上で、演習での報告内容（70%）、議論への参加状況（30%）を総合的に評価します。						
8. その他 「演習の主角」は参加者の皆さんです。担当教員は極力発言を控え、サポート役に徹したいと考えています。 また、本ゼミナールは、2023年度が開講3年目となります。一緒に本ゼミナールの伝統を作って行ってくれる皆さんの参加を待っています。よく学び、よく議論し、よく遊ぶ皆さんの履修を歓迎します！						

問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱ	清水 晶紀	各2単位	4年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ 現代社会の諸課題について、行政法的視点を踏まえて法政策を提言しよう						
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本ゼミナールでは、問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱで修得した行政法的視点を土台に、現代社会の諸課題から各ゼミ生が興味関心のあるテーマを選定し、法政策的提言を含む卒業論文の執筆に取り組みます。具体的には、卒業論文の完成に向けて、自らの研究テーマを絞る過程を各ゼミ生に報告してもらい、ゼミナールでの検討を通じて各ゼミ生の研究計画を煮詰めていきたいと考えています。なお、担当教員は、環境行政、災害行政、社会保障行政を主たる研究領域としていますが、卒業論文の研究テーマは、行政法と「関連」するものであれば、なんでもOKです。 加えて、1学年後輩の問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱに参加し、後輩の議論をサポートしてもらおうとともに、個別報告、グループ報告、フィールドワークの準備についてもアドバイスをしてもらいたいと考えています。 【到達目標】 ①行政法の基礎知識を踏まえて適切な問題設定ができること ②行政法の基礎知識を前提として応用的な議論を行えること ③難解な理論をかみ砕いて説明できること						
2. 授業内容 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題解決ゼミナールⅠ> 第1回 イントロダクション・前期の進め方 第2回 ゲスト講義① 第3回 卒業論文テーマ報告① 第4回 卒業論文テーマ報告② 第5回 卒業論文研究計画報告① 第6回 卒業論文研究計画報告② 第7回 卒業論文研究計画報告③ 第8回 卒業論文研究計画報告④ 第9回 ゲスト講義② 第10回 卒業論文第1回中間報告① 第11回 卒業論文第1回中間報告② 第12回 卒業論文第1回中間報告③ 第13回 卒業論文第1回中間報告④ 第14回 前期の総括・夏休みの過ごし方 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題解決ゼミナールⅡ> 第1回 前期の振り返り・後期の進め方 第2回 卒業論文第2回中間報告① 第3回 卒業論文第2回中間報告② 第4回 卒業論文第2回中間報告③ 第5回 卒業論文第2回中間報告④ 第6回 卒業論文第3回中間報告① 第7回 卒業論文第3回中間報告② 第8回 卒業論文第3回中間報告③ 第9回 卒業論文第3回中間報告④ 第10回 卒業論文最終個別指導① 第11回 卒業論文最終個別指導② 第12回 卒業論文最終個別指導③ 第13回 卒業論文成果報告会① 第14回 卒業論文成果報告会② </td> </tr> </table>					<問題解決ゼミナールⅠ> 第1回 イントロダクション・前期の進め方 第2回 ゲスト講義① 第3回 卒業論文テーマ報告① 第4回 卒業論文テーマ報告② 第5回 卒業論文研究計画報告① 第6回 卒業論文研究計画報告② 第7回 卒業論文研究計画報告③ 第8回 卒業論文研究計画報告④ 第9回 ゲスト講義② 第10回 卒業論文第1回中間報告① 第11回 卒業論文第1回中間報告② 第12回 卒業論文第1回中間報告③ 第13回 卒業論文第1回中間報告④ 第14回 前期の総括・夏休みの過ごし方	<問題解決ゼミナールⅡ> 第1回 前期の振り返り・後期の進め方 第2回 卒業論文第2回中間報告① 第3回 卒業論文第2回中間報告② 第4回 卒業論文第2回中間報告③ 第5回 卒業論文第2回中間報告④ 第6回 卒業論文第3回中間報告① 第7回 卒業論文第3回中間報告② 第8回 卒業論文第3回中間報告③ 第9回 卒業論文第3回中間報告④ 第10回 卒業論文最終個別指導① 第11回 卒業論文最終個別指導② 第12回 卒業論文最終個別指導③ 第13回 卒業論文成果報告会① 第14回 卒業論文成果報告会②
<問題解決ゼミナールⅠ> 第1回 イントロダクション・前期の進め方 第2回 ゲスト講義① 第3回 卒業論文テーマ報告① 第4回 卒業論文テーマ報告② 第5回 卒業論文研究計画報告① 第6回 卒業論文研究計画報告② 第7回 卒業論文研究計画報告③ 第8回 卒業論文研究計画報告④ 第9回 ゲスト講義② 第10回 卒業論文第1回中間報告① 第11回 卒業論文第1回中間報告② 第12回 卒業論文第1回中間報告③ 第13回 卒業論文第1回中間報告④ 第14回 前期の総括・夏休みの過ごし方	<問題解決ゼミナールⅡ> 第1回 前期の振り返り・後期の進め方 第2回 卒業論文第2回中間報告① 第3回 卒業論文第2回中間報告② 第4回 卒業論文第2回中間報告③ 第5回 卒業論文第2回中間報告④ 第6回 卒業論文第3回中間報告① 第7回 卒業論文第3回中間報告② 第8回 卒業論文第3回中間報告③ 第9回 卒業論文第3回中間報告④ 第10回 卒業論文最終個別指導① 第11回 卒業論文最終個別指導② 第12回 卒業論文最終個別指導③ 第13回 卒業論文成果報告会① 第14回 卒業論文成果報告会②					
3. 履修上の注意 <ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文の提出は必須です。「卒業論文・卒業制作」の単位付与基準を満たしていれば、「卒業論文・卒業制作」の単位も取得できます。 ・1学年後輩の問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱに、アドバイザーとして参加していただきます。(1学年後輩のゼミ生にも、本ゼミナールに参加してもらおう予定です。) ・何回かのゼミでは、ゲストスピーカーを招いて講演してもらったり、フィールドワークを実施したりする予定です。また、他大学・他ゼミと合同で、合宿やレクリエーション等の各種行事を実施する可能性があります。 ・上記のフィールドワーク等は、正規の演習時間外に行う可能性があります。また、その際には、一定の費用がかかることがあります。 						
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 当たり前のことですが、報告・議論等の準備は、ゼミの時間外に行うことになります。 なお、担当教員としては、ゲストスピーカーとの懇親会をはじめ、各種イベント（花見・芋煮・OBOG会等）への参加も、広い意味で「学習」の一環であると考えています。						
5. 教科書 特に指定しません。						
6. 参考書 各回の内容に応じて、その都度指示します。						
7. 成績評価の方法 演習は学生の皆さんが主体のクラスであるため、出席は当然の前提です。就職活動等で、やむをえず欠席する場合には、事前に担当教員まで連絡をするようにしてください。 その上で、卒業論文（50%）、演習での報告内容（30%）、議論への参加状況（20%）を総合的に評価します。						
8. その他 「演習の主役」は参加者の皆さんです。担当教員は極力発言を控え、サポート役に徹したいと考えています。一緒に本ゼミナールの伝統を作っていく皆さんの参加を待っています。よく学び、よく議論し、よく遊ぶ皆さんの履修を歓迎します！						

問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱ	鈴木 健人	各2単位	3年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
<p>◆研究テーマ 米国の覇権が揺らぎを見せる中で進んでいる国際秩序の変動を理解し、日本の進むべき方向を考える。また日本の強みであるソフトパワーについて考え、将来に生かす視点を探る。</p>						
<p>1. 授業の概要・到達目標 個人またはグループによって上記テーマに沿った研究課題を設定し、学生が自主的に研究を進め、その成果を発表しゼミ全体で討論する。なお研究テーマについては学生の意向に沿って柔軟かつ広範に変更を認める予定である。国際社会の政治的側面だけでなく、文化的・思想的な面を含め、いわゆるソフトパワーにも留意していきたい。 自主的に研究を進める訓練をし、問題解決ゼミナールでの卒業研究が自力で進めることができるようにすることをめざす。それによって現在の国際社会が抱える諸問題について、学問的に分析するための知的枠組みを形成できるように促していく。</p>						
<p>2. 授業内容</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><問題分析ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 ゼミの進め方、研究方法についてのイントロダクション。ゼミで議論する本や資料の選定。 第2回 本や共通資料の決定と読解部分の割り当て。 第3回 教員による研究発表のデモンストレーション。 (1) 第4回 第1グループまたは個人の発表および討論。 第5回 第2グループまたは個人の発表および討論。 第6回 第3グループまたは個人の発表および討論。 第7回 グループ発表または個人発表の総括。 第8回 教員による研究発表のデモンストレーション。 (2) 第9回 第4グループまたは個人の発表。 第10回 第5グループまたは個人の発表および討論。 第11回 第6グループまたは個人の発表および討論。 第12回 個人の発表および討論。1～2名。 第13回 個人の発表および討論。1～2名。 第14回 春学期の総括と講評。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><問題分析ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 新しい研究発表グループと各グループの研究テーマの設定。 第2回 共通資料に関する教員からの解説及び説明。 第3回 第1グループの研究発表および討論。 第4回 第2グループの研究発表および討論。 第5回 第3グループの研究発表および討論。 第6回 グループ発表の総括と新グループの割り当て。 第7回 第1グループの研究発表。 第8回 第2グループの研究発表。 第9回 第3グループの研究発表。 第10回 グループによる研究発表の総括。 第11回 個人研究の発表。3～4名。(1) 第12回 個人研究の発表。3～4名。(2) 第13回 卒業研究へむけてのテーマ設定と研究方法について指示。 第14回 秋学期および1年間全体の総括と講評。</p> </td> </tr> </table>					<p><問題分析ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 ゼミの進め方、研究方法についてのイントロダクション。ゼミで議論する本や資料の選定。 第2回 本や共通資料の決定と読解部分の割り当て。 第3回 教員による研究発表のデモンストレーション。 (1) 第4回 第1グループまたは個人の発表および討論。 第5回 第2グループまたは個人の発表および討論。 第6回 第3グループまたは個人の発表および討論。 第7回 グループ発表または個人発表の総括。 第8回 教員による研究発表のデモンストレーション。 (2) 第9回 第4グループまたは個人の発表。 第10回 第5グループまたは個人の発表および討論。 第11回 第6グループまたは個人の発表および討論。 第12回 個人の発表および討論。1～2名。 第13回 個人の発表および討論。1～2名。 第14回 春学期の総括と講評。</p>	<p><問題分析ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 新しい研究発表グループと各グループの研究テーマの設定。 第2回 共通資料に関する教員からの解説及び説明。 第3回 第1グループの研究発表および討論。 第4回 第2グループの研究発表および討論。 第5回 第3グループの研究発表および討論。 第6回 グループ発表の総括と新グループの割り当て。 第7回 第1グループの研究発表。 第8回 第2グループの研究発表。 第9回 第3グループの研究発表。 第10回 グループによる研究発表の総括。 第11回 個人研究の発表。3～4名。(1) 第12回 個人研究の発表。3～4名。(2) 第13回 卒業研究へむけてのテーマ設定と研究方法について指示。 第14回 秋学期および1年間全体の総括と講評。</p>
<p><問題分析ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 ゼミの進め方、研究方法についてのイントロダクション。ゼミで議論する本や資料の選定。 第2回 本や共通資料の決定と読解部分の割り当て。 第3回 教員による研究発表のデモンストレーション。 (1) 第4回 第1グループまたは個人の発表および討論。 第5回 第2グループまたは個人の発表および討論。 第6回 第3グループまたは個人の発表および討論。 第7回 グループ発表または個人発表の総括。 第8回 教員による研究発表のデモンストレーション。 (2) 第9回 第4グループまたは個人の発表。 第10回 第5グループまたは個人の発表および討論。 第11回 第6グループまたは個人の発表および討論。 第12回 個人の発表および討論。1～2名。 第13回 個人の発表および討論。1～2名。 第14回 春学期の総括と講評。</p>	<p><問題分析ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 新しい研究発表グループと各グループの研究テーマの設定。 第2回 共通資料に関する教員からの解説及び説明。 第3回 第1グループの研究発表および討論。 第4回 第2グループの研究発表および討論。 第5回 第3グループの研究発表および討論。 第6回 グループ発表の総括と新グループの割り当て。 第7回 第1グループの研究発表。 第8回 第2グループの研究発表。 第9回 第3グループの研究発表。 第10回 グループによる研究発表の総括。 第11回 個人研究の発表。3～4名。(1) 第12回 個人研究の発表。3～4名。(2) 第13回 卒業研究へむけてのテーマ設定と研究方法について指示。 第14回 秋学期および1年間全体の総括と講評。</p>					
<p>3. 履修上の注意 参加者全員が必ず研究発表を行うので積極的に参加すること。参加人数やグループの数によって授業内容を変更する可能性があるので留意されたい。</p>						
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容 国際関係論を履修済みであることが望ましいが、履修していない学生でも参加できる。割り当てられた資料などは必ず事前に読んで内容を理解しておくこと。</p>						
<p>5. 教科書 特に指定しない。</p>						
<p>6. 参考書 特に指定しないが、各グループや個人の研究テーマに応じて指示する。</p>						
<p>7. 成績評価の方法 研究発表の内容と態様：50%。他のグループや個人に対する質問や議論など：30%。ゼミ活動に対する積極性：20%。</p>						
<p>8. その他 研究テーマは自由に決めて良いが、決めたテーマに関しては十分に研究すること。</p>						

問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱ	鈴木 健人	各2単位	4年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
<p>◆研究テーマ 21世紀日本の国家戦略と世界政治の秩序変容。世界の中の日本のソフトパワーの発展。</p>						
<p>1. 授業の概要・到達目標 卒業論文またはその代替として1万2千字～2万字程度(図表・脚注を含む)のゼミ論文を執筆し提出してもらう。4年間の大学生活の集大成として、それにふさわしい研究水準の論文を作成することを目標とする。細かい研究テーマは個人で自由に設定して良いが、大まかに言って上記の研究テーマに即したものであることが望ましい。ただし自分で追及したいテーマがあるときには事前に相談を受け付けて柔軟に対応する。ガイダンス以外は学生の自主的な研究と参加に基づく自由な討論の場とする。</p>						
<p>2. 授業内容</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜問題解決ゼミナールⅠ＞</p> <p>第1回 卒業研究の進め方についてのイントロダクション。</p> <p>第2回 国際関係史の研究方法についてのイントロダクション。</p> <p>第3回 現状分析の研究方法についてのイントロダクション。</p> <p>第4回 国際関係思想の研究方法についてのイントロダクション。</p> <p>第5回 資料の分析と解説。3～4名。(1)</p> <p>第6回 資料の分析と解説。3～4名。(2)</p> <p>第7回 資料の分析と解説。3～4名。(3)</p> <p>第8回 資料の分析と解説。3～4名。(4)</p> <p>第9回 資料の分析と解説。3～4名。(5)</p> <p>第10回 卒業論文またはゼミ論文の執筆の方法についてのイントロダクション。</p> <p>第11回 卒業論文またはゼミ論文初稿の提出とそれに基づく討論。(1)</p> <p>第12回 卒業論文またはゼミ論文初稿の提出とそれに基づく討論。(2)</p> <p>第13回 卒業論文またはゼミ論文初稿の提出とそれに基づく討論。(3)</p> <p>第14回 卒業論文またはゼミ論文初稿に関する講評。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜問題解決ゼミナールⅡ＞</p> <p>第1回 卒業論文またはゼミ論文第2稿の提出と各論文の修正点の確認。</p> <p>第2回 卒業論文またはゼミ論文第2稿に基づく研究発表と質疑応答および討論。(1)</p> <p>第3回 卒業論文またはゼミ論文第2稿に基づく研究発表と質疑応答および討論。(2)</p> <p>第4回 卒業論文またはゼミ論文第2稿に基づく研究発表と質疑応答および討論。(3)</p> <p>第5回 卒業論文またはゼミ論文第2稿に基づく研究発表と質疑応答および討論。(4)</p> <p>第6回 卒業論文またはゼミ論文第2稿に基づく研究発表と質疑応答および討論。(5)</p> <p>第7回 卒業論文またはゼミ論文最終稿の執筆に向けたイントロダクション。</p> <p>第8回 教員による研究発表のデモンストレーション。</p> <p>第9回 卒業論文またはゼミ論文最終稿に基づく研究発表と質疑応答および討論。(1)</p> <p>第10回 卒業論文またはゼミ論文最終稿に基づく研究発表と質疑応答および討論。(2)</p> <p>第11回 卒業論文またはゼミ論文最終稿に基づく研究発表と質疑応答および討論。(3)</p> <p>第12回 卒業論文またはゼミ論文最終稿に基づく研究発表と質疑応答および討論。(4)</p> <p>第13回 卒業論文またはゼミ論文最終稿に基づく研究発表と質疑応答および討論。(5)</p> <p>第14回 卒業論文またはゼミ論文最終稿の提出と講評。</p> </td> </tr> </table>					<p>＜問題解決ゼミナールⅠ＞</p> <p>第1回 卒業研究の進め方についてのイントロダクション。</p> <p>第2回 国際関係史の研究方法についてのイントロダクション。</p> <p>第3回 現状分析の研究方法についてのイントロダクション。</p> <p>第4回 国際関係思想の研究方法についてのイントロダクション。</p> <p>第5回 資料の分析と解説。3～4名。(1)</p> <p>第6回 資料の分析と解説。3～4名。(2)</p> <p>第7回 資料の分析と解説。3～4名。(3)</p> <p>第8回 資料の分析と解説。3～4名。(4)</p> <p>第9回 資料の分析と解説。3～4名。(5)</p> <p>第10回 卒業論文またはゼミ論文の執筆の方法についてのイントロダクション。</p> <p>第11回 卒業論文またはゼミ論文初稿の提出とそれに基づく討論。(1)</p> <p>第12回 卒業論文またはゼミ論文初稿の提出とそれに基づく討論。(2)</p> <p>第13回 卒業論文またはゼミ論文初稿の提出とそれに基づく討論。(3)</p> <p>第14回 卒業論文またはゼミ論文初稿に関する講評。</p>	<p>＜問題解決ゼミナールⅡ＞</p> <p>第1回 卒業論文またはゼミ論文第2稿の提出と各論文の修正点の確認。</p> <p>第2回 卒業論文またはゼミ論文第2稿に基づく研究発表と質疑応答および討論。(1)</p> <p>第3回 卒業論文またはゼミ論文第2稿に基づく研究発表と質疑応答および討論。(2)</p> <p>第4回 卒業論文またはゼミ論文第2稿に基づく研究発表と質疑応答および討論。(3)</p> <p>第5回 卒業論文またはゼミ論文第2稿に基づく研究発表と質疑応答および討論。(4)</p> <p>第6回 卒業論文またはゼミ論文第2稿に基づく研究発表と質疑応答および討論。(5)</p> <p>第7回 卒業論文またはゼミ論文最終稿の執筆に向けたイントロダクション。</p> <p>第8回 教員による研究発表のデモンストレーション。</p> <p>第9回 卒業論文またはゼミ論文最終稿に基づく研究発表と質疑応答および討論。(1)</p> <p>第10回 卒業論文またはゼミ論文最終稿に基づく研究発表と質疑応答および討論。(2)</p> <p>第11回 卒業論文またはゼミ論文最終稿に基づく研究発表と質疑応答および討論。(3)</p> <p>第12回 卒業論文またはゼミ論文最終稿に基づく研究発表と質疑応答および討論。(4)</p> <p>第13回 卒業論文またはゼミ論文最終稿に基づく研究発表と質疑応答および討論。(5)</p> <p>第14回 卒業論文またはゼミ論文最終稿の提出と講評。</p>
<p>＜問題解決ゼミナールⅠ＞</p> <p>第1回 卒業研究の進め方についてのイントロダクション。</p> <p>第2回 国際関係史の研究方法についてのイントロダクション。</p> <p>第3回 現状分析の研究方法についてのイントロダクション。</p> <p>第4回 国際関係思想の研究方法についてのイントロダクション。</p> <p>第5回 資料の分析と解説。3～4名。(1)</p> <p>第6回 資料の分析と解説。3～4名。(2)</p> <p>第7回 資料の分析と解説。3～4名。(3)</p> <p>第8回 資料の分析と解説。3～4名。(4)</p> <p>第9回 資料の分析と解説。3～4名。(5)</p> <p>第10回 卒業論文またはゼミ論文の執筆の方法についてのイントロダクション。</p> <p>第11回 卒業論文またはゼミ論文初稿の提出とそれに基づく討論。(1)</p> <p>第12回 卒業論文またはゼミ論文初稿の提出とそれに基づく討論。(2)</p> <p>第13回 卒業論文またはゼミ論文初稿の提出とそれに基づく討論。(3)</p> <p>第14回 卒業論文またはゼミ論文初稿に関する講評。</p>	<p>＜問題解決ゼミナールⅡ＞</p> <p>第1回 卒業論文またはゼミ論文第2稿の提出と各論文の修正点の確認。</p> <p>第2回 卒業論文またはゼミ論文第2稿に基づく研究発表と質疑応答および討論。(1)</p> <p>第3回 卒業論文またはゼミ論文第2稿に基づく研究発表と質疑応答および討論。(2)</p> <p>第4回 卒業論文またはゼミ論文第2稿に基づく研究発表と質疑応答および討論。(3)</p> <p>第5回 卒業論文またはゼミ論文第2稿に基づく研究発表と質疑応答および討論。(4)</p> <p>第6回 卒業論文またはゼミ論文第2稿に基づく研究発表と質疑応答および討論。(5)</p> <p>第7回 卒業論文またはゼミ論文最終稿の執筆に向けたイントロダクション。</p> <p>第8回 教員による研究発表のデモンストレーション。</p> <p>第9回 卒業論文またはゼミ論文最終稿に基づく研究発表と質疑応答および討論。(1)</p> <p>第10回 卒業論文またはゼミ論文最終稿に基づく研究発表と質疑応答および討論。(2)</p> <p>第11回 卒業論文またはゼミ論文最終稿に基づく研究発表と質疑応答および討論。(3)</p> <p>第12回 卒業論文またはゼミ論文最終稿に基づく研究発表と質疑応答および討論。(4)</p> <p>第13回 卒業論文またはゼミ論文最終稿に基づく研究発表と質疑応答および討論。(5)</p> <p>第14回 卒業論文またはゼミ論文最終稿の提出と講評。</p>					
<p>3. 履修上の注意 各自の研究テーマに沿って自主的に研究を進め論文を執筆するので、学生諸君の意欲が重要な要件となる。</p>						
<p>4. 準備学習(予習・復習等)の内容 問題分析ゼミで培った研究方法を生かして自主的に研究を進めること。</p>						
<p>5. 教科書 特に指定しない。</p>						
<p>6. 参考書 特に指定しないが、研究テーマに応じて適宜指示する。</p>						
<p>7. 成績評価の方法 卒業論文またはゼミ論文：50%。ゼミでの研究発表の内容と態度：30%。他者の研究への質問や討論：20%。</p>						
<p>8. その他 卒業論文(任意)またはゼミ論文を書いてもらうので、十分準備して期日までに必ず提出すること。</p>						

問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱ	鈴木 雅博	各2単位	3年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ 学校の社会学						
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本ゼミナールは、受講生が4年次の卒業論文執筆に向けて、先行研究を批判的に検討することを通して、今日の学校教育に関する知識と質的調査を中心とした研究方法を身につけることを目標とします。そのために、分析ゼミナールⅠでは、教育学関連の文献を批判的に読解するトレーニングを行った上で、ゼミ共通の検討文献を講読します。分析ゼミナールⅡでは、各自の関心に沿った先行研究をレビューし、相互に批評し合う機会を設けます。これにより、受講者が自らの問題関心を洗練させ、卒業論文のリサーチクエストを設定することが期待されます。 なお、2023年度は校則関係の書籍をゼミ共通の検討文献とする予定です。 【到達目標】 ①種々の先行研究に学び、それを批判的に読み解く作業を行うことができる。 ②各自が関心を持つテーマに対して確かな方法と対象への理解に基づいたリサーチクエストを設定することができる。						
2. 授業内容 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 インTRODクシヨン 第2回 先行研究の批判的検討の方法① 第3回 先行研究の批判的検討の方法② 第4回 先行研究の批判的検討の方法③ 第5回 文献講読① 第6回 文献講読② 第7回 文献講読③ 第8回 文献講読④ 第9回 文献講読⑤ 第10回 文献講読⑥ 第11回 文献講読⑦ 第12回 文献講読⑧ 第13回 文献講読⑨ 第14回 卒業レポートのテーマ設定に向けて </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 インTRODクシヨン 第2回 研究課題の設定と先行研究のレビュー1-1 第3回 研究課題の設定と先行研究のレビュー1-2 第4回 研究課題の設定と先行研究のレビュー1-3 第5回 研究課題の設定と先行研究のレビュー1-4 第6回 研究課題の設定と先行研究のレビュー2-1 第7回 研究課題の設定と先行研究のレビュー2-2 第8回 研究課題の設定と先行研究のレビュー2-3 第9回 研究課題の設定と先行研究のレビュー2-4 第10回 研究課題の設定と先行研究のレビュー3-1 第11回 研究課題の設定と先行研究のレビュー3-2 第12回 研究課題の設定と先行研究のレビュー3-3 第13回 研究課題の設定と先行研究のレビュー3-4 第14回 まとめ </td> </tr> </table>					<問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 インTRODクシヨン 第2回 先行研究の批判的検討の方法① 第3回 先行研究の批判的検討の方法② 第4回 先行研究の批判的検討の方法③ 第5回 文献講読① 第6回 文献講読② 第7回 文献講読③ 第8回 文献講読④ 第9回 文献講読⑤ 第10回 文献講読⑥ 第11回 文献講読⑦ 第12回 文献講読⑧ 第13回 文献講読⑨ 第14回 卒業レポートのテーマ設定に向けて	<問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 インTRODクシヨン 第2回 研究課題の設定と先行研究のレビュー1-1 第3回 研究課題の設定と先行研究のレビュー1-2 第4回 研究課題の設定と先行研究のレビュー1-3 第5回 研究課題の設定と先行研究のレビュー1-4 第6回 研究課題の設定と先行研究のレビュー2-1 第7回 研究課題の設定と先行研究のレビュー2-2 第8回 研究課題の設定と先行研究のレビュー2-3 第9回 研究課題の設定と先行研究のレビュー2-4 第10回 研究課題の設定と先行研究のレビュー3-1 第11回 研究課題の設定と先行研究のレビュー3-2 第12回 研究課題の設定と先行研究のレビュー3-3 第13回 研究課題の設定と先行研究のレビュー3-4 第14回 まとめ
<問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 インTRODクシヨン 第2回 先行研究の批判的検討の方法① 第3回 先行研究の批判的検討の方法② 第4回 先行研究の批判的検討の方法③ 第5回 文献講読① 第6回 文献講読② 第7回 文献講読③ 第8回 文献講読④ 第9回 文献講読⑤ 第10回 文献講読⑥ 第11回 文献講読⑦ 第12回 文献講読⑧ 第13回 文献講読⑨ 第14回 卒業レポートのテーマ設定に向けて	<問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 インTRODクシヨン 第2回 研究課題の設定と先行研究のレビュー1-1 第3回 研究課題の設定と先行研究のレビュー1-2 第4回 研究課題の設定と先行研究のレビュー1-3 第5回 研究課題の設定と先行研究のレビュー1-4 第6回 研究課題の設定と先行研究のレビュー2-1 第7回 研究課題の設定と先行研究のレビュー2-2 第8回 研究課題の設定と先行研究のレビュー2-3 第9回 研究課題の設定と先行研究のレビュー2-4 第10回 研究課題の設定と先行研究のレビュー3-1 第11回 研究課題の設定と先行研究のレビュー3-2 第12回 研究課題の設定と先行研究のレビュー3-3 第13回 研究課題の設定と先行研究のレビュー3-4 第14回 まとめ					
3. 履修上の注意 自らの研究に取り組むのはもちろんですが、他者の研究にもしっかりと向き合い、議論に参加するよう心掛けてください。						
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 発表担当でない時も、必ず文献を精読し、自分なりの論点をもってゼミに臨んでください。						
5. 教科書 特に指定しません。						
6. 参考書 適宜、指示します。						
7. 成績評価の方法 発表時のレポート（70%）ならびに議論への貢献度（30%）。						
8. その他 ゼミで扱える文献には限りがあります。「巨人の肩の上」にのるためには、自ら進んで先達の知見と格闘することが望まれます。						

問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱ	鈴木 雅博	各2単位	4年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ 学校の社会学						
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本ゼミナールでは、確かな研究方法に基づき、学校教育を対象とした調査を行い、卒業論文を執筆することを目標とします。教育は、社会の諸問題を解決するものとして期待される一方、いじめ・不登校、体罰・「ブラック校則」、さらには教師の「ブラック」な労働環境等、教育それ自体が「問題」としてみなされてもいます。このことは、既に学校教育に対する浩瀚な研究蓄積がありながらも、教育には依然として、解くべき「問い」があることを示唆しています。受講者には、今日の教育をめぐる現状と先行研究の到達点を踏まえた上で、適切なリサーチクエストを設定し、確かな方法に基づいて、その「問い」を解明することが求められます。本ゼミナールでは、原則として卒業論文の執筆を単位付与の条件としています。 【到達目標】 自らの問題関心に基づいてリサーチクエストを設定し、計画的に研究を進め、卒業論文にまとめることができる。						
2. 授業内容 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><問題解決ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 研究計画の発表①</p> <p>第3回 研究計画の発表②</p> <p>第4回 研究計画の発表③</p> <p>第5回 研究計画の発表④</p> <p>第6回 研究の経過報告 1-1</p> <p>第7回 研究の経過報告 1-2</p> <p>第8回 研究の経過報告 1-3</p> <p>第9回 研究の経過報告 1-4</p> <p>第10回 研究の経過報告 2-1</p> <p>第11回 研究の経過報告 2-2</p> <p>第12回 研究の経過報告 2-3</p> <p>第13回 研究の経過報告 2-4</p> <p>第14回 まとめ</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><問題解決ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 研究の経過報告 3-1</p> <p>第2回 研究の経過報告 3-2</p> <p>第3回 研究の経過報告 3-3</p> <p>第4回 研究の経過報告 3-4</p> <p>第5回 研究の経過報告 4-1</p> <p>第6回 研究の経過報告 4-2</p> <p>第7回 研究の経過報告 4-3</p> <p>第8回 研究の経過報告 4-4</p> <p>第9回 研究発表①</p> <p>第10回 研究発表②</p> <p>第11回 研究発表③</p> <p>第12回 研究発表④</p> <p>第13回 研究発表⑤</p> <p>第14回 研究発表⑥</p> </td> </tr> </table>					<p><問題解決ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 研究計画の発表①</p> <p>第3回 研究計画の発表②</p> <p>第4回 研究計画の発表③</p> <p>第5回 研究計画の発表④</p> <p>第6回 研究の経過報告 1-1</p> <p>第7回 研究の経過報告 1-2</p> <p>第8回 研究の経過報告 1-3</p> <p>第9回 研究の経過報告 1-4</p> <p>第10回 研究の経過報告 2-1</p> <p>第11回 研究の経過報告 2-2</p> <p>第12回 研究の経過報告 2-3</p> <p>第13回 研究の経過報告 2-4</p> <p>第14回 まとめ</p>	<p><問題解決ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 研究の経過報告 3-1</p> <p>第2回 研究の経過報告 3-2</p> <p>第3回 研究の経過報告 3-3</p> <p>第4回 研究の経過報告 3-4</p> <p>第5回 研究の経過報告 4-1</p> <p>第6回 研究の経過報告 4-2</p> <p>第7回 研究の経過報告 4-3</p> <p>第8回 研究の経過報告 4-4</p> <p>第9回 研究発表①</p> <p>第10回 研究発表②</p> <p>第11回 研究発表③</p> <p>第12回 研究発表④</p> <p>第13回 研究発表⑤</p> <p>第14回 研究発表⑥</p>
<p><問題解決ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 研究計画の発表①</p> <p>第3回 研究計画の発表②</p> <p>第4回 研究計画の発表③</p> <p>第5回 研究計画の発表④</p> <p>第6回 研究の経過報告 1-1</p> <p>第7回 研究の経過報告 1-2</p> <p>第8回 研究の経過報告 1-3</p> <p>第9回 研究の経過報告 1-4</p> <p>第10回 研究の経過報告 2-1</p> <p>第11回 研究の経過報告 2-2</p> <p>第12回 研究の経過報告 2-3</p> <p>第13回 研究の経過報告 2-4</p> <p>第14回 まとめ</p>	<p><問題解決ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 研究の経過報告 3-1</p> <p>第2回 研究の経過報告 3-2</p> <p>第3回 研究の経過報告 3-3</p> <p>第4回 研究の経過報告 3-4</p> <p>第5回 研究の経過報告 4-1</p> <p>第6回 研究の経過報告 4-2</p> <p>第7回 研究の経過報告 4-3</p> <p>第8回 研究の経過報告 4-4</p> <p>第9回 研究発表①</p> <p>第10回 研究発表②</p> <p>第11回 研究発表③</p> <p>第12回 研究発表④</p> <p>第13回 研究発表⑤</p> <p>第14回 研究発表⑥</p>					
3. 履修上の注意 自らの研究に取り組むのはもちろんですが、他者の研究にもしっかりと向き合い、議論に参加するよう心掛けてください。						
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 発表の際に指摘された課題や助言・質問をしっかりと振り返ることで論文の質を向上させるように努めてください。						
5. 教科書 特に指定しません。						
6. 参考書 適宜、指示します。						
7. 成績評価の方法 議論への貢献度（20%）。卒業レポート（80%）						
8. その他 特になし。						

問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱ	須田 努	各2単位	3年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ 異文化コミュニケーション史・社会文化史の研究						
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 ①文献講読・テキスト（史料）解釈の方法論と、研究報告（プレゼン）の作法を会得する。 ②日本の17～20世紀の社会文化の様相を理解する。 ③異文化コミュニケーション史とは何か、この視点のおもしろさを理解する。 【到達目標】 上記を通じて、帰納法を駆使した思考能力を養い、歴史認識と知の形成をはかり、現実社会への鋭利な視座を獲得する。共同研究を行う。17～18世紀における異文化コミュニケーション史もしくは、日本の17～20世紀の社会文化史に関連する論文とデータ（史料）を分析し、その内容に則した報告を行い、歴史学の基本的能力である帰納法的思考方法を会得する。社会文化史とするか、異文化コミュニケーション史にするかは、ゼミ員全員の合意により決定したい。						
2. 授業内容 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p style="text-align: center;">＜問題分析ゼミナールⅠ＞</p> 第1回 テキスト選択 第2回 テキスト報告順番決定 第3回 テキスト読解(1) 第4回 テキスト読解(2) 第5回 テキスト読解(3) 第6回 テキスト読解(4) 第7回 テキスト読解(5) 第8回 テキスト読解(6) 第9回 テキスト読解(7) 第10回 テキスト読解(8) 第11回 テキスト読解(9) 第12回 テキスト読解(10) 第13回 卒論にむけて(1) 第14回 卒論にむけて(2) </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p style="text-align: center;">＜問題分析ゼミナールⅡ＞</p> 第1回 卒論準備報告(1) 第2回 卒論準備報告(2) 第3回 卒論プロット報告(1) 第4回 卒論プロット報告(2) 第5回 卒論プロット報告(3) 第6回 卒論プロット報告(4) 第7回 卒論プロット報告(5) 第8回 卒論プロット報告(6) 第9回 卒論プロット報告(7) 第10回 卒論報告(1) 第11回 卒論報告(2) 第12回 卒論報告(3) 第13回 卒論報告(4) 第14回 卒論報告(5) </td> </tr> </table>					<p style="text-align: center;">＜問題分析ゼミナールⅠ＞</p> 第1回 テキスト選択 第2回 テキスト報告順番決定 第3回 テキスト読解(1) 第4回 テキスト読解(2) 第5回 テキスト読解(3) 第6回 テキスト読解(4) 第7回 テキスト読解(5) 第8回 テキスト読解(6) 第9回 テキスト読解(7) 第10回 テキスト読解(8) 第11回 テキスト読解(9) 第12回 テキスト読解(10) 第13回 卒論にむけて(1) 第14回 卒論にむけて(2)	<p style="text-align: center;">＜問題分析ゼミナールⅡ＞</p> 第1回 卒論準備報告(1) 第2回 卒論準備報告(2) 第3回 卒論プロット報告(1) 第4回 卒論プロット報告(2) 第5回 卒論プロット報告(3) 第6回 卒論プロット報告(4) 第7回 卒論プロット報告(5) 第8回 卒論プロット報告(6) 第9回 卒論プロット報告(7) 第10回 卒論報告(1) 第11回 卒論報告(2) 第12回 卒論報告(3) 第13回 卒論報告(4) 第14回 卒論報告(5)
<p style="text-align: center;">＜問題分析ゼミナールⅠ＞</p> 第1回 テキスト選択 第2回 テキスト報告順番決定 第3回 テキスト読解(1) 第4回 テキスト読解(2) 第5回 テキスト読解(3) 第6回 テキスト読解(4) 第7回 テキスト読解(5) 第8回 テキスト読解(6) 第9回 テキスト読解(7) 第10回 テキスト読解(8) 第11回 テキスト読解(9) 第12回 テキスト読解(10) 第13回 卒論にむけて(1) 第14回 卒論にむけて(2)	<p style="text-align: center;">＜問題分析ゼミナールⅡ＞</p> 第1回 卒論準備報告(1) 第2回 卒論準備報告(2) 第3回 卒論プロット報告(1) 第4回 卒論プロット報告(2) 第5回 卒論プロット報告(3) 第6回 卒論プロット報告(4) 第7回 卒論プロット報告(5) 第8回 卒論プロット報告(6) 第9回 卒論プロット報告(7) 第10回 卒論報告(1) 第11回 卒論報告(2) 第12回 卒論報告(3) 第13回 卒論報告(4) 第14回 卒論報告(5)					
3. 履修上の注意 特になし。						
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 社会文化史・異文化コミュニケーション史に関する文献を事前に読んでおくこと。具体的な書名等は、その都度指摘する。						
5. 教科書 ゼミメンバーとの協議で決定する						
6. 参考書 その都度指摘する						
7. 成績評価の方法 ゼミの運営は共同研究方式となる。ゼミの課題への取り組みは勿論、いかに主体的にゼミに参加したかを評価する。ゼミ課題への取り組み60%、主体的ゼミ参加40%						
8. その他 知的好奇心と、分からなかったことが分かることの快感を共有できる人を歓迎します。						

問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱ	須田 努	各2単位	4年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ 異文化コミュニケーション史・社会文化史の研究						
1. 授業の概要・到達目標						
【授業の概要】 3年次に獲得した方法論と能力に基づき、ゼミ員各人が、歴史学を対象として自由にテーマを設定して個別研究をはじめ、卒業論文を作成する。卒業論文は、2年間の勉学・研究の成果が反映したものとなる。						
【到達目標】 別添「卒業論文・卒業制作に求めること」(学部版)の基準に従い、12,000から20,000字程度(図表・注・文献リストを含む)の卒業論文を作成する。テーマは歴史学に関連したものならば、自由である。						
2. 授業内容						
<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p><問題解決ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 卒論プロット報告(1)</p> <p>第2回 卒論プロット報告(2)</p> <p>第3回 卒論プロット報告(3)</p> <p>第4回 卒論プロット報告(4)</p> <p>第5回 卒論プロット報告(5)</p> <p>第6回 卒論プロット報告(6)</p> <p>第7回 卒論プロット報告(7)</p> <p>第8回 卒論プロット報告(8)</p> <p>第9回 卒論プロット報告(9)</p> <p>第10回 卒論プロット報告(10)</p> <p>第11回 卒論プロット報告(11)</p> <p>第12回 卒論プロット報告(12)</p> <p>第13回 卒論プロット報告(13)</p> <p>第14回 卒論プロット報告(14)</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p><問題解決ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 卒論報告(1)</p> <p>第2回 卒論報告(2)</p> <p>第3回 卒論報告(3)</p> <p>第4回 卒論報告(4)</p> <p>第5回 卒論報告(5)</p> <p>第6回 卒論報告(6)</p> <p>第7回 卒論報告(7)</p> <p>第8回 卒論報告(8)</p> <p>第9回 卒論報告(9)</p> <p>第10回 卒論報告(10)</p> <p>第11回 卒論報告(11)</p> <p>第12回 卒論報告(12)</p> <p>第13回 卒論報告(13)</p> <p>第14回 卒論報告(14)</p> </td> </tr> </table>					<p><問題解決ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 卒論プロット報告(1)</p> <p>第2回 卒論プロット報告(2)</p> <p>第3回 卒論プロット報告(3)</p> <p>第4回 卒論プロット報告(4)</p> <p>第5回 卒論プロット報告(5)</p> <p>第6回 卒論プロット報告(6)</p> <p>第7回 卒論プロット報告(7)</p> <p>第8回 卒論プロット報告(8)</p> <p>第9回 卒論プロット報告(9)</p> <p>第10回 卒論プロット報告(10)</p> <p>第11回 卒論プロット報告(11)</p> <p>第12回 卒論プロット報告(12)</p> <p>第13回 卒論プロット報告(13)</p> <p>第14回 卒論プロット報告(14)</p>	<p><問題解決ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 卒論報告(1)</p> <p>第2回 卒論報告(2)</p> <p>第3回 卒論報告(3)</p> <p>第4回 卒論報告(4)</p> <p>第5回 卒論報告(5)</p> <p>第6回 卒論報告(6)</p> <p>第7回 卒論報告(7)</p> <p>第8回 卒論報告(8)</p> <p>第9回 卒論報告(9)</p> <p>第10回 卒論報告(10)</p> <p>第11回 卒論報告(11)</p> <p>第12回 卒論報告(12)</p> <p>第13回 卒論報告(13)</p> <p>第14回 卒論報告(14)</p>
<p><問題解決ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 卒論プロット報告(1)</p> <p>第2回 卒論プロット報告(2)</p> <p>第3回 卒論プロット報告(3)</p> <p>第4回 卒論プロット報告(4)</p> <p>第5回 卒論プロット報告(5)</p> <p>第6回 卒論プロット報告(6)</p> <p>第7回 卒論プロット報告(7)</p> <p>第8回 卒論プロット報告(8)</p> <p>第9回 卒論プロット報告(9)</p> <p>第10回 卒論プロット報告(10)</p> <p>第11回 卒論プロット報告(11)</p> <p>第12回 卒論プロット報告(12)</p> <p>第13回 卒論プロット報告(13)</p> <p>第14回 卒論プロット報告(14)</p>	<p><問題解決ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 卒論報告(1)</p> <p>第2回 卒論報告(2)</p> <p>第3回 卒論報告(3)</p> <p>第4回 卒論報告(4)</p> <p>第5回 卒論報告(5)</p> <p>第6回 卒論報告(6)</p> <p>第7回 卒論報告(7)</p> <p>第8回 卒論報告(8)</p> <p>第9回 卒論報告(9)</p> <p>第10回 卒論報告(10)</p> <p>第11回 卒論報告(11)</p> <p>第12回 卒論報告(12)</p> <p>第13回 卒論報告(13)</p> <p>第14回 卒論報告(14)</p>					
3. 履修上の注意						
基準に従い、卒業論文を提出した学生には、ゼミ履修4単位のほかに、2単位を付与する。なお最終的に卒業論文を提出出来なかった場合でも、ゼミ履修4単位の修得は可能である。						
4. 準備学習(予習・復習等)の内容						
社会文化史・異文化コミュニケーション史に関する文献を事前に読んでおくこと。具体的な書名等は、その都度指摘する。						
5. 教科書						
その都度指摘する						
6. 参考書						
その都度指摘する						
7. 成績評価の方法						
ゼミへの参加(50%)と卒業論文(50%)						
8. その他						
知的的好奇心と、分からなかったことが分かることの快感を共有できる人を歓迎します。						

問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱ	関口 裕昭	各2単位	3年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ 春学期：メルヒェン研究／秋学期：映画と文学の比較研究						
1. 授業の概要・到達目標 概要：文学テキストと映画を主たる対象とし、その内容を正しく理解し、分析する基本的な手法を学ぶ。 到達目標： ①テキスト解読の基礎と、そのための文献の収集・精読の方法を学ぶ ②論文作成のためのテーマ設定、構成力、文章力を身に着ける ③異文化を学ぶための基礎となる歴史・地理の知識、実践力、コミュニケーション力を培う ④映画の分析方法の基礎を習得する ⑤生涯にわたる文化への関心とそれに接する習慣を身に着ける						
2. 授業内容 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 インTRODクシヨン——メルヒェンとは何か 第2回 グリム童話「ヘンゼルとグレーテル」の分析 ①——テキスト解読 第3回 グリム童話「ヘンゼルとグレーテル」の分析 ②——比較研究 第4回 グリム童話の歴史的背景を知る 第5回 メルヒェン研究の具体例①——「赤ずきん」「ラプンツェル」「いばら姫」 第6回 メルヒェン研究の具体例②——その他 第7回 グリム・メルヒェン研究のさまざまな可能性 第8回 グリム・メルヒェン分析の実践 第9回 そのほかのメルヒェン読解① 第10回 そのほかのメルヒェン読解② 第11回 研究論文の読み方 第12回 個別発表① 第13回 個別発表② 第14回 まとめと展望 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 インTRODクシヨン——映画分析の基礎 第2回 文学テキストと映画の分析の相違 第3回 メルヒェンの原作と映画化の比較研究 第4回 ベルンハルト・シュリンク『朗読者』テキスト 講読 第5回 『朗読者』とその映画化『愛を読む人』の鑑賞 と比較分析① 第6回 『朗読者』と『愛を読む人』の比較分析② 第7回 カフカ「田舎医者」のテキストとアニメーション 映画の比較研究 第8回 映画分析の応用——映画批評の文献講読① 第9回 映画分析の応用——映画批評の文献講読② 第10回 映画鑑賞と分析① 第11回 映画鑑賞と分析② 第12回 個別発表と論文執筆への準備① 第13回 個別発表と論文執筆への準備② 第14回 まとめと展望 </td> </tr> </table>					<問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 インTRODクシヨン——メルヒェンとは何か 第2回 グリム童話「ヘンゼルとグレーテル」の分析 ①——テキスト解読 第3回 グリム童話「ヘンゼルとグレーテル」の分析 ②——比較研究 第4回 グリム童話の歴史的背景を知る 第5回 メルヒェン研究の具体例①——「赤ずきん」「ラプンツェル」「いばら姫」 第6回 メルヒェン研究の具体例②——その他 第7回 グリム・メルヒェン研究のさまざまな可能性 第8回 グリム・メルヒェン分析の実践 第9回 そのほかのメルヒェン読解① 第10回 そのほかのメルヒェン読解② 第11回 研究論文の読み方 第12回 個別発表① 第13回 個別発表② 第14回 まとめと展望	<問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 インTRODクシヨン——映画分析の基礎 第2回 文学テキストと映画の分析の相違 第3回 メルヒェンの原作と映画化の比較研究 第4回 ベルンハルト・シュリンク『朗読者』テキスト 講読 第5回 『朗読者』とその映画化『愛を読む人』の鑑賞 と比較分析① 第6回 『朗読者』と『愛を読む人』の比較分析② 第7回 カフカ「田舎医者」のテキストとアニメーション 映画の比較研究 第8回 映画分析の応用——映画批評の文献講読① 第9回 映画分析の応用——映画批評の文献講読② 第10回 映画鑑賞と分析① 第11回 映画鑑賞と分析② 第12回 個別発表と論文執筆への準備① 第13回 個別発表と論文執筆への準備② 第14回 まとめと展望
<問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 インTRODクシヨン——メルヒェンとは何か 第2回 グリム童話「ヘンゼルとグレーテル」の分析 ①——テキスト解読 第3回 グリム童話「ヘンゼルとグレーテル」の分析 ②——比較研究 第4回 グリム童話の歴史的背景を知る 第5回 メルヒェン研究の具体例①——「赤ずきん」「ラプンツェル」「いばら姫」 第6回 メルヒェン研究の具体例②——その他 第7回 グリム・メルヒェン研究のさまざまな可能性 第8回 グリム・メルヒェン分析の実践 第9回 そのほかのメルヒェン読解① 第10回 そのほかのメルヒェン読解② 第11回 研究論文の読み方 第12回 個別発表① 第13回 個別発表② 第14回 まとめと展望	<問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 インTRODクシヨン——映画分析の基礎 第2回 文学テキストと映画の分析の相違 第3回 メルヒェンの原作と映画化の比較研究 第4回 ベルンハルト・シュリンク『朗読者』テキスト 講読 第5回 『朗読者』とその映画化『愛を読む人』の鑑賞 と比較分析① 第6回 『朗読者』と『愛を読む人』の比較分析② 第7回 カフカ「田舎医者」のテキストとアニメーション 映画の比較研究 第8回 映画分析の応用——映画批評の文献講読① 第9回 映画分析の応用——映画批評の文献講読② 第10回 映画鑑賞と分析① 第11回 映画鑑賞と分析② 第12回 個別発表と論文執筆への準備① 第13回 個別発表と論文執筆への準備② 第14回 まとめと展望					
3. 履修上の注意 本ゼミナールは3年生と4年生の合同で、2コマ通しで行います。受講者は2コマを通して受講しなければなりません。大変な面もありますが、3・4年生間の交流を深めたり、映画を鑑賞した後にそれについて分析したりする時間が十分に与えられるなどの利点もあります。そのことを了解したうえで受講して下さい。						
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 受講者が決定次第、読むべきテキストを前もってお知らせしますので、必ずそれを読んでから出席してください。中には長いテキスト（小説など）もありますので、それだけの覚悟をもって受講して下さい。						
5. 教科書 特に指定しません。随時プリントなどを配布します。						
6. 参考書 ゼミの時間中に指示します。						
7. 成績評価の方法 出席とゼミへの参加度、および学期末のレポートをそれぞれ50%で評価します。3年生の欠席は3回までで、それ以上休むと失格になります。4年生は就職活動などを多少考慮しますが、できる限り参加することを条件とします。						
8. その他 目の前のすぐに役立つようなものばかりに飛びつかず、自分の感性を大事にして、一生涯大切にできる文学や芸術への愛着をもち、長く困難な人生を乗り越える本当の「人間力」を学生時代に身につけましょう。						

問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱ	関口 裕昭	各2単位	4年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ 春学期：カフカ研究／秋学期：歴史的背景からみた映画の分析						
1. 授業の概要・到達目標 概要：文学テキストと映画を主たる対象とし、その内容を的確に理解し、比較的手法により分析することを学ぶ。 到達目標： ①テキスト解読の応用力と、そのための文献の収集・精読の方法を学ぶ ②卒業論文作成のための的確なテーマを設定し、豊かな構成力、文章力を身に着ける ③異文化を学ぶためのより深く広範囲な歴史・地理の知識、実践力、コミュニケーション力を培う ④映画分析の様々な方法を習得し、個々の作品において実践する ⑤生涯にわたる文化への関心とそれに接する習慣を身に着ける ⑥以上を踏まえた上で、ゼミで培った学力と「人間力」を総動員して、第一志望の会社の内定をなんとしても勝ちとる						
2. 授業内容 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題解決ゼミナールⅠ> 第1回 インTRODクシヨン—文学テキストの読み方 第2回 カフカの生涯と時代背景 第3回 『変身』を読む①—テキスト精読 第4回 『変身』を読む②—映画との比較から 第5回 『審判』を読む①—テキスト精読 第6回 『審判』を読む②—映画との比較から 第7回 短編小説の読み方 第8回 カフカの短編① 第9回 カフカの短編② 第10回 カフカの短編—個別発表 第11回 カフカと漫画・アニメーション 第12回 卒論中間発表① 第13回 卒論中間発表② 第14回 まとめと展望 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題解決ゼミナールⅡ> 第1回 インTRODクシヨン—戦争と映画 第2回 戦争映画とその分析の方法 第3回 映画鑑賞と分析① 第4回 映画鑑賞と分析② 第5回 映画鑑賞と分析③ 第6回 卒論の中間発表 第7回 映画鑑賞と分析④ 第8回 映画鑑賞と分析⑤ 第9回 映画分析の応用—映画批評の文献講読① 第10回 映画分析の応用—映画批評の文献講読② 第11回 卒論の発表と検討① 第12回 卒論の発表と検討② 第13回 卒論の発表と検討③ 第14回 まとめと展望 </td> </tr> </table>					<問題解決ゼミナールⅠ> 第1回 インTRODクシヨン—文学テキストの読み方 第2回 カフカの生涯と時代背景 第3回 『変身』を読む①—テキスト精読 第4回 『変身』を読む②—映画との比較から 第5回 『審判』を読む①—テキスト精読 第6回 『審判』を読む②—映画との比較から 第7回 短編小説の読み方 第8回 カフカの短編① 第9回 カフカの短編② 第10回 カフカの短編—個別発表 第11回 カフカと漫画・アニメーション 第12回 卒論中間発表① 第13回 卒論中間発表② 第14回 まとめと展望	<問題解決ゼミナールⅡ> 第1回 インTRODクシヨン—戦争と映画 第2回 戦争映画とその分析の方法 第3回 映画鑑賞と分析① 第4回 映画鑑賞と分析② 第5回 映画鑑賞と分析③ 第6回 卒論の中間発表 第7回 映画鑑賞と分析④ 第8回 映画鑑賞と分析⑤ 第9回 映画分析の応用—映画批評の文献講読① 第10回 映画分析の応用—映画批評の文献講読② 第11回 卒論の発表と検討① 第12回 卒論の発表と検討② 第13回 卒論の発表と検討③ 第14回 まとめと展望
<問題解決ゼミナールⅠ> 第1回 インTRODクシヨン—文学テキストの読み方 第2回 カフカの生涯と時代背景 第3回 『変身』を読む①—テキスト精読 第4回 『変身』を読む②—映画との比較から 第5回 『審判』を読む①—テキスト精読 第6回 『審判』を読む②—映画との比較から 第7回 短編小説の読み方 第8回 カフカの短編① 第9回 カフカの短編② 第10回 カフカの短編—個別発表 第11回 カフカと漫画・アニメーション 第12回 卒論中間発表① 第13回 卒論中間発表② 第14回 まとめと展望	<問題解決ゼミナールⅡ> 第1回 インTRODクシヨン—戦争と映画 第2回 戦争映画とその分析の方法 第3回 映画鑑賞と分析① 第4回 映画鑑賞と分析② 第5回 映画鑑賞と分析③ 第6回 卒論の中間発表 第7回 映画鑑賞と分析④ 第8回 映画鑑賞と分析⑤ 第9回 映画分析の応用—映画批評の文献講読① 第10回 映画分析の応用—映画批評の文献講読② 第11回 卒論の発表と検討① 第12回 卒論の発表と検討② 第13回 卒論の発表と検討③ 第14回 まとめと展望					
3. 履修上の注意 本ゼミナールは3年生と4年生の合同で、2コマ通しで行います。受講者は2コマを通して受講しなければなりません。大変な面もありますが、3・4年生間の交流を深めたり、映画を鑑賞した後にそれについて分析したりする時間が十分にとれるなどの利点もあります。そのことを了解したうえで受講して下さい。						
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 受講者が決定次第、読むべきテキストを前もってお知らせしますので、必ずそれを読んでから出席してください。中には長いテキスト（小説など）もありますので、それだけの覚悟をもって受講して下さい。						
5. 教科書 特に指定しません。随時プリントなどを配布します。						
6. 参考書 ゼミの時間中に指示します。						
7. 成績評価の方法 出席とゼミへの参加度、および学期末のレポートをそれぞれ50%で評価します。3年生の欠席は3回までで、それ以上休むと失格になります。4年生は就職活動などを多少考慮しますが、できる限り参加することを条件とします。						
8. その他 目の前のすぐに役立つものばかりに飛びつかず、自分の感性を大事にして、一生涯大切にできる文学や芸術への愛着をもち、長く困難な人生を乗り越える本当の「人間力」を学生時代に身につけましょう。						

問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱ	竹崎 一真	各2単位	3年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ スポーツ・身体・ジェンダーに関する社会学／カルチュラル・スタディーズ						
1. 授業の概要・到達目標 【授業概要】 近年急速に広がるデジタルテクノロジーとその影響で変貌しつつある「身体」を社会的な視点から検討します。メディアのデジタル化やAIなどの新しい技術は、これまでのスポーツや私たちの身体に対する考え方を根本的に変えようとしています。アスリートのパフォーマンスはもはや人間の経験ではなく、データに依存し始めています。また私たちの身体の理想も、スマートフォンやスマートウォッチなどのデジタルデバイスと同期することで作られるようになりました。あるいはInstagramなどSNSの発達は、身体コミュニケーションの新しい形態を生み出しました。こうしたデジタルテクノロジーと私たちの身体の関係を社会的な見地から考えていきます。 【到達目標】 自ら問題を発見し分析する力を養うとともに、思い込みや根拠なき判断に囚われない思考の獲得を目指します。						
2. 授業内容 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 クラスの概要説明 第2回 文献購読① 第3回 文献購読② 第4回 文献購読③ 第5回 文献購読④ 第6回 文献購読⑤ 第7回 研究プロジェクト①グループ 第8回 研究プロジェクト②グループ 第9回 研究プロジェクト③グループ 第10回 研究成果発表①グループ 第11回 研究成果発表②グループ 第12回 研究成果発表③グループ 第13回 研究成果発表④グループ 第14回 まとめ </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 クラスの概要説明 第2回 文献購読① 第3回 文献購読② 第4回 文献購読③ 第5回 研究プロジェクト①個人 第6回 研究プロジェクト②個人 第7回 研究プロジェクト③個人 第8回 研究方法を学ぶ① 第9回 研究方法を学ぶ② 第10回 研究構想発表①個人 第11回 研究構想発表②個人 第12回 研究構想発表③個人 第13回 研究構想発表④個人 第14回 まとめ </td> </tr> </table>					<問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 クラスの概要説明 第2回 文献購読① 第3回 文献購読② 第4回 文献購読③ 第5回 文献購読④ 第6回 文献購読⑤ 第7回 研究プロジェクト①グループ 第8回 研究プロジェクト②グループ 第9回 研究プロジェクト③グループ 第10回 研究成果発表①グループ 第11回 研究成果発表②グループ 第12回 研究成果発表③グループ 第13回 研究成果発表④グループ 第14回 まとめ	<問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 クラスの概要説明 第2回 文献購読① 第3回 文献購読② 第4回 文献購読③ 第5回 研究プロジェクト①個人 第6回 研究プロジェクト②個人 第7回 研究プロジェクト③個人 第8回 研究方法を学ぶ① 第9回 研究方法を学ぶ② 第10回 研究構想発表①個人 第11回 研究構想発表②個人 第12回 研究構想発表③個人 第13回 研究構想発表④個人 第14回 まとめ
<問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 クラスの概要説明 第2回 文献購読① 第3回 文献購読② 第4回 文献購読③ 第5回 文献購読④ 第6回 文献購読⑤ 第7回 研究プロジェクト①グループ 第8回 研究プロジェクト②グループ 第9回 研究プロジェクト③グループ 第10回 研究成果発表①グループ 第11回 研究成果発表②グループ 第12回 研究成果発表③グループ 第13回 研究成果発表④グループ 第14回 まとめ	<問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 クラスの概要説明 第2回 文献購読① 第3回 文献購読② 第4回 文献購読③ 第5回 研究プロジェクト①個人 第6回 研究プロジェクト②個人 第7回 研究プロジェクト③個人 第8回 研究方法を学ぶ① 第9回 研究方法を学ぶ② 第10回 研究構想発表①個人 第11回 研究構想発表②個人 第12回 研究構想発表③個人 第13回 研究構想発表④個人 第14回 まとめ					
3. 履修上の注意 予備知識は不要ですが、問題意識を持って授業に臨んでください。						
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 個人やグループで研究を行ってもらいます。ゼミ以外での学習（研究）時間を確保してください。						
5. 教科書 マーゴ・デメッロ著『ボディ・スタディーズ』（2017年）晃洋書房 上野千鶴子著『情報生産者になる』（2018年）ちくま新書						
6. 参考書 適宜、紹介します。						
7. 成績評価の方法 平常点 50%、研究発表 50%						
8. その他 何かあれば連絡します。						

問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱ	竹崎 一真	各2単位	4年次	科目ナンバー (IC) IND312J
◆研究テーマ スポーツ・身体・ジェンダーに関する社会学／カルチュラル・スタディーズ				
1. 授業の概要・到達目標 【授業概要】 近年急速に広がるデジタルテクノロジーとその影響で変貌しつつある「身体」を社会的な視点から検討します。メディアのデジタル化やAIなどの新しい技術は、これまでのスポーツや私たちの身体に対する考え方を根本的に変えようとしています。アスリートのパフォーマンスはもはや人間の経験ではなく、データに依存し始めています。また私たちの身体の理想も、スマートフォンやスマートウォッチなどのデジタルデバイスと同期することで作られるようになりました。あるいはInstagramなどSNSの発達は、身体コミュニケーションの新しい形態を生み出しました。こうしたデジタルテクノロジーと私たちの身体の関係を社会的な見地から考えていきます。 【到達目標】 自ら問題を発見し分析する力を養い、卒業論文の完成を目指します。				
2. 授業内容				
<問題解決ゼミナールⅠ>		<問題解決ゼミナールⅡ>		
第1回	クラスの概要説明	第1回	クラスの概要説明	
第2回	卒業論文の書き方①テーマの設定方法	第2回	中間報告会①	
第3回	卒業論文の書き方②先行研究と理論	第3回	中間報告会②	
第4回	卒業論文の書き方③調査方法（資料収集）	第4回	中間報告会③	
第5回	卒業論文の書き方④調査方法（インタビュー）	第5回	中間報告会④	
第6回	第一回研究構想発表①	第6回	中間報告会⑤	
第7回	第一回研究構想発表②	第7回	研究進捗報告①	
第8回	第一回研究構想発表③	第8回	研究進捗報告②	
第9回	第一回研究構想発表④	第9回	研究進捗報告③	
第10回	第二回研究構想発表①	第10回	研究進捗報告④	
第11回	第二回研究構想発表②	第11回	研究進捗報告⑤	
第12回	第二回研究構想発表③	第12回	成果発表①	
第13回	第二回研究構想発表④	第13回	成果発表②	
第14回	まとめ	第14回	成果発表③およびまとめ	
3. 履修上の注意 予備知識は不要ですが、問題意識を持って授業に臨んでください。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 卒業論文の執筆の時間を確保してください。				
5. 教科書 特になし。				
6. 参考書 適宜、紹介します。				
7. 成績評価の方法 平常点 50%、成果発表 50%				
8. その他 何かあれば連絡します。				

問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱ	竹中 克久	各2単位	3年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ 組織社会学—現代社会を読み解く						
1. 授業の概要・到達目標 現代社会は、組織（企業、大学、病院など）と関わらずに生活することは不可能なものになっている。その「関わり」は直接的なものから、間接的なものまで非常に多様である。しかし、その組織とはいったい何なのだろうか？ もともと、「一人ではできないこと」を可能にするために組織はできることが多い。それによって大きな成果や一人では味わえないような一体感をもつことができたりもする。ところが、いつの間にか組織それ自体が意志を持って動き出したかのように、誰にも制御できないものになっていくことがある。たとえば今日では、メディアで組織の不祥事や、組織の「ウソ」である偽装問題を目にしたり耳にしたりすることがある種「当たり前」になっている。なぜ、このような社会問題は起こるのだろうか。また、過労死・過労自殺といった「悲劇」が引き起こされる背景には何があるのだろうか。 ただ、「問題が起こっている」ことを指摘することだけでは、学問ではない。そのメカニズムを論理的に説明することが重要である。そういった問いかけを通じて「当たり前」とらわれない能力を養うことがこのゼミナールの目的である。						
2. 授業内容 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> <問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 イントロダクション 第2回 論文読解1 第3回 論文読解2 第4回 論文読解3 第5回 個人研究発表1（4名） 第6回 個人研究発表2（4名） 第7回 個人研究発表3（4名） 第8回 個人研究発表4（4名） 第9回 個人研究発表5（4名） 第10回 グルーピング・ブレインストーミング（ゼミナール大会での研究発表準備開始） 第11回 グループ研究1 第12回 グループ研究2 第13回 グループ研究3 第14回 プレゼンテーション </td> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> <問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 グループ研究1 第2回 グループ研究2 第3回 グループ研究3 第4回 中間プレゼンテーション 第5回 グループ研究4 第6回 グループ研究5 第7回 グループ研究6 第8回 中間プレゼンテーション 第9回 グループ研究7 第10回 グループ研究8 第11回 最終プレゼンテーション・ゼミナール大会での発表・振り返り 第12回 グループ研究に基づいた論文執筆1（『情コミ・ジャーナル』執筆準備開始） 第13回 グループ研究に基づいた論文執筆2 第14回 グループ研究に基づいた論文執筆3・振り返り </td> </tr> </table>					<問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 イントロダクション 第2回 論文読解1 第3回 論文読解2 第4回 論文読解3 第5回 個人研究発表1（4名） 第6回 個人研究発表2（4名） 第7回 個人研究発表3（4名） 第8回 個人研究発表4（4名） 第9回 個人研究発表5（4名） 第10回 グルーピング・ブレインストーミング（ゼミナール大会での研究発表準備開始） 第11回 グループ研究1 第12回 グループ研究2 第13回 グループ研究3 第14回 プレゼンテーション	<問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 グループ研究1 第2回 グループ研究2 第3回 グループ研究3 第4回 中間プレゼンテーション 第5回 グループ研究4 第6回 グループ研究5 第7回 グループ研究6 第8回 中間プレゼンテーション 第9回 グループ研究7 第10回 グループ研究8 第11回 最終プレゼンテーション・ゼミナール大会での発表・振り返り 第12回 グループ研究に基づいた論文執筆1（『情コミ・ジャーナル』執筆準備開始） 第13回 グループ研究に基づいた論文執筆2 第14回 グループ研究に基づいた論文執筆3・振り返り
<問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 イントロダクション 第2回 論文読解1 第3回 論文読解2 第4回 論文読解3 第5回 個人研究発表1（4名） 第6回 個人研究発表2（4名） 第7回 個人研究発表3（4名） 第8回 個人研究発表4（4名） 第9回 個人研究発表5（4名） 第10回 グルーピング・ブレインストーミング（ゼミナール大会での研究発表準備開始） 第11回 グループ研究1 第12回 グループ研究2 第13回 グループ研究3 第14回 プレゼンテーション	<問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 グループ研究1 第2回 グループ研究2 第3回 グループ研究3 第4回 中間プレゼンテーション 第5回 グループ研究4 第6回 グループ研究5 第7回 グループ研究6 第8回 中間プレゼンテーション 第9回 グループ研究7 第10回 グループ研究8 第11回 最終プレゼンテーション・ゼミナール大会での発表・振り返り 第12回 グループ研究に基づいた論文執筆1（『情コミ・ジャーナル』執筆準備開始） 第13回 グループ研究に基づいた論文執筆2 第14回 グループ研究に基づいた論文執筆3・振り返り					
3. 履修上の注意 ゼミナールの要件ではないが、1・2年次開講の「組織論」、3・4年次開講の「組織と情報」を履修していることが望ましい。						
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 グループ研究は構成メンバーの事前準備が必須であり、ゼミナールにおけるコメントを受けた復習・振り返りも必須である。						
5. 教科書 『組織の理論社会学—コミュニケーション・社会・人間』、竹中克久、文眞堂、2013						
6. 参考書 授業中に提供あるいは指示する。						
7. 成績評価の方法 プレゼンテーション70%、ディスカッション30%						
8. その他 常識を疑ったり、常識を打ち破ったりすること、それは、ゼミナールに参加するみなさんのコミュニケーションから生まれると考えています。私はその中の一員として、サポートしたいと考えています。とにかく、楽しいゼミにしたいですね。						

問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱ	竹中 克久	各2単位	4年次	科目ナンバー (IC) IND312J
◆研究テーマ 組織社会学—現代社会を読み解く				
1. 授業の概要・到達目標 大学4年間の集大成として、単著で卒業論文を執筆する。 テーマは組織に関連するものや、広く社会に関するものとする。その際に社会学的手法に基づくことが重要である。 教育組織における「洗脳性」や、企業組織における「宗教性」など、多様な組織を社会的に分析し、先行研究の読解、最新の研究動向の組み入れ、それに基づいた独自の問題関心と結論をともなう卒業論文の作成を目標とする。 また、完成した卒業論文を『情コミ・ジャーナル』に投稿することが望ましい。問題解決ゼミナールⅠでは、主としてパワーポイントによる研究発表を行いながら、論文の方向性を決定する。問題解決ゼミナールⅡでは、文書化した原稿に基づき、卒業論文の完成を目指す。				
2. 授業内容				
<問題解決ゼミナールⅠ>		<問題解決ゼミナールⅡ>		
第1回 インTRODクシヨN		第1回 個人研究発表1		
第2回 個人研究発表1		第2回 個人研究発表2		
第3回 個人研究発表2		第3回 個人研究発表3		
第4回 個人研究発表3		第4回 個人研究発表4		
第5回 個人研究発表4		第5回 個人研究発表5		
第6回 個人研究発表5		第6回 個人研究発表6		
第7回 中間考察		第7回 個人研究発表7		
第8回 個人研究発表6		第8回 個人研究発表8		
第9回 個人研究発表7		第9回 個人研究発表9		
第10回 個人研究発表8		第10回 個人研究発表10		
第11回 個人研究発表9		第11回 個人研究発表11		
第12回 個人研究発表10		第12回 個人研究発表12		
第13回 個人研究発表11		第13回 個人研究発表13		
第14回 個人研究発表12・総括		第14回 卒業論文総括		
3. 履修上の注意 ゼミナールの要件ではないが、1・2年次開講の「組織論」、3・4年次開講の「組織と情報」を履修していることが望ましい。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 半期ごとに2回程度の個人研究発表となるため、十分に事前準備を行うこと。				
5. 教科書 『組織の理論社会学—コミュニケーション・社会・人間』、竹中克久、文眞堂、2013				
6. 参考書 テーマに合わせて適宜指示する。				
7. 成績評価の方法 卒業論文100%				
8. その他 情報コミュニケーション学部では卒業論文は必修ではありません。しかし、本ゼミナールでは卒業論文の完成こそが大学生活の集大成であると考えています。20代前半に苦勞して考え抜いたことを文書化しておくことは、30、40歳になったとき、あるいはその後の人生においても、振り返るポイントを作成しておくことでもあります。教員として全面的にバックアップしますので、全員で卒業論文作成の苦勞と達成感を共有しましょう。				

問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱ	塚原 康博	各2単位	3年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ 現代社会と情報コミュニケーション—問題分析編—						
1. 授業の概要・到達目標 現代の社会は、情報化、少子化、高齢化、グローバル化などによって、特徴づけられているが、本ゼミナールでは、現代の社会に関わるあらゆる問題を取り上げ、その原因やその解決策を考えていく。その過程で、情報やコミュニケーションの意義や重要性を理解してもらう。本ゼミナールでは、グループ研究を行う。学生が研究したいテーマに合わせて数人からなるグループをつくり、学生はどれか1つに参加し、ゼミナールでの質疑応答を経て、研究成果をまとめる。研究成果は、ゼミナール大会で発表する。 社会の問題の原因や解決策を考えることで、学生が論理的な思考力を身に着けること、グループ研究を通じて、学生が協調性やリーダーシップを身につけること、研究を進める過程で、学生が関連文献の調べ方や研究報告のまとめ方を学ぶこと、ゼミナールやゼミナール大会で発表や質疑応答を通じて、学生がプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を高めていくことを目指している。						
2. 授業内容 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 ゼミナールの進め方 第2回 グループ研究のテーマとグループ分け 第3回 グループごとの研究発表と質疑応答、その1 第4回 グループごとの研究発表と質疑応答、その2 第5回 グループごとの研究発表と質疑応答、その3 第6回 グループごとの研究発表と質疑応答、その4 第7回 グループごとの研究発表と質疑応答、その5 第8回 その時の重要な時事問題に関するグループディスカッション、その1 第9回 グループごとの研究発表と質疑応答、その6 第10回 グループごとの研究発表と質疑応答、その7 第11回 グループごとの研究発表と質疑応答、その8 第12回 グループごとの研究発表と質疑応答、その9 第13回 グループごとの研究発表と質疑応答、その10 第14回 その時の重要な時事問題に関するグループディスカッション、その2 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 グループごとの研究発表と質疑応答、その1 第2回 グループごとの研究発表と質疑応答、その2 第3回 グループごとの研究発表と質疑応答、その3 第4回 グループごとの研究発表と質疑応答、その4 第5回 グループごとの研究発表と質疑応答、その5 第6回 その時の重要な時事問題に関するグループディスカッション、その1 第7回 グループごとの研究発表と質疑応答、その6 第8回 グループごとの研究発表と質疑応答、その7 第9回 グループごとの研究発表と質疑応答、その8 第10回 グループごとの研究発表と質疑応答、その9 第11回 その時の重要な時事問題に関するグループディスカッション、その2 第12回 グループの最終研究発表と質疑応答、その1 第13回 グループの最終研究発表と質疑応答、その2 第14回 グループの最終研究発表と質疑応答、その3 </td> </tr> </table>					<問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 ゼミナールの進め方 第2回 グループ研究のテーマとグループ分け 第3回 グループごとの研究発表と質疑応答、その1 第4回 グループごとの研究発表と質疑応答、その2 第5回 グループごとの研究発表と質疑応答、その3 第6回 グループごとの研究発表と質疑応答、その4 第7回 グループごとの研究発表と質疑応答、その5 第8回 その時の重要な時事問題に関するグループディスカッション、その1 第9回 グループごとの研究発表と質疑応答、その6 第10回 グループごとの研究発表と質疑応答、その7 第11回 グループごとの研究発表と質疑応答、その8 第12回 グループごとの研究発表と質疑応答、その9 第13回 グループごとの研究発表と質疑応答、その10 第14回 その時の重要な時事問題に関するグループディスカッション、その2	<問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 グループごとの研究発表と質疑応答、その1 第2回 グループごとの研究発表と質疑応答、その2 第3回 グループごとの研究発表と質疑応答、その3 第4回 グループごとの研究発表と質疑応答、その4 第5回 グループごとの研究発表と質疑応答、その5 第6回 その時の重要な時事問題に関するグループディスカッション、その1 第7回 グループごとの研究発表と質疑応答、その6 第8回 グループごとの研究発表と質疑応答、その7 第9回 グループごとの研究発表と質疑応答、その8 第10回 グループごとの研究発表と質疑応答、その9 第11回 その時の重要な時事問題に関するグループディスカッション、その2 第12回 グループの最終研究発表と質疑応答、その1 第13回 グループの最終研究発表と質疑応答、その2 第14回 グループの最終研究発表と質疑応答、その3
<問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 ゼミナールの進め方 第2回 グループ研究のテーマとグループ分け 第3回 グループごとの研究発表と質疑応答、その1 第4回 グループごとの研究発表と質疑応答、その2 第5回 グループごとの研究発表と質疑応答、その3 第6回 グループごとの研究発表と質疑応答、その4 第7回 グループごとの研究発表と質疑応答、その5 第8回 その時の重要な時事問題に関するグループディスカッション、その1 第9回 グループごとの研究発表と質疑応答、その6 第10回 グループごとの研究発表と質疑応答、その7 第11回 グループごとの研究発表と質疑応答、その8 第12回 グループごとの研究発表と質疑応答、その9 第13回 グループごとの研究発表と質疑応答、その10 第14回 その時の重要な時事問題に関するグループディスカッション、その2	<問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 グループごとの研究発表と質疑応答、その1 第2回 グループごとの研究発表と質疑応答、その2 第3回 グループごとの研究発表と質疑応答、その3 第4回 グループごとの研究発表と質疑応答、その4 第5回 グループごとの研究発表と質疑応答、その5 第6回 その時の重要な時事問題に関するグループディスカッション、その1 第7回 グループごとの研究発表と質疑応答、その6 第8回 グループごとの研究発表と質疑応答、その7 第9回 グループごとの研究発表と質疑応答、その8 第10回 グループごとの研究発表と質疑応答、その9 第11回 その時の重要な時事問題に関するグループディスカッション、その2 第12回 グループの最終研究発表と質疑応答、その1 第13回 グループの最終研究発表と質疑応答、その2 第14回 グループの最終研究発表と質疑応答、その3					
3. 履修上の注意 授業に出席し、ゼミナールでは積極的に発言し、報告の際はしっかり準備をしたうえで、ゼミナールに臨むこと。						
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 本ゼミナールでは、社会問題への強い関心が求められるので、新聞等のニュースには目を通し、その原因や解決策を考えておくこと。						
5. 教科書 使用しない。						
6. 参考書 使用しない。ゼミナールで議論する新聞記事や資料は教員が用意する。						
7. 成績評価の方法 平常点（100%）、すなわちゼミナールやゼミナール大会での研究報告や質疑応答によって評価する。						
8. その他 社会の問題に関心のある学生、そして「やる気」と「行動力」のある学生の参加を希望したい。						

問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱ	塚原 康博	各2単位	4年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ						
現代社会と情報コミュニケーション—問題解決編—						
1. 授業の概要・到達目標						
<p>現代の社会は、情報化、少子化、高齢化、グローバル化などによって、特徴づけられているが、本ゼミナールでは、現代の社会に関わるあらゆる問題を取り上げ、その原因やその解決策を考えていく。その過程で、情報やコミュニケーションの意義や重要性を理解してもらう。本ゼミナールでは、個人研究を行う。学生が社会問題の中から研究したいテーマを選び、ゼミナールでの質疑応答を経て、研究成果をリサーチペーパーとしてまとめ、提出してもらう。分量は少なくてもよい。</p> <p>社会の問題の原因や解決策を考えることで、学生が論理的な思考力を身に着けること、個人研究を進める過程で、学生が関連文献の調べ方や研究報告のまとめ方を学ぶこと、ゼミナールでの研究発表や質疑応答を通じて、学生がプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を高めていくことを目指している。</p>						
2. 授業内容						
<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p><問題解決ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 ゼミナールの進め方</p> <p>第2回 個人研究の研究テーマの決定</p> <p>第3回 個人の研究発表と質疑応答、その1</p> <p>第4回 個人の研究発表と質疑応答、その2</p> <p>第5回 個人の研究発表と質疑応答、その3</p> <p>第6回 個人の研究発表と質疑応答、その4</p> <p>第7回 個人の研究発表と質疑応答、その5</p> <p>第8回 その時の重要な時事問題に関するグループディスカッション、その1</p> <p>第9回 個人の研究発表と質疑応答、その6</p> <p>第10回 個人の研究発表と質疑応答、その7</p> <p>第11回 個人の研究発表と質疑応答、その8</p> <p>第12回 個人の研究発表と質疑応答、その9</p> <p>第13回 個人の研究発表と質疑応答、その10</p> <p>第14回 その時の重要な時事問題に関するグループディスカッション、その2</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p><問題解決ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 個人の研究発表と質疑応答、その1</p> <p>第2回 個人の研究発表と質疑応答、その2</p> <p>第3回 個人の研究発表と質疑応答、その3</p> <p>第4回 個人の研究発表と質疑応答、その4</p> <p>第5回 個人の研究発表と質疑応答、その5</p> <p>第6回 その時の重要な時事問題に関するグループディスカッション、その1</p> <p>第7回 個人の研究発表と質疑応答、その6</p> <p>第8回 個人の研究発表と質疑応答、その7</p> <p>第9回 個人の研究発表と質疑応答、その8</p> <p>第10回 個人の研究発表と質疑応答、その9</p> <p>第11回 その時の重要な時事問題に関するグループディスカッション、その2</p> <p>第12回 個人の最終研究発表と質疑応答、その1</p> <p>第13回 個人の最終研究発表と質疑応答、その2</p> <p>第14回 個人の最終研究発表と質疑応答、その3</p> </td> </tr> </table>					<p><問題解決ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 ゼミナールの進め方</p> <p>第2回 個人研究の研究テーマの決定</p> <p>第3回 個人の研究発表と質疑応答、その1</p> <p>第4回 個人の研究発表と質疑応答、その2</p> <p>第5回 個人の研究発表と質疑応答、その3</p> <p>第6回 個人の研究発表と質疑応答、その4</p> <p>第7回 個人の研究発表と質疑応答、その5</p> <p>第8回 その時の重要な時事問題に関するグループディスカッション、その1</p> <p>第9回 個人の研究発表と質疑応答、その6</p> <p>第10回 個人の研究発表と質疑応答、その7</p> <p>第11回 個人の研究発表と質疑応答、その8</p> <p>第12回 個人の研究発表と質疑応答、その9</p> <p>第13回 個人の研究発表と質疑応答、その10</p> <p>第14回 その時の重要な時事問題に関するグループディスカッション、その2</p>	<p><問題解決ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 個人の研究発表と質疑応答、その1</p> <p>第2回 個人の研究発表と質疑応答、その2</p> <p>第3回 個人の研究発表と質疑応答、その3</p> <p>第4回 個人の研究発表と質疑応答、その4</p> <p>第5回 個人の研究発表と質疑応答、その5</p> <p>第6回 その時の重要な時事問題に関するグループディスカッション、その1</p> <p>第7回 個人の研究発表と質疑応答、その6</p> <p>第8回 個人の研究発表と質疑応答、その7</p> <p>第9回 個人の研究発表と質疑応答、その8</p> <p>第10回 個人の研究発表と質疑応答、その9</p> <p>第11回 その時の重要な時事問題に関するグループディスカッション、その2</p> <p>第12回 個人の最終研究発表と質疑応答、その1</p> <p>第13回 個人の最終研究発表と質疑応答、その2</p> <p>第14回 個人の最終研究発表と質疑応答、その3</p>
<p><問題解決ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 ゼミナールの進め方</p> <p>第2回 個人研究の研究テーマの決定</p> <p>第3回 個人の研究発表と質疑応答、その1</p> <p>第4回 個人の研究発表と質疑応答、その2</p> <p>第5回 個人の研究発表と質疑応答、その3</p> <p>第6回 個人の研究発表と質疑応答、その4</p> <p>第7回 個人の研究発表と質疑応答、その5</p> <p>第8回 その時の重要な時事問題に関するグループディスカッション、その1</p> <p>第9回 個人の研究発表と質疑応答、その6</p> <p>第10回 個人の研究発表と質疑応答、その7</p> <p>第11回 個人の研究発表と質疑応答、その8</p> <p>第12回 個人の研究発表と質疑応答、その9</p> <p>第13回 個人の研究発表と質疑応答、その10</p> <p>第14回 その時の重要な時事問題に関するグループディスカッション、その2</p>	<p><問題解決ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 個人の研究発表と質疑応答、その1</p> <p>第2回 個人の研究発表と質疑応答、その2</p> <p>第3回 個人の研究発表と質疑応答、その3</p> <p>第4回 個人の研究発表と質疑応答、その4</p> <p>第5回 個人の研究発表と質疑応答、その5</p> <p>第6回 その時の重要な時事問題に関するグループディスカッション、その1</p> <p>第7回 個人の研究発表と質疑応答、その6</p> <p>第8回 個人の研究発表と質疑応答、その7</p> <p>第9回 個人の研究発表と質疑応答、その8</p> <p>第10回 個人の研究発表と質疑応答、その9</p> <p>第11回 その時の重要な時事問題に関するグループディスカッション、その2</p> <p>第12回 個人の最終研究発表と質疑応答、その1</p> <p>第13回 個人の最終研究発表と質疑応答、その2</p> <p>第14回 個人の最終研究発表と質疑応答、その3</p>					
3. 履修上の注意						
授業に出席し、ゼミナールでは積極的に発言し、報告の際はしっかり準備をしたうえで、ゼミナールに臨むこと。						
4. 準備学習（予習・復習等）の内容						
本ゼミナールでは、社会問題への強い関心が求められるので、新聞等のニュースには目を通し、その原因や解決策を考えておくこと。						
5. 教科書						
使用しない。						
6. 参考書						
使用しない。ゼミナールで議論する新聞記事や資料は教員が用意する。						
7. 成績評価の方法						
ゼミナールでの研究報告や質疑応答などの平常点（60%）とリサーチペーパー（40%）により評価する。						
8. その他						
社会の問題に関心のある学生、そして「やる気」と「行動力」のある学生の参加を希望したい。						

問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱ	ドウ、ティモシー J.	各2単位	3年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ 第二言語習得						
1. 授業の概要・到達目標 <p>【授業の概要】このゼミナールは第二言語習得（外国語学習に関する研究）の学者が言語と外国語学習を分析するために使用している研究法の概観を考察します。さらに、自分自身の英語能力を高めるため、研究結果と原則に基づいた 勉強法を学びます。特に、様々な英文を分析し、文語英語と口語英語の差を深く理解し、コミュニケーション能力を高める方法を学びます。また、第二言語習得のモチベーションと個人差に関する研究も考察します。</p> <p>【到達目標】（1）学生のニーズにより、英語のスキル（スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング・文法・語彙）を高めるため、様々なストラテジーを試しながら、関連した理論を理解します。（2）英語学習のモチベーションを管理する方法を見つけます。（3）英語で自分の学習に関する活動や研究の結果を分かりやすく説明する能力を高めます。</p>						
2. 授業内容 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 第二言語習得とは？ 第2回 効果的な外国語勉強法 第3回 インプット 第4回 アウトプット 第5回 文法 第6回 流暢さ 第7回 インプット仮説 第8回 インターアクション仮説 第9回 アウトプット仮説 第10回 語彙 第11回 語彙とスピーキング 第12回 語彙とリスニング 第13回 語彙とライティング 第14回 語彙とリーディング </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 第二言語習得と心理学 第2回 適正 第3回 不安 第4回 モチベーション：総合的動機付け 第5回 モチベーション：具体的同期付け 第6回 モチベーション：内発的仮説と結果的仮説 第7回 学習観 第8回 自律性 第9回 言語学習ストラテジー 第10回 直接ストラテジー 第11回 間接ストラテジー 第12回 自己調整学習ストラテジー 第13回 自発的にコミュニケーションを行う意思 第14回 言語意識 </td> </tr> </table>					<問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 第二言語習得とは？ 第2回 効果的な外国語勉強法 第3回 インプット 第4回 アウトプット 第5回 文法 第6回 流暢さ 第7回 インプット仮説 第8回 インターアクション仮説 第9回 アウトプット仮説 第10回 語彙 第11回 語彙とスピーキング 第12回 語彙とリスニング 第13回 語彙とライティング 第14回 語彙とリーディング	<問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 第二言語習得と心理学 第2回 適正 第3回 不安 第4回 モチベーション：総合的動機付け 第5回 モチベーション：具体的同期付け 第6回 モチベーション：内発的仮説と結果的仮説 第7回 学習観 第8回 自律性 第9回 言語学習ストラテジー 第10回 直接ストラテジー 第11回 間接ストラテジー 第12回 自己調整学習ストラテジー 第13回 自発的にコミュニケーションを行う意思 第14回 言語意識
<問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 第二言語習得とは？ 第2回 効果的な外国語勉強法 第3回 インプット 第4回 アウトプット 第5回 文法 第6回 流暢さ 第7回 インプット仮説 第8回 インターアクション仮説 第9回 アウトプット仮説 第10回 語彙 第11回 語彙とスピーキング 第12回 語彙とリスニング 第13回 語彙とライティング 第14回 語彙とリーディング	<問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 第二言語習得と心理学 第2回 適正 第3回 不安 第4回 モチベーション：総合的動機付け 第5回 モチベーション：具体的同期付け 第6回 モチベーション：内発的仮説と結果的仮説 第7回 学習観 第8回 自律性 第9回 言語学習ストラテジー 第10回 直接ストラテジー 第11回 間接ストラテジー 第12回 自己調整学習ストラテジー 第13回 自発的にコミュニケーションを行う意思 第14回 言語意識					
3. 履修上の注意 このゼミナールは英語で行います。このゼミナールは CLIL アプローチ（内容言語統合型学習）を使います。第二言語習得を学びながら、英語のコミュニケーション能力とアカデミック英語力を養います。						
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 特にありません。						
5. 教科書 英語の雑誌や記事などをもとに教師作成材料を授業の時に配布します。						
6. 参考書 特にありません。						
7. 成績評価の方法 授業参加50%、レポート50%						
8. その他 このゼミナールは英語で行います。英語の能力だけでなく、学生のアカデミック英語を学びたい気持ちを大切にします。						

問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱ	ドウ、ティモシー J.	各2単位	4年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ 第二言語習得						
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】このゼミナールは第二言語習得（外国語学習に関する研究）の学者が言語と外国語学習を分析するために使用している研究法の概観を考察します。さらに、自分自身の英語能力を高めるため、研究結果と原則に基づいた 勉強法を学びます。特に、様々な英文を分析し、文語英語と口語英語の差を深く理解し、コミュニケーション能力を高める方法を学びます。また、第二言語習得のモチベーションと個人差に関する研究も考察します。 【到達目標】（1）アカデミック英語または仕事で使える英語の上級レベルに達成するため、文献で進めたストラテジーを徹底的に練習し、様々なストラテジーの効果を判断します。（2）英語で選択した文献の内容を分かりやすく説明し、自分の語学習に関する結論を伝えます。（3）語学習または社会と外国の関連について、研究を行います。						
2. 授業内容 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題解決ゼミナールⅠ> 第1回 コミュニカティブ言語教育 第2回 インターアクション 第3回 フォーカス・オン・フォーム 第4回 文法の習得 第5回 語彙の習得 第6回 発音の習得 第7回 語用論の習得 第8回 語彙のテスト:読むこと、聞くこと 第9回 語彙のテスト:話すこと、書くこと 第10回 語彙のテスト:アカデミックな語彙 第11回 語彙の学習ストラテジー 第12回 文脈から語の意味を推測 第13回 単語カードの研究 第14回 辞書の研究 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題解決ゼミナールⅡ> 第1回 協調の原理 第2回 会話分析 第3回 相互行為能力 第4回 アクティブリスニング 第5回 隣接ペア 第6回 ターンテイク 第7回 トピックの開始 第8回 トピックの展開 第9回 トピックと聞き手の参加 第10回 トピックと聞き手の反応 第11回 トピックの終了 第12回 修復の過程 第13回 修復:自己 第14回 修復:他人 </td> </tr> </table>					<問題解決ゼミナールⅠ> 第1回 コミュニカティブ言語教育 第2回 インターアクション 第3回 フォーカス・オン・フォーム 第4回 文法の習得 第5回 語彙の習得 第6回 発音の習得 第7回 語用論の習得 第8回 語彙のテスト:読むこと、聞くこと 第9回 語彙のテスト:話すこと、書くこと 第10回 語彙のテスト:アカデミックな語彙 第11回 語彙の学習ストラテジー 第12回 文脈から語の意味を推測 第13回 単語カードの研究 第14回 辞書の研究	<問題解決ゼミナールⅡ> 第1回 協調の原理 第2回 会話分析 第3回 相互行為能力 第4回 アクティブリスニング 第5回 隣接ペア 第6回 ターンテイク 第7回 トピックの開始 第8回 トピックの展開 第9回 トピックと聞き手の参加 第10回 トピックと聞き手の反応 第11回 トピックの終了 第12回 修復の過程 第13回 修復:自己 第14回 修復:他人
<問題解決ゼミナールⅠ> 第1回 コミュニカティブ言語教育 第2回 インターアクション 第3回 フォーカス・オン・フォーム 第4回 文法の習得 第5回 語彙の習得 第6回 発音の習得 第7回 語用論の習得 第8回 語彙のテスト:読むこと、聞くこと 第9回 語彙のテスト:話すこと、書くこと 第10回 語彙のテスト:アカデミックな語彙 第11回 語彙の学習ストラテジー 第12回 文脈から語の意味を推測 第13回 単語カードの研究 第14回 辞書の研究	<問題解決ゼミナールⅡ> 第1回 協調の原理 第2回 会話分析 第3回 相互行為能力 第4回 アクティブリスニング 第5回 隣接ペア 第6回 ターンテイク 第7回 トピックの開始 第8回 トピックの展開 第9回 トピックと聞き手の参加 第10回 トピックと聞き手の反応 第11回 トピックの終了 第12回 修復の過程 第13回 修復:自己 第14回 修復:他人					
3. 履修上の注意 このゼミナールは英語で行います。このゼミナールは CLIL アプローチ（内容言語統合型学習）を使います。第二言語習得を学びながら、英語のコミュニケーション能力とアカデミック英語力を養います。						
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 特にありません。						
5. 教科書 英語の雑誌や記事などをもとに教師作成材料を授業の時に配布します。						
6. 参考書 特にありません。						
7. 成績評価の方法 授業参加50%、レポート50%						
8. その他 このゼミナールは英語で行います。英語の能力だけでなく、学生のアカデミック英語を学びたい気持ちを大切にします。						

問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱ	内藤 まりこ	各2単位	3年次	科目ナンバー (IC) IND312J
◆研究テーマ 言語表現を読み解く技法：理論と実践				
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 私達の生活空間には、文学や映画、演劇、漫画等、さまざまな言語表現が溢れており、それらは趣味や娯楽の対象として広く享受されています。しかし、このような日常の鑑賞の場においては、言語表現が私達の物事に対する思考や認識のあり方を形作っているということはあまり意識されません。 本ゼミでは、こうした言語表現の深層の働きに迫るべく、「批評理論」と呼ばれる、言語表現を読み解くための専門的な技術を習得し、文学や映画、演劇、漫画等の言語表現を分析することで、日常感覚の敷衍によっては導き出すことのできない作品の解釈や作品と歴史的・社会的背景との関わりを理解する方法を身につけられるでしょう。 【到達目標】 受講生は、授業を通して学習した批評理論に関する専門的な知識と技術を以て、自ら対象を選んで分析を行い、分析結果に基づく考察を学期末レポートにまとめます。				
2. 授業内容 <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p>＜問題分析ゼミナールⅠ＞</p> <p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 『批評理論入門—『フランケンシュタイン』解剖講義』 第1部1「冒頭」・2「ストーリーとプロット」</p> <p>第3回 『批評理論入門』第1部3「語り手」・4「焦点化」</p> <p>第4回 『批評理論入門』第1部5「提示と叙述」・6「時間」</p> <p>第5回 『批評理論入門』第1部7「性格描写」・8「アイロニー」</p> <p>第6回 『批評理論入門』第1部5「提示と叙述」・6「時間」</p> <p>第5回 『批評理論入門』第1部9「声」・10「イメジャリー」</p> <p>第7回 『批評理論入門』第1部11「反復」・12「異化」</p> <p>第8回 『批評理論入門』第1部13「間テクスト性」・14「メタフィクション」</p> <p>第9回 『批評理論入門』第1部15「結末」・第2部1「伝統的批評」・13「透明な批評」</p> <p>第10回 『批評理論入門』第2部2「ジャンル批評」・3「読者反応批評」・12「文体論的批評」</p> <p>第11回 『批評理論入門』第2部4「脱構築批評」・5「精神分析批評」</p> <p>第12回 『批評理論入門』第2部6「フェミニズム批評」・7「ジェンダー批評」</p> <p>第13回 『批評理論入門』第2部8「マルクス主義批評」・9「文化批評」</p> <p>第14回 『批評理論入門』第2部10「ポストコロニアル批評」・11「新歴史主義」</p> </div> <div style="width: 48%;"> <p>＜問題分析ゼミナールⅡ＞</p> <p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 文学理論の概観・課題作品1の読解・視聴</p> <p>第3回 作者論・作品論の限界：ロラン・バルト「作者の死」</p> <p>第4回 構造主義批評（1）：ウラジーミル・プロップ「物語の31の機能」</p> <p>第5回 構造主義批評（2）：ジェラルド・ジュネット「語りの構造」</p> <p>第6回 構造主義批評（3）：ジュリア・クリステヴァ「インターテクスチュアリティ」</p> <p>第7回 脱構築批評：ジャック・デリダ「グラマトロジー」</p> <p>第8回 課題作品2の読解・視聴</p> <p>第9回 読者反応批評：ヴォルフガング・イーザー「期待の地平」</p> <p>第10回 ジェンダー・クイア批評：ジュディス・バトラ「ジェンダー・トラブル」</p> <p>第11回 マルクス主義批評・カルチュラル・スタディーズ：カール・マルクス「階級闘争」</p> <p>第12回 ポスト・コロニアル批評：エドワード・サイード「オリエンタリズム」</p> <p>第13回 ポスト・コロニアル批評：ガヤトリ・スピヴァク</p> <p>第14回 批評理論による分析の意義と境界</p> </div> </div>				
3. 履修上の注意 本ゼミでは、ゼミ生が自らの問題関心を十分に掘り下げることができるよう、「ゼミ」と「セッション」の2つの時間を設けています。 「ゼミ」：3年次は「言語表現」の代表的な形態である文学に焦点を絞り、それらに関する理論書の輪読及び議論を行います。更に、こうした言語表現を読み解くための理論的枠組みの学習を踏まえ、実作の分析を行います。 「セッション」：1ヶ月に1度程度行われる「セッション」（指導教員との個別面談）を通じて、ゼミ生は自らの問題関心に即した言語表現を選び、研究テーマを立ち上げ、学期末レポートを執筆します。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎週、宿題が課される。宿題の内容は、作品の読了もしくは視聴、参考資料の読解及び発表担当者はレジュメの担当などである。				
5. 教科書 廣野由美子『批評理論入門—『フランケンシュタイン』解剖講義』（中公新書 2005年）他、関連する論文				
6. 参考書 テリー・イーグルトン『文学とは何か—現代批評理論への招待』（岩波書店、1997年）				
7. 成績評価の方法 発表20%、議論への貢献20%、ブログ記事の執筆20%、各学期末のレポート40%				
8. その他 <ul style="list-style-type: none"> ・これまでのゼミの活動内容に関しては、ゼミのHPをご覧ください。http://www.lt.marikonaito.com ・3年次の問題分析ゼミでは、授業時間の前後に1時限分の時間を使って授業内容の理解を補う「サブゼミ」の機会が設けられており、ゼミ生はこちらへの参加も必須となります。 				

問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱ	内藤 まりこ	各2単位	4年次	科目ナンバー (IC) IND312J																														
◆研究テーマ																																		
言語表現を読み解く技法：理論と実践																																		
1. 授業の概要・到達目標																																		
【授業の概要】 私達の生活空間には、文学や映画、演劇、漫画等、さまざまな言語表現が溢れており、それらは趣味や娯楽の対象として広く享受されています。しかし、このような日常の鑑賞の場においては、言語表現が私達の物事に対する思考や認識のあり方を形作っているという事はあまり意識されません。 本ゼミでは、こうした言語表現の深層の働きに迫るべく、「批評理論」と呼ばれる、言語表現を読み解くための専門的な技術を習得し、文学や映画、演劇、漫画等の言語表現を分析することで、日常感覚の敷衍によっては導き出すことのできない作品の解釈や作品と歴史的・社会的背景との関わりを理解する方法を身につけられるでしょう。																																		
【到達目標】 受講生は、授業を通して学習した批評理論に関する専門的な知識と技術を以て、自ら対象を選んで分析を行い、分析結果に基づく考察を卒業論文にまとめます。																																		
2. 授業内容																																		
<table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;">＜問題解決ゼミナールⅠ＞</td> <td style="text-align: center;">＜問題解決ゼミナールⅡ＞</td> </tr> <tr> <td>第1回 イン트로ダクション</td> <td>第1回 イン트로ダクション</td> </tr> <tr> <td>第2回 『Film Analysis 映画分析入門』精読(1)</td> <td>第2回 卒論構想発表(1)</td> </tr> <tr> <td>第3回 『Film Analysis 映画分析入門』精読(2)</td> <td>第3回 卒論構想発表(2)</td> </tr> <tr> <td>第4回 『Film Analysis 映画分析入門』精読(3)</td> <td>第4回 卒論構想発表(3)</td> </tr> <tr> <td>第5回 『Film Analysis 映画分析入門』精読(4)</td> <td>第5回 卒論構想発表(4)</td> </tr> <tr> <td>第6回 『フィルム・アート 映画芸術入門』精読(1)</td> <td>第6回 卒論分析発表(1)</td> </tr> <tr> <td>第7回 『フィルム・アート 映画芸術入門』精読(2)</td> <td>第7回 卒論分析発表(2)</td> </tr> <tr> <td>第8回 『フィルム・アート 映画芸術入門』精読(3)</td> <td>第8回 卒論分析発表(3)</td> </tr> <tr> <td>第9回 『フィルム・アート 映画芸術入門』精読(4)</td> <td>第9回 卒論分析発表(4)</td> </tr> <tr> <td>第10回 『小説と映画の修辞学』精読(1)</td> <td>第10回 卒論パラグラフライティング(1)</td> </tr> <tr> <td>第11回 『小説と映画の修辞学』精読(2)</td> <td>第11回 卒論パラグラフライティング(2)</td> </tr> <tr> <td>第12回 『小説と映画の修辞学』精読(3)</td> <td>第12回 卒論パラグラフライティング(3)</td> </tr> <tr> <td>第13回 『小説と映画の修辞学』精読(4)</td> <td>第13回 卒論完成報告</td> </tr> <tr> <td>第14回 振り返り</td> <td>第14回 振り返り</td> </tr> </table>					＜問題解決ゼミナールⅠ＞	＜問題解決ゼミナールⅡ＞	第1回 イン트로ダクション	第1回 イン트로ダクション	第2回 『Film Analysis 映画分析入門』精読(1)	第2回 卒論構想発表(1)	第3回 『Film Analysis 映画分析入門』精読(2)	第3回 卒論構想発表(2)	第4回 『Film Analysis 映画分析入門』精読(3)	第4回 卒論構想発表(3)	第5回 『Film Analysis 映画分析入門』精読(4)	第5回 卒論構想発表(4)	第6回 『フィルム・アート 映画芸術入門』精読(1)	第6回 卒論分析発表(1)	第7回 『フィルム・アート 映画芸術入門』精読(2)	第7回 卒論分析発表(2)	第8回 『フィルム・アート 映画芸術入門』精読(3)	第8回 卒論分析発表(3)	第9回 『フィルム・アート 映画芸術入門』精読(4)	第9回 卒論分析発表(4)	第10回 『小説と映画の修辞学』精読(1)	第10回 卒論パラグラフライティング(1)	第11回 『小説と映画の修辞学』精読(2)	第11回 卒論パラグラフライティング(2)	第12回 『小説と映画の修辞学』精読(3)	第12回 卒論パラグラフライティング(3)	第13回 『小説と映画の修辞学』精読(4)	第13回 卒論完成報告	第14回 振り返り	第14回 振り返り
＜問題解決ゼミナールⅠ＞	＜問題解決ゼミナールⅡ＞																																	
第1回 イン트로ダクション	第1回 イン트로ダクション																																	
第2回 『Film Analysis 映画分析入門』精読(1)	第2回 卒論構想発表(1)																																	
第3回 『Film Analysis 映画分析入門』精読(2)	第3回 卒論構想発表(2)																																	
第4回 『Film Analysis 映画分析入門』精読(3)	第4回 卒論構想発表(3)																																	
第5回 『Film Analysis 映画分析入門』精読(4)	第5回 卒論構想発表(4)																																	
第6回 『フィルム・アート 映画芸術入門』精読(1)	第6回 卒論分析発表(1)																																	
第7回 『フィルム・アート 映画芸術入門』精読(2)	第7回 卒論分析発表(2)																																	
第8回 『フィルム・アート 映画芸術入門』精読(3)	第8回 卒論分析発表(3)																																	
第9回 『フィルム・アート 映画芸術入門』精読(4)	第9回 卒論分析発表(4)																																	
第10回 『小説と映画の修辞学』精読(1)	第10回 卒論パラグラフライティング(1)																																	
第11回 『小説と映画の修辞学』精読(2)	第11回 卒論パラグラフライティング(2)																																	
第12回 『小説と映画の修辞学』精読(3)	第12回 卒論パラグラフライティング(3)																																	
第13回 『小説と映画の修辞学』精読(4)	第13回 卒論完成報告																																	
第14回 振り返り	第14回 振り返り																																	
3. 履修上の注意																																		
本ゼミでは、ゼミ生が自らの問題関心を十分に掘り下げることができるよう、「ゼミ」と「セッション」の2つの時間を設けています。 「ゼミ」：4年次は「言語表現」の代表的な形態である映画に焦点を絞り、それらに関する理論書の輪読及び議論を行います。更に、こうした言語表現を読み解くための理論的枠組みの学習を踏まえ、実作の分析を行います。 「セッション」：1ヶ月に1度程度行われる「セッション」(指導教員との個別面談)を通じて、ゼミ生は自らの問題関心に即した言語表現を選び、研究テーマを立ち上げ、卒業論文を執筆します。																																		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容																																		
毎週、宿題が課される。宿題の内容は、作品の読了もしくは視聴、参考資料の読解及び発表担当者はレジュメの担当などである。																																		
5. 教科書																																		
基本的には受講生の卒論テーマ及び希望に即したテキストを選択する。以下は一例である。 マイケル・ライアン他『Film Analysis 映画分析入門』(フィルムアート社、2014年) デイヴィッド・ボードウェル『フィルム・アート—映画芸術入門』名古屋大学出版会、2007年 シーモア・チャトマン『小説と映画の修辞学』水声社、1998年																																		
6. 参考書																																		
適宜、指示する。																																		
7. 成績評価の方法																																		
発表20%、議論への貢献20%、ブログ記事の執筆20%、学期末のレポートと卒業論文40%																																		
8. その他																																		
これまでのゼミの活動内容に関しては、ゼミのHPをご覧ください。 http://www.lt.marikonaito.com																																		

問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱ	中里 裕美	各2単位	3年次	科目ナンバー (IC) IND312J
◆研究テーマ 社会ネットワーク〈つながり〉の研究				
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本ゼミナールでは、ゲオルク・ジンメル（社会学者であり哲学者でもある）の昔から探求されてきた「つながり」（社会ネットワーク）とその種々の効果に関する研究を中心に展開します。本ゼミナールで扱うつながりは、人と人とのつながり—たとえば、家族・友人、地域住民のつながりなど—に焦点をあてますが、取引関係のある企業同士のつながりや国家間のつながりといった様々な領域におけるつながりも対象になります。進め方としてはまず、全員でテキストを輪読し、つながり〈社会ネットワーク〉の基礎知識や社会調査法、つながりを科学的に分析する手法である社会ネットワーク分析について学びます。そのうえで、グループ単位で研究テーマを選定し、主体的に研究をすすめ、各グループで研究論文としてまとめてもらいます。 【到達目標】 〈社会ネットワーク〉、社会調査法ならびに社会ネットワーク分析に関する基礎知識を習得すること。卒業論文に繋がる研究テーマとその方向性の筋道を立てること。				
2. 授業内容 <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p>＜問題分析ゼミナールⅠ＞</p> <p>第1回 インTRODクシヨN（春学期スケジュール、文献担当決め等）</p> <p>第2回 文献輪読①</p> <p>第3回 文献輪読②</p> <p>第4回 文献輪読③</p> <p>第5回 研究とは（流れ、テーマ設定のしかた）研究計画書（プロポーザル）の書き方</p> <p>第6回 社会調査の方法論①</p> <p>第7回 社会調査の方法論②</p> <p>第8回 先行研究の整理と調査設計／調査票の作成①</p> <p>第9回 先行研究の整理と調査設計／調査票の作成②</p> <p>第10回 先行研究の整理と調査設計／調査票の作成③</p> <p>第11回 中間報告会</p> <p>第12回 過去の論文から学ぶ</p> <p>第13回 研究計画書の報告会①</p> <p>第14回 研究計画書の報告会②</p> </div> <div style="width: 48%;"> <p>＜問題分析ゼミナールⅡ＞</p> <p>第1回 秋学期のスケジュール確認、文献担当決め、各グループの進捗状況の発表等</p> <p>第2回 調査票の検討会①</p> <p>第3回 調査票の検討会②</p> <p>第4回 ネットワーク調査の基礎①</p> <p>第5回 ネットワーク調査の基礎②</p> <p>第6回 中間報告会①</p> <p>第7回 中間報告会②</p> <p>第8回 データ分析の方法①</p> <p>第9回 データ分析の方法②</p> <p>第10回 結果の整理と論文執筆①</p> <p>第11回 結果の整理と論文執筆②</p> <p>第12回 結果の整理と論文執筆③</p> <p>第13回 成果報告会①</p> <p>第14回 成果報告会②</p> </div> </div>				
3. 履修上の注意 特になし。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として、テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。				
5. 教科書 <ul style="list-style-type: none"> ・『「つながり」を突き止めろ—入門！ネットワーク・サイエンス』、安田雪、光文社新書 ・『新・社会調査へのアプローチ』、大谷信介他著、ミネルヴァ書房 				
6. 参考書 <ul style="list-style-type: none"> ・『社会ネットワークのリサーチメソッド—「つながり」を調査する』、平松闊、ミネルヴァ書房 				
7. 成績評価の方法 授業内のプレゼンなどの平常点40%、学期末のレポート60%				
8. その他 社会ネットワークの基礎を学ぶうえで「ネットワーク社会論」の授業が役に立つので、本ゼミナールとあわせて履修されることをお勧めします。また本ゼミでは、文献を用いた研究のみならず、受講生には社会調査（質的・量的調査）の手法についてしっかりと学んでもらう予定です。そのため、「社会調査実習」を受講予定である者、ないし社会調査にも積極的かつ主体的に取り組む意欲のある学生の参加を歓迎します。				

問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱ	中里 裕美	各2単位	4年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ 社会ネットワーク〈つながり〉の研究						
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本ゼミナールでは、ゲオルク・ジンメル（社会学者であり哲学者でもある）の昔から探求されてきた「つながり」（社会ネットワーク）とその種々の効果に関する研究を中心に展開します。本ゼミナールで扱うつながりは、人と人とのつながり—たとえば、家族・友人、地域住民のつながりなど—に焦点をあてますが、取引関係のある企業同士のつながりや国家間のつながりといった様々な領域におけるつながりも対象になります。 【到達目標】 3年次に学んだ（社会ネットワーク）の基礎知識や社会調査法、ならびに社会ネットワーク分析の手法をふまえて、個人単位で興味・関心のある社会・経済的現象に関する「テーマ」を設定して研究をすすめ、卒業論文を作成・完成させること。						
2. 授業内容 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題解決ゼミナールⅠ> 第1回 インTRODクシヨン（年間スケジュール、発表日時の決定等） 第2回 論文の組み立て方①：過去の論文から学ぶ 第3回 論文の組み立て方②：過去の論文から学ぶ 第4回 論文の組み立て方③：過去の論文から学ぶ 第5回 卒業論文プロポーザルの発表① 第6回 卒業論文プロポーザルの発表② 第7回 調査法、問題設定から質問文まで① 第8回 調査法、問題設定から質問文まで② 第9回 先行研究の整理と調査設計／調査票などの発表① 第10回 先行研究の整理と調査設計／調査票などの発表② 第11回 先行研究の整理と調査設計／調査票などの発表③ 第12回 進捗報告会① 第13回 進捗報告会② 第14回 進捗報告会③ </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題解決ゼミナールⅡ> 第1回 秋学期のスケジュール確認、各自の進捗状況の発表 第2回 問題設定、仮説、データ分析方法① 第3回 問題設定、仮説、データ分析方法② 第4回 卒業論文の中間報告会① 第5回 卒業論文の中間報告会② 第6回 卒業論文の中間報告会③ 第7回 データの分析① 第8回 データの分析② 第9回 分析結果とその意義を説明する① 第10回 分析結果とその意義を説明する② 第11回 分析結果とその意義を説明する③ 第12回 卒業論文の成果報告会① 第13回 卒業論文の成果報告会② 第14回 卒業論文の成果報告会③ </td> </tr> </table>					<問題解決ゼミナールⅠ> 第1回 インTRODクシヨン（年間スケジュール、発表日時の決定等） 第2回 論文の組み立て方①：過去の論文から学ぶ 第3回 論文の組み立て方②：過去の論文から学ぶ 第4回 論文の組み立て方③：過去の論文から学ぶ 第5回 卒業論文プロポーザルの発表① 第6回 卒業論文プロポーザルの発表② 第7回 調査法、問題設定から質問文まで① 第8回 調査法、問題設定から質問文まで② 第9回 先行研究の整理と調査設計／調査票などの発表① 第10回 先行研究の整理と調査設計／調査票などの発表② 第11回 先行研究の整理と調査設計／調査票などの発表③ 第12回 進捗報告会① 第13回 進捗報告会② 第14回 進捗報告会③	<問題解決ゼミナールⅡ> 第1回 秋学期のスケジュール確認、各自の進捗状況の発表 第2回 問題設定、仮説、データ分析方法① 第3回 問題設定、仮説、データ分析方法② 第4回 卒業論文の中間報告会① 第5回 卒業論文の中間報告会② 第6回 卒業論文の中間報告会③ 第7回 データの分析① 第8回 データの分析② 第9回 分析結果とその意義を説明する① 第10回 分析結果とその意義を説明する② 第11回 分析結果とその意義を説明する③ 第12回 卒業論文の成果報告会① 第13回 卒業論文の成果報告会② 第14回 卒業論文の成果報告会③
<問題解決ゼミナールⅠ> 第1回 インTRODクシヨン（年間スケジュール、発表日時の決定等） 第2回 論文の組み立て方①：過去の論文から学ぶ 第3回 論文の組み立て方②：過去の論文から学ぶ 第4回 論文の組み立て方③：過去の論文から学ぶ 第5回 卒業論文プロポーザルの発表① 第6回 卒業論文プロポーザルの発表② 第7回 調査法、問題設定から質問文まで① 第8回 調査法、問題設定から質問文まで② 第9回 先行研究の整理と調査設計／調査票などの発表① 第10回 先行研究の整理と調査設計／調査票などの発表② 第11回 先行研究の整理と調査設計／調査票などの発表③ 第12回 進捗報告会① 第13回 進捗報告会② 第14回 進捗報告会③	<問題解決ゼミナールⅡ> 第1回 秋学期のスケジュール確認、各自の進捗状況の発表 第2回 問題設定、仮説、データ分析方法① 第3回 問題設定、仮説、データ分析方法② 第4回 卒業論文の中間報告会① 第5回 卒業論文の中間報告会② 第6回 卒業論文の中間報告会③ 第7回 データの分析① 第8回 データの分析② 第9回 分析結果とその意義を説明する① 第10回 分析結果とその意義を説明する② 第11回 分析結果とその意義を説明する③ 第12回 卒業論文の成果報告会① 第13回 卒業論文の成果報告会② 第14回 卒業論文の成果報告会③					
3. 履修上の注意 特になし。						
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 上記の授業の内容に沿って、各自必要となる準備をすすめること。						
5. 教科書 特に指定しない。						
6. 参考書 参考書は必要に応じて随時紹介します。						
7. 成績評価の方法 授業内のプレゼンなどの平常点40%、卒業論文60%						
8. その他 問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱの内容についても参照してください。						

問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱ	南後 由和	各2単位	3年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ 都市・建築・デザインの社会学とメディア論						
1. 授業の概要・到達目標						
【授業の概要】						
東京という都市は、商業施設、飲食店、駅、オフィス、美術館、広告などの大量の建築・情報・資本が集積し、先進的な実験や取り組みが展開される場である一方で、さまざまなジャンルの問題が生じている場でもある。						
モバイルメディアやソーシャルメディアの普及、コロナ禍によるリモートワークやオンラインイベントの浸透によって、都市におけるライフスタイルや空間のあり方に、新たな変化が生まれている。東京の問題と可能性について考えることは、現代都市や情報社会に生きる私たちが抱える問題と可能性を認識することでもある。						
本ゼミナールは、文献調査、フィールドワーク、インタビューなどを取り入れながら、個人研究では、各自が都市・建築・デザインに関する研究テーマを構想し、卒業論文に向けた土台づくりを進める。グループ研究では、学生ならではの切り口によって東京という都市への新たな見方を提供するガイドブックの出版を目指す「Tokyo Scope」プロジェクトを立ち上げる。3年次は、4年生が進行中の「Tokyo Scope」プロジェクトの調査・編集において、学年や大学を横断して協働するとともに、次年度の企画に向けた準備を進める。						
【到達目標】						
第一に、文献輪読やディスカッションを通じて、都市論や社会学・メディア論におけるモノの見方や概念、調査手法などの基礎を身につける。第二に、グループ研究を通じて、質的調査の計画、実施、分析という一連のプロセスを経験するとともに、創発的な協働のあり方を体得する。						
2. 授業内容						
<問題分析ゼミナールⅠ>						
<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 第1回 イントロダクション、研究テーマ案発表 (1) 第2回 研究テーマ案発表 (2) 第3回 研究テーマ案発表 (3) 第4回 研究テーマ案発表 (4) 第5回 文献輪読 (1) 第6回 文献輪読 (2) 第7回 文献輪読 (3) 第8回 質的調査の技法、書評の書き方 第9回 文献輪読 (4) 第10回 文献輪読 (5) 第11回 文献輪読 (6) 第12回 「Tokyo Scope」プロジェクトの調査・編集の協働 (1) 第13回 「Tokyo Scope」プロジェクトの調査・編集の協働 (2) 第14回 研究計画書・卒業論文の書き方 </td> <td style="vertical-align: top;"> <問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 卒業論文の研究計画書の発表 (1) 第2回 卒業論文の研究計画書の発表 (2) 第3回 卒業論文の研究計画書の発表 (3) 第4回 卒業論文の研究計画書の発表 (4) 第5回 卒業論文の研究計画書の発表 (5) 第6回 「Tokyo Scope」プロジェクトの調査・編集の協働 第7回 卒業論文の目次・章構成、研究目的・内容、先行研究の検討 (1) 第8回 卒業論文の目次・章構成、研究目的・内容、先行研究の検討 (2) 第9回 卒業論文の目次・章構成、研究目的・内容、先行研究の検討 (3) 第10回 卒業論文の目次・章構成、研究目的・内容、先行研究の検討 (4) 第11回 卒業論文の目次・章構成、研究目的・内容、先行研究の検討 (5) 第12回 「Tokyo Scope」プロジェクトの企画 (1) 第13回 「Tokyo Scope」プロジェクトの企画 (2) 第14回 問題分析ゼミナールの振り返り </td> </tr> </table>					第1回 イントロダクション、研究テーマ案発表 (1) 第2回 研究テーマ案発表 (2) 第3回 研究テーマ案発表 (3) 第4回 研究テーマ案発表 (4) 第5回 文献輪読 (1) 第6回 文献輪読 (2) 第7回 文献輪読 (3) 第8回 質的調査の技法、書評の書き方 第9回 文献輪読 (4) 第10回 文献輪読 (5) 第11回 文献輪読 (6) 第12回 「Tokyo Scope」プロジェクトの調査・編集の協働 (1) 第13回 「Tokyo Scope」プロジェクトの調査・編集の協働 (2) 第14回 研究計画書・卒業論文の書き方	<問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 卒業論文の研究計画書の発表 (1) 第2回 卒業論文の研究計画書の発表 (2) 第3回 卒業論文の研究計画書の発表 (3) 第4回 卒業論文の研究計画書の発表 (4) 第5回 卒業論文の研究計画書の発表 (5) 第6回 「Tokyo Scope」プロジェクトの調査・編集の協働 第7回 卒業論文の目次・章構成、研究目的・内容、先行研究の検討 (1) 第8回 卒業論文の目次・章構成、研究目的・内容、先行研究の検討 (2) 第9回 卒業論文の目次・章構成、研究目的・内容、先行研究の検討 (3) 第10回 卒業論文の目次・章構成、研究目的・内容、先行研究の検討 (4) 第11回 卒業論文の目次・章構成、研究目的・内容、先行研究の検討 (5) 第12回 「Tokyo Scope」プロジェクトの企画 (1) 第13回 「Tokyo Scope」プロジェクトの企画 (2) 第14回 問題分析ゼミナールの振り返り
第1回 イントロダクション、研究テーマ案発表 (1) 第2回 研究テーマ案発表 (2) 第3回 研究テーマ案発表 (3) 第4回 研究テーマ案発表 (4) 第5回 文献輪読 (1) 第6回 文献輪読 (2) 第7回 文献輪読 (3) 第8回 質的調査の技法、書評の書き方 第9回 文献輪読 (4) 第10回 文献輪読 (5) 第11回 文献輪読 (6) 第12回 「Tokyo Scope」プロジェクトの調査・編集の協働 (1) 第13回 「Tokyo Scope」プロジェクトの調査・編集の協働 (2) 第14回 研究計画書・卒業論文の書き方	<問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 卒業論文の研究計画書の発表 (1) 第2回 卒業論文の研究計画書の発表 (2) 第3回 卒業論文の研究計画書の発表 (3) 第4回 卒業論文の研究計画書の発表 (4) 第5回 卒業論文の研究計画書の発表 (5) 第6回 「Tokyo Scope」プロジェクトの調査・編集の協働 第7回 卒業論文の目次・章構成、研究目的・内容、先行研究の検討 (1) 第8回 卒業論文の目次・章構成、研究目的・内容、先行研究の検討 (2) 第9回 卒業論文の目次・章構成、研究目的・内容、先行研究の検討 (3) 第10回 卒業論文の目次・章構成、研究目的・内容、先行研究の検討 (4) 第11回 卒業論文の目次・章構成、研究目的・内容、先行研究の検討 (5) 第12回 「Tokyo Scope」プロジェクトの企画 (1) 第13回 「Tokyo Scope」プロジェクトの企画 (2) 第14回 問題分析ゼミナールの振り返り					
3. 履修上の注意						
3年次に「都市情報論」「人文地理学」と合わせて受講してください。 授業内容は、進捗状況に応じて多少変更する可能性があります。						
4. 準備学習（予習・復習等）の内容						
文献輪読や「Tokyo Scope」プロジェクトでは、グループごとにレジュメを作成し、発表してもらいます。						
5. 教科書						
指定なし						
6. 参考書						
中野豪雄・南後由和監修、武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科学生有志・明治大学情報コミュニケーション学部南後ゼミ著『Tokyo Scope 2021——メディアで読み解く都市』Tokyo Scope Books 南後由和+明治大学南後ゼミ編『都市論ブックガイド2』南後ゼミ編集部						
7. 成績評価の方法						
平常点 50%、発表・ディスカッション 50%						
8. その他						
ゼミは、教員と学生のタフな協働作業ですので、モチベーションが高く、責任感を持ち、好奇心旺盛な学生の参加を歓迎します。他大学との合同ゼミ、外部のゲストを招いてのゼミなども実施予定です。						

問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱ	南後 由和	各2単位	4年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ 都市・建築・デザインの社会学とメディア論						
1. 授業の概要・到達目標						
【授業の概要】 本ゼミナールは、個人研究では、各自が都市・建築・デザインに関する研究テーマを設定して、卒業論文を執筆する。グループ研究では、東京をテーマとしたガイドブックを制作し、出版・販売するプロジェクトに取り組む。 具体的に、個人研究では、都市・建築・デザインに関して、次の項目のいずれかを選択もしくは組み合わせ、卒業論文を執筆する。(1) 都市論および東京論の系譜、(2) 特定の空間の特徴と、そこでの人びとの振舞いやコミュニケーション、(3) 映画、MV・PV、写真、地図、雑誌、広告、展覧会、ソーシャルメディア、VR・ARなどのメディアにおける都市や空間の表象、(4) 国内と海外で流通する都市イメージの比較、(5) その他、都市・建築・デザインをめぐる各自が関心を持つ問題など。 グループ研究では、前年度に企画した「Tokyo Scope」プロジェクトの調査・編集に3年生と一緒に取り組み、他大学とも協働しながら出版・販売することを目指す。 【到達目標】 現代都市や情報社会の問題を、社会学やメディア論を軸とする領域横断的な理論的枠組みで発見、分析する力を養うとともに、研究の計画から、先行研究の検討、資料やデータの収集・考察、フィールドワーク、発表、ディスカッション、論文の執筆に至る、研究・調査に必要な基礎体力を確固たるものにする。						
2. 授業内容						
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題解決ゼミナールⅠ> 第1回 卒業論文の進捗報告1回目(1) 第2回 卒業論文の進捗報告1回目(2) 第3回 卒業論文の進捗報告1回目(3) 第4回 卒業論文の進捗報告1回目(4) 第5回 卒業論文の進捗報告1回目(5) 第6回 「Tokyo Scope」プロジェクトの調査・編集(1) 第7回 「Tokyo Scope」プロジェクトの調査・編集(2) 第8回 「Tokyo Scope」プロジェクトの調査・編集(3) 第9回 「Tokyo Scope」プロジェクトの調査・編集(4) 第10回 卒業論文の進捗報告2回目(1) 第11回 卒業論文の進捗報告2回目(2) 第12回 卒業論文の進捗報告2回目(3) 第13回 卒業論文の進捗報告2回目(4) 第14回 卒業論文の進捗報告2回目(5) </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題解決ゼミナールⅡ> 第1回 卒業論文の進捗報告3回目(1) 第2回 卒業論文の進捗報告3回目(2) 第3回 卒業論文の進捗報告3回目(3) 第4回 卒業論文の進捗報告3回目(4) 第5回 「Tokyo Scope」プロジェクトの振り返り 第6回 卒業論文の中間発表(1) 第7回 卒業論文の中間発表(2) 第8回 卒業論文の中間発表(3) 第9回 卒業論文の中間発表(4) 第10回 卒業論文の最終発表(1) 第11回 卒業論文の最終発表(2) 第12回 卒業論文の最終発表(3) 第13回 卒業論文の最終発表(4) 第14回 問題解決ゼミナールの振り返り </td> </tr> </table>					<問題解決ゼミナールⅠ> 第1回 卒業論文の進捗報告1回目(1) 第2回 卒業論文の進捗報告1回目(2) 第3回 卒業論文の進捗報告1回目(3) 第4回 卒業論文の進捗報告1回目(4) 第5回 卒業論文の進捗報告1回目(5) 第6回 「Tokyo Scope」プロジェクトの調査・編集(1) 第7回 「Tokyo Scope」プロジェクトの調査・編集(2) 第8回 「Tokyo Scope」プロジェクトの調査・編集(3) 第9回 「Tokyo Scope」プロジェクトの調査・編集(4) 第10回 卒業論文の進捗報告2回目(1) 第11回 卒業論文の進捗報告2回目(2) 第12回 卒業論文の進捗報告2回目(3) 第13回 卒業論文の進捗報告2回目(4) 第14回 卒業論文の進捗報告2回目(5)	<問題解決ゼミナールⅡ> 第1回 卒業論文の進捗報告3回目(1) 第2回 卒業論文の進捗報告3回目(2) 第3回 卒業論文の進捗報告3回目(3) 第4回 卒業論文の進捗報告3回目(4) 第5回 「Tokyo Scope」プロジェクトの振り返り 第6回 卒業論文の中間発表(1) 第7回 卒業論文の中間発表(2) 第8回 卒業論文の中間発表(3) 第9回 卒業論文の中間発表(4) 第10回 卒業論文の最終発表(1) 第11回 卒業論文の最終発表(2) 第12回 卒業論文の最終発表(3) 第13回 卒業論文の最終発表(4) 第14回 問題解決ゼミナールの振り返り
<問題解決ゼミナールⅠ> 第1回 卒業論文の進捗報告1回目(1) 第2回 卒業論文の進捗報告1回目(2) 第3回 卒業論文の進捗報告1回目(3) 第4回 卒業論文の進捗報告1回目(4) 第5回 卒業論文の進捗報告1回目(5) 第6回 「Tokyo Scope」プロジェクトの調査・編集(1) 第7回 「Tokyo Scope」プロジェクトの調査・編集(2) 第8回 「Tokyo Scope」プロジェクトの調査・編集(3) 第9回 「Tokyo Scope」プロジェクトの調査・編集(4) 第10回 卒業論文の進捗報告2回目(1) 第11回 卒業論文の進捗報告2回目(2) 第12回 卒業論文の進捗報告2回目(3) 第13回 卒業論文の進捗報告2回目(4) 第14回 卒業論文の進捗報告2回目(5)	<問題解決ゼミナールⅡ> 第1回 卒業論文の進捗報告3回目(1) 第2回 卒業論文の進捗報告3回目(2) 第3回 卒業論文の進捗報告3回目(3) 第4回 卒業論文の進捗報告3回目(4) 第5回 「Tokyo Scope」プロジェクトの振り返り 第6回 卒業論文の中間発表(1) 第7回 卒業論文の中間発表(2) 第8回 卒業論文の中間発表(3) 第9回 卒業論文の中間発表(4) 第10回 卒業論文の最終発表(1) 第11回 卒業論文の最終発表(2) 第12回 卒業論文の最終発表(3) 第13回 卒業論文の最終発表(4) 第14回 問題解決ゼミナールの振り返り					
3. 履修上の注意 授業内容は、進捗状況に応じて多少変更する可能性があります。						
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 授業での発表スケジュールをペースメーカーとして、卒業論文に向けた研究を進めるようにしてください。						
5. 教科書 指定なし						
6. 参考書 中野豪雄・南後由和監修、武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科学生有志・明治大学情報コミュニケーション学部南後ゼミ著『Tokyo Scope 2021——メディアで読み解く都市』Tokyo Scope Books 南後由和+明治大学南後ゼミ編『都市論ブックガイド2』南後ゼミ編集部						
7. 成績評価の方法 平常点50%、発表・ディスカッション50%						
8. その他 ゼミは、教員と学生のタフな協働作業ですので、モチベーションが高く、責任感を持ち、好奇心旺盛な学生の参加を歓迎します。他大学との合同ゼミ、外部のゲストを招いてのゼミなども実施予定です。						

問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱ	根橋 玲子	各2単位	3年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ 異文化間コミュニケーションと多文化共生						
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本ゼミナールでは、日本社会における多文化共生について、主に次の2つ対象グループについて学ぶ。(1) 外国人移住者とその家族(子どもたちや配偶者)など、日本に暮らす外国につながる人々、そして(2) さまざまな違いから派生する多様な人々に焦点を当てる。授業では、講義やディスカッションに加え、非参与観察やインタビュー、フィールドワーク等の手法を取り入れる。また、毎年なんらかの学外での企画(これまでに、ヒューマンライブラリーへの参加および開催、「特権」や「やさしい日本語」に関するワークショップ等)があり、これらを通して多角的な学びを実践する。 【到達目標】 問題分析ゼミナールⅠでは、現代社会における文化の違いがもたらす課題について、基礎文献を読んだりディスカッションを通して知識や問題意識を深めることを到達目標とする。問題分析ゼミナールⅡでは、問題分析ゼミナールⅠで関心を持ったトピックを中心に、各人が問いを立て、研究プロジェクトとして取り組む。これによりその問いへのアプローチの仕方や分析の仕方といった技法も身につけてもらうことを到達目標とする。						
2. 授業内容 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 Introduction 第2回 多文化共生とは/Book Report & Discussion① 第3回 調査方法/BPD② 第4回 仮説とリサーチクエスション/BPD③ 第5回 内容分析/BPD④ 第6回 内容分析練習/BPD⑤ 第7回 内容分析プレゼンテーション 第8回 フィールドワーク準備/Discussion⑥ 第9回 フィールドワーク実施/Discussion⑦ 第10回 フィールドワークプレゼンテーション 第11回 インタビュー調査とは/Discussion⑧ 第12回 インタビュー調査準備/Discussion⑨ 第13回 インタビュー調査まとめ/Discussion⑩ 第14回 インタビュー調査プレゼンテーション </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 Introduction 第2回 多文化ライブラリー実施準備① 第3回 多文化ライブラリー実施準備② 第4回 多文化ライブラリー実施準備③ 第5回 多文化ライブラリー実施準備④ 第6回 プロジェクトテーマ選定 第7回 リサーチクエスション決定 第8回 リサーチデザイン 第9回 データ収集 第10回 データ分析 第11回 発表準備① 第12回 発表準備② 第13回 発表振り返り 第14回 ペーパー締め切り・まとめ </td> </tr> </table>					<問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 Introduction 第2回 多文化共生とは/Book Report & Discussion① 第3回 調査方法/BPD② 第4回 仮説とリサーチクエスション/BPD③ 第5回 内容分析/BPD④ 第6回 内容分析練習/BPD⑤ 第7回 内容分析プレゼンテーション 第8回 フィールドワーク準備/Discussion⑥ 第9回 フィールドワーク実施/Discussion⑦ 第10回 フィールドワークプレゼンテーション 第11回 インタビュー調査とは/Discussion⑧ 第12回 インタビュー調査準備/Discussion⑨ 第13回 インタビュー調査まとめ/Discussion⑩ 第14回 インタビュー調査プレゼンテーション	<問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 Introduction 第2回 多文化ライブラリー実施準備① 第3回 多文化ライブラリー実施準備② 第4回 多文化ライブラリー実施準備③ 第5回 多文化ライブラリー実施準備④ 第6回 プロジェクトテーマ選定 第7回 リサーチクエスション決定 第8回 リサーチデザイン 第9回 データ収集 第10回 データ分析 第11回 発表準備① 第12回 発表準備② 第13回 発表振り返り 第14回 ペーパー締め切り・まとめ
<問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 Introduction 第2回 多文化共生とは/Book Report & Discussion① 第3回 調査方法/BPD② 第4回 仮説とリサーチクエスション/BPD③ 第5回 内容分析/BPD④ 第6回 内容分析練習/BPD⑤ 第7回 内容分析プレゼンテーション 第8回 フィールドワーク準備/Discussion⑥ 第9回 フィールドワーク実施/Discussion⑦ 第10回 フィールドワークプレゼンテーション 第11回 インタビュー調査とは/Discussion⑧ 第12回 インタビュー調査準備/Discussion⑨ 第13回 インタビュー調査まとめ/Discussion⑩ 第14回 インタビュー調査プレゼンテーション	<問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 Introduction 第2回 多文化ライブラリー実施準備① 第3回 多文化ライブラリー実施準備② 第4回 多文化ライブラリー実施準備③ 第5回 多文化ライブラリー実施準備④ 第6回 プロジェクトテーマ選定 第7回 リサーチクエスション決定 第8回 リサーチデザイン 第9回 データ収集 第10回 データ分析 第11回 発表準備① 第12回 発表準備② 第13回 発表振り返り 第14回 ペーパー締め切り・まとめ					
3. 履修上の注意 これまでに異文化および社会調査関連の授業を履修した人の受講を優先する。また、授業では英語を積極的に使用するので、ある程度の英語力が必要である。						
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 自分だ選んだゼミで扱うトピックに関連するテキストを読み、授業内で発表し議論を行う。						
5. 教科書 特に指定しない。						
6. 参考書 大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋・永野武(2005)『社会調査へのアプローチ(第2版)』ミネルヴァ書房。APA Manual						
7. 成績評価の方法 問題分析ゼミナールⅠ：BPD 20%；プレゼン 30%；English Session 5%；授業への貢献と参加 15%；ペーパー 30% 問題分析ゼミナールⅡ：ゼミナール大会 30%；ペーパー 40%；授業への貢献と参加 30%						
8. その他 授業での学びにとどまらず、フィールドワークや学内外でのワークショップや企画などを通し、多様な学びを経験してもらいたいと思っています。日本における多文化共生や異文化間コミュニケーションに興味があり積極的に参加できる方に履修してもらいたいです。						

問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱ	根橋 玲子	各2単位	4年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ 異文化間コミュニケーションと多文化共生						
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本ゼミナールでは、問題分析ゼミナールに続き、日本社会における多文化共生について、(1) 外国人移住者とその家族（子どもたちや配偶者）など、日本に暮らす外国につながる人々、そして(2) さまざまな違いから派生する多様な人々、に焦点を当てた活動を中心に据える。具体的には、フィールドワークの実施、多文化ライブラリーの企画・開催、ゼミ交流祭での研究発表等、アクティブラーニングの手法で学びを深める。問題分析ゼミナールⅠ/Ⅱで身につけた知識や調査方法を用い、自ら立てた問いへの答えを導き出すのが本ゼミナールの目標である。また、各活動は3年生とともに実施するが、4年生にはリーダーシップを磨く機会ととらえ取り組んでもらいたい。 【到達目標】 本ゼミナールの到達目標は、イニシアチブを取り、研究プロジェクトを企画・実施できるようになることである。大学4年間の学びの集大成として、楽しんで自分の課題に取り組んでもらいたい。						
2. 授業内容 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><問題解決ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 Introduction</p> <p>第2回 多文化共生とは/Book Report & Discussion①</p> <p>第3回 調査方法/BPD②</p> <p>第4回 仮説とリサーチクエスション/BPD③</p> <p>第5回 内容分析/BPD④</p> <p>第6回 内容分析練習/BPD⑤</p> <p>第7回 内容分析プレゼンテーション</p> <p>第8回 フィールドワーク準備/Discussion⑥</p> <p>第9回 フィールドワーク実施/Discussion⑦</p> <p>第10回 フィールドワークプレゼンテーション</p> <p>第11回 インタビュー調査とは/Discussion⑧</p> <p>第12回 インタビュー調査準備/Discussion⑨</p> <p>第13回 インタビュー調査まとめ/Discussion⑩</p> <p>第14回 インタビュー調査プレゼンテーション</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><問題解決ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 Introduction</p> <p>第2回 多文化ライブラリー実施準備①</p> <p>第3回 多文化ライブラリー実施準備②</p> <p>第4回 多文化ライブラリー実施準備③</p> <p>第5回 多文化ライブラリー実施準備④</p> <p>第6回 プロジェクトテーマ選定</p> <p>第7回 リサーチクエスション決定</p> <p>第8回 リサーチデザイン</p> <p>第9回 データ収集</p> <p>第10回 データ分析</p> <p>第11回 発表準備①</p> <p>第12回 発表準備②</p> <p>第13回 発表振り返り</p> <p>第14回 ペーパー締め切り・まとめ</p> </td> </tr> </table>					<p><問題解決ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 Introduction</p> <p>第2回 多文化共生とは/Book Report & Discussion①</p> <p>第3回 調査方法/BPD②</p> <p>第4回 仮説とリサーチクエスション/BPD③</p> <p>第5回 内容分析/BPD④</p> <p>第6回 内容分析練習/BPD⑤</p> <p>第7回 内容分析プレゼンテーション</p> <p>第8回 フィールドワーク準備/Discussion⑥</p> <p>第9回 フィールドワーク実施/Discussion⑦</p> <p>第10回 フィールドワークプレゼンテーション</p> <p>第11回 インタビュー調査とは/Discussion⑧</p> <p>第12回 インタビュー調査準備/Discussion⑨</p> <p>第13回 インタビュー調査まとめ/Discussion⑩</p> <p>第14回 インタビュー調査プレゼンテーション</p>	<p><問題解決ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 Introduction</p> <p>第2回 多文化ライブラリー実施準備①</p> <p>第3回 多文化ライブラリー実施準備②</p> <p>第4回 多文化ライブラリー実施準備③</p> <p>第5回 多文化ライブラリー実施準備④</p> <p>第6回 プロジェクトテーマ選定</p> <p>第7回 リサーチクエスション決定</p> <p>第8回 リサーチデザイン</p> <p>第9回 データ収集</p> <p>第10回 データ分析</p> <p>第11回 発表準備①</p> <p>第12回 発表準備②</p> <p>第13回 発表振り返り</p> <p>第14回 ペーパー締め切り・まとめ</p>
<p><問題解決ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 Introduction</p> <p>第2回 多文化共生とは/Book Report & Discussion①</p> <p>第3回 調査方法/BPD②</p> <p>第4回 仮説とリサーチクエスション/BPD③</p> <p>第5回 内容分析/BPD④</p> <p>第6回 内容分析練習/BPD⑤</p> <p>第7回 内容分析プレゼンテーション</p> <p>第8回 フィールドワーク準備/Discussion⑥</p> <p>第9回 フィールドワーク実施/Discussion⑦</p> <p>第10回 フィールドワークプレゼンテーション</p> <p>第11回 インタビュー調査とは/Discussion⑧</p> <p>第12回 インタビュー調査準備/Discussion⑨</p> <p>第13回 インタビュー調査まとめ/Discussion⑩</p> <p>第14回 インタビュー調査プレゼンテーション</p>	<p><問題解決ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 Introduction</p> <p>第2回 多文化ライブラリー実施準備①</p> <p>第3回 多文化ライブラリー実施準備②</p> <p>第4回 多文化ライブラリー実施準備③</p> <p>第5回 多文化ライブラリー実施準備④</p> <p>第6回 プロジェクトテーマ選定</p> <p>第7回 リサーチクエスション決定</p> <p>第8回 リサーチデザイン</p> <p>第9回 データ収集</p> <p>第10回 データ分析</p> <p>第11回 発表準備①</p> <p>第12回 発表準備②</p> <p>第13回 発表振り返り</p> <p>第14回 ペーパー締め切り・まとめ</p>					
3. 履修上の注意 特になし。						
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予め指定された文献・資料を読んだ上で、ディスカッションに臨んでもらいたい。						
5. 教科書 APA Manual						
6. 参考書 特に指定しない。						
7. 成績評価の方法 問題解決ゼミナールⅠ：BPD 20%；プレゼン 30%；English Session 5%；授業への貢献と参加 15%；ペーパー30% 問題解決ゼミナールⅡ：企画の運営と参加 30%；ゼミナール大会 30%；ペーパー40%						
8. その他 特になし。						

問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱ	波照間 永子	各2単位	3年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ 芸術コミュニケーション研究－社会におけるアートの役割・問題を検討する－						
1. 授業の概要・到達目標 コミュニケーション不足による人間関係の希薄化が重要な課題といわれる今日、「芸術（アート）によるコミュニケーション」の意義がますます高まっています。そのようななかで、企業・自治体・学校・病院・NPO・アーティストらがコラボレートし、多様な企画が実施されています。「人を育み、人を繋げる」アートのもつ力が、今、脚光を浴びています。 本ゼミナールでは、アートがさまざまな場面で（①教育、②医療 [セラピー]、③地域交流、④国際交流）、活用されている事例を研究するとともに、自らも積極的に現場に赴きアートの力を確認する企画や作品「卒業制作」を創造・実践することを到達目標とします。						
2. 授業内容 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 ガイダンス（授業計画・評価の方法・研究方法） 第2回 個人研究テーマの紹介(1) 第3回 個人研究テーマの紹介(2) 第4回 研究方法 第5回 個人研究 中間報告Ⅰ(1) 第6回 個人研究 中間報告Ⅰ(2) 第7回 個人研究 中間報告Ⅰ(3) 第8回 個人研究 中間報告Ⅱ(1) 第9回 個人研究 中間報告Ⅱ(2) 第10回 個人研究 中間報告Ⅱ(3) 第11回 個人研究 中間報告Ⅲ(1) 第12回 個人研究 中間報告Ⅲ(2) 第13回 個人研究 中間報告Ⅲ(3) 第14回 まとめ 課題提出 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 ガイダンス（授業計画・評価の方法等） 第2回 個人研究 中間報告Ⅳ(1) 第3回 個人研究 中間報告Ⅳ(2) 第4回 個人研究 中間報告Ⅳ(3) 第5回 実践研究（企画・制作）(1) 第6回 実践研究（企画・制作）(2) 第7回 実践研究（企画・制作）(3) 第8回 実践研究（企画・制作）(4) 第9回 実践研究（企画・制作）(5) 第10回 実践研究（企画・制作）(6) 第11回 個人研究 最終報告(1) 第12回 個人研究 最終報告(2) 第13回 個人研究 最終報告(3) 第14回 個人研究 最終報告(4) 課題提出 </td> </tr> </table>					<問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 ガイダンス（授業計画・評価の方法・研究方法） 第2回 個人研究テーマの紹介(1) 第3回 個人研究テーマの紹介(2) 第4回 研究方法 第5回 個人研究 中間報告Ⅰ(1) 第6回 個人研究 中間報告Ⅰ(2) 第7回 個人研究 中間報告Ⅰ(3) 第8回 個人研究 中間報告Ⅱ(1) 第9回 個人研究 中間報告Ⅱ(2) 第10回 個人研究 中間報告Ⅱ(3) 第11回 個人研究 中間報告Ⅲ(1) 第12回 個人研究 中間報告Ⅲ(2) 第13回 個人研究 中間報告Ⅲ(3) 第14回 まとめ 課題提出	<問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 ガイダンス（授業計画・評価の方法等） 第2回 個人研究 中間報告Ⅳ(1) 第3回 個人研究 中間報告Ⅳ(2) 第4回 個人研究 中間報告Ⅳ(3) 第5回 実践研究（企画・制作）(1) 第6回 実践研究（企画・制作）(2) 第7回 実践研究（企画・制作）(3) 第8回 実践研究（企画・制作）(4) 第9回 実践研究（企画・制作）(5) 第10回 実践研究（企画・制作）(6) 第11回 個人研究 最終報告(1) 第12回 個人研究 最終報告(2) 第13回 個人研究 最終報告(3) 第14回 個人研究 最終報告(4) 課題提出
<問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 ガイダンス（授業計画・評価の方法・研究方法） 第2回 個人研究テーマの紹介(1) 第3回 個人研究テーマの紹介(2) 第4回 研究方法 第5回 個人研究 中間報告Ⅰ(1) 第6回 個人研究 中間報告Ⅰ(2) 第7回 個人研究 中間報告Ⅰ(3) 第8回 個人研究 中間報告Ⅱ(1) 第9回 個人研究 中間報告Ⅱ(2) 第10回 個人研究 中間報告Ⅱ(3) 第11回 個人研究 中間報告Ⅲ(1) 第12回 個人研究 中間報告Ⅲ(2) 第13回 個人研究 中間報告Ⅲ(3) 第14回 まとめ 課題提出	<問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 ガイダンス（授業計画・評価の方法等） 第2回 個人研究 中間報告Ⅳ(1) 第3回 個人研究 中間報告Ⅳ(2) 第4回 個人研究 中間報告Ⅳ(3) 第5回 実践研究（企画・制作）(1) 第6回 実践研究（企画・制作）(2) 第7回 実践研究（企画・制作）(3) 第8回 実践研究（企画・制作）(4) 第9回 実践研究（企画・制作）(5) 第10回 実践研究（企画・制作）(6) 第11回 個人研究 最終報告(1) 第12回 個人研究 最終報告(2) 第13回 個人研究 最終報告(3) 第14回 個人研究 最終報告(4) 課題提出					
3. 履修上の注意 毎回ではありませんが、この授業の後に配置される問題解決ゼミナールへの参加が求められます。						
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 個人研究の準備や、実践研究の下調べと創作等、毎回の授業に際して自宅学習が必要です。						
5. 教科書 なし						
6. 参考書 徳丸吉彦・青山昌文編著『芸術・文化・社会』放送大学出版会 2006 他						
7. 成績評価の方法 平常点（積極性）50%、研究報告 25%、レポート 25%						
8. その他 創造・表現活動を通じた企画制作に関心のある者を求めます。詳細は教員個別ガイダンスにて説明しますので、入室希望者は必ず出席してください。						

問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱ	波照間 永子	各2単位	4年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ 芸術コミュニケーション研究－社会におけるアートの役割・問題を検討する－						
1. 授業の概要・到達目標 問題分析ゼミナールで実施した事例研究や実践研究を踏まえ、問題解決ゼミナールではアートプログラムを企画制作します。企画立案・広報・会場設営・本番実施といった一連の経験を通して、地域の方々、アーティストなど、さまざまな領域の方と共創する方法を学びます。表現者としてかかわる者、表現をより効果的に行うためのスタッフとしてかかわる者など、自身の強みをいかして、アートプログラムの企画や作品を創っていきましょう。 卒業研究は、「卒業制作」（作品）と「制作試論」の作成に取り組みます。卒業研究を丹念に創り上げ完成を目指す「クリエイティブな力を高める」ことを本ゼミナールの到達目標とします。 また、3年次より実施してきた個人研究（論文）を、「制作試論」に振り替えることも可とします。詳細はガイダンスにて説明します。						
2. 授業内容 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題解決ゼミナールⅠ> 第1回 ガイダンス（授業計画・評価の方法等） 第2回 企画立案 Art-Live-Rally(1) 第3回 企画立案 Art-Live-Rally(2) 第4回 企画立案 Art-Live-Rally(3) 第5回 企画立案 Art-Live-Rally(4) 第6回 企画立案 Art-Live-Rally(5) 第7回 企画立案 Art-Live-Rally(6) 第8回 企画内容の詳細決定（役割分担・全体構成・スケジュール確認・協力団体への連絡）(1) 第9回 企画内容の詳細決定（役割分担・全体構成・スケジュール確認・協力団体への連絡）(2) 第10回 グループワーク（共同制作）・制作試論（個人研究）中間報告(1) 第11回 グループワーク（共同制作）・制作試論（個人研究）中間報告(2) 第12回 グループワーク（共同制作）・制作試論（個人研究）中間報告(3) 第13回 グループワーク（共同制作）・制作試論（個人研究）中間報告(4) 第14回 まとめ・夏以降のスケジュール設定・制作試論（個人研究）課題の確認 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題解決ゼミナールⅡ> 第1回 秋学期の授業計画 第2回 制作試論（個人研究）の中間報告(1) 第3回 制作試論（個人研究）の中間報告(2) 第4回 制作試論（個人研究）の中間報告(3) 第5回 制作試論（個人研究）の中間報告(4) 第6回 全体リハーサル(1) 第7回 全体リハーサル(2) 第8回 全体リハーサル(3) 第9回 全体リハーサル(4) 第10回 全体リハーサル(5) 第11回 最終発表会 Art-Live-Rally 第12回 Art-Live-Rally 報告書の作成(1) 第13回 Art-Live-Rally 報告書の作成(2) 第14回 制作試論（個人研究）の提出 </td> </tr> </table>					<問題解決ゼミナールⅠ> 第1回 ガイダンス（授業計画・評価の方法等） 第2回 企画立案 Art-Live-Rally(1) 第3回 企画立案 Art-Live-Rally(2) 第4回 企画立案 Art-Live-Rally(3) 第5回 企画立案 Art-Live-Rally(4) 第6回 企画立案 Art-Live-Rally(5) 第7回 企画立案 Art-Live-Rally(6) 第8回 企画内容の詳細決定（役割分担・全体構成・スケジュール確認・協力団体への連絡）(1) 第9回 企画内容の詳細決定（役割分担・全体構成・スケジュール確認・協力団体への連絡）(2) 第10回 グループワーク（共同制作）・制作試論（個人研究）中間報告(1) 第11回 グループワーク（共同制作）・制作試論（個人研究）中間報告(2) 第12回 グループワーク（共同制作）・制作試論（個人研究）中間報告(3) 第13回 グループワーク（共同制作）・制作試論（個人研究）中間報告(4) 第14回 まとめ・夏以降のスケジュール設定・制作試論（個人研究）課題の確認	<問題解決ゼミナールⅡ> 第1回 秋学期の授業計画 第2回 制作試論（個人研究）の中間報告(1) 第3回 制作試論（個人研究）の中間報告(2) 第4回 制作試論（個人研究）の中間報告(3) 第5回 制作試論（個人研究）の中間報告(4) 第6回 全体リハーサル(1) 第7回 全体リハーサル(2) 第8回 全体リハーサル(3) 第9回 全体リハーサル(4) 第10回 全体リハーサル(5) 第11回 最終発表会 Art-Live-Rally 第12回 Art-Live-Rally 報告書の作成(1) 第13回 Art-Live-Rally 報告書の作成(2) 第14回 制作試論（個人研究）の提出
<問題解決ゼミナールⅠ> 第1回 ガイダンス（授業計画・評価の方法等） 第2回 企画立案 Art-Live-Rally(1) 第3回 企画立案 Art-Live-Rally(2) 第4回 企画立案 Art-Live-Rally(3) 第5回 企画立案 Art-Live-Rally(4) 第6回 企画立案 Art-Live-Rally(5) 第7回 企画立案 Art-Live-Rally(6) 第8回 企画内容の詳細決定（役割分担・全体構成・スケジュール確認・協力団体への連絡）(1) 第9回 企画内容の詳細決定（役割分担・全体構成・スケジュール確認・協力団体への連絡）(2) 第10回 グループワーク（共同制作）・制作試論（個人研究）中間報告(1) 第11回 グループワーク（共同制作）・制作試論（個人研究）中間報告(2) 第12回 グループワーク（共同制作）・制作試論（個人研究）中間報告(3) 第13回 グループワーク（共同制作）・制作試論（個人研究）中間報告(4) 第14回 まとめ・夏以降のスケジュール設定・制作試論（個人研究）課題の確認	<問題解決ゼミナールⅡ> 第1回 秋学期の授業計画 第2回 制作試論（個人研究）の中間報告(1) 第3回 制作試論（個人研究）の中間報告(2) 第4回 制作試論（個人研究）の中間報告(3) 第5回 制作試論（個人研究）の中間報告(4) 第6回 全体リハーサル(1) 第7回 全体リハーサル(2) 第8回 全体リハーサル(3) 第9回 全体リハーサル(4) 第10回 全体リハーサル(5) 第11回 最終発表会 Art-Live-Rally 第12回 Art-Live-Rally 報告書の作成(1) 第13回 Art-Live-Rally 報告書の作成(2) 第14回 制作試論（個人研究）の提出					
3. 履修上の注意 定時の授業以外の日に発表会やリハーサルを行うことがあります。						
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 実践研究の下調べや創作等、毎回の授業に際して自宅学習が必要です。						
5. 教科書 なし						
6. 参考書 徳丸吉彦・青山昌文編著『芸術・文化・社会』放送大学出版社 2006 他						
7. 成績評価の方法 平常点・研究報告 50%、作品 25%、レポート 25%						
8. その他 Art-Live-Rally とは「生き生きとした創造・表現活動を通して人と人を繋げよう」という意図がこめられています。2009 年より継続して実施しています。地域交流や国際交流を目的とした企画を本ゼミ生が主体となって企画し、他の創造&表現関係ゼミと共創するプロジェクトで、4年間の学びの集大成「卒業制作」（作品）を発表する場でもあります。						

問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱ	日置 貴之	各2単位	3年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ 芸術作品を研究・批評する（基礎）						
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 それが研究という形をとるにせよ、批評という形をとるにせよ、芸術作品、特に演劇のような作品そのものが後に残らないジャンルの芸術について考える際には、まず直接あるいは多様な資料を通して間接的に作品に接した上で、その内容や作品が生まれた背景を分析し、自分自身の言葉にしていくことが必要となる。本授業では、文献の購読と映像の鑑賞、受講者の報告をもとにした議論等を通して、演劇を中心とした芸術作品そのもの、あるいはその背景にある社会や文化状況を論じるために必要な技能を身につけることを目指す。 【授業の到達目標】 演劇を中心とする芸術作品を鑑賞し、内容を分析し、自身の言葉で論じることができる。						
2. 授業内容 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><問題分析ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 教員によるプレゼンテーション（1）</p> <p>第3回 教員によるプレゼンテーション（2）</p> <p>第4回 教員によるプレゼンテーション（3）</p> <p>第5回 文献購読・映像鑑賞（1）</p> <p>第6回 文献購読・映像鑑賞（2）</p> <p>第7回 文献購読・映像鑑賞（3）</p> <p>第8回 文献購読・映像鑑賞（4）</p> <p>第9回 文献購読・映像鑑賞（5）</p> <p>第10回 受講者による報告（1）</p> <p>第11回 受講者による報告（2）</p> <p>第12回 受講者による報告（3）</p> <p>第13回 受講者による報告（4）</p> <p>第14回 受講者による報告（5）</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><問題分析ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 論文執筆について（1）</p> <p>第2回 論文執筆について（2）</p> <p>第3回 論文執筆について（3）</p> <p>第4回 文献購読・映像鑑賞（1）</p> <p>第5回 文献購読・映像鑑賞（2）</p> <p>第6回 文献購読・映像鑑賞（3）</p> <p>第7回 文献購読・映像鑑賞（4）</p> <p>第8回 文献購読・映像鑑賞（5）</p> <p>第9回 受講者による報告（1）</p> <p>第10回 受講者による報告（2）</p> <p>第11回 受講者による報告（3）</p> <p>第12回 受講者による報告（4）</p> <p>第13回 受講者による報告（5）</p> <p>第14回 まとめ</p> </td> </tr> </table>					<p><問題分析ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 教員によるプレゼンテーション（1）</p> <p>第3回 教員によるプレゼンテーション（2）</p> <p>第4回 教員によるプレゼンテーション（3）</p> <p>第5回 文献購読・映像鑑賞（1）</p> <p>第6回 文献購読・映像鑑賞（2）</p> <p>第7回 文献購読・映像鑑賞（3）</p> <p>第8回 文献購読・映像鑑賞（4）</p> <p>第9回 文献購読・映像鑑賞（5）</p> <p>第10回 受講者による報告（1）</p> <p>第11回 受講者による報告（2）</p> <p>第12回 受講者による報告（3）</p> <p>第13回 受講者による報告（4）</p> <p>第14回 受講者による報告（5）</p>	<p><問題分析ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 論文執筆について（1）</p> <p>第2回 論文執筆について（2）</p> <p>第3回 論文執筆について（3）</p> <p>第4回 文献購読・映像鑑賞（1）</p> <p>第5回 文献購読・映像鑑賞（2）</p> <p>第6回 文献購読・映像鑑賞（3）</p> <p>第7回 文献購読・映像鑑賞（4）</p> <p>第8回 文献購読・映像鑑賞（5）</p> <p>第9回 受講者による報告（1）</p> <p>第10回 受講者による報告（2）</p> <p>第11回 受講者による報告（3）</p> <p>第12回 受講者による報告（4）</p> <p>第13回 受講者による報告（5）</p> <p>第14回 まとめ</p>
<p><問題分析ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 教員によるプレゼンテーション（1）</p> <p>第3回 教員によるプレゼンテーション（2）</p> <p>第4回 教員によるプレゼンテーション（3）</p> <p>第5回 文献購読・映像鑑賞（1）</p> <p>第6回 文献購読・映像鑑賞（2）</p> <p>第7回 文献購読・映像鑑賞（3）</p> <p>第8回 文献購読・映像鑑賞（4）</p> <p>第9回 文献購読・映像鑑賞（5）</p> <p>第10回 受講者による報告（1）</p> <p>第11回 受講者による報告（2）</p> <p>第12回 受講者による報告（3）</p> <p>第13回 受講者による報告（4）</p> <p>第14回 受講者による報告（5）</p>	<p><問題分析ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 論文執筆について（1）</p> <p>第2回 論文執筆について（2）</p> <p>第3回 論文執筆について（3）</p> <p>第4回 文献購読・映像鑑賞（1）</p> <p>第5回 文献購読・映像鑑賞（2）</p> <p>第6回 文献購読・映像鑑賞（3）</p> <p>第7回 文献購読・映像鑑賞（4）</p> <p>第8回 文献購読・映像鑑賞（5）</p> <p>第9回 受講者による報告（1）</p> <p>第10回 受講者による報告（2）</p> <p>第11回 受講者による報告（3）</p> <p>第12回 受講者による報告（4）</p> <p>第13回 受講者による報告（5）</p> <p>第14回 まとめ</p>					
3. 履修上の注意 <ul style="list-style-type: none"> ・本ゼミナールは、3・4年次連続での履修を原則とし、4年次には卒業論文等（詳細は別途示す）の提出を強く推奨する。 ・他の受講者の発表に対しても、積極的に意見を示し、活発な議論を行うことを求める。 ・授業内で映像等の鑑賞を行うが、授業時間外に各自で積極的に演劇・映画・音楽等の鑑賞を行うことを求める。 						
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各回の内容に即して、事前に目を通しておくべき資料等を示すので、必ず予習を行った上で参加すること。毎回、それなりの分量の作品や論文等を読んできてもらうことになる。						
5. 教科書 特に指定しない。						
6. 参考書 北村紗衣『批評の教室 チョウのように読み、ハチのように書く』ちくま新書、2021年 日置貴之『変貌する時代のなかの歌舞伎 幕末・明治期歌舞伎史』笠間書院、2016年 このほか、各回の内容によって、その都度指示する。						
7. 成績評価の方法 発表60%、ディスカッション40%。						
8. その他 <ul style="list-style-type: none"> ・要望があり、実施が可能な状況であれば、合宿等を行います。 ・ゼミの志望に際して、疑問点等がある場合は hioki (at) meiji. ac. jp まで問い合わせてください(at を@に置き換え)。 						

問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱ	日置 貴之	各2単位	4年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ 芸術作品を研究・批評する（発展0）						
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 受講者はまず自身の取り組むテーマについて具体的に説明し、他の受講者との議論を行う。さらに、考察・分析を深めた上で、それを文章化していく。授業においては、考えを言語化していくための方法や、文章を書く上での基本的なルール等についての解説も行う。 【授業の到達目標】 芸術作品の内容を適切に把握し、論理的な分析を行なった上で、それを論文や批評という形式で他者に伝える能力を身につける。						
2. 授業内容 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><問題解決ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 インTRODクシヨン</p> <p>第2回 論文執筆について～形式</p> <p>第3回 論文執筆について～引用・注</p> <p>第4回 論文執筆について～問題設定と執筆計画</p> <p>第5回 論文執筆について～調査方法</p> <p>第6回 受講者による発表（1）</p> <p>第7回 論文講読（1）</p> <p>第8回 受講者による発表（2）</p> <p>第9回 論文講読（2）</p> <p>第10回 受講者による発表（3）</p> <p>第11回 論文講読（3）</p> <p>第12回 論文講読（4）</p> <p>第13回 論文講読（5）</p> <p>第14回 春学期のまとめ</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><問題解決ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 インTRODクシヨン</p> <p>第2回 受講者による発表（1）</p> <p>第3回 受講者による発表（2）</p> <p>第4回 受講者による発表（3）</p> <p>第5回 ディスカッションと論文添削（1）</p> <p>第6回 ディスカッションと論文添削（2）</p> <p>第7回 ディスカッションと論文添削（3）</p> <p>第8回 ディスカッションと論文添削（4）</p> <p>第9回 受講者による発表（4）</p> <p>第10回 受講者による発表（5）</p> <p>第11回 受講者による発表（6）</p> <p>第12回 ディスカッションと論文添削（5）</p> <p>第13回 ディスカッションと論文添削（6）</p> <p>第14回 論文報告会</p> </td> </tr> </table>					<p><問題解決ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 インTRODクシヨン</p> <p>第2回 論文執筆について～形式</p> <p>第3回 論文執筆について～引用・注</p> <p>第4回 論文執筆について～問題設定と執筆計画</p> <p>第5回 論文執筆について～調査方法</p> <p>第6回 受講者による発表（1）</p> <p>第7回 論文講読（1）</p> <p>第8回 受講者による発表（2）</p> <p>第9回 論文講読（2）</p> <p>第10回 受講者による発表（3）</p> <p>第11回 論文講読（3）</p> <p>第12回 論文講読（4）</p> <p>第13回 論文講読（5）</p> <p>第14回 春学期のまとめ</p>	<p><問題解決ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 インTRODクシヨン</p> <p>第2回 受講者による発表（1）</p> <p>第3回 受講者による発表（2）</p> <p>第4回 受講者による発表（3）</p> <p>第5回 ディスカッションと論文添削（1）</p> <p>第6回 ディスカッションと論文添削（2）</p> <p>第7回 ディスカッションと論文添削（3）</p> <p>第8回 ディスカッションと論文添削（4）</p> <p>第9回 受講者による発表（4）</p> <p>第10回 受講者による発表（5）</p> <p>第11回 受講者による発表（6）</p> <p>第12回 ディスカッションと論文添削（5）</p> <p>第13回 ディスカッションと論文添削（6）</p> <p>第14回 論文報告会</p>
<p><問題解決ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 インTRODクシヨン</p> <p>第2回 論文執筆について～形式</p> <p>第3回 論文執筆について～引用・注</p> <p>第4回 論文執筆について～問題設定と執筆計画</p> <p>第5回 論文執筆について～調査方法</p> <p>第6回 受講者による発表（1）</p> <p>第7回 論文講読（1）</p> <p>第8回 受講者による発表（2）</p> <p>第9回 論文講読（2）</p> <p>第10回 受講者による発表（3）</p> <p>第11回 論文講読（3）</p> <p>第12回 論文講読（4）</p> <p>第13回 論文講読（5）</p> <p>第14回 春学期のまとめ</p>	<p><問題解決ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 インTRODクシヨン</p> <p>第2回 受講者による発表（1）</p> <p>第3回 受講者による発表（2）</p> <p>第4回 受講者による発表（3）</p> <p>第5回 ディスカッションと論文添削（1）</p> <p>第6回 ディスカッションと論文添削（2）</p> <p>第7回 ディスカッションと論文添削（3）</p> <p>第8回 ディスカッションと論文添削（4）</p> <p>第9回 受講者による発表（4）</p> <p>第10回 受講者による発表（5）</p> <p>第11回 受講者による発表（6）</p> <p>第12回 ディスカッションと論文添削（5）</p> <p>第13回 ディスカッションと論文添削（6）</p> <p>第14回 論文報告会</p>					
3. 履修上の注意 ・本ゼミナールは、3年次から連続での履修を原則とし、卒業論文等（詳細は別途示す）の執筆を強く推奨する。 ・他の受講者の発表に対しても、積極的に意見を示し、活発な議論を行うことを求める。						
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各回の内容に即して、論文構想発表の準備、講読の課題論文についての予習を行った上で参加すること。						
5. 教科書 特に指定しない。						
6. 参考書 小笠原喜康『最新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書、講談社、2018年 このほか、各回の内容によって、その都度指示する。						
7. 成績評価の方法 卒業論文等の執筆を行う受講者は、発表60%、ディスカッション40%。卒業論文等を執筆しない受講者には、別途レポートを課し、発表40%、ディスカッション20%、レポート40%とする。						
8. その他 ・要望があり、実施が可能な状況であれば、合宿等を行います。						

問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱ	堀口 悦子	各2単位	3年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ ジェンダー・バイアスを考える						
1. 授業の概要・到達目標 Think globally, act locally. 「地球規模で考え、身近なことから行動する。」ことと、エンターテインメントにジェンダー視点を入れること。この2つが、本ゼミの到達目標である。 ジェンダーに基づく問題を考えるとき、「ジェンダー・バイアス」について考えることが重要である。2019年12月で、国連採択40周年を迎えた女性差別撤廃条約は、日本でまだ完全に周知はされていない。この条約の5条は、「男女の役割分担の否定」について規定している。身近な問題である「育児」を考えたとき、男女ともトイレにベビーベッドや子ども用のいすが設置されているだろうか。「誰でもトイレ」はあるだろうか。これを調査して、身近な千代田区の「トイレマップ」を作成してみよう。トイレ以外の身近な問題について、探して、調べてみよう。一つのヒントは、「ドレスコード」である。並行して、教科書の輪読も行う。 IIでは、身近な映画やドラマを題材として、ジェンダー視点から分析してみよう。映像に出て来る、ジェンダーに関連する問題について、個々の学生が調べて報告する。とくに、日本と韓国とハリウッドとを比較研究する。新型コロナの影響で、ゼミ内容を変更することもありうる。 【到達目標】 身近な具体的な事象から、ジェンダー・バイアスに敏感になること。それを、あらゆる分野の多様な見方に活かせるようになること。						
2. 授業内容 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 インTRODクシヨN 第2回 女性差別撤廃条約から考える「女性差別」とは 第3回 カネカやアシックスの事例を学ぶ 第4回 明治大学駿河台校舎内のトイレ調査 第5回 千代田区内のトイレ調査(1) 第6回 千代田区内のトイレ調査(2) 第7回 千代田区内のトイレ調査(3) 第8回 千代田区トイレマップ作成(1) 第9回 千代田区トイレマップ作成(2) 第10回 自分で探した問題の報告(1) 第11回 自分で探した問題の報告(2) 第12回 ワークショップづくりに挑戦 第13回 前回の続き 第14回 前回の続きを行い、ワークショップを完成させる。 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 映像を使って、ジェンダー問題を学ぶ—イントロダクシヨN 第2回 映像作品と制作の問題を知ろう 第3回 ゼミ生が取り上げる映像のリスト作成と分担 第4回 映像の報告(1) 第5回 映像に出てくる問題の分析(1) 第6回 映像の報告(2) 第7回 映像に出てくる問題の分析(2) 第8回 映像の報告(3) 第9回 映像に出てくる問題の分析(3) 第10回 映像に出て来た問題の整理(1) 第11回 映像に出て来た問題の整理(2) 第12回 春学期の調査のまとめ(1) 第13回 春学期の調査のまとめ(2) 第14回 全体のまとめ </td> </tr> </table>					<問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 インTRODクシヨN 第2回 女性差別撤廃条約から考える「女性差別」とは 第3回 カネカやアシックスの事例を学ぶ 第4回 明治大学駿河台校舎内のトイレ調査 第5回 千代田区内のトイレ調査(1) 第6回 千代田区内のトイレ調査(2) 第7回 千代田区内のトイレ調査(3) 第8回 千代田区トイレマップ作成(1) 第9回 千代田区トイレマップ作成(2) 第10回 自分で探した問題の報告(1) 第11回 自分で探した問題の報告(2) 第12回 ワークショップづくりに挑戦 第13回 前回の続き 第14回 前回の続きを行い、ワークショップを完成させる。	<問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 映像を使って、ジェンダー問題を学ぶ—イントロダクシヨN 第2回 映像作品と制作の問題を知ろう 第3回 ゼミ生が取り上げる映像のリスト作成と分担 第4回 映像の報告(1) 第5回 映像に出てくる問題の分析(1) 第6回 映像の報告(2) 第7回 映像に出てくる問題の分析(2) 第8回 映像の報告(3) 第9回 映像に出てくる問題の分析(3) 第10回 映像に出て来た問題の整理(1) 第11回 映像に出て来た問題の整理(2) 第12回 春学期の調査のまとめ(1) 第13回 春学期の調査のまとめ(2) 第14回 全体のまとめ
<問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 インTRODクシヨN 第2回 女性差別撤廃条約から考える「女性差別」とは 第3回 カネカやアシックスの事例を学ぶ 第4回 明治大学駿河台校舎内のトイレ調査 第5回 千代田区内のトイレ調査(1) 第6回 千代田区内のトイレ調査(2) 第7回 千代田区内のトイレ調査(3) 第8回 千代田区トイレマップ作成(1) 第9回 千代田区トイレマップ作成(2) 第10回 自分で探した問題の報告(1) 第11回 自分で探した問題の報告(2) 第12回 ワークショップづくりに挑戦 第13回 前回の続き 第14回 前回の続きを行い、ワークショップを完成させる。	<問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 映像を使って、ジェンダー問題を学ぶ—イントロダクシヨN 第2回 映像作品と制作の問題を知ろう 第3回 ゼミ生が取り上げる映像のリスト作成と分担 第4回 映像の報告(1) 第5回 映像に出てくる問題の分析(1) 第6回 映像の報告(2) 第7回 映像に出てくる問題の分析(2) 第8回 映像の報告(3) 第9回 映像に出てくる問題の分析(3) 第10回 映像に出て来た問題の整理(1) 第11回 映像に出て来た問題の整理(2) 第12回 春学期の調査のまとめ(1) 第13回 春学期の調査のまとめ(2) 第14回 全体のまとめ					
3. 履修上の注意 机上だけではなく、外部でのワークショップなどの開催により、自分たちの情報を積極的に発信して、アクティブ・ラーニングの実践を行うが、臆することなく試みてほしい。						
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ニュースや映画などのメディア及びエンターテインメントに関心を持つこと。ゼミ生に決まったら、観ておく映像作品のリストを渡すので、春休み中などに必ず観ておくこと。						
5. 教科書 『存在しない女たち』キャロライン・クリアド＝ペレス著 神崎朋子訳 河出書房新社 必要に応じて、資料等を配布する。						
6. 参考書 『私たちが声を上げるとき』和泉真澄ほか著 集英社新書 必要に応じて、資料等を配布する。						
7. 成績評価の方法 毎回のゼミ出席（50%）及び課外活動（合宿等を含む）への積極的な姿勢による参画（50%）						
8. その他 「ジェンダー・バイアス」を、具体的な問題から突き詰めてみよう。夏休み中に、合宿を予定している。						

問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱ	堀口 悦子	各2単位	4年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ ジェンダーに関する問題なら、何でも						
1. 授業の概要・到達目標 3年ゼミで学んだことを基盤として、各自が自分の研究テーマを探求する。 そのテーマを活かして、卒業論文を書く、あるいは、卒業制作を行う。卒業制作は、映像でも、脚本でも、音楽でも、ダンスでも、詩でも、何でもよい。一人で取り組んでもよいし、グループで取り組んでもよいし、ゼミ全体で取り組んでも構わない。オリジナルな発想で、自由に行ってほしい。 【到達目標】 学内で、卒業制作の報告会を、年度内に行うことを目指す。 3年次で身に付けたことに加えて、見えにくい、ジェンダーに関する、アンコンシャス・バイアスにも敏感になること。						
2. 授業内容 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題解決ゼミナールⅠ> 第1回 インTRODクシヨン 第2回 自分のテーマの決定 第3回 自分のテーマへの取組(1) 第4回 自分のテーマへの取組(2) 第5回 自分のテーマへの取組(3) 第6回 自分のテーマへの取組(4) 第7回 自分のテーマへの取組(5) 第8回 自分のテーマへの取組(6) 第9回 自分のテーマへの取組(7) 第10回 自分のテーマへの取組(8) 第11回 自分のテーマへの取組(9) 第12回 自分のテーマへの取組(10) 第13回 中間報告(1) 第14回 中間報告(2) </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題解決ゼミナールⅡ> 第1回 春学期の振り返り 第2回 自分のテーマの完成へのプロセス(1) 第3回 自分のテーマの完成のプロセス(2) 第4回 自分のテーマの完成のプロセス(3) 第5回 自分のテーマの完成のプロセス(4) 第6回 自分のテーマの完成のプロセス(5) 第7回 自分のテーマの完成(1) 第8回 自分のテーマの完成(2) 第9回 自分のテーマの完成(3) 第10回 卒業制作の報告(1) 第11回 卒業制作の報告(2) 第13回 卒業制作の報告(3) 第14回 まとめ </td> </tr> </table>					<問題解決ゼミナールⅠ> 第1回 インTRODクシヨン 第2回 自分のテーマの決定 第3回 自分のテーマへの取組(1) 第4回 自分のテーマへの取組(2) 第5回 自分のテーマへの取組(3) 第6回 自分のテーマへの取組(4) 第7回 自分のテーマへの取組(5) 第8回 自分のテーマへの取組(6) 第9回 自分のテーマへの取組(7) 第10回 自分のテーマへの取組(8) 第11回 自分のテーマへの取組(9) 第12回 自分のテーマへの取組(10) 第13回 中間報告(1) 第14回 中間報告(2)	<問題解決ゼミナールⅡ> 第1回 春学期の振り返り 第2回 自分のテーマの完成へのプロセス(1) 第3回 自分のテーマの完成のプロセス(2) 第4回 自分のテーマの完成のプロセス(3) 第5回 自分のテーマの完成のプロセス(4) 第6回 自分のテーマの完成のプロセス(5) 第7回 自分のテーマの完成(1) 第8回 自分のテーマの完成(2) 第9回 自分のテーマの完成(3) 第10回 卒業制作の報告(1) 第11回 卒業制作の報告(2) 第13回 卒業制作の報告(3) 第14回 まとめ
<問題解決ゼミナールⅠ> 第1回 インTRODクシヨン 第2回 自分のテーマの決定 第3回 自分のテーマへの取組(1) 第4回 自分のテーマへの取組(2) 第5回 自分のテーマへの取組(3) 第6回 自分のテーマへの取組(4) 第7回 自分のテーマへの取組(5) 第8回 自分のテーマへの取組(6) 第9回 自分のテーマへの取組(7) 第10回 自分のテーマへの取組(8) 第11回 自分のテーマへの取組(9) 第12回 自分のテーマへの取組(10) 第13回 中間報告(1) 第14回 中間報告(2)	<問題解決ゼミナールⅡ> 第1回 春学期の振り返り 第2回 自分のテーマの完成へのプロセス(1) 第3回 自分のテーマの完成のプロセス(2) 第4回 自分のテーマの完成のプロセス(3) 第5回 自分のテーマの完成のプロセス(4) 第6回 自分のテーマの完成のプロセス(5) 第7回 自分のテーマの完成(1) 第8回 自分のテーマの完成(2) 第9回 自分のテーマの完成(3) 第10回 卒業制作の報告(1) 第11回 卒業制作の報告(2) 第13回 卒業制作の報告(3) 第14回 まとめ					
3. 履修上の注意 ニュースや映画など、メディアに関心を持つこと。特に、ジェンダーに敏感な視点があるかどうかを常にチェックすること。						
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 何にでも、広く関心を持ってほしい。						
5. 教科書 とくに、定めない。自分で探してほしい。						
6. 参考書 とくに、定めない。自分で探してほしい。						
7. 成績評価の方法 毎回のゼミへの参画（必要な文献や情報を事前に調べ、ゼミの時に自分の意見を言えることが、評価の基準である：50%）、全学年のゼミ生との外部活動への参画（50%）						
8. その他 自分なりの方法で、成果を出してほしい。夏休み中に、合宿を予定している。						

問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱ	宮川 渉	各2単位	3年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ 音楽を中心としたアート実践研究						
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 私たちは生活するなかで常に何かを表現し、創っています（言葉、しぐさ・・・）。芸術・アートは人間の表現したい、創造したい欲求・必要性から生まれたのでしょうか。本ゼミナールの授業概要は、音楽を中心としたアートの実践、創作、またそれらに関する研究に取り組むことです。「音楽を中心としたアート」と設定した理由は、担当教員の専門が音楽であることが大きいのですが、音楽は視覚表現、言語表現、身体表現など、他の分野と結びつきやすいこととも関係があります。 【到達目標】 作品制作などに取り組む上で必要なのは、想像力や創造性だけでなく、思いついたアイデアやつくりたいものを実現させる実行力です。本ゼミナールでは、受講者が研究、実践、創作したい課題をいかに実現するか、またその過程で現れる問題をいかに解決するかを学び、これらを通じて創造性や実行力を高めることを到達目標とします。また取り組む課題の中間発表や成果発表の場を設け、プレゼンやディスカッションを行うことにも重点を置きます。これは、自分の考えなどを言語化する訓練の場となり、他の人の発表を通じて知識を広げる場にもなると考えています。最終的に完成した作品や研究成果は、波照間永子先生のゼミナールと合同で行う Art-Live-Rally にて発表したり、録音、映像などのコンテンツとして残し、それらを SNS などで流してみる、というようなこともやってみたいと考えています。これらにより、自分の作品、研究が他者とどのような関わりを持つか、また今日の社会におけるアートの役割などについて考える機会にもなることを期待しています。						
2. 授業内容 <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;"> <問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 イントロダクション 第2回 自己紹介・研究テーマ設定 (1) 第3回 自己紹介・研究テーマ設定 (2) 第4回 自己紹介・研究テーマ設定 (3) 第5回 実践研究 (1) 第6回 実践研究 (2) 第7回 実践研究 (3) 第8回 実践研究 (4) 第9回 実践研究 (5) 第10回 実践研究 (6) 第11回 中間発表 (1) 第12回 中間発表 (2) 第13回 中間発表 (3) 第14回 まとめ </td> <td style="width: 50%; border: none;"> <問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 イントロダクション 第2回 実践研究 (1) 第3回 実践研究 (2) 第4回 実践研究 (3) 第5回 実践研究 (4) 第6回 実践研究 (5) 第7回 実践研究 (6) 第8回 発表準備 (1) 第9回 発表準備 (2) 第10回 発表準備 (3) 第11回 発表 (1) 第12回 発表 (2) 第13回 発表 (3) 第14回 まとめ </td> </tr> </table>					<問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 イントロダクション 第2回 自己紹介・研究テーマ設定 (1) 第3回 自己紹介・研究テーマ設定 (2) 第4回 自己紹介・研究テーマ設定 (3) 第5回 実践研究 (1) 第6回 実践研究 (2) 第7回 実践研究 (3) 第8回 実践研究 (4) 第9回 実践研究 (5) 第10回 実践研究 (6) 第11回 中間発表 (1) 第12回 中間発表 (2) 第13回 中間発表 (3) 第14回 まとめ	<問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 イントロダクション 第2回 実践研究 (1) 第3回 実践研究 (2) 第4回 実践研究 (3) 第5回 実践研究 (4) 第6回 実践研究 (5) 第7回 実践研究 (6) 第8回 発表準備 (1) 第9回 発表準備 (2) 第10回 発表準備 (3) 第11回 発表 (1) 第12回 発表 (2) 第13回 発表 (3) 第14回 まとめ
<問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 イントロダクション 第2回 自己紹介・研究テーマ設定 (1) 第3回 自己紹介・研究テーマ設定 (2) 第4回 自己紹介・研究テーマ設定 (3) 第5回 実践研究 (1) 第6回 実践研究 (2) 第7回 実践研究 (3) 第8回 実践研究 (4) 第9回 実践研究 (5) 第10回 実践研究 (6) 第11回 中間発表 (1) 第12回 中間発表 (2) 第13回 中間発表 (3) 第14回 まとめ	<問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 イントロダクション 第2回 実践研究 (1) 第3回 実践研究 (2) 第4回 実践研究 (3) 第5回 実践研究 (4) 第6回 実践研究 (5) 第7回 実践研究 (6) 第8回 発表準備 (1) 第9回 発表準備 (2) 第10回 発表準備 (3) 第11回 発表 (1) 第12回 発表 (2) 第13回 発表 (3) 第14回 まとめ					
3. 履修上の注意 実践や創作に取り組む上では、PC を使用する可能性が高いので、「デジタルアート A、B」などの講義も履修することを勧めます。						
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 実践、創作、研究は授業時間だけでなく、各自が授業時間外でも進める必要があります。またこの授業ではプレゼンを重視します。その方法に関しては『アカデミック・スキルズ（第3版）——大学生のための知的技法入門』（佐藤望（編）、慶應義塾大学出版会、2020）などを参考にしてください。						
5. 教科書 特に指定しない。						
6. 参考書 特に指定しない。						
7. 成績評価の方法 実践、研究テーマへの取り組み 50%、発表 30%、授業における取り組み 20% 半期に無断欠席を 4 回以上した場合、単位は取れません。						
8. その他 歌ったり、演奏している人、詩やイラストを書いている人、音楽制作や映像編集に関心のある人などにお勧めのゼミですが、何よりもまずやる気が必要です。						

問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱ	宮川 渉	各2単位	4年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ 音楽を中心としたアート実践研究						
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 問題分析ゼミナールで追求したテーマをより深く掘り下げるのが本ゼミナールの目的です。本ゼミナールの授業概要は、各自が音楽を中心としたアートに関する研究、実践、創作などで取り組むテーマを設定し、それを本人自身、またはゼミナールの他のメンバーが協力するかたちで完成させることです。本ゼミナールは、これまで学んできたことの集大成の場であると同時にこれからの各自の活動の土台となるものを構築できる場になることを目指しています。 【到達目標】 到達目標は、問題分析ゼミナールと同様に創造性や実行力を高めることですが、本ゼミナールでは取り組む課題を成果物としてアウトプットすることに特に重点をおきたいと考えています。また取り組む課題の中間発表や成果発表の場を設け、プレゼンやディスカッションも行います。 成果物としては、論文形式と制作形式のどちらでも可能ですが、どちらの場合にせよプレゼンを行なってもらいます。このプレゼンは、問題分析ゼミナールと同様に、波照間永子先生のゼミナールと合同で実施する Art-Live-Rally などで行うことを考えています。						
2. 授業内容 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><問題解決ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 研究テーマ設定 (1)</p> <p>第3回 研究テーマ設定 (2)</p> <p>第4回 実践研究 (1)</p> <p>第5回 実践研究 (2)</p> <p>第6回 実践研究 (3)</p> <p>第7回 実践研究 (4)</p> <p>第8回 実践研究 (5)</p> <p>第9回 実践研究 (6)</p> <p>第10回 実践研究 (7)</p> <p>第11回 中間発表 (1)</p> <p>第12回 中間発表 (2)</p> <p>第13回 中間発表 (3)</p> <p>第14回 まとめ</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><問題解決ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 実践研究 (1)</p> <p>第3回 実践研究 (2)</p> <p>第4回 実践研究 (3)</p> <p>第5回 実践研究 (4)</p> <p>第6回 実践研究 (5)</p> <p>第7回 発表準備 (1)</p> <p>第8回 発表準備 (2)</p> <p>第9回 発表準備 (3)</p> <p>第10回 発表 (1)</p> <p>第11回 発表 (2)</p> <p>第12回 発表 (3)</p> <p>第13回 発表 (4)</p> <p>第14回 まとめ</p> </td> </tr> </table>					<p><問題解決ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 研究テーマ設定 (1)</p> <p>第3回 研究テーマ設定 (2)</p> <p>第4回 実践研究 (1)</p> <p>第5回 実践研究 (2)</p> <p>第6回 実践研究 (3)</p> <p>第7回 実践研究 (4)</p> <p>第8回 実践研究 (5)</p> <p>第9回 実践研究 (6)</p> <p>第10回 実践研究 (7)</p> <p>第11回 中間発表 (1)</p> <p>第12回 中間発表 (2)</p> <p>第13回 中間発表 (3)</p> <p>第14回 まとめ</p>	<p><問題解決ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 実践研究 (1)</p> <p>第3回 実践研究 (2)</p> <p>第4回 実践研究 (3)</p> <p>第5回 実践研究 (4)</p> <p>第6回 実践研究 (5)</p> <p>第7回 発表準備 (1)</p> <p>第8回 発表準備 (2)</p> <p>第9回 発表準備 (3)</p> <p>第10回 発表 (1)</p> <p>第11回 発表 (2)</p> <p>第12回 発表 (3)</p> <p>第13回 発表 (4)</p> <p>第14回 まとめ</p>
<p><問題解決ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 研究テーマ設定 (1)</p> <p>第3回 研究テーマ設定 (2)</p> <p>第4回 実践研究 (1)</p> <p>第5回 実践研究 (2)</p> <p>第6回 実践研究 (3)</p> <p>第7回 実践研究 (4)</p> <p>第8回 実践研究 (5)</p> <p>第9回 実践研究 (6)</p> <p>第10回 実践研究 (7)</p> <p>第11回 中間発表 (1)</p> <p>第12回 中間発表 (2)</p> <p>第13回 中間発表 (3)</p> <p>第14回 まとめ</p>	<p><問題解決ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 実践研究 (1)</p> <p>第3回 実践研究 (2)</p> <p>第4回 実践研究 (3)</p> <p>第5回 実践研究 (4)</p> <p>第6回 実践研究 (5)</p> <p>第7回 発表準備 (1)</p> <p>第8回 発表準備 (2)</p> <p>第9回 発表準備 (3)</p> <p>第10回 発表 (1)</p> <p>第11回 発表 (2)</p> <p>第12回 発表 (3)</p> <p>第13回 発表 (4)</p> <p>第14回 まとめ</p>					
3. 履修上の注意 実践や創作に取り組む上では、PCを使用する可能性が高いので、「デジタルアートA、B」などの講義も履修することを勧めます。						
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 実践、創作、研究は授業時間だけでなく、各自が授業時間外でも進める必要があります。またこの授業ではプレゼンを重視します。その方法に関しては『アカデミック・スキルズ（第3版）——大学生のための知的技法入門』（佐藤望（編）、慶應義塾大学出版会、2020）などを参考にしてください。						
5. 教科書 特に指定しない。						
6. 参考書 特に指定しない。						
7. 成績評価の方法 実践、研究テーマへの取り組み 50%、発表 30%、授業における取り組み 20% 半期に無断欠席を4回以上した場合、単位は取れません。						
8. その他 特になし。						

問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱ	宮田 泰	各2単位	3年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ 紛争解決システム論						
1. 授業の概要・到達目標 紛争解決システム論の問題分析ゼミの課題は、契約事件や不法行為事件などの民事事件を対象に訴訟手続の開始から終了迄の一連の手続に従って分析的に検討することにあります。民事訴訟の手続は、当事者の行為が時系列に従って積み重ねられて発展してゆく一定の目的に向けられた動的な過程とも言えましょう。そこでの課題は、右の手続の時系列的な流れの把握のみならず、システムとしての要素も手続を構成するスキームワークとして適切に位置づけることが重要です。こうしたシステム論的課題に対しては、とくに裁判所、当事者そして訴訟対象という三つの要素から、手続にアプローチする視点が手続場面での予期の対象となります。それぞれの要素から複眼的視点により、手続を構成する個々の場面へとアプローチすることも、手続理解にとって重要です。紛争解決システム論の手続に隠された訴訟法独自の構造的な理解へと導くことが本ゼミナールの究極の課題となります。最終的な到達目標としては、論点表への理解ないし習熟、隠れた構造の理解を得て、体系的な整理をつけることを目標としたい。						
2. 授業内容 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 イントロダクション（ゼミ参加の目的・趣旨説明） 第2回 Start（実施計画書提出） 第3回 総論—紛争解決システム論 第4回 新しい司法の課題 第5回 裁判外の紛争処理制度 第6回 民事訴訟における解釈方法論 第7回 紛争解決の方法—実体形成論 第8回 裁判所—管轄 第9回 当事者①—当事者確定の理論 第10回 当事者論②—当事者能力及び当事者適格 第11回 訴訟対象論①—処分権主義 第12回 訴訟対象論②—訴えの提起及び訴訟類型 第13回 訴訟対象論③—訴状審査及び送達 第14回 夏休みの課題（実践研究計画書・リフレッシュ計画書提出） </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 イントロダクション 第2回 Start（軌道修正案提出） 第3回 紛争解決手続の過程—訴訟手続 第4回 口頭弁論の手続 第5回 弁論主義 第6回 争点整理手続 第7回 証明システム—証拠調べの準備 第8回 証拠調べの実施 第9回 各種の証拠調べ 第10回 訴訟の終り—既判力の客観的範囲 第11回 既判力論—既判力の時的限界 第12回 既判力論—既判力の主観的範囲 第13回 当事者自らによる紛争解決 第14回 総括（自己点検・自己評価書提出） </td> </tr> </table>					<問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 イントロダクション（ゼミ参加の目的・趣旨説明） 第2回 Start（実施計画書提出） 第3回 総論—紛争解決システム論 第4回 新しい司法の課題 第5回 裁判外の紛争処理制度 第6回 民事訴訟における解釈方法論 第7回 紛争解決の方法—実体形成論 第8回 裁判所—管轄 第9回 当事者①—当事者確定の理論 第10回 当事者論②—当事者能力及び当事者適格 第11回 訴訟対象論①—処分権主義 第12回 訴訟対象論②—訴えの提起及び訴訟類型 第13回 訴訟対象論③—訴状審査及び送達 第14回 夏休みの課題（実践研究計画書・リフレッシュ計画書提出）	<問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 イントロダクション 第2回 Start（軌道修正案提出） 第3回 紛争解決手続の過程—訴訟手続 第4回 口頭弁論の手続 第5回 弁論主義 第6回 争点整理手続 第7回 証明システム—証拠調べの準備 第8回 証拠調べの実施 第9回 各種の証拠調べ 第10回 訴訟の終り—既判力の客観的範囲 第11回 既判力論—既判力の時的限界 第12回 既判力論—既判力の主観的範囲 第13回 当事者自らによる紛争解決 第14回 総括（自己点検・自己評価書提出）
<問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 イントロダクション（ゼミ参加の目的・趣旨説明） 第2回 Start（実施計画書提出） 第3回 総論—紛争解決システム論 第4回 新しい司法の課題 第5回 裁判外の紛争処理制度 第6回 民事訴訟における解釈方法論 第7回 紛争解決の方法—実体形成論 第8回 裁判所—管轄 第9回 当事者①—当事者確定の理論 第10回 当事者論②—当事者能力及び当事者適格 第11回 訴訟対象論①—処分権主義 第12回 訴訟対象論②—訴えの提起及び訴訟類型 第13回 訴訟対象論③—訴状審査及び送達 第14回 夏休みの課題（実践研究計画書・リフレッシュ計画書提出）	<問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 イントロダクション 第2回 Start（軌道修正案提出） 第3回 紛争解決手続の過程—訴訟手続 第4回 口頭弁論の手続 第5回 弁論主義 第6回 争点整理手続 第7回 証明システム—証拠調べの準備 第8回 証拠調べの実施 第9回 各種の証拠調べ 第10回 訴訟の終り—既判力の客観的範囲 第11回 既判力論—既判力の時的限界 第12回 既判力論—既判力の主観的範囲 第13回 当事者自らによる紛争解決 第14回 総括（自己点検・自己評価書提出）					
3. 履修上の注意 法律系の科目履修を目指す学生諸氏を対象にしておりますが、民事裁判に関心のある諸氏への参加も幅広く希望しております。						
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 参加者の学習計画を加味しながら、予習及び復習への在り方、さらには実施計画書の作成など相談（第二回のゼミ）して決める予定です。						
5. 教科書 納谷廣美編著『新版・民事訴訟法』（八千代出版、2000年）。						
6. 参考書 中野・松浦・鈴木編『新民事訴訟法講義（第三版）』（有斐閣、2018年）						
7. 成績評価の方法 平常点（60%）、課題の提出状況（20%）やゼミ参加への積極性（20%）などを加味しながら、評価を行います。						
8. その他 法律の分野では頻繁に改正が行われ、話題も豊富です。皆さんと共に民事訴訟法や隣接諸分野の改正法など一つ一つ確認して参りたいと思います。その都度、資料を配布しますので、気軽に参加して下さい。						

問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱ	宮田 泰	各2単位	4年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ 紛争解決システム論						
1. 授業の概要・到達目標 紛争解決システム論の問題解決ゼミナールの目的は、これまで検討した訴訟手続ないし判決手続の部分、すなわち手続の開始から終了までの手続についての理解を前提に、この応用問題に取り組むことです。民事司法は、手続の簡略化の課題を特別訴訟に置いて、迅速かつ実効的な紛争処理を図っております。なおかつ、我々が検討した第一審判決手続への課題が手続保障といった手続論という形をとって具体的に論ぜられなければなりません。果たしてこうした手続的な課題を、正面から受け止め、適切・妥当な手続による正当化論へと纏め上げられるのか、こうしたシステム論的論題が実務・実践的な課題として論じられなければなりません。 問題解決ゼミは、システム論における手続による正当化論、すなわちオートポイエーシス概念形成（自己産出の概念形成）への手続論的分出を試みて参りたいと思います。 学際性議論への確かな洞察を深め、そこでの紛争解決システム論の意義を確かめ、システム論の理論的可能性を探りたい。						
2. 授業内容 <table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p><問題解決ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 イントロダクション（ゼミ参加の目的・趣旨説明）</p> <p>第2回 Start（実施計画書提出）</p> <p>第3回 紛争解決システム論—訴訟の迅速化</p> <p>第4回 紛争解決システム論—民事訴訟法の史的展開</p> <p>第5回 紛争解決システム論—手続法に関わる諸制度</p> <p>第6回 紛争解決システム論—法政策的論議にまつわる課題</p> <p>第7回 複合訴訟—複数請求訴訟</p> <p>第8回 複合訴訟—複数当事者訴訟</p> <p>第9回 複合訴訟—訴訟参加形態</p> <p>第10回 上訴—控訴</p> <p>第11回 上訴—上告</p> <p>第12回 特別訴訟—簡易裁判所</p> <p>第13回 特別訴訟—少額訴訟手続</p> <p>第14回 夏休みの課題（実施計画書・リフレッシュ計画書提出）</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p><問題解決ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 紛争解決システム論の展望①</p> <p>第2回 紛争解決システム論の展望②</p> <p>第3回 紛争解決システム論の展望③</p> <p>第4回 紛争解決システム論の展望④</p> <p>第5回 特別訴訟—督促手続</p> <p>第6回 特別訴訟—手形訴訟</p> <p>第7回 争点整理論①</p> <p>第8回 争点整理論②</p> <p>第9回 争点整理論③</p> <p>第10回 実体法と訴訟法のシステムカップリング①</p> <p>第11回 実体法と訴訟法のシステムカップリング②</p> <p>第12回 実体法と訴訟法のシステムカップリング③</p> <p>第13回 実体法と訴訟法のシステムカップリング④</p> <p>第14回 総括（自己点検・自己評価書提出）</p> </td> </tr> </table>					<p><問題解決ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 イントロダクション（ゼミ参加の目的・趣旨説明）</p> <p>第2回 Start（実施計画書提出）</p> <p>第3回 紛争解決システム論—訴訟の迅速化</p> <p>第4回 紛争解決システム論—民事訴訟法の史的展開</p> <p>第5回 紛争解決システム論—手続法に関わる諸制度</p> <p>第6回 紛争解決システム論—法政策的論議にまつわる課題</p> <p>第7回 複合訴訟—複数請求訴訟</p> <p>第8回 複合訴訟—複数当事者訴訟</p> <p>第9回 複合訴訟—訴訟参加形態</p> <p>第10回 上訴—控訴</p> <p>第11回 上訴—上告</p> <p>第12回 特別訴訟—簡易裁判所</p> <p>第13回 特別訴訟—少額訴訟手続</p> <p>第14回 夏休みの課題（実施計画書・リフレッシュ計画書提出）</p>	<p><問題解決ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 紛争解決システム論の展望①</p> <p>第2回 紛争解決システム論の展望②</p> <p>第3回 紛争解決システム論の展望③</p> <p>第4回 紛争解決システム論の展望④</p> <p>第5回 特別訴訟—督促手続</p> <p>第6回 特別訴訟—手形訴訟</p> <p>第7回 争点整理論①</p> <p>第8回 争点整理論②</p> <p>第9回 争点整理論③</p> <p>第10回 実体法と訴訟法のシステムカップリング①</p> <p>第11回 実体法と訴訟法のシステムカップリング②</p> <p>第12回 実体法と訴訟法のシステムカップリング③</p> <p>第13回 実体法と訴訟法のシステムカップリング④</p> <p>第14回 総括（自己点検・自己評価書提出）</p>
<p><問題解決ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 イントロダクション（ゼミ参加の目的・趣旨説明）</p> <p>第2回 Start（実施計画書提出）</p> <p>第3回 紛争解決システム論—訴訟の迅速化</p> <p>第4回 紛争解決システム論—民事訴訟法の史的展開</p> <p>第5回 紛争解決システム論—手続法に関わる諸制度</p> <p>第6回 紛争解決システム論—法政策的論議にまつわる課題</p> <p>第7回 複合訴訟—複数請求訴訟</p> <p>第8回 複合訴訟—複数当事者訴訟</p> <p>第9回 複合訴訟—訴訟参加形態</p> <p>第10回 上訴—控訴</p> <p>第11回 上訴—上告</p> <p>第12回 特別訴訟—簡易裁判所</p> <p>第13回 特別訴訟—少額訴訟手続</p> <p>第14回 夏休みの課題（実施計画書・リフレッシュ計画書提出）</p>	<p><問題解決ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 紛争解決システム論の展望①</p> <p>第2回 紛争解決システム論の展望②</p> <p>第3回 紛争解決システム論の展望③</p> <p>第4回 紛争解決システム論の展望④</p> <p>第5回 特別訴訟—督促手続</p> <p>第6回 特別訴訟—手形訴訟</p> <p>第7回 争点整理論①</p> <p>第8回 争点整理論②</p> <p>第9回 争点整理論③</p> <p>第10回 実体法と訴訟法のシステムカップリング①</p> <p>第11回 実体法と訴訟法のシステムカップリング②</p> <p>第12回 実体法と訴訟法のシステムカップリング③</p> <p>第13回 実体法と訴訟法のシステムカップリング④</p> <p>第14回 総括（自己点検・自己評価書提出）</p>					
3. 履修上の注意 法律系の科目履修を目指す学生諸氏を対象としておりますが、民事裁判に関心のある諸氏への参加も幅広く希望しております。						
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 参加者の履修状況及び学習計画などを加味しながら、最終段階での纏め上げに取り組むため、自己産出（自己点検・自己評価）を行います。						
5. 教科書 田中成明『現代裁判を考える 民事裁判のヴィジョンを求めて』（有斐閣、2014年）						
6. 参考書 講座の中で適宜指摘し、必要な場合は、コピーをお渡しします。						
7. 成績評価の方法 常に学生諸氏との連絡を取りつつ、適宜授業への貢献度（60%）を把握し、課題の提出状況（20%）や出席時の積極性（20%）などを加味し、評価いたします。						
8. その他 法律の分野では法律改正が頻繁におこなわれ、話題も豊富です。なおかつ、このゼミでは、さらにシステムの理論的側面に踏み込んで考えてみたいと思います。						

問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱ	宮本 真也	3年次	各2単位	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ 現代社会と社会理論						
1. 授業の概要・到達目標 本ゼミナールでは、現代社会における文化現象、社会的な病理などについて問題点を見だし、社会学的な観点から分析し、考察を加えることを目的とする。そのためにゼミでは文献講読と個人の研究報告の二つを主要な柱とする。個別的な研究テーマの例を参考までに挙げておきたい。 ・孤独をめぐる産業 ・若者の自分らしさの意識と友人関係について ・スポーツから体罰を取り除くには？ ・ロックの歴史 ・なぜ下町は残ったか？ ・現代社会が生んだ心の病の実態を探る ・携帯電話のデザイン ・国家に飼いなされた民衆 ・働き方改革の現在 このゼミでの研究の到達目標は、まずは社会学的な考え方、概念の基礎的な理解を固め、それを自分自身の研究テーマへとつなげていくことである。4年次の問題解決ゼミナールのための準備段階とも言える。 また、ゼミナールではメディア作品の視聴を通じて、より具体的な社会状況を文化や国を越えて理解できるように試みる。						
2. 授業内容 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 導入 第2回 文献講読 1-1 第3回 文献講読 1-2 第4回 文献講読 1-3 第5回 文献講読 1-4 第6回 まとめと議論 第7回 文献講読 第8回 文献講読 2-1 第9回 文献講読 2-2 第10回 文献講読 2-3 第11回 文献講読 2-4 第12回 まとめと議論 第13回 文献紹介と議論 第14回 卒業レポート準備についての議論 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 導入 第2回 文献講読 1-1 第3回 文献講読 1-2 第4回 文献講読 1-3 第5回 文献講読 1-4 第6回 まとめと議論 第7回 文献講読 第8回 文献講読 2-1 第9回 文献講読 2-2 第10回 文献講読 2-3 第11回 文献講読 2-4 第12回 まとめと議論 第13回 文献紹介と議論 第14回 卒業レポート準備についての議論 </td> </tr> </table>					<問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 導入 第2回 文献講読 1-1 第3回 文献講読 1-2 第4回 文献講読 1-3 第5回 文献講読 1-4 第6回 まとめと議論 第7回 文献講読 第8回 文献講読 2-1 第9回 文献講読 2-2 第10回 文献講読 2-3 第11回 文献講読 2-4 第12回 まとめと議論 第13回 文献紹介と議論 第14回 卒業レポート準備についての議論	<問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 導入 第2回 文献講読 1-1 第3回 文献講読 1-2 第4回 文献講読 1-3 第5回 文献講読 1-4 第6回 まとめと議論 第7回 文献講読 第8回 文献講読 2-1 第9回 文献講読 2-2 第10回 文献講読 2-3 第11回 文献講読 2-4 第12回 まとめと議論 第13回 文献紹介と議論 第14回 卒業レポート準備についての議論
<問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 導入 第2回 文献講読 1-1 第3回 文献講読 1-2 第4回 文献講読 1-3 第5回 文献講読 1-4 第6回 まとめと議論 第7回 文献講読 第8回 文献講読 2-1 第9回 文献講読 2-2 第10回 文献講読 2-3 第11回 文献講読 2-4 第12回 まとめと議論 第13回 文献紹介と議論 第14回 卒業レポート準備についての議論	<問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 導入 第2回 文献講読 1-1 第3回 文献講読 1-2 第4回 文献講読 1-3 第5回 文献講読 1-4 第6回 まとめと議論 第7回 文献講読 第8回 文献講読 2-1 第9回 文献講読 2-2 第10回 文献講読 2-3 第11回 文献講読 2-4 第12回 まとめと議論 第13回 文献紹介と議論 第14回 卒業レポート準備についての議論					
3. 履修上の注意 研究テーマが確定している必要はないが、常に「学術書で書かれていることが、私の所属する社会においてはどのような意味をもっているのか」については、自分自身で解釈を試み、意識して読んで欲しい。						
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 本ゼミナールへの参加の準備のための基本的なテキストとしては、以下のものが役立つと思われる。 「親密性の変容」、A・ギデンス、而立書房 『承認』の哲学、藤野寛、青土社 「マルクス 資本論」、佐々木隆治、角川選書						
5. 教科書 「社会的なものを組み直す」、B. ラトゥール、法政大学出版局 「権力の批判」、A・ホネット、法政大学出版局 「物象化」、A・ホネット、法政大学出版局						
6. 参考書 特になし。						
7. 成績評価の方法 学生のそれぞれの報告 30%、学期末レポート 70%						
8. その他 留学経験者、留学予定者も歓迎します。また、ゼミナール入室を希望するものは、質問がある場合には事前にメール (es_meiji@yahoo.co.jp) で質問も受け付けます。入室希望者は重要な情報をガイダンスでもお伝えするので必ず参加すること。						

問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱ	宮本 真也	各2単位	4年次	科目ナンバー (IC) IND312J
◆研究テーマ				
現代社会の諸問題				
1. 授業の概要・到達目標				
本ゼミナールでは、現代社会における文化現象、社会的な病理などについて問題点を見だし、社会学的な観点から分析し、考察を加えることを目的とする。このゼミの最終目的は卒業レポートの完成と提出にある。そのために、ここでは一学期につき、それぞれの参加者が最低2回のレポートのための進捗状況を報告し、議論を通じて、内容を深めて完成させていくことを行う。				
2. 授業内容				
<問題解決ゼミナールⅠ>		<問題解決ゼミナールⅡ>		
第1回 導入		第1回 導入		
第2回 研究報告 1-1		第2回 研究報告 1-1		
第3回 研究報告 1-2		第3回 研究報告 1-2		
第4回 研究報告 1-3		第4回 研究報告 1-3		
第5回 研究報告 1-4		第5回 研究報告 1-4		
第6回 研究報告 1-5		第6回 研究報告 1-5		
第7回 小括		第7回 小括		
第8回 文献紹介と議論		第8回 文献紹介と議論		
第9回 研究報告 2-1		第9回 研究報告 2-1		
第10回 研究報告 2-2		第10回 研究報告 2-2		
第11回 研究報告 2-3		第11回 研究報告 2-3		
第12回 研究報告 2-4		第12回 研究報告 2-4		
第13回 研究報告 2-5		第13回 研究報告 2-5		
第14回 全体のまとめと今後の調整		第14回 研究レポートの提出と講評		
3. 履修上の注意				
研究テーマの確定をなによりも優先させ、卒業レポートの完成のために自主的に研究を進めること。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容				
報告担当者は必ず、簡単でいいので参加者に報告のアウトラインを記したものを配付できるようにしておくこと。				
5. 教科書				
個別研究の進捗状況と指導が中心となるので、特定の教科書を指定はしない。				
6. 参考書				
特になし。				
7. 成績評価の方法				
問題解決ゼミナールⅠについては、報告を30%、学期末レポートを70%の割合で成績評価を行う。また、問題解決ゼミナールⅡについても、報告を30%、卒業レポートを70%で成績評価をする。いずれの場合も、レポートの提出がない場合は、成績評価の対象とならず、F評価となる。				
8. その他				
適宜、授業外でのオフィスアワーも設けるので、申し出ること。				

問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱ	山内 勇	各2単位	3年次	科目ナンバー (IC) IND312J
◆研究テーマ イノベーションの経済学				
1. 授業の概要・到達目標 <p>【授業の概要】イノベーションとは、新たな知識を創出し普及させることで社会的な価値を生み出すことである。良いアイデア・技術があっても、それが消費者に受け入れられ、社会で利用されなければ社会的な価値は生まれない。このゼミでは、企業のイノベーション活動について経済学的な分析を行う。</p> <p>具体的には、教科書や先行研究の内容を整理し発表することで基本的な概念・分析手法を身につけるとともに、グループごとに簡単な製品開発・ビジネスモデルの考案（日常生活における課題の発見及びそれを解決するための手段の検討）を行い、それを普及させる方法について考察する。その過程で、各種コンテストへの応募、権利化なども可能な限り行っていく。</p> <p>【到達目標】こうした体験を通じて、新製品・サービスの開発から市場投入、普及に至るイノベーション・プロセスについて、具体的なイメージを持ちつつ、論理的に考え説明できる能力を身に付けることが3年次のゼミの目標である。</p>				
2. 授業内容				
<p>＜問題分析ゼミナールⅠ＞</p> <p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 イノベーションの基礎概念</p> <p>第3回 文献発表、グループワーク（市場構造）</p> <p>第4回 文献発表、グループワーク（市場分析）</p> <p>第5回 文献発表、グループワーク（課題の発見1）</p> <p>第6回 文献発表、グループワーク（課題の発見2）</p> <p>第7回 文献発表、グループワーク（課題の解決手段1）</p> <p>第8回 文献発表、グループワーク（課題の解決手段2）</p> <p>第9回 文献発表、グループワーク（製品差別化1）</p> <p>第10回 文献発表、グループワーク（製品差別化2）</p> <p>第11回 文献発表、グループワーク（ブランド構築1）</p> <p>第12回 文献発表、グループワーク（ブランド構築2）</p> <p>第13回 文献発表、グループワーク（マーケティング）</p> <p>第14回 文献発表、グループワーク（価格戦略）</p>		<p>＜問題分析ゼミナールⅡ＞</p> <p>第1回 イノベーション・プロセス</p> <p>第2回 経済学の分析手法</p> <p>第3回 文献発表、グループワーク（消費者行動）</p> <p>第4回 文献発表、グループワーク（知識の創出1）</p> <p>第5回 文献発表、グループワーク（知識の創出2）</p> <p>第6回 文献発表、グループワーク（知的財産制度）</p> <p>第7回 文献発表、グループワーク（先行技術調査）</p> <p>第8回 文献発表、グループワーク（知財マネジメント）</p> <p>第9回 文献発表、グループワーク（知識共有の仕組み）</p> <p>第10回 文献発表、グループワーク（データ分析1）</p> <p>第11回 文献発表、グループワーク（データ分析2）</p> <p>第12回 文献発表、グループワーク（回帰分析1）</p> <p>第13回 文献発表、グループワーク（回帰分析2）</p> <p>第14回 文献発表、グループワーク（付加価値）</p>		
3. 履修上の注意 <p>毎回授業の前半に2～3人が書籍・論文等の文献紹介を行い、それをもとにディスカッションを行う。授業の後半はグループワークを行い、各グループがその結果を発表する。</p> <p>各回の授業内容はゼミ生の関心や理解度に応じ、相談のうえ変更することがある。なお、発言のない学生はゼミに貢献していないものとみなす。</p>				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 <p>予習：ゼミで扱うテーマについて、議論に必要な情報を指示された教科書・参考書等から収集しておくこと。また発表者はスライドを用意すること。</p> <p>復習：ゼミでの報告内容、議論・コメントを整理し、次の報告にいかすこと。</p>				
5. 教科書 <p>指定しない（毎回資料を配付する）。</p>				
6. 参考書 <p>加藤 雅俊『スタートアップの経済学 新しい企業の誕生と成長プロセスを学ぶ』有斐閣、2022年 金間大介、山内勇、吉岡（小林）徹『イノベーション&マーケティングの経済学』中央経済社、2019年</p>				
7. 成績評価の方法 <p>報告内容（50%）、ゼミへの貢献（50%）</p>				
8. その他 <p>与えられた課題をやり通す力だけでなく、他者と協力して一つの仕事を遂行する能力を高めていくことも、このゼミの目的です。そのためには、他のゼミ生とのコミュニケーションも重要です。したがって、グループワークや研究報告などに真摯に取り組むことはもちろんのこと、他のゼミ生と交流を図り「大変だけど楽しいゼミ」を作っていくことができる学生を歓迎します。</p>				

問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱ	山内 勇	各2単位	4年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ イノベーションの経済学						
1. 授業の概要・到達目標 <p>【授業の概要】 このゼミでは、企業のイノベーション活動について経済学的な分析を行う。4年次のゼミは、3年次に行ってきた分析をより学術的に発展させ、研究論文としてまとめていく。特に、他社との差別化を図り、付加価値を高め、製品を普及させていくうえで必要となる、企業戦略や市場構造等についての分析を行う。</p> <p>【到達目標】 このゼミにおける目標は、自分の関心のあるテーマについて、先行研究の分析結果を解釈できるようになること、及び、自分で研究テーマに関する仮説を設定しそれを検証するためのデータを集め、回帰分析などの実証分析を行うことができるスキルを身に付けることである。また、自分の考えや行った分析結果について、論理的に説明する能力を身に付けることもこのゼミの大きな目的である。</p>						
2. 授業内容						
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><問題解決ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 インTRODクシヨン</p> <p>第2回 研究報告、グループワーク (利潤最大化)</p> <p>第3回 研究報告、グループワーク (市場の規定1)</p> <p>第4回 研究報告、グループワーク (市場の規定2)</p> <p>第5回 研究報告、グループワーク (競争構造1)</p> <p>第6回 研究報告、グループワーク (競争構造2)</p> <p>第7回 研究報告、グループワーク (事業領域1)</p> <p>第8回 研究報告、グループワーク (事業領域1)</p> <p>第9回 研究報告、グループワーク (企業の境界1)</p> <p>第10回 研究報告、グループワーク (企業の境界2)</p> <p>第11回 研究報告、グループワーク (購買行動1)</p> <p>第12回 研究報告、グループワーク (購買行動2)</p> <p>第13回 研究論文中間報告 (1)</p> <p>第14回 研究論文中間報告 (2)</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><問題解決ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 研究の進捗報告</p> <p>第2回 研究報告、グループワーク (製品属性1)</p> <p>第3回 研究報告、グループワーク (製品属性2)</p> <p>第4回 研究報告、グループワーク (広告)</p> <p>第5回 研究報告、グループワーク (流通)</p> <p>第6回 研究報告、グループワーク (探索設計1)</p> <p>第7回 研究報告、グループワーク (探索設計2)</p> <p>第8回 研究報告、グループワーク (売上予測)</p> <p>第9回 研究報告、ディスカッション</p> <p>第10回 研究報告、ディスカッション</p> <p>第11回 研究報告、ディスカッション</p> <p>第12回 研究報告、ディスカッション</p> <p>第13回 研究論文最終報告 (1)</p> <p>第14回 研究論文最終報告 (2)</p> </td> </tr> </table>					<p><問題解決ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 インTRODクシヨン</p> <p>第2回 研究報告、グループワーク (利潤最大化)</p> <p>第3回 研究報告、グループワーク (市場の規定1)</p> <p>第4回 研究報告、グループワーク (市場の規定2)</p> <p>第5回 研究報告、グループワーク (競争構造1)</p> <p>第6回 研究報告、グループワーク (競争構造2)</p> <p>第7回 研究報告、グループワーク (事業領域1)</p> <p>第8回 研究報告、グループワーク (事業領域1)</p> <p>第9回 研究報告、グループワーク (企業の境界1)</p> <p>第10回 研究報告、グループワーク (企業の境界2)</p> <p>第11回 研究報告、グループワーク (購買行動1)</p> <p>第12回 研究報告、グループワーク (購買行動2)</p> <p>第13回 研究論文中間報告 (1)</p> <p>第14回 研究論文中間報告 (2)</p>	<p><問題解決ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 研究の進捗報告</p> <p>第2回 研究報告、グループワーク (製品属性1)</p> <p>第3回 研究報告、グループワーク (製品属性2)</p> <p>第4回 研究報告、グループワーク (広告)</p> <p>第5回 研究報告、グループワーク (流通)</p> <p>第6回 研究報告、グループワーク (探索設計1)</p> <p>第7回 研究報告、グループワーク (探索設計2)</p> <p>第8回 研究報告、グループワーク (売上予測)</p> <p>第9回 研究報告、ディスカッション</p> <p>第10回 研究報告、ディスカッション</p> <p>第11回 研究報告、ディスカッション</p> <p>第12回 研究報告、ディスカッション</p> <p>第13回 研究論文最終報告 (1)</p> <p>第14回 研究論文最終報告 (2)</p>
<p><問題解決ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 インTRODクシヨン</p> <p>第2回 研究報告、グループワーク (利潤最大化)</p> <p>第3回 研究報告、グループワーク (市場の規定1)</p> <p>第4回 研究報告、グループワーク (市場の規定2)</p> <p>第5回 研究報告、グループワーク (競争構造1)</p> <p>第6回 研究報告、グループワーク (競争構造2)</p> <p>第7回 研究報告、グループワーク (事業領域1)</p> <p>第8回 研究報告、グループワーク (事業領域1)</p> <p>第9回 研究報告、グループワーク (企業の境界1)</p> <p>第10回 研究報告、グループワーク (企業の境界2)</p> <p>第11回 研究報告、グループワーク (購買行動1)</p> <p>第12回 研究報告、グループワーク (購買行動2)</p> <p>第13回 研究論文中間報告 (1)</p> <p>第14回 研究論文中間報告 (2)</p>	<p><問題解決ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 研究の進捗報告</p> <p>第2回 研究報告、グループワーク (製品属性1)</p> <p>第3回 研究報告、グループワーク (製品属性2)</p> <p>第4回 研究報告、グループワーク (広告)</p> <p>第5回 研究報告、グループワーク (流通)</p> <p>第6回 研究報告、グループワーク (探索設計1)</p> <p>第7回 研究報告、グループワーク (探索設計2)</p> <p>第8回 研究報告、グループワーク (売上予測)</p> <p>第9回 研究報告、ディスカッション</p> <p>第10回 研究報告、ディスカッション</p> <p>第11回 研究報告、ディスカッション</p> <p>第12回 研究報告、ディスカッション</p> <p>第13回 研究論文最終報告 (1)</p> <p>第14回 研究論文最終報告 (2)</p>					
3. 履修上の注意 <p>原則として、毎回担当者が自分の設定したテーマについて研究発表を行い、それについてディスカッションを行う。また、グループワークを行うことで、学術的な知見を実際の事業に生かす視点を養う。 なお、発言のない学生はゼミに貢献していないものとみなす。</p>						
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 <p>予習：ゼミで扱うテーマについて、議論に必要となる情報を指示された教科書・参考書等から収集しておくこと。 また発表者はスライドを用意すること。 復習：ゼミでの報告内容、議論・コメントを整理し、次の報告にいかすこと。</p>						
5. 教科書 <p>必要に応じて指示する。</p>						
6. 参考書 <p>清水洋『アントレプレナーシップ』有斐閣、2022 P. Swann, The Economics of Innovation: An Introduction, Edward Elgar, 2009. B. Hall and N. Rosenberg (eds.), Economics of Innovation, vol 1 & 2, Handbooks in economics, North-Holland, 2010.</p>						
7. 成績評価の方法 <p>報告内容 (20%)、演習への貢献 (30%)、研究成果 (50%)</p>						
8. その他 <p>自ら課題を発見しそれを解決する手段を考える訓練を通じて、皆さんの市場価値は大きく高まるはずでず。また、実証分析のスキルを習得することは、社会に出てから直接的に役に立つだけでなく、他者あるいは人工知能が行った分析結果を自分なりに解釈し、その妥当性を評価することにも役立ちます。</p>						

問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱ	山口 生史	各2単位	3年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ 組織コミュニケーション研究：質的研究						
1. 授業の概要・到達目標						
【授業の概要】 問題分析ゼミナールでは、組織が機能するための手段であるコミュニケーションについて研究します。具体的には、組織メンバー間のコミュニケーションを通して、組織メンバーが相互理解を深め、彼らの肯定的な組織行動や態度を導き、組織運営と協働を効率よく促し、組織及び組織メンバーの生産性を高めるにはどうしたらよいかを研究します。また、組織の中を情報がどのように流れるのか、情報が適切に伝達されているのか否か、そして情報の流れが滞る場合どのような問題が起きるのかなども研究テーマに含まれるでしょう。 【到達目標】 I の到達目標は、(a)組織コミュニケーションの理解；(b)研究テーマの明確化；(c)文献調査による先行研究のレビュー；(d)理論モデルの構築；(e)質的調査の方法の理解です。II の到達目標は、組織コミュニケーションの研究テーマに関する(a)質的調査の準備と実施；(b)質的データの分析（その方法の習得）；(c)仮説生成のアプローチの習得；(d)仮説生成；(e)論文作成です。						
2. 授業内容 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題分析ゼミナールⅠ> (諸般の事情により一部変更する可能性があります) 第1回 クラスの概要説明 第2回 発表1：組織コミュニケーションとは 第3回 発表2：組織コミュニケーション研究のアプローチ 第4回 発表3：コミュニケーション・オーディット1 第5回 発表4：コミュニケーション・オーディット2 第6回 発表5：組織コミュニケーションと組織行動学（リーダーシップなど）1 第7回 発表6：組織コミュニケーションと組織行動学（モチベーション、コミットメントなど）2 第8回 発表7：組織コミュニケーションと組織行動学（コンフリクト、チームマネジメントなど）3 第9回 発表8：組織コミュニケーションと組織行動学（メンタルヘルス、組織文化など）4 第10回 発表9：質的研究法 第11回 発表10：質的調査法 第12回 発表11：研究課題と先行研究の意義 第13回 概念間の関係の理論モデルの検討(1)：グループディスカッション 第14回 概念間の関係の理論モデルの検討(2)：グループディスカッション </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題分析ゼミナールⅡ> (諸般の事情により一部変更する可能性があります) 第1回 理論モデルの確認：グループディスカッション 第2回 半構造的インタビュー調査の準備 第3回 インタビューガイドの作成 第4回 インタビューガイドの修正と完成：インタビューガイド作成後インタビュー調査開始 第5回 質的データの分析の方法 第6回 データ分析(1)：コーディング 第7回 データ分析(2)：コーディングの枠組みの検討 第8回 データ分析(3)：コード(概念)間の関係の考察 第9回 グループ(間)発表 第10回 理論モデルの修正と再構築 第11回 発表1 第12回 理論モデルの修正と再々構築 第13回 発表2 第14回 仮説生成と論文のまとめ方 </td> </tr> </table>					<問題分析ゼミナールⅠ> (諸般の事情により一部変更する可能性があります) 第1回 クラスの概要説明 第2回 発表1：組織コミュニケーションとは 第3回 発表2：組織コミュニケーション研究のアプローチ 第4回 発表3：コミュニケーション・オーディット1 第5回 発表4：コミュニケーション・オーディット2 第6回 発表5：組織コミュニケーションと組織行動学（リーダーシップなど）1 第7回 発表6：組織コミュニケーションと組織行動学（モチベーション、コミットメントなど）2 第8回 発表7：組織コミュニケーションと組織行動学（コンフリクト、チームマネジメントなど）3 第9回 発表8：組織コミュニケーションと組織行動学（メンタルヘルス、組織文化など）4 第10回 発表9：質的研究法 第11回 発表10：質的調査法 第12回 発表11：研究課題と先行研究の意義 第13回 概念間の関係の理論モデルの検討(1)：グループディスカッション 第14回 概念間の関係の理論モデルの検討(2)：グループディスカッション	<問題分析ゼミナールⅡ> (諸般の事情により一部変更する可能性があります) 第1回 理論モデルの確認：グループディスカッション 第2回 半構造的インタビュー調査の準備 第3回 インタビューガイドの作成 第4回 インタビューガイドの修正と完成：インタビューガイド作成後インタビュー調査開始 第5回 質的データの分析の方法 第6回 データ分析(1)：コーディング 第7回 データ分析(2)：コーディングの枠組みの検討 第8回 データ分析(3)：コード(概念)間の関係の考察 第9回 グループ(間)発表 第10回 理論モデルの修正と再構築 第11回 発表1 第12回 理論モデルの修正と再々構築 第13回 発表2 第14回 仮説生成と論文のまとめ方
<問題分析ゼミナールⅠ> (諸般の事情により一部変更する可能性があります) 第1回 クラスの概要説明 第2回 発表1：組織コミュニケーションとは 第3回 発表2：組織コミュニケーション研究のアプローチ 第4回 発表3：コミュニケーション・オーディット1 第5回 発表4：コミュニケーション・オーディット2 第6回 発表5：組織コミュニケーションと組織行動学（リーダーシップなど）1 第7回 発表6：組織コミュニケーションと組織行動学（モチベーション、コミットメントなど）2 第8回 発表7：組織コミュニケーションと組織行動学（コンフリクト、チームマネジメントなど）3 第9回 発表8：組織コミュニケーションと組織行動学（メンタルヘルス、組織文化など）4 第10回 発表9：質的研究法 第11回 発表10：質的調査法 第12回 発表11：研究課題と先行研究の意義 第13回 概念間の関係の理論モデルの検討(1)：グループディスカッション 第14回 概念間の関係の理論モデルの検討(2)：グループディスカッション	<問題分析ゼミナールⅡ> (諸般の事情により一部変更する可能性があります) 第1回 理論モデルの確認：グループディスカッション 第2回 半構造的インタビュー調査の準備 第3回 インタビューガイドの作成 第4回 インタビューガイドの修正と完成：インタビューガイド作成後インタビュー調査開始 第5回 質的データの分析の方法 第6回 データ分析(1)：コーディング 第7回 データ分析(2)：コーディングの枠組みの検討 第8回 データ分析(3)：コード(概念)間の関係の考察 第9回 グループ(間)発表 第10回 理論モデルの修正と再構築 第11回 発表1 第12回 理論モデルの修正と再々構築 第13回 発表2 第14回 仮説生成と論文のまとめ方					
3. 履修上の注意 課題提出とディスカッション参加は「7. 成績評価の方法」の比率にかかわらず必須です（十分な提出がないと評価対象となりません）。						
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 I では第2回～第12回の章のリーディングおよび第13回以降の各チームの研究テーマに関する文献調査を行うことが必要です。II では、インタビューガイドの作成やデータ分析を各自が準備してくる必要があります。						
5. 教科書 （諸般の事情により変更する可能性があります） 太田裕子（2019）『はじめて「質的研究」を「書く」あなたへ』東京図書 その他、組織行動学関連の専門書1冊（授業開始前に指定連絡；「6参考書」のリストから選ぶ可能性もあり）						
6. 参考書 ダウンズ、C. W.（1988[太田正孝監訳 1999]）『コミュニケーション・オーディット』CAP出版 ロビンス、S. P.（2005[高木晴夫監訳 2009]）『新版・組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社 大谷信介・後藤範章・小松洋・木下 栄二（2013）『新・社会調査へのアプローチ—論理と方法』(ミネルヴァ書房)						
7. 成績評価の方法 (1) クラス発表・討論参加：40%； (2) 課題・提出物（最終課題も含む）：60%						
8. その他 文献調査とディスカッションへの積極的参加が必要です。授業とは別に各チーム（あるいは各自）はインタビュー調査を行う必要があります。チーム活動の場合も課題はチームではなく、個別の提出となります。						

問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱ	山口 生史	各2単位	4年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ 組織コミュニケーション研究：量的研究						
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 問題解決ゼミナールでは、問題分析ゼミナールで各研究チーム（あるいは各自）が設定した組織コミュニケーションに関する研究課題と、文献調査と質的調査に基づいて生成した仮説を検証するため、質問票(量的)調査を行い、量的データを収集し、統計解析によるデータ分析を行います。質問票作成、質問票配布(配信)、データ分析、仮説検証、結果のまとめという順番に授業を進め、ゼミ論文を完成させます。Iでは、データ収集と入力まで、あるいはデータ分析まで、IIでは、データ分析の継続、結果のチーム内検討、プレゼンテーションとコメントを繰り返し、論文の完成をめざします。 【到達目標】 Iの到達目標は、(a)質問票の作成の仕方を習得する；(b)仮説を検証することおよび量的調査の意義の理解；(c)統計解析専用ソフトの操作と初歩的な統計解析の理解；(d)自分たちの構築した仮説の検証、です。IIの到達目標は、(a)仮説の検証（統計解析結果）の確認及び修正、(b)量的調査の論文の書き方の習得；(c)ゼミ論文の完成およびゼミ論文集の作成です。						
2. 授業内容 <table border="0" style="width:100%;"> <tr> <td style="width:50%; vertical-align: top;"> <問題解決ゼミナールⅠ> (諸般の事情により一部変更する可能性があります) 第1回 クラスの概要説明 第2回 各チームの仮説の確認と修正点の検討 第3回 質問票の作り方 第4回 質問票の作成 第5回 質問票の修正(1) 第6回 質問票の修正(2) 第7回 質問票の修正と完成： 質問票の完成後質問票の配布(配信) 第8回 データ分析の仕方と統計の説明 第9回 データ入力とデータクリーニング 第10回 データ変容など 第11回 データ分析(1)：記述統計 第12回 データ分析(2)：探索的因子分析と信頼性 第13回 データ分析(3)：仮説検証のための統計解析(1) 第14回 データ分析(4)：仮説検証のための統計解析(2) </td> <td style="width:50%; vertical-align: top;"> <問題解決ゼミナールⅡ> (諸般の事情により一部変更する可能性があります) 第1回 仮説検証のための統計解析： 媒介効果と調整効果の分析 第2回 仮説検証のための統計解析： 分析の修正と完了 第3回 発表1：「文献調査」～「理論モデルの構築」 第4回 グループディスカッション1：発表1の修正 第5回 発表2：「インタビュー調査とそのデータ分析」 と「仮説の生成・再生成」 第6回 グループディスカッション2：発表2の修正 第7回 発表3：「量的調査・分析の調査の方法」 第8回 グループディスカッション3：発表3の修正 第9回 発表4：「統計解析の結果」 第10回 グループディスカッション4：発表4の修正 第11回 発表5：「考察」 第12回 グループディスカッション5：発表5の修正 第13回 発表6：完成論文の発表 第14回 論文修正点の確認とまとめ </td> </tr> </table>					<問題解決ゼミナールⅠ> (諸般の事情により一部変更する可能性があります) 第1回 クラスの概要説明 第2回 各チームの仮説の確認と修正点の検討 第3回 質問票の作り方 第4回 質問票の作成 第5回 質問票の修正(1) 第6回 質問票の修正(2) 第7回 質問票の修正と完成： 質問票の完成後質問票の配布(配信) 第8回 データ分析の仕方と統計の説明 第9回 データ入力とデータクリーニング 第10回 データ変容など 第11回 データ分析(1)：記述統計 第12回 データ分析(2)：探索的因子分析と信頼性 第13回 データ分析(3)：仮説検証のための統計解析(1) 第14回 データ分析(4)：仮説検証のための統計解析(2)	<問題解決ゼミナールⅡ> (諸般の事情により一部変更する可能性があります) 第1回 仮説検証のための統計解析： 媒介効果と調整効果の分析 第2回 仮説検証のための統計解析： 分析の修正と完了 第3回 発表1：「文献調査」～「理論モデルの構築」 第4回 グループディスカッション1：発表1の修正 第5回 発表2：「インタビュー調査とそのデータ分析」 と「仮説の生成・再生成」 第6回 グループディスカッション2：発表2の修正 第7回 発表3：「量的調査・分析の調査の方法」 第8回 グループディスカッション3：発表3の修正 第9回 発表4：「統計解析の結果」 第10回 グループディスカッション4：発表4の修正 第11回 発表5：「考察」 第12回 グループディスカッション5：発表5の修正 第13回 発表6：完成論文の発表 第14回 論文修正点の確認とまとめ
<問題解決ゼミナールⅠ> (諸般の事情により一部変更する可能性があります) 第1回 クラスの概要説明 第2回 各チームの仮説の確認と修正点の検討 第3回 質問票の作り方 第4回 質問票の作成 第5回 質問票の修正(1) 第6回 質問票の修正(2) 第7回 質問票の修正と完成： 質問票の完成後質問票の配布(配信) 第8回 データ分析の仕方と統計の説明 第9回 データ入力とデータクリーニング 第10回 データ変容など 第11回 データ分析(1)：記述統計 第12回 データ分析(2)：探索的因子分析と信頼性 第13回 データ分析(3)：仮説検証のための統計解析(1) 第14回 データ分析(4)：仮説検証のための統計解析(2)	<問題解決ゼミナールⅡ> (諸般の事情により一部変更する可能性があります) 第1回 仮説検証のための統計解析： 媒介効果と調整効果の分析 第2回 仮説検証のための統計解析： 分析の修正と完了 第3回 発表1：「文献調査」～「理論モデルの構築」 第4回 グループディスカッション1：発表1の修正 第5回 発表2：「インタビュー調査とそのデータ分析」 と「仮説の生成・再生成」 第6回 グループディスカッション2：発表2の修正 第7回 発表3：「量的調査・分析の調査の方法」 第8回 グループディスカッション3：発表3の修正 第9回 発表4：「統計解析の結果」 第10回 グループディスカッション4：発表4の修正 第11回 発表5：「考察」 第12回 グループディスカッション5：発表5の修正 第13回 発表6：完成論文の発表 第14回 論文修正点の確認とまとめ					
3. 履修上の注意 統計解析に関しては、教科書あるいは参考書を十分に読んでおくことが必要になるでしょう。課題提出とディスカッション参加は「7. 成績評価の方法」の比率にかかわらず必須です。						
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Iでは、質問票の作成、データ入力、分析など事前に行っていくことが必須です。IIでは、データ分析および前週のプレゼンテーションに対するコメントに関して各自修正を検討してきてする必要があります。						
5. 教科書 「6. 参考書」のリストから選ぶ可能性がありますが、必要に応じてクラス前にお知らせします						
6. 参考書 (諸般の事情により一部変更する可能性があります) 石村貞夫・石村友二郎(2020)『SPSSでやさしく学ぶ統計解析第6班』東京図書 小塩真司(2011)『SPSSとAmosによる心理・調査データ解析[第2版]』東京図書大谷信介・後藤範章・小松洋・木下 栄二(2013)『新・社会調査へのアプローチ—論理と方法』(ミネルヴァ書房)						
7. 成績評価の方法 (1) クラス発表・討論参加：40%； (2) 個別課題と学期末個別課題：60% [チーム研究(あるいは各自)のゼミ論文完成・提出を前提として(1)(2)を評価；また、十分な課題提出がないと評価対象となりません]						
8. その他 統計解析に関しては丁寧に教える予定ですが、参考書を読み自分でも覚える気持ちを持つことが必要です。課題はチーム活動とした場合でもチームではなく、個別の提出となります。ゼミ論文はチーム活動とした場合はチームでの作成、提出となります。						

問題分析ゼミナール I・II	山崎 浩二	各 2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ ソフトウェア開発とアルゴリズム						
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 私たちは日常生活の様々な場面でコンピュータを利用している。この際、コンピュータの利用価値はソフトウェアの出来、不出来に依存しているといっても過言ではない。ソフトウェアを作成するには、実現したい機能を分析し、手順を決定し、プログラミング言語で用意された要素を適切に組み合わせなければならない。このゼミではプログラミング言語として python を用いて、ソフトウェアの作成方法を学習する。 【到達目標】 ソフトウェアの作成をとおして情報社会の基盤技術を理解し、ひいては情報社会における問題や限界を理解することを目標とする。						
2. 授業内容 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題分析ゼミナール I > 第 1 回 プログラムとは何か 第 2 回 python のプログラムの作成手順 第 3 回 変数と変数型 第 4 回 いろいろな演算子 第 5 回 制御文－条件分岐 (if-else 文) 第 6 回 制御文－条件分岐 (if-elif-else 文) 第 7 回 論理演算 第 8 回 制御文－繰り返し (for 文) 第 9 回 制御文－繰り返し (while 文) 第 10 回 関数 第 11 回 グローバル変数とローカル変数 第 12 回 ファイルへのアクセス 第 13 回 エラー処理 第 14 回 まとめ </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題分析ゼミナール II > 第 1 回 モジュールの利用 第 2 回 リスト 第 3 回 多次元リスト 第 4 回 内包表現 第 5 回 連想配列 第 6 回 クラスの作成 第 7 回 クラスの継承 第 8 回 数の大小当てゲームの作成 第 9 回 数当てゲームの作成 (1)－処理の流れの作成 第 10 回 数当てゲームの作成 (2)－関数の作成 第 11 回 数当てゲームの作成 (3)－ゲームの完成 第 12 回 ○×ゲームの作成 (1)－処理の流れの作成 第 13 回 ○×ゲームの作成 (2)－関数の作成とゲームの完成 第 14 回 まとめ </td> </tr> </table>					<問題分析ゼミナール I > 第 1 回 プログラムとは何か 第 2 回 python のプログラムの作成手順 第 3 回 変数と変数型 第 4 回 いろいろな演算子 第 5 回 制御文－条件分岐 (if-else 文) 第 6 回 制御文－条件分岐 (if-elif-else 文) 第 7 回 論理演算 第 8 回 制御文－繰り返し (for 文) 第 9 回 制御文－繰り返し (while 文) 第 10 回 関数 第 11 回 グローバル変数とローカル変数 第 12 回 ファイルへのアクセス 第 13 回 エラー処理 第 14 回 まとめ	<問題分析ゼミナール II > 第 1 回 モジュールの利用 第 2 回 リスト 第 3 回 多次元リスト 第 4 回 内包表現 第 5 回 連想配列 第 6 回 クラスの作成 第 7 回 クラスの継承 第 8 回 数の大小当てゲームの作成 第 9 回 数当てゲームの作成 (1)－処理の流れの作成 第 10 回 数当てゲームの作成 (2)－関数の作成 第 11 回 数当てゲームの作成 (3)－ゲームの完成 第 12 回 ○×ゲームの作成 (1)－処理の流れの作成 第 13 回 ○×ゲームの作成 (2)－関数の作成とゲームの完成 第 14 回 まとめ
<問題分析ゼミナール I > 第 1 回 プログラムとは何か 第 2 回 python のプログラムの作成手順 第 3 回 変数と変数型 第 4 回 いろいろな演算子 第 5 回 制御文－条件分岐 (if-else 文) 第 6 回 制御文－条件分岐 (if-elif-else 文) 第 7 回 論理演算 第 8 回 制御文－繰り返し (for 文) 第 9 回 制御文－繰り返し (while 文) 第 10 回 関数 第 11 回 グローバル変数とローカル変数 第 12 回 ファイルへのアクセス 第 13 回 エラー処理 第 14 回 まとめ	<問題分析ゼミナール II > 第 1 回 モジュールの利用 第 2 回 リスト 第 3 回 多次元リスト 第 4 回 内包表現 第 5 回 連想配列 第 6 回 クラスの作成 第 7 回 クラスの継承 第 8 回 数の大小当てゲームの作成 第 9 回 数当てゲームの作成 (1)－処理の流れの作成 第 10 回 数当てゲームの作成 (2)－関数の作成 第 11 回 数当てゲームの作成 (3)－ゲームの完成 第 12 回 ○×ゲームの作成 (1)－処理の流れの作成 第 13 回 ○×ゲームの作成 (2)－関数の作成とゲームの完成 第 14 回 まとめ					
3. 履修上の注意 特になし						
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 Oh-o!Meiji 上の授業資料に事前に目を通しておくこと。復習として、授業資料を読み直し、不明な点は授業で質問すること。						
5. 教科書 特に定めない						
6. 参考書 特に定めない						
7. 成績評価の方法 平常点 40% レポート 60%						
8. その他 特になし						

問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱ	山崎 浩二	各2単位	4年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ ソフトウェア開発とアルゴリズム						
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 私たちは日常生活の様々な場面でコンピュータを利用している。この際、コンピュータの利用価値はソフトウェアの出来、不出来に依存しているといっても過言ではない。ソフトウェアを作成するには、実現したい機能を分析し、手順を決定し、プログラミング言語で用意された要素を適切に組み合わせなければならない。このゼミでは、ある程度の大きさのソフトウェアを自分で設計し、作成する。 【到達目標】 ある程度の大きさのソフトウェアの作成をとおして情報社会の基盤技術の理解、情報社会における問題や限界の理解、問題を分析し解決する力を養うことを目標とする。						
2. 授業内容 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><問題解決ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 卒業制作のテーマ決定 (1)</p> <p>第2回 卒業制作のテーマ決定 (2)</p> <p>第3回 卒業制作の概要発表 (1)</p> <p>第4回 卒業制作の概要発表 (2)</p> <p>第5回 卒業制作の概要発表 (3)</p> <p>第6回 卒業制作 (1)</p> <p>第7回 卒業制作 (2)</p> <p>第8回 進捗報告 (1)</p> <p>第9回 卒業制作 (3)</p> <p>第10回 卒業制作 (4)</p> <p>第11回 進捗報告 (2)</p> <p>第12回 卒業制作 (5)</p> <p>第13回 卒業制作の中間発表 (1)</p> <p>第14回 卒業制作の中間発表 (2)</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><問題解決ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 卒業制作の中間発表 (1)</p> <p>第2回 卒業制作の中間発表 (2)</p> <p>第3回 卒業制作 (1)</p> <p>第4回 卒業制作 (2)</p> <p>第5回 進捗報告 (1)</p> <p>第6回 卒業制作 (3)</p> <p>第7回 卒業制作 (4)</p> <p>第8回 進捗報告 (2)</p> <p>第9回 卒業制作 (5)</p> <p>第10回 卒業制作 (6)</p> <p>第11回 進捗報告 (3)</p> <p>第12回 卒業制作発表資料の作成</p> <p>第13回 卒業制作の発表 (1)</p> <p>第14回 卒業制作の発表 (2)</p> </td> </tr> </table>					<p><問題解決ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 卒業制作のテーマ決定 (1)</p> <p>第2回 卒業制作のテーマ決定 (2)</p> <p>第3回 卒業制作の概要発表 (1)</p> <p>第4回 卒業制作の概要発表 (2)</p> <p>第5回 卒業制作の概要発表 (3)</p> <p>第6回 卒業制作 (1)</p> <p>第7回 卒業制作 (2)</p> <p>第8回 進捗報告 (1)</p> <p>第9回 卒業制作 (3)</p> <p>第10回 卒業制作 (4)</p> <p>第11回 進捗報告 (2)</p> <p>第12回 卒業制作 (5)</p> <p>第13回 卒業制作の中間発表 (1)</p> <p>第14回 卒業制作の中間発表 (2)</p>	<p><問題解決ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 卒業制作の中間発表 (1)</p> <p>第2回 卒業制作の中間発表 (2)</p> <p>第3回 卒業制作 (1)</p> <p>第4回 卒業制作 (2)</p> <p>第5回 進捗報告 (1)</p> <p>第6回 卒業制作 (3)</p> <p>第7回 卒業制作 (4)</p> <p>第8回 進捗報告 (2)</p> <p>第9回 卒業制作 (5)</p> <p>第10回 卒業制作 (6)</p> <p>第11回 進捗報告 (3)</p> <p>第12回 卒業制作発表資料の作成</p> <p>第13回 卒業制作の発表 (1)</p> <p>第14回 卒業制作の発表 (2)</p>
<p><問題解決ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 卒業制作のテーマ決定 (1)</p> <p>第2回 卒業制作のテーマ決定 (2)</p> <p>第3回 卒業制作の概要発表 (1)</p> <p>第4回 卒業制作の概要発表 (2)</p> <p>第5回 卒業制作の概要発表 (3)</p> <p>第6回 卒業制作 (1)</p> <p>第7回 卒業制作 (2)</p> <p>第8回 進捗報告 (1)</p> <p>第9回 卒業制作 (3)</p> <p>第10回 卒業制作 (4)</p> <p>第11回 進捗報告 (2)</p> <p>第12回 卒業制作 (5)</p> <p>第13回 卒業制作の中間発表 (1)</p> <p>第14回 卒業制作の中間発表 (2)</p>	<p><問題解決ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 卒業制作の中間発表 (1)</p> <p>第2回 卒業制作の中間発表 (2)</p> <p>第3回 卒業制作 (1)</p> <p>第4回 卒業制作 (2)</p> <p>第5回 進捗報告 (1)</p> <p>第6回 卒業制作 (3)</p> <p>第7回 卒業制作 (4)</p> <p>第8回 進捗報告 (2)</p> <p>第9回 卒業制作 (5)</p> <p>第10回 卒業制作 (6)</p> <p>第11回 進捗報告 (3)</p> <p>第12回 卒業制作発表資料の作成</p> <p>第13回 卒業制作の発表 (1)</p> <p>第14回 卒業制作の発表 (2)</p>					
3. 履修上の注意 特になし						
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 卒業制作を各自ですすめ、不明な点は授業で質問すること。						
5. 教科書 特に定めない						
6. 参考書 特に定めない						
7. 成績評価の方法 平常点 40% レポート 60%						
8. その他 特になし						

問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱ	横田 貴之	各2単位	3年次	科目ナンバー (IC) IND312J
◆研究テーマ 中東・イスラーム研究—現代中東とイスラームから異文化と世界を学ぶ				
1. 授業の概要・到達目標 当ゼミナールでは、現代中東とイスラームの研究を通じて、異文化と国際情勢を学ぶための基礎知識を習得し、各自の研究課題の設定と分析方法を学ぶ。 現在を生きる我々にとって、中東地域やイスラームはもはや縁遠い世界の存在ではなくなっている。現代中東における紛争・難民問題やエネルギー問題は国際情勢を大きく左右する要因である。権威主義体制の存在は、民主主義を考える上で興味深い事例でもある。また、信徒数が急増中のイスラームという宗教の存在感は決して無視できない。10万人以上といわれる日本に暮らすイスラーム教徒は身近な隣人であり、我が国において彼らとの相互理解や共存は重要課題の一つとなっている。現代中東とイスラームに関する知識・理解は、現代を生きるために不可欠と言っても過言ではない。当ゼミでは、受講生の調査・発表やアクティブラーニングなど能動的な学びを通じて、その知識を習得する。この学びを通じて、受講生が異文化理解・国際情勢分析の基礎知識を習得し、自らの関心に応じた研究課題設定に到達することをこの授業の目的とする。				
2. 授業内容				
<p><問題分析ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 文献調査の方法</p> <p>第3回 比較政治学からの分析手法</p> <p>第4回 イスラーム学からの分析手法</p> <p>第5回 現代中東を知る—中東5大国のグループワーク①：各国の現状分析</p> <p>第6回 現代中東を知る—中東5大国のグループワーク②：各国の外交方針の策定</p> <p>第7回 現代中東を知る—中東5大国のグループワーク③：二国間協議</p> <p>第8回 現代中東を知る—中東5大国のグループワーク④：多国間協議</p> <p>第9回 イスラームと移民問題</p> <p>第10回 イスラーム教徒の移民をめぐる多文化共生—欧州某国を事例にグループワーク①：某国の現状・事情</p> <p>第11回 イスラーム教徒の移民をめぐる多文化共生—欧州某国を事例にグループワーク②：中東某国の現状・事情</p> <p>第12回 イスラーム教徒の移民をめぐる多文化共生—欧州某国を事例にグループワーク③：プッシュ要因とプル要因</p> <p>第13回 イスラーム教徒の移民をめぐる多文化共生—欧州某国を事例にグループワーク④：多文化共生を考える</p> <p>第14回 春学期のまとめと夏季休暇の課題説明</p>		<p><問題分析ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 受講生による夏季休暇の課題発表</p> <p>第2回 夏季休暇の課題に関する全体議論と教員指導</p> <p>第3回 パレスチナ問題—国内外アクターのグループワーク①：各アクターの現状分析</p> <p>第4回 パレスチナ問題—国内外アクターのグループワーク②：各アクターの政策目標設定</p> <p>第5回 パレスチナ問題—国内外アクターのグループワーク③：アクター間協議</p> <p>第6回 パレスチナ問題—国内外アクターのグループワーク④：他アクター間協議</p> <p>第7回 研究課題の設定について</p> <p>第8回 受講生の研究課題発表と議論（1回目）</p> <p>第9回 受講生の研究課題発表に対する教員による指導（1回目）</p> <p>第10回 研究計画の策定方法</p> <p>第11回 受講生の研究課題発表と議論（2回目）</p> <p>第12回 受講生の研究課題発表に対する教員による指導（2回目）</p> <p>第13回 受講生の研究計画の発表</p> <p>第14回 分析ゼミナールのまとめ</p>		
3. 履修上の注意 受講生のグループワーク・発表・議論が授業の中心となるので、課題に関する調査・研究は十分に行うこと。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 時事問題を多々議論するので、新聞やテレビなどで日常的に中東・イスラーム関連のニュースを調査してください。				
5. 教科書 受講生の発表が主体なので、特に指定しないが、授業時に適宜資料紹介を行う。				
6. 参考書 受講生の発表が主体なので、特に指定しないが、授業時に適宜資料紹介を行う。				
7. 成績評価の方法 発表や議論参加などゼミへの貢献度（70%）、レポート評価（30%）				
8. その他 現代中東やイスラームはよく分からないけれど、興味はあるという学生の参加を歓迎します。				

問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱ	横田 貴之	各2単位	4年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ 中東・イスラーム研究—現代中東とイスラームから異文化と世界を学ぶ						
1. 授業の概要・到達目標 当ゼミナールでは、問題分析ゼミナールでの学習を土台に、現代中東とイスラームの研究を通じて、受講生各自の研究課題に即して、異文化を理解し、国際情勢を読み解く。 授業においては、各受講生が問題分析ゼミナールにおいて設定した研究課題について、各受講生による調査・発表、受講生全員と教員による議論を中心に授業を進める。必要に応じて、グループワーク、アクティブラーニング、外部有識者（例：研究者、メディア関係者、在京大使館員）による特別授業などを実施し、各々の研究課題に関する調査を手助けする。このゼミナールでの学びを通じて、受講生が異文化理解・国際情勢分析を実践できる能力を獲得する。最終的には、その成果を卒業論文（あるいはゼミ論文）という形でまとめることを到達目標としたい。論文執筆に際しては、実際の調査研究に応じた執筆方法について教授する。						
2. 授業内容						
<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p><問題解決ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 インTRODクシヨN</p> <p>第2回 受講生の研究発表①—イスラーム</p> <p>第3回 受講生の研究発表①—現代中東</p> <p>第4回 研究発表①に対する全体議論と教員指導</p> <p>第5回 論文の章立ての説明</p> <p>第6回 受講生の論文構想発表—イスラーム</p> <p>第7回 受講生の論文構想発表—現代中東</p> <p>第8回 論文構想に対する全体議論と教員指導</p> <p>第9回 受講生の研究発表②—イスラーム</p> <p>第10回 受講生の研究発表②—現代中東</p> <p>第11回 論文執筆計画の解説</p> <p>第12回 受講生の論文執筆計画発表—イスラーム</p> <p>第13回 受講生の論文執筆計画発表—現代中東</p> <p>第14回 春学期のまとめと夏季休暇の課題設定説</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p><問題解決ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 受講生による夏季休暇の課題発表</p> <p>第2回 夏季休暇の課題に関する全体議論と教員指導</p> <p>第3回 受講生の研究発表③—イスラーム</p> <p>第4回 受講生の研究発表③—現代中東</p> <p>第5回 論文指導—草稿執筆のポイント</p> <p>第6回 受講生の論文草稿発表—イスラーム</p> <p>第7回 受講生の論文草稿発表—現代中東</p> <p>第8回 論文指導—改稿のポイント</p> <p>第9回 受講生の改稿発表—イスラーム</p> <p>第10回 受講生の改稿発表—現代中東</p> <p>第11回 論文指導—最終稿執筆のポイント</p> <p>第12回 受講生の最終論文発表—イスラーム</p> <p>第13回 受講生の論文最終発表—現代中東</p> <p>第14回 問題解決ゼミのまとめ</p> </td> </tr> </table>					<p><問題解決ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 インTRODクシヨN</p> <p>第2回 受講生の研究発表①—イスラーム</p> <p>第3回 受講生の研究発表①—現代中東</p> <p>第4回 研究発表①に対する全体議論と教員指導</p> <p>第5回 論文の章立ての説明</p> <p>第6回 受講生の論文構想発表—イスラーム</p> <p>第7回 受講生の論文構想発表—現代中東</p> <p>第8回 論文構想に対する全体議論と教員指導</p> <p>第9回 受講生の研究発表②—イスラーム</p> <p>第10回 受講生の研究発表②—現代中東</p> <p>第11回 論文執筆計画の解説</p> <p>第12回 受講生の論文執筆計画発表—イスラーム</p> <p>第13回 受講生の論文執筆計画発表—現代中東</p> <p>第14回 春学期のまとめと夏季休暇の課題設定説</p>	<p><問題解決ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 受講生による夏季休暇の課題発表</p> <p>第2回 夏季休暇の課題に関する全体議論と教員指導</p> <p>第3回 受講生の研究発表③—イスラーム</p> <p>第4回 受講生の研究発表③—現代中東</p> <p>第5回 論文指導—草稿執筆のポイント</p> <p>第6回 受講生の論文草稿発表—イスラーム</p> <p>第7回 受講生の論文草稿発表—現代中東</p> <p>第8回 論文指導—改稿のポイント</p> <p>第9回 受講生の改稿発表—イスラーム</p> <p>第10回 受講生の改稿発表—現代中東</p> <p>第11回 論文指導—最終稿執筆のポイント</p> <p>第12回 受講生の最終論文発表—イスラーム</p> <p>第13回 受講生の論文最終発表—現代中東</p> <p>第14回 問題解決ゼミのまとめ</p>
<p><問題解決ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 インTRODクシヨN</p> <p>第2回 受講生の研究発表①—イスラーム</p> <p>第3回 受講生の研究発表①—現代中東</p> <p>第4回 研究発表①に対する全体議論と教員指導</p> <p>第5回 論文の章立ての説明</p> <p>第6回 受講生の論文構想発表—イスラーム</p> <p>第7回 受講生の論文構想発表—現代中東</p> <p>第8回 論文構想に対する全体議論と教員指導</p> <p>第9回 受講生の研究発表②—イスラーム</p> <p>第10回 受講生の研究発表②—現代中東</p> <p>第11回 論文執筆計画の解説</p> <p>第12回 受講生の論文執筆計画発表—イスラーム</p> <p>第13回 受講生の論文執筆計画発表—現代中東</p> <p>第14回 春学期のまとめと夏季休暇の課題設定説</p>	<p><問題解決ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 受講生による夏季休暇の課題発表</p> <p>第2回 夏季休暇の課題に関する全体議論と教員指導</p> <p>第3回 受講生の研究発表③—イスラーム</p> <p>第4回 受講生の研究発表③—現代中東</p> <p>第5回 論文指導—草稿執筆のポイント</p> <p>第6回 受講生の論文草稿発表—イスラーム</p> <p>第7回 受講生の論文草稿発表—現代中東</p> <p>第8回 論文指導—改稿のポイント</p> <p>第9回 受講生の改稿発表—イスラーム</p> <p>第10回 受講生の改稿発表—現代中東</p> <p>第11回 論文指導—最終稿執筆のポイント</p> <p>第12回 受講生の最終論文発表—イスラーム</p> <p>第13回 受講生の論文最終発表—現代中東</p> <p>第14回 問題解決ゼミのまとめ</p>					
3. 履修上の注意 受講生の発表・議論・グループワークが授業の中心となるので、課題に関する調査・研究は十分に行うこと。						
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 時事問題を多々議論するので、新聞やテレビなどで日常的に中東・イスラーム関連のニュースを調査してください。						
5. 教科書 受講生の発表が主体なので、特に指定しないが、授業時に適宜資料紹介を行う。						
6. 参考書 受講生の発表が主体なので、特に指定しないが、授業時に適宜資料紹介を行う。						
7. 成績評価の方法 発表や議論参加などゼミへの貢献度（50%）、ゼミでの研究に関する論文（50%）						
8. その他 現代中東という遠い地域やイスラームという異文化に関心を持つ学生の参加を歓迎します。						

問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱ	脇本 竜太郎	各2単位	3年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ 社会心理学：数量的アプローチ						
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本ゼミでは、受講者自身が関心を持つトピックについて数量的研究を行い、卒業論文を執筆する。枠組みとして存在脅威管理理論、公正世界理論、システム正当化理論などを紹介するが、量的研究が可能な限りにおいて、それ以外の枠組みで幅広いトピックの研究に取り組むことが可能である。 運営の基本方針として、受講者自身が研究者となり研究を行うリサーチライクアクティビティの形式をとる。3年次には文献の輪読やレジュメ発表を行いながら、取り組むテーマや問題意識を明確にしていくとともに、研究法や分析法についてレクチャーで学ぶ。 【到達目標】 (1)卒業研究で取り組むテーマについて基本的事項を理解できる、(2)研究法の基礎を説明できる、(3)基本的な統計解析を実行できる。						
2. 授業内容 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 春学期イントロダクション 第2回 文献輪読：自己 第3回 レクチャー：社会心理学の研究とは 第4回 文献輪読：自尊感情 第5回 レクチャー：質的研究と量的研究 第6回 文献輪読：存在論的恐怖 第7回 レクチャー：信頼性と妥当性 第8回 文献輪読：直接的防衛と象徴的防衛 第9回 レクチャー：尺度構成 第10回 文献輪読：身体性の問題 第11回 レクチャー：実験法 第12回 文献輪読：関係性希求 第13回 レクチャー：観察法 第14回 春学期の振り返りと総括 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 秋学期イントロダクション 第2回 文献輪読：公正世界理論 第3回 レクチャー：記述統計 第4回 文献輪読：システム正当化理論 第5回 レクチャー：ベイジアンモデリング 第6回 レビュー発表：これまでの発表内容の整理、関心事項絞り込みのための議論 第7回 レクチャー：分散分析 第8回 研究計画発表：研究計画の素案の提示、議論 第9回 レクチャー：重回帰分析 第10回 研究計画発表：研究計画の吟味 第11回 レクチャー：因子分析 第12回 研究計画発表：研究実施に向けた尺度等の検討 第13回 レクチャー：階層線形モデル 第14回 3年次の振り返りと総括 </td> </tr> </table>					<問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 春学期イントロダクション 第2回 文献輪読：自己 第3回 レクチャー：社会心理学の研究とは 第4回 文献輪読：自尊感情 第5回 レクチャー：質的研究と量的研究 第6回 文献輪読：存在論的恐怖 第7回 レクチャー：信頼性と妥当性 第8回 文献輪読：直接的防衛と象徴的防衛 第9回 レクチャー：尺度構成 第10回 文献輪読：身体性の問題 第11回 レクチャー：実験法 第12回 文献輪読：関係性希求 第13回 レクチャー：観察法 第14回 春学期の振り返りと総括	<問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 秋学期イントロダクション 第2回 文献輪読：公正世界理論 第3回 レクチャー：記述統計 第4回 文献輪読：システム正当化理論 第5回 レクチャー：ベイジアンモデリング 第6回 レビュー発表：これまでの発表内容の整理、関心事項絞り込みのための議論 第7回 レクチャー：分散分析 第8回 研究計画発表：研究計画の素案の提示、議論 第9回 レクチャー：重回帰分析 第10回 研究計画発表：研究計画の吟味 第11回 レクチャー：因子分析 第12回 研究計画発表：研究実施に向けた尺度等の検討 第13回 レクチャー：階層線形モデル 第14回 3年次の振り返りと総括
<問題分析ゼミナールⅠ> 第1回 春学期イントロダクション 第2回 文献輪読：自己 第3回 レクチャー：社会心理学の研究とは 第4回 文献輪読：自尊感情 第5回 レクチャー：質的研究と量的研究 第6回 文献輪読：存在論的恐怖 第7回 レクチャー：信頼性と妥当性 第8回 文献輪読：直接的防衛と象徴的防衛 第9回 レクチャー：尺度構成 第10回 文献輪読：身体性の問題 第11回 レクチャー：実験法 第12回 文献輪読：関係性希求 第13回 レクチャー：観察法 第14回 春学期の振り返りと総括	<問題分析ゼミナールⅡ> 第1回 秋学期イントロダクション 第2回 文献輪読：公正世界理論 第3回 レクチャー：記述統計 第4回 文献輪読：システム正当化理論 第5回 レクチャー：ベイジアンモデリング 第6回 レビュー発表：これまでの発表内容の整理、関心事項絞り込みのための議論 第7回 レクチャー：分散分析 第8回 研究計画発表：研究計画の素案の提示、議論 第9回 レクチャー：重回帰分析 第10回 研究計画発表：研究計画の吟味 第11回 レクチャー：因子分析 第12回 研究計画発表：研究実施に向けた尺度等の検討 第13回 レクチャー：階層線形モデル 第14回 3年次の振り返りと総括					
3. 履修上の注意 文献輪読のテーマについては仮のものであり、受講生の興味関心に応じて変更することがある。						
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 発表内容および発表に対するコメントは、ゼミのSlackに振り返りとして毎回記録する。発表時は発表する文献のみならず、関連する論文も読んで質問に回答できるようにすること。						
5. 教科書 特になし。						
6. 参考書 授業内で適宜紹介する。						
7. 成績評価の方法 受講姿勢(25%)、ゼミ・研究への取り組み(25%)、プレゼンテーション(50%)						
8. その他 特になし。						

問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱ	協本 竜太郎	各2単位	4年次	科目ナンバー (IC) IND312J
◆研究テーマ 社会心理学：数量的アプローチ				
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本ゼミでは、受講者自身が関心を持つトピックについて数量的研究を行い、卒業論文を執筆する。枠組みとして存在脅威管理理論、公正世界理論、システム正当化理論などを紹介するが、量的研究が可能な限りにおいて、それ以外の枠組みで幅広いトピックの研究に取り組むことが可能である。 運営の基本方針として、受講者自身が研究者となり研究を行うリサーチライクアクティビティの形式をとる。4年次には3年次に吟味した計画をブラッシュアップしたうえで研究を実施し、その結果を卒業論文にまとめる。 【到達目標】 (1)人間行動を理解するための科学的な方法を実践できる、(2)研究結果を論理的文章で説明できる、(3)量的データを適切な方法で分析し考察できる。				
2. 授業内容 <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p>＜問題解決ゼミナールⅠ＞</p> <p>第1回 春学期イントロダクション</p> <p>第2回 卒業研究計画の吟味：進捗の確認</p> <p>第3回 卒業研究計画の吟味：文献レビューの再確認</p> <p>第4回 卒業研究計画の吟味：情報的価値の検討</p> <p>第5回 卒業研究計画の吟味：実践的価値の検討</p> <p>第6回 卒業研究計画の吟味：統計モデリング</p> <p>第7回 卒業研究計画の吟味：内的妥当性の検討</p> <p>第8回 卒業研究計画の吟味：外的妥当性の検討</p> <p>第9回 卒業研究計画の吟味：尺度の信頼性と妥当性</p> <p>第10回 レクチャー：卒業論文の書き方</p> <p>第11回 レクチャー：正しい引用の仕方</p> <p>第12回 卒業研究計画の吟味：分析とデザインの対応</p> <p>第13回 卒業研究計画の吟味：倫理的な問題の検討</p> <p>第14回 卒業研究計画の吟味：実施計画の点検</p> </div> <div style="width: 48%;"> <p>＜問題解決ゼミナールⅡ＞</p> <p>第1回 秋学期イントロダクションと進捗の確認</p> <p>第2回 問題と目的の書き方の確認ならびにフィードバック</p> <p>第3回 方法の書き方の確認ならびにフィードバック</p> <p>第4回 レクチャー：データ入力と点検</p> <p>第5回 レクチャー：Rによる分析1：記述統計</p> <p>第6回 レクチャー：Rによる分析2：データのグラフィカル表現</p> <p>第7回 レクチャー：Rstanによる分析</p> <p>第8回 研究結果の報告の仕方</p> <p>第9回 卒業論文中間発表</p> <p>第10回 研究結果の解釈についての議論</p> <p>第11回 卒業論文全体の点検、フィードバック</p> <p>第12回 発表会スライドの作成</p> <p>第13回 発表会スライドの確認・フィードバック</p> <p>第14回 卒論発表会</p> </div> </div>				
3. 履修上の注意 各回の授業内容は、受講生の進捗に応じて柔軟に変更する。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 発表内容および発表に対するコメントは、ゼミのSlackに振り返りとして毎回記録する。発表時は発表する文献のみならず、関連する論文も読んで質問に回答できるようにすること。				
5. 教科書 特になし。				
6. 参考書 授業内で適宜紹介する。				
7. 成績評価の方法 4年次：受講姿勢(20%)、ゼミ・研究への取り組み(20%)、卒業研究(60%)				
8. その他 特になし。				

問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱ	和田 悟	各2単位	3年次	科目ナンバー (IC) IND312J
◆研究テーマ アジアに目を向け情報社会と情報技術について考える				
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 私たちが、情報化に必然的に伴うグローバルな問題だと思いこんでいたことが、実は、海外の事情と比べると日本の社会に特有の問題だったということもある。人工知能の応用の広がりのほか、新しい技術の登場がどのような可能性を切り開くのか、懸念される問題を避けるにはどうしたらいいのかなど、我が国の事情と、東南アジアの事情を比較しながら検討する。東南アジアの国々状況については、公表されている様々な統計資料や文献や映像資料を題材にするほか、留学生らの話を聞いたり、交流したりしながら、日本の社会をふり返り、情報化に伴って起きている諸問題を考える機会として活かしたい。 【到達目標】 日本と東南アジアの社会状況について基本的な理解を深め、学生各自が関心ある問題について基礎的な理解を深め、現状を的確に把握することを目的とする。また、実際の交流を通じて、公表されているデータの持つ意味やメディアで切り取られた様子と実際の様子との対比からメディアリテラシーを身につける。				
2. 授業内容 <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p>＜問題分析ゼミナールⅠ＞</p> <p>第1回 イン트로ダクション、ゼミの進め方について、研究テーマについて</p> <p>第2回 各自の関心領域についての発表</p> <p>第3回 文献講読①</p> <p>第4回 文献講読②</p> <p>第5回 文献講読③</p> <p>第6回 日本と東南アジアの情報化の現状と課題①</p> <p>第7回 日本と東南アジアの情報化の現状と課題②</p> <p>第8回 日本と東南アジアの情報化の現状と課題③</p> <p>第9回 アセアンの学生との交流から学ぶ(1) 短期留学生へのインタビュー項目の準備</p> <p>第10回 アセアンの学生との交流から学ぶ(2) 日本とタイ・ラオスの事情の相違について</p> <p>第11回 アセアンの学生との交流から学ぶ(3) 交流のふり返り</p> <p>第12回 文献講読④</p> <p>第13回 文献講読⑤</p> <p>第14回 文献講読⑥</p> </div> <div style="width: 48%;"> <p>＜問題分析ゼミナールⅡ＞</p> <p>第1回 先行研究についての報告①</p> <p>第2回 先行研究についての報告②</p> <p>第3回 先行研究についての報告③</p> <p>第4回 文献講読①</p> <p>第5回 文献講読②</p> <p>第6回 文献講読③</p> <p>第7回 まとめと議論</p> <p>第8回 文献講読④</p> <p>第9回 文献講読⑤</p> <p>第10回 文献講読⑥</p> <p>第11回 発表①</p> <p>第12回 発表②</p> <p>第13回 発表③</p> <p>第14回 総括</p> </div> </div>				
3. 履修上の注意 第9回から11回については、事情によりオンラインでの交流や文献講読に替えることがあります。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 報告・講読などの担当者は、授業での議論の土台となる資料をきちんと用意すること。文献講読の際には取り扱う予定の箇所について担当以外の者も疑問点等をまとめておいてください。				
5. 教科書 メンバーの関心、準備状況に応じて、授業の中で決めます。				
6. 参考書 各自の研究テーマに応じて指示します。				
7. 成績評価の方法 授業への参加の度合い(70%)に加えて、春学期は発表(30%)、秋学期は期末のレポート(30%)				
8. その他 この授業には通常、タイなど日本語を学んできた留学生が参加します。また、事情が許せば短期留学生の受入の機会も積極的に活かしたいと思っております。気後れせず海外の学生との交流に加わってください。いろいろなことが得られると思っております。卒業後も気軽に行き来できるような人間関係を築いてください。				

問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱ	和田 悟	各2単位	4年次	科目ナンバー (IC) IND312J		
◆研究テーマ アジアに目を向け情報社会と情報技術について考える						
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 情報技術を社会の様々な課題の解決にどう活かすかは、社会科学観が必要であるし、その社会のニーズを的確把握するためのコミュニケーション能力が不可欠である。問題分析ゼミナールを通じて学んだ事柄を深め、各自の設定したテーマについて検討を深める。この際、海外の留学生との交流機会を積極的に活かし、価値観や考え方の相違について考える。 【到達目標】 各自の設定したテーマに基づき、各国事情に関する情報を的確に収集し、考察する力を養う。その際、適切な異文化理解に基づき、異なる背景を持つ人々とも一緒に課題に解決に取り組み、解決策の提言(プログラムの作成も含む)ができるようになることを目指す。そのための基本的な知識とコミュニケーション能力の習得を図る。						
2. 授業内容 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><問題解決ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 イントロダクション 研究テーマについて①</p> <p>第2回 研究テーマについて②</p> <p>第3回 共通テキストに基づくディスカッション①</p> <p>第4回 共通テキストに基づくディスカッション②</p> <p>第5回 共通テキストに基づくディスカッション③</p> <p>第6回 共通テキストに基づくディスカッション④</p> <p>第7回 共通テキストに基づくディスカッション⑤</p> <p>第8回 アセアンと日本との関係について概説</p> <p>第9回 アセアンの学生との交流で学ぶ(1) アセアンと日本の関係</p> <p>第10回 アセアンの学生との交流で学ぶ(2) タイ・ラオスと日本との関係</p> <p>第11回 アセアンの学生との交流で学ぶ(3)</p> <p>第12回 研究テーマ中間発表①</p> <p>第13回 研究テーマ中間発表②</p> <p>第14回 研究テーマ中間発表③</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><問題解決ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 進捗報告</p> <p>第2回 研究テーマ中間発表①</p> <p>第3回 研究テーマ中間発表②</p> <p>第4回 研究テーマ中間発表③</p> <p>第5回 共通テーマについて</p> <p>第6回 共通テキストに基づくディスカッション①</p> <p>第7回 共通テキストに基づくディスカッション②</p> <p>第8回 共通テキストに基づくディスカッション③</p> <p>第9回 共通テキストに基づくディスカッション④</p> <p>第10回 共通テキストに基づくディスカッション⑤</p> <p>第11回 研究テーマ最終発表①</p> <p>第12回 研究テーマ最終発表②</p> <p>第13回 研究テーマ最終発表③</p> <p>第14回 総括</p> </td> </tr> </table>					<p><問題解決ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 イントロダクション 研究テーマについて①</p> <p>第2回 研究テーマについて②</p> <p>第3回 共通テキストに基づくディスカッション①</p> <p>第4回 共通テキストに基づくディスカッション②</p> <p>第5回 共通テキストに基づくディスカッション③</p> <p>第6回 共通テキストに基づくディスカッション④</p> <p>第7回 共通テキストに基づくディスカッション⑤</p> <p>第8回 アセアンと日本との関係について概説</p> <p>第9回 アセアンの学生との交流で学ぶ(1) アセアンと日本の関係</p> <p>第10回 アセアンの学生との交流で学ぶ(2) タイ・ラオスと日本との関係</p> <p>第11回 アセアンの学生との交流で学ぶ(3)</p> <p>第12回 研究テーマ中間発表①</p> <p>第13回 研究テーマ中間発表②</p> <p>第14回 研究テーマ中間発表③</p>	<p><問題解決ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 進捗報告</p> <p>第2回 研究テーマ中間発表①</p> <p>第3回 研究テーマ中間発表②</p> <p>第4回 研究テーマ中間発表③</p> <p>第5回 共通テーマについて</p> <p>第6回 共通テキストに基づくディスカッション①</p> <p>第7回 共通テキストに基づくディスカッション②</p> <p>第8回 共通テキストに基づくディスカッション③</p> <p>第9回 共通テキストに基づくディスカッション④</p> <p>第10回 共通テキストに基づくディスカッション⑤</p> <p>第11回 研究テーマ最終発表①</p> <p>第12回 研究テーマ最終発表②</p> <p>第13回 研究テーマ最終発表③</p> <p>第14回 総括</p>
<p><問題解決ゼミナールⅠ></p> <p>第1回 イントロダクション 研究テーマについて①</p> <p>第2回 研究テーマについて②</p> <p>第3回 共通テキストに基づくディスカッション①</p> <p>第4回 共通テキストに基づくディスカッション②</p> <p>第5回 共通テキストに基づくディスカッション③</p> <p>第6回 共通テキストに基づくディスカッション④</p> <p>第7回 共通テキストに基づくディスカッション⑤</p> <p>第8回 アセアンと日本との関係について概説</p> <p>第9回 アセアンの学生との交流で学ぶ(1) アセアンと日本の関係</p> <p>第10回 アセアンの学生との交流で学ぶ(2) タイ・ラオスと日本との関係</p> <p>第11回 アセアンの学生との交流で学ぶ(3)</p> <p>第12回 研究テーマ中間発表①</p> <p>第13回 研究テーマ中間発表②</p> <p>第14回 研究テーマ中間発表③</p>	<p><問題解決ゼミナールⅡ></p> <p>第1回 進捗報告</p> <p>第2回 研究テーマ中間発表①</p> <p>第3回 研究テーマ中間発表②</p> <p>第4回 研究テーマ中間発表③</p> <p>第5回 共通テーマについて</p> <p>第6回 共通テキストに基づくディスカッション①</p> <p>第7回 共通テキストに基づくディスカッション②</p> <p>第8回 共通テキストに基づくディスカッション③</p> <p>第9回 共通テキストに基づくディスカッション④</p> <p>第10回 共通テキストに基づくディスカッション⑤</p> <p>第11回 研究テーマ最終発表①</p> <p>第12回 研究テーマ最終発表②</p> <p>第13回 研究テーマ最終発表③</p> <p>第14回 総括</p>					
3. 履修上の注意 就職活動の時期には柔軟に対応できる日程を考えるが、報告・連絡等は欠かさず行うこと。						
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 発表のサイクルにむけて、毎回の授業の説明を参考に発表の準備を進めてください。						
5. 教科書 メンバーの関心、準備状況に応じて、授業の中で決めます。						
6. 参考書 各自の研究テーマに応じて指示します。						
7. 成績評価の方法 4年次は、授業への参加の度合い(50%) 期末のレポート(50%)						
8. その他 この授業には通常、タイなど日本語を学んできた留学生が参加します。また、事情が許せば短期留学生の受入の機会も積極的に活かしたいと思っております。気後れせず海外の学生との交流に加わってください。いろいろなことが得られると思っております。卒業後も気軽に行き来できるような人間関係を築いてください。						

「卒業論文・卒業制作に求めること」 (学部版)

【卒業論文とは】

卒業論文とは、本学部の学問・研究の集大成といえる。それは、テーマ設定、先行研究整理、データ収集・分析、そして論理的な文章執筆などを必須とする、総合的な知の結集体となる。また、研究論文である以上、オリジナリティーが認められなければならない。

卒業論文という成果に対して単位が付与されるわけであり、ゼミでの練磨が求められる。本学部は、学際的かつ多様な専門分野から成り立っているが、体系化された学問にはそれぞれ独自の方法論がある。卒論を執筆するには、それぞれの分野の方法論を理解し、指導教員からのアドバイスをふまえ、そこから、独自に調査・研究に取り組まなければならない。

【卒業制作とは】

卒業制作とは、「卒業論文」と同様、本学部における研究の集大成である。ただし、卒業論文が主に文字によって成果をまとめるのに対し、卒業制作は多様な方法で成果を創造・表現することが求められる。

卒業制作においては、下記のいずれかの成果物の提出によって単位が付与される。成果物の具体的な作成方法や要件について、指導教員のアドバイスを受けて取り組むこと。

- ① 「プロジェクト研究成果物」：自ら設定したテーマについて、発案・準備・実行・評価の一連の流れを実施し、そのプロセスと成果をまとめた報告書や動画など。
- ② 「作品・制作物」：自ら設定したテーマについて研究した成果を、言葉だけによらず音・身体・映像などのメディアを用いて創造・表現した作品あるいは制作物。

◆卒業論文・卒業制作 共通の必須事項

- ① 「卒業論文・卒業制作の単位付与基準（ゼミナール別）」を熟読し、成果物（卒業論文・卒業制作）を執筆・作成すること。
- ② 卒業論文・卒業制作の作成に際して、指導教員からアドバイスを受け「卒業論文・卒業制作指導記録表」に記載すること。この「記録表」を成果物とともに提出しなければならない。

◆卒業論文・卒業制作 共通の注意事項

「剽窃」行為は、厳重注意の上、不合格となる。指導教員の指示に従い、出典を所定の方法で明示すること。

以上は、卒業研究を行うルールと心構えである。研究とは楽しいものであるということ、卒業論文・卒業制作を完成させるという知的行為の過程で体現してもらいたい。

卒業論文・卒業制作の単位付与基準（ゼミナール別）

ゼミナール名	成果物（卒業論文・卒業制作）の単位付与基準
今村哲也 ゼミナール	<p>このゼミでは、卒業研究（【卒業論文】または【卒業制作】）について単位を付与する。原則として単著のみ認めるが、卒業制作については、例外を認める場合があるので、注意事項を参照すること。</p> <p>【卒業論文】 書式： ● 字数は1万5千字から1万8千字（図表・引用文献リストを含む）。 ● 詳細は0h-o! Meijiの資料にあげる執筆要領にしたがうこと</p> <p>要件： ① 本学部の学修の集大成として相応しい研究課題であること ② 研究課題に対して、体系的・論理的に検討を行い、結論を述べていること ③ 先行研究に関する調査を踏まえたものであること ④ 分析に基づく何らかの主張やメッセージ性があること ⑤ 注の形式や引用文献リストなど論文の体裁が整っていること</p> <p>【卒業制作】 書式： ● プロジェクト成果物の場合、報告書を8千字程度（図表・引用文献リストを除く）で作成して提出すること。 ● 作品・制作物の場合、それ自体を保存して提出するとともに、内容を説明するのに必要十分な添付文書を作成すること。 ● 詳細は0h-o! Meijiの資料にあげる執筆要領にしたがうこと</p> <p>要件： ① 本学部の学修の集大成として相応しい研究テーマであること ② テーマに沿って制作され、表現行為がされていること ③ 類似の成果物を調査し、その成果を踏まえたものであること ④ 既存の成果物とは異なる何らかの主張やメッセージ性があること ⑤ 報告書、添付文書については、注の形式や引用文献リストなど、文書としての体裁が整っていること。</p> <p>注意事項： （1）卒業研究のうち、【卒業論文】は単著のみ認める（共同執筆論文は、卒業研究としては認めない）。例外として、【卒業制作】に限り、一連のプロジェクトの「全部」について、他者と共同する意思の下、実際に共同して作業をしたとみなすことができる場合、「共同制作」の卒業研究として認める。ただし、事前に相談の上、ゼミ指導教員が、共同で行うことの必要性和許容性を判断した上で、承認することを条件とする。「共同制作」の場合、最終的には各自、同一の内容の成果物を、各人がそれぞれ提出しなければならない。その際、共同制作者の氏名と各人の担当した作業上の役割および執筆における分担内容を報告書または添付文書に明記すること。 （2）単なる「研究協力」として、卒業研究に関する作業の「一部」（例えばデータの収集、分析）を他者と共同で行うことも認めるが、研究協力者の氏名および研究協力を行った作業内容を卒業論文内に明記すること。単なる研究協力の場合、卒業研究は主たる作業を行った者の単著の扱いとする。</p>
江下雅之 ゼミナール	<p>当ゼミナールでは、リサーチ結果をとりまとめた単著の研究調査報告書を卒業制作として単位付与の対象とする。</p> <p>卒業制作に取り組むかどうかは受講者の任意の判断による。選択しない場合、あるいは途中で放棄する場合であっても、問題解決ゼミナールの単位付与および成績評価に影響しない。</p> <p>書式 ・8,000字以上（写真・図表・文献リストを除く） ・詳細は0h-o! Meijiの資料にあげた執筆要項に従うこと。</p> <p>要件 ・論文形式に限らず市場の分析や予測など、十分な現状分析を踏まえた上で合理的な考察を実施していること。 ・統計データ、官公庁の報告書、新聞記事等の公開情報を十分に調べた上で現状分析を詳細に行うこと。 ・結論の独創性は求めないが、自分自身のリサーチを通じた独自のデータを作成すること。</p> <p>注意事項 ・3年次の問題分析ゼミナールIIのリサーチ演習を通じて卒業制作の内容およびスケジュール等を説明する。</p>
小田光康 ゼミナール	<p>このゼミでは、戦略コミュニケーションまたはジャーナリズムに関する卒業論文あるいは卒業制作に対して単位を付与する。</p> <p>1「卒業論文」の書式及び要件 書式：1万2千字から2万字（図表・注・文献リストを含む）。詳細はゼミ中に指導する。 要件：研究テーマに関する新規性、網羅性、論理性を兼ね備えた学術論文であること。なお、理系大学院及び海外大学院への進学志望者は英文での学術論文を提出すること。指導・評価は指導教員及び国立感染症研究所と東京農工大学の共同研究者が実施します。</p> <p>2「卒業制作」の様式及び要件 1）「作品」：時事問題・社会問題を対象に現場取材をもとにしたルポルタージュ記事（1万5千字程度）の編集やドキュメンタリー映像（15分から30分程度）の製作とその発表。指導・評価は指導教員及び朝日新聞社、NHK、時事通信社などの現役ジャーナリストが実施します。これまでの卒業制作例：福島第一原発事故被災地の問題、札幌アジア大会、野球WBC大会、東京五輪パラリンピック大会、タイ山岳少数民族の差別と貧困問題、タイ・チェンマイ県内へのミャンマーからの難民・不法移民問題。</p> <p>2）「プロジェクト研究成果物」：地域問題や社会問題を対象にしたプロジェクト研究の実施とその成果報告書（1万5千字程度）の作成。これまでのプロジェクト研究例：タイ・チェンマイ県の児童に対する狂犬病予防のメディア教材の製作とその効果測定、神奈川県・逗子市及び長野県・白馬村でのタイ山岳少数民族が生産したコーヒーに関するフェアトレード・イベントの計画と実施、長野県大町市の造り酒屋の再生に関するデジタルマーケティング戦略の発案と実施。</p>

卒業論文・卒業制作の単位付与基準（ゼミナール別）

ゼミナール名	成果物（卒業論文・卒業制作）の単位付与基準
川島高峰 ゼミナール	<p>川島ゼミナールでは、「卒業論文」もしくは「卒業制作」を希望する学生に対して、以下の基準を満たしたものについては、単位を付与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 取り扱うテーマは3年次のゼミの主題「日本国家論もしくは日本人論」、あるいは、これと関連するか、ここから学際的に発展した主題であること。政治系の主題だから政治系でなければならない、ということでは全くない（政治主義のゼミではない）。 次の二つの目的の双方、もしくは片方を明確化・明文化していること。双方が望ましい。 A) 人間社会の発展への寄与。 B) 自己の形成に意義ある表現行為で、必ずしも社会との関わりが明確化されていないが、その未来への発展を否定するものではないこと。 「卒業論文」の書式および要件は、情コミ・ジャーナルで規定された書式及び要件に従うものとする。なお、文字数は「和文の場合本文18,000字以内、英文の場合本文10,000ワード以内」と規定されている。 「卒業制作」とは、論文という形式には拠らない他の表現媒体による研究報告のことである。 「映像」の場合、情コミ・ジャーナルで規定された「作成の手引き」に従うこと。 「卒業制作」は次の内容を記した「取組解説書」（8000文字以上、写真・図表等は文字数に含めません）を添付しなければならない。 A) 表現媒体の説明 なぜ「論文」ではない表現媒体が必要なのか、その理由とその媒体についての説明。 B) 表現内容の説明 コンテンツ内容のテキスト化である。 C) 制作過程の説明 時系列的に制作の過程と活動を説明し、協力・支援を頂いた人・機関・施設等について明記すること。 「卒業論文」、「卒業制作」の双方はともに次の要件を満たしていること A) 先行研究・事例を調べ、今日に至る経緯の概観と代表例について明記すること。 B) 制作物の解説 制作の動機・目的・意図・意義など。どのような問題意識を、何故、誰に対して表現したのか。自分にとってどのような意味を持つのか。 C) 集団による取組を、共著とする場合、参加者の分担と主たる取組者を明確化した説明を明記すること。 D) 集団による取組を、単著とする場合、全参加者の合意を得ること。また成果物の内容は、集団による取組そのものを説明する部分とそれ以外の部分に分けられ、分量的に前者が全体の1/5以下の概説に止め、後者の部分は、これに対する自身の独自の解説や見解と集団による取組主題に端を発したより学際的な、あるいは関連する分野の内容であること。また、集団による取組の参加者全員の氏名を、その説明で明記すること。
清原聖子 ゼミナール	<p>当ゼミナールでは、2年間のゼミでの研究の集大成として、以下の書式、要件をすべて満たす現代アメリカ政治に関する単著論文に対して単位を付与する。当ゼミナールで「卒論」に対して単位を求める者は、秋学期の最終研究発表会において、完成に近い状態の「卒論」について発表を行う。そして最終研究発表会で、担当教員のみならず、他の教員や大学院生など複数人からフィードバックを受けて、オーディエンスとの十分な質疑応答を行った上で、「卒論」を完成させ、提出することが求められる。</p> <p>書式・14,000～20,000 字程度（図表・注・文献リストを含む） ・詳細はアメリカ学会のHPに掲載されている学会誌『アメリカ研究』の執筆要項に準じること。</p> <p>要件</p> <ul style="list-style-type: none"> 現代アメリカ政治に関する先行研究を十分にリサーチしていること。 資料として、英文資料を少なくとも1本取り入れること。 研究目的・研究の意義が明確であること。 RQが示され、論理的に妥当性のある理論展開がなされていること。 最終研究発表会で発表し、そこで得られたフィードバックが反映された論文であること。
高馬京子 ゼミナール	<p>当ゼミナールでは、単著による論文に対して単位を付与する。 取り扱うテーマは（デジタル・マス）メディアにおけるファッションとジェンダー表象にかかわるものとする。 基本的には言説分析、カルチュラルスタディーズ、記号論、ジェンダー論の視点から論じられているファッションスタディーズの研究に依拠し分析を行う。</p> <p>「卒論」の書式および要件 執筆は一人で行う（グループで執筆する場合は卒論ではなくJJに投稿する） 書式・12,000～20,000 字程度（図表・注・文献リストを含む） ・詳細は Oh-no! Meiji の資料にあげる予定の「論文執筆要項（高馬ゼミ）」に従うこと。 要件・先行研究を十分にリサーチしていること。 ・論理的に妥当性のある理論展開がなされていること。 ・ゼミ応募の際に卒論執筆（単著）かJJ投稿（グループ執筆）を目指すかを明記すること。</p>
後藤晶 ゼミナール	<p>当ゼミナールでは、原則として単著による論文に対して単位を付与する。 ただし、場合によっては共著による論文執筆も認めるので、教員と相談すること。 取り扱うテーマは行動経済学に関わるものであり、調査・実験にもとづく定量的な研究を行うことが望ましいが、必ずしも定量的な研究に制限するものではない。</p> <p>「卒論」の書式および要件 書式 ・12,000～20,000 字程度（図表・注・文献リストを含む）</p> <p>要件</p> <ul style="list-style-type: none"> 先行研究（論文）を十分にサーベイすること。 文章が正しく書かれており、論理的に妥当性を持った内容であること。 自身の問題意識に対して、十分に答えられたと考える論文を書き上げること。 <p>注意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業論文は「他者に読まれる」という事実を前提として執筆しましょう。 自身の研究が、社会や学問に対してどのように貢献するのか意識しながら論文を執筆しましょう。 4年次春学期末には卒業論文のアウトラインの提出を求めるので、少しずつ着実に研究を進めましょう。

卒業論文・卒業制作の単位付与基準（ゼミナール別）

ゼミナール名	成果物（卒業論文・卒業制作）の単位付与基準
小林秀行 ゼミナール	<p>当ゼミナールは下記の条件を満たす単著論文について、単位付与を行う。 取り扱う領域は「災害社会学」を基本とするが、関連分野も指導教員との相談の上で認めることがある。 単著論文の作成にあたっては、2年間のゼミナール活動を通して著者独自の主張を組み上げていく必要がある。 当ゼミナールはそのための中間目標として、学期ごとに課題を設定している。 これらの課題を達成せずに、単著論文のみを提出しても単位付与の対象とはならないので注意すること。</p> <p>卒業論文提出の前提となる課題 ① 各学期において規定回数以上の中間報告の実施。 ② 3年生秋学期課題の「研究計画書」および4年生春学期課題の「要旨・目次の仮組み」の提出。 ③ 学年末に実施するゼミナール合同報告会における研究成果報告。</p> <p>卒業論文の書式 ① A4・横書き・20,000字程度（図表等を含む）とする。 ② MS明朝10ptを基本フォントとする。 ③ その他の詳細は、講義内で示す執筆要領に準拠する。</p> <p>卒業論文の要件 ① 先行研究に対する十分なレビューがなされていること ② 表題・キーワード・要旨・本文に示される主題が一致し、全体を通して論旨が首尾一貫していること。 ③ 一定程度の新規性・有効性・信頼性が備わっていること。</p>
施利平 ゼミナール	<p>要件：1) 年間の予定に沿い、それぞれの条件をクリアすること。 2) JJに投稿すること。 書式：JJの書式に依拠</p>
清水晶紀 ゼミナール	<p>当ゼミナールでは、以下の書式・要件を充足する単著論文に対して単位を付与する。なお、多少なりとも行政法に関係していれば、どのような研究テーマを選んでも構わない。</p> <p>【書式】 ・15,000～20,000 字程度（本文のみの字数） ・文献の引用方法については、法律編集者懇話会「法律文献等の出典の表示方法」に拠ること。 ・その他に関する書式の詳細については、「情コミ・ジャーナル」の論文執筆要領に準拠すること。</p> <p>【要件】 ・先行研究を十分に調査していること。 ・論理展開が合理的であること。 ・なんらかの新規性、独自性を有していること。</p> <p>【注意事項】 ・「情コミ・ジャーナル」に投稿を希望する場合には、本文字数を18,000字以内に抑える必要がある。</p>
鈴木健人 ゼミナール	<p>本ゼミナールでは、単著による卒業論文に対して単位を付与する。卒業論文を提出するか、従来通りのゼミ論文にするかは、参加者の任意とする。なお、取り扱うテーマは、広い意味で国際社会に関するものであれば良い。政治学的なアプローチ、社会学的、経済学的、文化論的アプローチでも構わない。また学際的で総合的なアプローチも歓迎する。</p> <p>「卒論」の書式および要件 書式 ・12,000～20,000 字程度（図表・注・文献リストを含む） ・詳細はOh-o! Meiji の資料にあげる予定の「論文執筆要項（鈴木健人ゼミ）」に従うこと。</p> <p>要件 ・先行研究を十分にリサーチしていること。 ・論理的に妥当性のある理論展開がなされていること。 ・学生として可能な限り独創的なものを書くように心がけること。独創的な論文を書くことが難しい場合には、最低限自分なりの見解を論理的に示すこと。</p>
鈴木雅博 ゼミナール	<p>1) 字数：本文18,000字以内、要旨500 字以内。 2) 書式：A 4 版、横書き、1 段組み 3) 評価基準（情コミジャーナルに準ずる） ・研究目的は明確であり、妥当な結論が明示されている。 ・着眼点や分析方法が斬新である。 ・論理展開に整合性がある。 ・文章表現に説得力がある。 ・先行研究が十分に参照され、引用部分の明記が正確である。</p>
須田努 ゼミナール	<p>須田ゼミでは、単著による論文に対して2単位を付与する。なお、取り扱う テーマは、16世紀から20世紀の日本を対象として、歴史学の方法論に依拠したものであるならば、自由である。</p> <p>卒業論文の要件 別添「卒業論文・卒業制作に求めること」（学部版）の基準に従うこと。</p> <p>卒論の書式 12,000から20,000 字程度(図表・注・文献リストを含む)。 詳細は、oh-oMeijiの資料にあげた、「論文執筆要項（須田ゼミ）」に従うこと。</p>

卒業論文・卒業制作の単位付与基準（ゼミナール別）

ゼミナール名	成果物（卒業論文・卒業制作）の単位付与基準
関口裕昭 ゼミナール	<p>当ゼミナールでは、丹著による卒業論文に対して単位を付与する。扱うテーマは、文学、美術、音楽、演劇、歴史、哲学、映画、漫画など、広く人文科学の諸分野とする。上記のテーマに入るかどうか、微妙な場合は、早めに担当教員と相談すること。なお、文学作品（小説、戯曲、詩など）の創作も認める場合があるは、その場合も早めにその旨申し出ること。</p> <p>「卒論」の書式及び要件</p> <p>書式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12000字以上(必須)、20000字以内を目安とする。上限は特に設けないが、どんなに長くても40000字以内とする。図・表・注などもこれに含める。 ・詳細は、Oh-o! Meijiのクラスウェブに掲げた「論文執筆要領」を参照のこと。 <p>要件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原稿用紙の書式などを守ること。（箇条書きは認めない。ネットやメールで氾濫している誤った書き方をまねしないこと。段落ごとに、1字下げなど基本的な書式を遵守すること。詳細は「論文執筆要領」を参照。） ・当然のことであるが、コピペや無断引用を禁じる。先行研究を十分踏まえたうえで、参考にした文献名は注に明記すること。
竹崎一真 ゼミナール	<p>当ゼミナールでは、単著による論文に対して単位を付与する。なお、取り扱うテーマは社会学やカルチュラル・スタディーズを研究視点としたスポーツ・身体・ジェンダーにかかわるものとする。</p> <p>「卒論」の書式および要件</p> <p>書式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20,000 字程度（図表・注・文献リストを含む） ・詳細はOh-o! Meiji の資料にあげた「論文執筆要項（竹崎ゼミ）」に従うこと。 <p>要件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先行研究を十分にリサーチしていること。 ・論理的に妥当性のある理論展開がなされていること。 ・過度な独創性は求めないが、自分なりの見解を示していること。
竹中克久 ゼミナール	<p>当ゼミナールでは、単著による論文に対して単位を付与する。なお、取り扱うテーマは組織や社会にかかわるものとする。基本的には社会学を中心としたアプローチから説明を試みること。</p> <p>「卒論」の書式および要件</p> <p>書式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12,000～20,000 字程度（図表・注・文献リストを含む） ・詳細はOh-o! Meiji の資料にあげた「論文執筆要項（竹中ゼミ）」に従うこと。 <p>要件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先行研究を十分にリサーチしていること。 ・論理的に妥当性のある理論展開がなされていること。 ・過度な独創性は求めないが、自分なりの見解を示していること。
内藤まりこ ゼミナール	<p>当ゼミナールでは、単著による卒業論文に対して単位を付与する。なお、卒業論文とは自らが選んだ言語表現に関して、ゼミで学習した批評理論を用いて分析を行い、結論及び結論を踏まえた考察を記した論述文を意味する。</p> <p>書式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・40,000字以上(図表・注・文献リストを含む) ・WordもしくはPDFファイル <p>要件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生が書いた卒業論文集を読了していること。 ・先行研究を十分に精査していること。 ・研究対象に対して十分な分析がなされていること。 ・ゼミの2年間で学習した批評理論を用いて分析が行われていること。 ・論理的に妥当性のある理論展開がなされていること。 ・結論に基づく考察が示されていること。 ・引用や書誌情報の表記の仕方に誤りがないこと。
中里裕美 ゼミナール	<p>当ゼミナールでは、単著による論文に対して単位を付与する。なお、取り扱うテーマは社会ネットワークに関することを中心に、広く社会的事象に関わるものとする。</p> <p>書式：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10,000～18,000文字程度（図表・注・参考文献リスト等を含む） ・詳細は、Oh-o! Meijiの資料にあげる予定の「論文執筆要項（中里ゼミ）」に従うこと。 <p>要件：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究目的・研究意義が明確であること。 ・先行研究を十分に参照し、参考文献・引用文献の記述が適切であること。 ・文献資料や社会調査データ（量的・質的を問わない）を適切に分析し、そこから得られた知見を自らの言葉でまとめたものであること。
南後由和 ゼミナール	<p>本ゼミナールでは、単著による卒業論文に対して単位を付与する。各自が都市・建築・デザインに関する研究テーマを設定し、社会学やメディア論などを軸とした卒業論文を執筆する。</p> <p>書式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20,000字以上（図表・注・参考文献リストなどは除く） ・詳細は別途配布する「論文執筆要項（南後ゼミ）」を参照 <p>要件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミナールでの複数回の発表を経て、論文を執筆すること ・研究目的および論理展開が明確であること ・先行研究の検討が十分になされていること ・文献調査、フィールドワーク、インタビューのいずれかにもとづく独自の考察がなされていること

卒業論文・卒業制作の単位付与基準（ゼミナール別）

ゼミナール名	成果物（卒業論文・卒業制作）の単位付与基準
根橋玲子 ゼミナール	本ゼミナールでは、単著による論文に対して単位を付与する。研究テーマは、多文化共生や異文化間コミュニケーションなどゼミでまなんでいる内容に関連するものとする。書式はAPAとする。字数は英語・日本語ともにA4で20枚程度（英語約10,000語、日本語約20,000字；アプストラクト、図、表、引用文献など全てを含む）。詳細は、0h-o! Meijiの資料にあげた「論文執筆要領（根橋ゼミ）」に従うこと。
波照間永子 ゼミナール	当ゼミナールでは、創造実践活動を実施するにあたり、「作品」という形でアウトプットするだけでなく、自らの作品の特性を歴史的・社会的文脈に位置づけ言語化して発信することをめざす。そのため、下記(1)～(4)のすべてを実施することを単位付与の基準とする。 (1) 卒業制作発表会‘Art Live-Rally’の企画制作（宮川ゼミナールと合同） (2) 上記(1)の発表会における「作品」の公開（宮川ゼミナールと合同） (3) 上記(1)(2)の活動報告書の作成・提出（共同執筆） (4) 上記(2)で公開した「作品」に関する「制作試論」の作成・提出（個人執筆） 「制作試論」の書式および要件 書式 ・8,000字以上（写真・図表・文献リストを除く） ・詳細は0h-o! Meijiの資料にあげた執筆要項に従うこと 要件 ・「作品」を客観的に振り返り、核となるアイデアを言語化・文脈化する。 ・「作品」を創造する際に遭遇した問題に向き合い、それを解決したプロセスを記録する。 ・先行作品および先行研究を整理し、方法論を明確に示しつつ「作品」のオリジナリティを提示する。 注意事項 (1)(2)(3)の単位付与基準を満たしても、(4)の「制作試論」の提出が無ければ単位は付与しない。
日置貴之 ゼミナール	当ゼミナールでは、以下の提出物に対して単位を付与する。 (1) 論文 (2) 芸術作品を対象とした批評 上記の執筆に際しては、継続的に教員からの指導および、他のゼミナール生との議論をおこなうことを必須とする。 書式 (1) 14,000字以上 (2) 10,000字以上 いずれも図表・文献一覧等を除く（注は含む）。 要件 ・論文は、適切な問題設定を行なった上で、先行研究を適宜参照しながら、自身の考えを論理的・客観的に示すことができていること。 ・批評は、一つもしくは複数の芸術作品や芸術を取り巻く環境等について論じ、論理的・客観的に自分自身の見方を提示することができていること。 注意事項 ・その他、書式や提出等の日程等の詳細については、執筆要領を配布するので、参照すること。 ・いずれも単独執筆を基本とする（共著の場合は、提出年度の開始前に教員に相談すること）。
堀口悦子 ゼミナール	・卒業論文 ジェンダーに関するテーマなら何でも 字数 2万字以上4万字まで（資料などすべてを含めて） 横書き・縦書を問わない 形式は自由、ただし、個人で書くこと ・卒業制作 ジェンダーに関するテーマなら何でも 形式： 制作物、創作物なら何でも 映像、小説、漫画、イラスト、絵、音楽（楽譜を含む）、漫才などお笑い系（台本を含む）など自由 体制： 個人でも、2名以上のグループでも、ゼミ全体でも構わない、ただし、4年生のゼミ生に限る
宮川渉 ゼミナール	当ゼミナールは、芸術分野に関連する実践、研究を行うことを目的としたゼミナールであるため、作品・レポート（実践）と論文（研究）という2つの形式のアウトプットに対して単位を付与する。いずれの場合においても、成果のプレゼンを行うことを必須とする（例えば、波照間ゼミナールと合同で実施する‘Art Live-Rally’や授業時間内などにおいて）。 書式： 論文の場合 ・12,000～20,000字程度（図表・注・文献リストを含む） ・詳細は0h-o! Meijiの資料にあげた執筆要項に従うこと 作品・レポートの場合 ・6,000字以上（写真・図表・文献リストを含む） ・作品形態は、分野によって異なることがあるため、一律の形式は設けないが、音楽作品や映像作品においては4分程度をひとつの基準とする。 ・レポートの書き方は0h-o! Meijiの資料にあげた執筆要項に従うこと 要件： ・実践、研究、いずれの場合においても先行作品、先行研究などを調べること。 ・可能な範囲で独創性を追求すること。 ・作品制作では、研究テーマとなるものを持って制作に取り組むこと。 ・作品制作のレポートでは、制作の経過過程や問題点なども記すこと。 ・論文は単著であること。 ・作品制作は共同で行っても構わないが、自分が担当した部分をレポートに明記すること。レポートは単独執筆であること。

卒業論文・卒業制作の単位付与基準（ゼミナール別）

ゼミナール名	成果物（卒業論文・卒業制作）の単位付与基準
宮本真也 ゼミナール	<p>当ゼミナールでは、個人が執筆した論文に対して単位を付与する。内容については、社会、コミュニティにおける問題を、社会理論的な観点から検討し、問題の解決を示すようなものが望ましい。社会学、社会哲学を中心とした人文・社会科学の理論に基づいたパースペクティブからの研究を期待する。</p> <p>書式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12000から20000字程度(注と参考文献リストを含む) ・理想的には日本社会学会の『社会学評論スタイルガイド』(https://jss-sociology.org/bulletin/guide/)にしたがうこと。 <p>要件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先行研究の十分かつ適切な把握。 ・事象、事例についての客観的観察と理解。 ・事象、事例を適切な概念を用いて説明し、一般化できているかどうか。 ・筆者にオリジナルななんらかの解決や答えの方向性を示しているかどうか。
山内勇 ゼミナール	<p>書式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・15,000字～20,000字程度 ・図表を含めてA4で20枚程度 <p>要件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単独で執筆された論文であること。 ・先行研究に基づき、オリジナルの仮説を設定していること。 ・データを用いて仮説を検証していること。 ・分析の枠組み・方法が適切であること。 ・論証が適切であること。 ・指導教員のコメントに対応し、分析内容が指導教員の求める水準に達していること。 <p>注意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文の執筆は指導教員とよく相談して進めること。 ・基本的には、指導教員のコメントにきちんと対応していれば、求める水準には達するはずである。 ・求める水準に関する具体的なイメージについては、過去の卒業論文等を提示することでイメージの共有を図る。
横田貴之 ゼミナール	<p>このゼミナールでは、次の要件を満たす卒業論文（卒論）に対して単位を付与する。研究対象は、中東地域・イスラームが中心となるが、欧州の移民問題やグローバル・テロリズムなど関連する地域・テーマを研究することも可能である。</p> <p>「卒業論文」について</p> <p>書式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・字数は12,000～18,000字（注、参考文献、図表なども含む）。 ・原則として、「日本中東学会年報」原稿執筆要領に準拠する。 <p>要件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単著であること。 ・先行研究批判を十分に行った上で、論文の目的・意義を明確に示すこと。 ・当ゼミナールでの研究成果が十分に反映されていること。 <p>注意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このゼミナールでは、卒業論文を執筆しない学生に対して、ゼミナール論文（ゼミ論文）の執筆を課す。なお、ゼミナール論文には卒業論文・卒業制作の単位を付与しない。詳細は授業内で説明する。
脇本竜太郎 ゼミナール	<p>本ゼミナールでは、実験もしくは量的調査を用いた社会心理学の研究論文に対して、単位を付与する。なお、単位付与の対象となる論文は、以下の要件を全て満たしている必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8000字以上(図表、引用文献リストを除く)。 ・書式が日本心理学会の『執筆・投稿の手びき』に従っている。 ・先行研究を十分にレビューし、適切に引用している。 ・仮説、検証方法と議論が論理的に一貫している。 ・一定のオリジナリティを備えている。